

公立小松大学 栗津キャンパス 校舎整備工事

(2期)

(建築)

2018年 3月



株式会社 双星設計
SOUSEI SEKKEI ARCHITECTS & ENGINEERS

意匠図			構造図						
図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称		
A-00	図面リスト	A-50	第二教室棟 渡り廊下 ホール(撤去図)(1)						
A-01	建築工事仕様書(1)	A-51	第二教室棟 渡り廊下 ホール(撤去図)(2)	S-01	棟 鉄筋コンクリート 構造高耐震標準図(1)				
A-02	建築工事仕様書(2)	A-52	棟 ホール(改修図)(1)	S-02	棟 鉄筋コンクリート 構造高耐震標準図(2)				
A-03	建築工事仕様書()	A-53	棟 ホール(改修図)(2)	S-03	棟 鉄筋コンクリート 構造高耐震標準図()				
A-04	建築工事仕様書()	A-54	棟 ホール(改修図)()	S-04	棟 鉄筋コンクリート 構造高耐震標準図()				
A-05	建築工事仕様書()	A-55	棟 ホール(改修図)()	S-05	棟 鉄筋コンクリート 構造高耐震標準図()				
A-06	建築工事仕様書()	A-56	棟 EXP 階詳細図	S-06	棟 鉄筋コンクリート 構造高耐震標準図()				
A-07	建築工事仕様書()	A-57	棟 エレベーター詳細図(1)	S-07	棟 鉄骨構造標準図(1)				
A-08	建築改修工事仕様書(1)	A-58	棟 エレベーター詳細図(2)	S-08	棟 鉄骨構造標準図(2)				
A-09	建築改修工事仕様書(2)	A-59	棟 エレベーター詳細図()	S-09	棟 鉄骨構造標準図()				
A-10	建築改修工事仕様書()	A-60	棟 エレベーター詳細図()	S-10	棟 鉄骨構造標準図()				
A-11	建築改修工事仕様書()	A-61	外部サイン配置図	S-11	棟 ハイベース 工法選定施工標準図				
A-12	建築改修工事仕様書()	A-62	1階サイン配置図	S-12	E V棟 ハイベースNEO工法各種寸法及び基礎柱型設計例				
A-13	建築改修工事仕様書()	A-63	2階サイン配置図	S-13	棟 デッキ合成スラブ設計・施工標準				
A-14	解体工事仕様書(1)	A-64	階サイン配置図	S-14	棟 梁貫通補強筋 スーパーノリー タイプ標準図				
A-15	解体工事仕様書(2)	A-65	サインリスト	S-15	棟 梁貫通補強筋 スーパーノリー 補強リスト				
A-16	共通凡例・仕様	A-66	教室棟 1階 相談室(改修図)	S-16	棟 ボーリング柱状図				
A-17	設計概要			S-17	棟 伏図				
A-18	配置図・敷地求積図	追加-1	管理・研究棟2階便所 撤去改修図(1)	S-18	棟 軸組図				
A-19	求積図・面積表(1)	追加-2	管理・研究棟2階便所 撤去改修図(2)	S-19	E V棟 地中梁リスト、礎柱リスト、床版リスト、鉄骨リスト、小梁リスト				
A-20	求積図・面積表(2)			S-20	棟 鉄骨詳細図・雑詳細図				
A-21	求積図・面積表()								
A-22	求積図・面積表()								
A-23	求積図・面積表()								
A-24	1階平面図(改修前)								
A-25	1階平面図(改修後)								
A-26	2階平面図(改修前)								
A-27	2階平面図(改修後)								
A-28	階平面図(改修前)								
A-29	階平面図(改修後)								
A-30	階平面図兼屋根伏図(改修前)								
A-31	階平面図兼屋根伏図(改修後)								
A-32	便所共通部分詳細図								
A-33	管理・研究棟 1階 応接室(撤去・改修図)								
A-34	管理・研究棟 階 研究室14・15(撤去・改修図)								
A-35	図書館棟 1階 便所(撤去・改修図)(1)								
A-36	図書館棟 1階 便所(撤去・改修図)(2)								
A-37	図書館棟 1階 便所(撤去・改修図)()								
A-38	教室棟 1階 107実習室(撤去・改修図)								
A-39	教室棟 階 301研究実験室(撤去・改修図)								
A-40	教室棟 階 302共同研究室(撤去・改修図)								
A-41	教室棟 階 304共同研究室(撤去・改修図)								
A-42	教室棟 階 306共同研究室(撤去・改修図)								
A-43	教室棟 階 307共同研究室(撤去・改修図)								
A-44	第二教室棟 1階 108研究実験室(撤去図)								
A-45	第二教室棟 1階 108研究実験室(改修図)								
A-46	第二教室棟 1階 109研究実験室(撤去図)								
A-47	第二教室棟 1階 109研究実験室(改修図)								
A-48	第二教室棟 1階 110研究実験室(撤去図)								
A-49	第二教室棟 1階 110研究実験室(改修図)								
特記事項				確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 (登録番号 20319 号) 構造設計一級建築士(登録番号 2423 号) 酒井 豊	雙 双 星 設 計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174370号)		工事名称(プロジェクト) 160613 公立小坂大学 薬津キャンパス 校舎整備工事(2期)(建築)	図面名称 図面リスト
				確認者	一級建築士 設計監理部長 塚原 直 (登録番号 2462 号)	代表 設計監理部長 中村 武嗣	確認者 中村 武嗣	主担当 中村 武嗣	作成 中村 武嗣
								年月日 2018. 03 .	図面番号 A00

建築工事仕様書

- I 工事概要
1 工事場所 小松市 四丁 町 又1番地3 地内
2 工事内容 (1)・本体工事 (建) 概略 構造 図面
増築、鉄骨造、3階、50.25m2
(2)・屋外付帯工事
(3)・電気設備工事
(4)・給排水衛生設備工事
(5)・解体工事

- II 建築工事仕様
1 共通仕様
2 電気設備工事及び機械設備工事は本工事に含まれる場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの仕様書を用いる。
3 防音工事の仕様については、防音省地方協力局「防音施設設計防音事業工事標準仕様書」による。
4 特記仕様
1 項目は、番号印の付いたものを適用する。
2 特記事項は、印の付いたものを適用する。
3 特記事項に記載の()内表示番号は、「標仕」の該当項目、当該図又は当該表を示す。
4 特記事項に記載の()内表示番号は、「標仕」の別図、別表、各節の当該表を示す。
5 特記事項に記載の()内表示番号は国土交通省大臣官房官庁事務部「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)平成25年版(以下「改修標仕」という。))の当該項目、当該図又は当該表を示す。
6 ()内は「図」による。
7 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記号は省略する。また()内は製品名を示す。
8 斜線で消した事は適用しない。

1章 一般共通事項

Table with columns: 項目, 特記事項. Contains sections for ① 適用基準等, ② 工事実施段階の記録, ③ 発注者の処理, ④ 電気保安技術者, ⑤ 施工条件, ⑥ 建築材料等.

- 7 特別な材料の工法
7 ⑥ 技能士等
ハ) 安定的な供給が可能であること。
ニ) 法令等で定める許可、認定、又は免許等を取扱していること。
ホ) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。
ヘ) 販売保守等の営業体制が整えられていること。
なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関が発行する資料等の取を監督員に提出する。ただし、あらかじめ監督員の承認を受けた場合はこの限りではない。
2) 請負契約第6条第4項に基づき調達する石川県産の工事材料については、「使用材料確認書」により監督員の確認を受け、工事後は地元産品について「使用材料報告書」を提出する。
3) 請負契約第13条第2項に定める監督員等の検査を受けて使用する工事材料は次のものとする。
※杭 ・ 型枠 ・ 防水材料 ・ 石材 ・ 木枠その他 監督員が指示するもの
但し、杭以外のJIS規格品は除く。
4) 請負契約第14条第1項に定める監督員等の立会いのうえ調合等を使用すべき工事材料は次のものとする。
※高強度コンクリート 鉄筋 ・ 地盤改良材の混合 ・ 土壁仕上材混合
5) 請負契約第14条第3項に定める見本は次のものとする。
○金具製品 ○ 合成樹脂製品 ○ 木製器具 ○ 塗装 ・ 土壁仕上材
・ 家具及び家具の金物 ・ 畳 ○ 内外装材料 ○ 屋根材料 ○ その他 監督員が指示するもの
なお、監督員が承認した材料は、証明となる資料に使用照会を付し、工事完成まで現場事務所へ掲示する。ただし、掲示の正確な材料等はカタログ、その他に代えることができる。
6) 本工事に使用する建築材料等は、アスベスト含有建材を使用しないものとする。
(「労働安全衛生法施行令の一部を改正する政令及び労働省告示第18号等」の一部を改正する省令の施行期について)(厚生労働省労働基準局長通達平成18年8月 参照。安全データシート(SDS)等により確認を行う場合は、その旨を監督員に通知すること。

Table with columns: 適用工事種別, 技能検定作業. Lists various construction tasks like 仮設工事, 鉄筋工事, コンクリート工事, etc.

II 完成段階

- 1) 完成図 作成する
イ) 工事完成図は、製本1部、A3版製本3部提出する。
ロ) CD-R及びDVD-Rに、CADで図化したものを3Dデータ、手続の論議はラスタデータとして添付し、2部提出する。
また、本仕様書の「第1章2節 電子納品」を行う場合は、更に当該特記事項に基づいて作成し提出する。
※ラスタデータ: 図解データで1FF形式、図解で300dpi程度以上とする。
・作成しない
2) 屋外付帯工事実施計画 ※提出する(1部) ・提出しない
3) 保全に関する資料 ※提出する(1部) ・提出しない
保全に関する資料のうち「建築物の利用に関する説明書」は、「管理者のための建築物の保全の手引き」(改訂版(財)建築安全センター)に建築物の構造、機器、保全業務等の説明及び別添の要領、使用材料の製造品名、適用先等を記載したものを代用することができる。
別添の要領は、建築物等が異なる場合は、適用がなされる。
4) 工事実施写真等は、管轄工事写真撮影要領(平成24年版)(国土交通省大臣官庁事務部)により整理し、下記より提出する。また、本仕様書の「第1章2節 電子納品」を行う場合は、更に当該特記事項に基づいて作成し提出する。
各図の図面は、A4版スクラップブックに納め、(説明書を記した)上、別添の要領を添付する。
※写真帳

III 工事写真等の記録

Table with columns: 区分, 分類, 規格, 撮影枚数, 部数. Lists photo recording requirements for 着工前, 工事中, 完成時.

IV アルバム

Table with columns: 区分, 分類, 規格, 撮影枚数, 部数. Lists album requirements for 完成時, 写真アルバム.

V 責任施工

特記事項中、責任施工の指示のあるものは、発注者及び下請業者の連帯責任とし、保証書を出す。工事の進捗度、作業員の出席報告、工事箇所図及び工事完成写真等を記載した工事報告書を毎月15日及び月末まで提出する。

設備工事との取合い

Table with columns: 位置・大きさ, 箇所等. Lists equipment coordination details for 1) 設備機器の位置, 2) 設備工事の連携, 3) 鉄骨部のスリプ及び併用, 4) 鉄柱下地等.

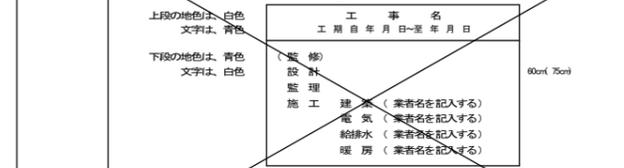
他工事との取合い

Table with columns: 建築工事, 電気工事, 機械工事, 備考. Lists coordination with other trades like 機器の基礎, 梁, 床, 壁, etc.

設計G/L

建築基準法に基づき指定する条件
○地表面積区分
○多量地場の指定 垂直積積量 1.0㎡/29㎡/cm

工事現場の標示板



総合評価における技術要素

「石川県建設工事総合評価方法(技術要素)」に基づく「技術要素」が欠ける場合は、提案内容を本工事において確認し、受注者が「技術提案書(技術報告書)」を監督員に提出し、履行状況の確認を受ける。なお、受注者の責任以外の理由により、変更等の必要が生じた場合は、事前に監督員に協議する。

施工の検査等

監督員等の検査をうける工程は次のものとする。
※樹木伐倒確認及び確認 ※ベンチマーク ※道方 ※根切り 掘削完了時
※主要構造部の確認 ・ 型枠の組立て ・ 鉄骨寸目 継ぎ目 ※鉄骨継ぎ目
その他監督員等の指示するもの

施工の立会い等

請負契約第14条第2項に定める監督員等の立会いのうえ施工するものは次のものとする。
※待付 ○コンクリートのスランプ確認及び打込み ・ 屋外タイル接着作業
○地盤改良部材料採取 ○その他監督員等の指示するもの

中間検査

中間検査の実施時期 ※有 ・ 無
※解体工事完了時 ○建築主事の指示による。

公共事業労務費調査等に対する協力

・ 発注者は、当該工事が発注者の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合は、次の各号に掲げる協力を行わなければならない。
1) 調査票等に必要事項を正確に記入し、発注者に提出する必要な協力を行わなければならない。
2) 調査票等を提出した事業者が、事後に発注者が「調査票」の提出がなかった場合は、その実施に協力しななければならない。
3) 正確な調査票等の提出が可能なよう、労働基準法第92条に規定する就業規則を作成すると共に賃金台帳を調査票を提出する等、日誌より使用している現職労働者の賃金時間管理を適切に行うなければならない。
4) 対象工事の一部について下請契約を締結する場合には、当該下請工事の発注者(当該下請け工事の一部に係る二次発注の下請け人を含む。)が各号と同様の義務を負う旨を定めなければならない。
5) 本工事が「建設労働者実態調査」の対象となった場合、県の求めに対して速やかに調査票を作成し、提出しななければならない。

保証

工事的目的外、工事材料等に生ずる損害を補償する保険は、下記による。
※建設工事関係または組立保険(工事対象物を全て解除する工事を除く)
加入期間 引継ぎ(ただし、引継ぎしない工事の場合は、工事完了まで)

室内空気汚染対策

Table with columns: 測定箇所数, 測定箇所. Lists air quality measurement points for 測定箇所数 1, 2, 3, 4.

測定対象化学物質及び測定方法

測定対象化学物質は、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン及びスチレンとし、同時に測定する。測定方法は、バッチ型空気採取器を用い、国土交通省大臣官庁事務部「建設現場空気採取器(平成15年4月1日 国土交通省1号)「官庁事務部における平成15年度からのホルムアルデヒド等の室内空気中の化学物質の測定に関する指針について」により行う。
ホ) 測定時期
測定は下記の時期に行うものとする。
① 測定対象化学物質が、居室工事による測定対象室への流入や急激な拡散がほぼなくなり、引続き、後の室内空気測定と同等になった時期。
② 別途工事又は家具の設置等が行われる前。
③ 内装又は塗装等の施工が終了し、その後十分な換気が行われていること。
④ 中央空調設備の設置により換気を行わない空気調和を行う設備がある場合は、設備の運転が完了していること。

測定対象物質が指針値を超える濃度で検出された場合の措置

測定結果が厚生労働省の指針値を超える場合は、発源源を特定し、換気等の措置を講じた後、再度測定を行う。
ト) その他、採取、測定及び分析の方法は、上記二)の国土交通省通知によるほか、監督員の指示による。

施工中、施工後の換気

接着剤、塗料等の塗布に当たっては、使用方法や塗布量を十分管理し、適切な乾燥時間をとるようにする。また、施工時、施工後の換気、換気を十分に行い、室内に換気設備の希釈を図るものとする。

引継ぎ時

室内空気中に化学物質を発生させるおそれのある建築材料等を使用している場合は、監督員の指示により、その使用状況の一覧表を提出する。

揮発性有機化合物を放散させる建築材料等本工事の建物内蔵に使用する材料等は、設計図書に規定する所定の品質及び性能を有するものとし、次のうちからホ)を認定するものとする。

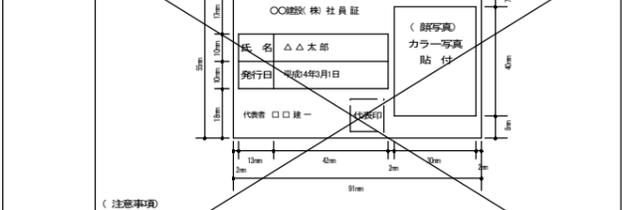
- イ) 合板、木質系フローリング、構造用木材、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板及び仕上塗料等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
ロ) 保温材、断熱材、断熱材用ホルムアルデヒド及びスチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
ハ) 接着剤は、フタル酸ジブチルエーテル及びフタル酸ジブチルエチルベンゼンを含有しない揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
ニ) 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。

ホ) 上記イ)ロ)ニ)の条件を併用して作られた塗料、接着剤、その他材料等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。

また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。
※「規制対象外」のもの

- ①JIS又はJASのE☆☆☆☆規格品
②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品
③下記表示のあるJIS規格品
4)非ホルムアルデヒド系接着剤
5)接着剤不明
6)ホルムアルデヒド系接着剤以外のホルムアルデヒドを放散させない材料等
7)ホルムアルデヒドを放散させない材料等
8)ホルムアルデヒド系接着剤以外のホルムアルデヒドを放散させない材料等
・「第三種」のもの
①JIS又はJASのF☆☆☆☆規格品
②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品
③旧JISのE0規格品
④旧JASのF0規格品

発注者(発注者)及び主任(監理)技術者は、工事現場中は次で定める様式印刷による顔写真入り名札を着用すること。(ただし、請負額1,000万円以上の工事)



(注意事項)

- ①名札として使用する用紙(台紙)は白色、寸法は上図(名刺サイズ、縦5.5cm横9.1cm)のとおりとする。
②顔写真(カラー写真)の寸法は縦4.0cm横3.0cmとし、撮影する部分は胸から上の上半身とする。
③ケースの寸法は上記①の用紙(台紙)が入る大きさとする。

建設業法第24条の7に該当する施工体制台帳の作成が必要な工事は、当該台帳を現場に備え付け、施工体系図(工事関係者及び公共が見やすい場所)に掲げること。

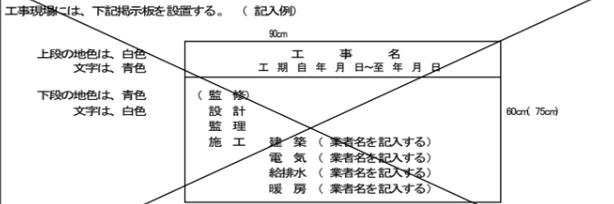
Table with columns: 改訂, 改訂, 改訂. Lists revision dates for 1. 平成10年4月1日, 19. 平成4年4月1日, etc.

Footer area containing project name (建築工事仕様書), design firm (雙星設計), and contact information.

21	諸項用及び注意 喚起用球材 20章 ユニット及びその他工事	視認障害者用タイル (19.2.2) 適用箇所 種類 寸法(mm) 形状 屋内 ・塩化ビニル系 ※300000 ・ ブロックノクターン ・磁器又はセラミックタイル ・300WJ00D7300 はJIS T 9251 による 屋外 ・コンクリート系 ※3000000・3000000 ・レジンコンクリート系 ※3000000 ・磁器又はセラミックタイル ・300WJ00D7300	10 黒板及び ホワイトボード (20.2.8) 種類 寸法(mm) 備考 ・黒板 ・焼付け 図示 ※平面・曲面・スクリーン付引分 ・上下式 ・ホワイトボード ・ほうろう 図示 ※平面・曲面・スクリーン付引分 ・上下式	11 表示標識 衝突防止表示 ※図示 (市販品 ※ステンレス製 厚約30mm) フィルム (20.2.10) 法令に基づく表示等は市販品とし、その他は共通仕様による。 製造所 監督職員の承認する製造所	12 煙突用成形 ライニング材 (20.2.11) 適用安全使用温度 ※400℃・650℃ 製造所 評価名簿による。	13 ブラインド (20.2.12) 形式 種類 スラットの材質 スラットの幅(mm) ※横型 ※キア式 ・コード式 ※アルミ ニウム合金製 ※25 ・操作棒式 ・縦型 ・1本操作コード ・アルミスラット ・80 ・2本操作コード ・クロススラット ・100	14 ブラインドボックス及びカーテンボックス (20.2.13) ※市販品(アルミニウム製 押出し型材) 使用区分 溝幅(mm) ・横型ブラインド ※90150・120150 ・縦型ブラインド ※12080・15080 ・カーテン(又はレース共) ※15080・18080 ・カーテン+横型ブラインド ※180150	15 ロールスクリーン (20.2.13) 操作方法 スクリーンの種類 品質等 ・ブルコード式(ストッパー付) ・無し ・ワンタッチチェーン式 ・絹物 ・チェーン式 ・遮光タイプ ・電動式	16 カーテン及びカーテンレール (20.2.14) 製造所 <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>形式</th> <th>装置</th> <th>片引</th> <th>引分</th> <th>電動</th> <th>ひも引</th> <th>手引</th> <th>名称</th> <th>品質</th> <th>U値の種類</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> </tr> </table>	施工箇所	形式	装置	片引	引分	電動	ひも引	手引	名称	品質	U値の種類	備考													17 ビクチャーレール (20.2.14) レール 材質 アルミニウム製(シルバー) 形式 先付け天井取付型(見切縁兼用) ランナー 材質 本体:真鍮性 フック:ステンレス製(可動式) 新重量 25kg程度/個 個数 2個/レベル1m	18 天井点検口 (20.2.14) <table border="1"> <tr> <th>目地形状</th> <th>適用箇所</th> <th>寸法(mm)</th> </tr> <tr> <td>隠蔽タイプ</td> <td>下記以外全て</td> <td>※450WJ00D7450</td> </tr> <tr> <td>目地タイプ</td> <td>※図示</td> <td>・600WJ00D7600</td> </tr> </table>	目地形状	適用箇所	寸法(mm)	隠蔽タイプ	下記以外全て	※450WJ00D7450	目地タイプ	※図示	・600WJ00D7600	19 床点検口 <table border="1"> <tr> <th>本体の材質</th> <th>目地の材質</th> <th>適用箇所</th> <th>寸法(mm)</th> </tr> <tr> <td>※アルミ製</td> <td>※アルミ・ステンレス・黄銅</td> <td>下記以外全て</td> <td>※600WJ00D7600</td> </tr> <tr> <td>・ステンレス製</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	本体の材質	目地の材質	適用箇所	寸法(mm)	※アルミ製	※アルミ・ステンレス・黄銅	下記以外全て	※600WJ00D7600	・ステンレス製				20 収納家具・書架・物品棚 <table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>品質・規格及び性能</th> </tr> <tr> <td>アルミ合金押出し型材 アルミ ニウム板</td> <td>JIS H 4100 A6063S1による JIS H 4000 A1100PH24による</td> </tr> <tr> <td>ステンレス製</td> <td>JIS G 4305 目黒鋼 4308も含む の SUS304 による</td> </tr> <tr> <td>寸法許容差(mm)</td> <td>受け枠寸法の許容差 ±0.5 蓋枠寸法の許容差 ±0.5 受け枠と蓋枠のクリアランス(片側) 2.0以内</td> </tr> <tr> <td>耐荷重性能</td> <td>荷重Pn=1.000Nにおける蓋中央部の残留たわみ 点検口有効径の0.08%以内 新設耐荷重 荷重値Pnの2倍以上</td> </tr> </table>	材質	品質・規格及び性能	アルミ合金押出し型材 アルミ ニウム板	JIS H 4100 A6063S1による JIS H 4000 A1100PH24による	ステンレス製	JIS G 4305 目黒鋼 4308も含む の SUS304 による	寸法許容差(mm)	受け枠寸法の許容差 ±0.5 蓋枠寸法の許容差 ±0.5 受け枠と蓋枠のクリアランス(片側) 2.0以内	耐荷重性能	荷重Pn=1.000Nにおける蓋中央部の残留たわみ 点検口有効径の0.08%以内 新設耐荷重 荷重値Pnの2倍以上	21 床点検口 <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>材質</th> <th>高さ(mm)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・垂直降下式(巻取り型)</td> <td>不織布(不燃認定品)</td> <td>※800</td> <td>ガイドレール ※図定式(壁取込型) ・可動式(天井収納型)</td> </tr> <tr> <td>・回転降下式</td> <td>鋼板製又はアルミ製</td> <td>※800</td> <td>表面仕上げ ※天井材張り</td> </tr> </table>	種類	材質	高さ(mm)	備考	・垂直降下式(巻取り型)	不織布(不燃認定品)	※800	ガイドレール ※図定式(壁取込型) ・可動式(天井収納型)	・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※800	表面仕上げ ※天井材張り	22 建築銘板 建築銘板の設置等は、下記による。 (イ) 設置 ○ 設置する ・ 設置しない (ロ) 材料、大きさ ○ 風又は白亜系石水垢養生仕上り(450WJ00D7600WJ00D7250) ○ 鏡面ステンレス板(450WJ00D7600WJ00D72.0) (ハ) 記入内容(参考) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>45(40)</p> <p>工事名 完成 平成 年月 日 (監修) 設計 監理 建築 (業者名を記入する) 電気 (業者名を記入する) 給排水 (業者名を記入する) 空調 (業者名を記入する) 合併処理 (業者名を記入する) 昇降機 (業者名を記入する)</p> </div>	23 リサイクル製品の の使用 (21.3.3) (1)リサイクル製品は、「石川県リサイクル認定製品」を優先的に採用すること。 石川県リサイクル認定製品 ○ 使用する 「石川県リサイクル認定製品」は、石川県のホームページを参照する。 http://www.pref.ishikawa.jp/ (石川県 建設部 産業部課課)	24 排水工 特記事項 (21.2.1)(21.3.3) <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>特記事項</th> </tr> <tr> <td>① 排水管</td> <td>排水管用材料 (21.2.1)(21.3.3) <table border="1"> <tr> <th>材 種</th> <th>管の種類</th> <th>管形状(接合方法)</th> </tr> <tr> <td>※適心力鉄筋コンクリート管</td> <td>※外圧管: ※1種・2種</td> <td>B形(ゴム接合)</td> </tr> <tr> <td>・硬質塩化ビニル管</td> <td>※VP・VU</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・排水管の破損防止: 溝G</td> <td>※RS-VP</td> <td></td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>② 排水枘及びふた</td> <td>(21.2.2) <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>適用荷重</th> <th>鍵</th> </tr> <tr> <td>・水封形 ・密閉形(テーパー・バッキン式)</td> <td>・T-2用</td> <td>○あり</td> </tr> <tr> <td>・簡易気密形(バッキン式)</td> <td>・T-6用</td> <td>・なし</td> </tr> <tr> <td>・中ふた付密閉形(テーパー・バッキン式)</td> <td>○T-2用</td> <td></td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>③ グレーチングふた</td> <td>・溝ふた用 (21.2.2) <table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>形 式</th> <th>種 類</th> <th>適用荷重</th> <th>ルバーフ</th> <th>上面形状</th> </tr> <tr> <td>・鋼製</td> <td>※受材付き (橋脚)</td> <td>・溝ふた用</td> <td>・歩行用</td> <td>※編目</td> <td>※凹凸形</td> </tr> <tr> <td>・ステンレス製</td> <td>・溝ふた用 (橋脚)</td> <td>・溝ふた用</td> <td>・T-2用</td> <td>※普通目</td> <td>※平形</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ボルト固定 ※無し</td> <td>・樹ふた用</td> <td>・T-6用</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・図示</td> <td>・かさ上げ用</td> <td>・T-14用</td> <td>・編目</td> <td>・凹凸形</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・U字溝用</td> <td>・T-20用</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>④ 埋戻し土</td> <td>※種 埋戻し土から再仕した埋戻し土 G (21.2.3)</td> </tr> </table>	項目	特記事項	① 排水管	排水管用材料 (21.2.1)(21.3.3) <table border="1"> <tr> <th>材 種</th> <th>管の種類</th> <th>管形状(接合方法)</th> </tr> <tr> <td>※適心力鉄筋コンクリート管</td> <td>※外圧管: ※1種・2種</td> <td>B形(ゴム接合)</td> </tr> <tr> <td>・硬質塩化ビニル管</td> <td>※VP・VU</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・排水管の破損防止: 溝G</td> <td>※RS-VP</td> <td></td> </tr> </table>	材 種	管の種類	管形状(接合方法)	※適心力鉄筋コンクリート管	※外圧管: ※1種・2種	B形(ゴム接合)	・硬質塩化ビニル管	※VP・VU		・排水管の破損防止: 溝G	※RS-VP		② 排水枘及びふた	(21.2.2) <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>適用荷重</th> <th>鍵</th> </tr> <tr> <td>・水封形 ・密閉形(テーパー・バッキン式)</td> <td>・T-2用</td> <td>○あり</td> </tr> <tr> <td>・簡易気密形(バッキン式)</td> <td>・T-6用</td> <td>・なし</td> </tr> <tr> <td>・中ふた付密閉形(テーパー・バッキン式)</td> <td>○T-2用</td> <td></td> </tr> </table>	種類	適用荷重	鍵	・水封形 ・密閉形(テーパー・バッキン式)	・T-2用	○あり	・簡易気密形(バッキン式)	・T-6用	・なし	・中ふた付密閉形(テーパー・バッキン式)	○T-2用		③ グレーチングふた	・溝ふた用 (21.2.2) <table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>形 式</th> <th>種 類</th> <th>適用荷重</th> <th>ルバーフ</th> <th>上面形状</th> </tr> <tr> <td>・鋼製</td> <td>※受材付き (橋脚)</td> <td>・溝ふた用</td> <td>・歩行用</td> <td>※編目</td> <td>※凹凸形</td> </tr> <tr> <td>・ステンレス製</td> <td>・溝ふた用 (橋脚)</td> <td>・溝ふた用</td> <td>・T-2用</td> <td>※普通目</td> <td>※平形</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ボルト固定 ※無し</td> <td>・樹ふた用</td> <td>・T-6用</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・図示</td> <td>・かさ上げ用</td> <td>・T-14用</td> <td>・編目</td> <td>・凹凸形</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・U字溝用</td> <td>・T-20用</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	材質	形 式	種 類	適用荷重	ルバーフ	上面形状	・鋼製	※受材付き (橋脚)	・溝ふた用	・歩行用	※編目	※凹凸形	・ステンレス製	・溝ふた用 (橋脚)	・溝ふた用	・T-2用	※普通目	※平形		ボルト固定 ※無し	・樹ふた用	・T-6用				・図示	・かさ上げ用	・T-14用	・編目	・凹凸形			・U字溝用	・T-20用			④ 埋戻し土	※種 埋戻し土から再仕した埋戻し土 G (21.2.3)
		施工箇所								形式	装置	片引	引分	電動	ひも引	手引	名称	品質	U値の種類	備考																																																																																																																																						
目地形状	適用箇所	寸法(mm)																																																																																																																																																								
隠蔽タイプ	下記以外全て	※450WJ00D7450																																																																																																																																																								
目地タイプ	※図示	・600WJ00D7600																																																																																																																																																								
本体の材質	目地の材質	適用箇所	寸法(mm)																																																																																																																																																							
※アルミ製	※アルミ・ステンレス・黄銅	下記以外全て	※600WJ00D7600																																																																																																																																																							
・ステンレス製																																																																																																																																																										
材質	品質・規格及び性能																																																																																																																																																									
アルミ合金押出し型材 アルミ ニウム板	JIS H 4100 A6063S1による JIS H 4000 A1100PH24による																																																																																																																																																									
ステンレス製	JIS G 4305 目黒鋼 4308も含む の SUS304 による																																																																																																																																																									
寸法許容差(mm)	受け枠寸法の許容差 ±0.5 蓋枠寸法の許容差 ±0.5 受け枠と蓋枠のクリアランス(片側) 2.0以内																																																																																																																																																									
耐荷重性能	荷重Pn=1.000Nにおける蓋中央部の残留たわみ 点検口有効径の0.08%以内 新設耐荷重 荷重値Pnの2倍以上																																																																																																																																																									
種類	材質	高さ(mm)	備考																																																																																																																																																							
・垂直降下式(巻取り型)	不織布(不燃認定品)	※800	ガイドレール ※図定式(壁取込型) ・可動式(天井収納型)																																																																																																																																																							
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※800	表面仕上げ ※天井材張り																																																																																																																																																							
項目	特記事項																																																																																																																																																									
① 排水管	排水管用材料 (21.2.1)(21.3.3) <table border="1"> <tr> <th>材 種</th> <th>管の種類</th> <th>管形状(接合方法)</th> </tr> <tr> <td>※適心力鉄筋コンクリート管</td> <td>※外圧管: ※1種・2種</td> <td>B形(ゴム接合)</td> </tr> <tr> <td>・硬質塩化ビニル管</td> <td>※VP・VU</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・排水管の破損防止: 溝G</td> <td>※RS-VP</td> <td></td> </tr> </table>	材 種	管の種類	管形状(接合方法)	※適心力鉄筋コンクリート管	※外圧管: ※1種・2種	B形(ゴム接合)	・硬質塩化ビニル管	※VP・VU		・排水管の破損防止: 溝G	※RS-VP																																																																																																																																														
材 種	管の種類	管形状(接合方法)																																																																																																																																																								
※適心力鉄筋コンクリート管	※外圧管: ※1種・2種	B形(ゴム接合)																																																																																																																																																								
・硬質塩化ビニル管	※VP・VU																																																																																																																																																									
・排水管の破損防止: 溝G	※RS-VP																																																																																																																																																									
② 排水枘及びふた	(21.2.2) <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>適用荷重</th> <th>鍵</th> </tr> <tr> <td>・水封形 ・密閉形(テーパー・バッキン式)</td> <td>・T-2用</td> <td>○あり</td> </tr> <tr> <td>・簡易気密形(バッキン式)</td> <td>・T-6用</td> <td>・なし</td> </tr> <tr> <td>・中ふた付密閉形(テーパー・バッキン式)</td> <td>○T-2用</td> <td></td> </tr> </table>	種類	適用荷重	鍵	・水封形 ・密閉形(テーパー・バッキン式)	・T-2用	○あり	・簡易気密形(バッキン式)	・T-6用	・なし	・中ふた付密閉形(テーパー・バッキン式)	○T-2用																																																																																																																																														
種類	適用荷重	鍵																																																																																																																																																								
・水封形 ・密閉形(テーパー・バッキン式)	・T-2用	○あり																																																																																																																																																								
・簡易気密形(バッキン式)	・T-6用	・なし																																																																																																																																																								
・中ふた付密閉形(テーパー・バッキン式)	○T-2用																																																																																																																																																									
③ グレーチングふた	・溝ふた用 (21.2.2) <table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>形 式</th> <th>種 類</th> <th>適用荷重</th> <th>ルバーフ</th> <th>上面形状</th> </tr> <tr> <td>・鋼製</td> <td>※受材付き (橋脚)</td> <td>・溝ふた用</td> <td>・歩行用</td> <td>※編目</td> <td>※凹凸形</td> </tr> <tr> <td>・ステンレス製</td> <td>・溝ふた用 (橋脚)</td> <td>・溝ふた用</td> <td>・T-2用</td> <td>※普通目</td> <td>※平形</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ボルト固定 ※無し</td> <td>・樹ふた用</td> <td>・T-6用</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・図示</td> <td>・かさ上げ用</td> <td>・T-14用</td> <td>・編目</td> <td>・凹凸形</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・U字溝用</td> <td>・T-20用</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	材質	形 式	種 類	適用荷重	ルバーフ	上面形状	・鋼製	※受材付き (橋脚)	・溝ふた用	・歩行用	※編目	※凹凸形	・ステンレス製	・溝ふた用 (橋脚)	・溝ふた用	・T-2用	※普通目	※平形		ボルト固定 ※無し	・樹ふた用	・T-6用				・図示	・かさ上げ用	・T-14用	・編目	・凹凸形			・U字溝用	・T-20用																																																																																																																							
材質	形 式	種 類	適用荷重	ルバーフ	上面形状																																																																																																																																																					
・鋼製	※受材付き (橋脚)	・溝ふた用	・歩行用	※編目	※凹凸形																																																																																																																																																					
・ステンレス製	・溝ふた用 (橋脚)	・溝ふた用	・T-2用	※普通目	※平形																																																																																																																																																					
	ボルト固定 ※無し	・樹ふた用	・T-6用																																																																																																																																																							
	・図示	・かさ上げ用	・T-14用	・編目	・凹凸形																																																																																																																																																					
		・U字溝用	・T-20用																																																																																																																																																							
④ 埋戻し土	※種 埋戻し土から再仕した埋戻し土 G (21.2.3)																																																																																																																																																									
2	25 止水板 形状 ・差込式 ・掘置き ・壁埋り式 施工箇所 ※図示	26 フリーアクセスフロア (20.2.2) <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>構 法</th> <th>仕上り高 (mm)</th> <th>適用地盤時 水平力</th> <th>耐荷重性能 (注1)</th> <th>表面仕上げ材 (注2)</th> </tr> <tr> <td></td> <td>・ノベル構法 ・溝構法</td> <td>100</td> <td>・1.0G ・0.6G</td> <td>・3.000N ・5.000N</td> <td>・帯電防止床タイル ・タイルカーペット</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ノベル構法 ・溝構法</td> <td>100</td> <td>・1.0G ・0.6G</td> <td>・3.000N ・5.000N</td> <td>・帯電防止床タイル ・タイルカーペット</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ノベル構法 ・溝構法</td> <td></td> <td>・1.0G ・0.6G</td> <td>・3.000N ・5.000N</td> <td>・帯電防止床タイル ・タイルカーペット</td> </tr> </table>	施工箇所	構 法	仕上り高 (mm)	適用地盤時 水平力	耐荷重性能 (注1)	表面仕上げ材 (注2)		・ノベル構法 ・溝構法	100	・1.0G ・0.6G	・3.000N ・5.000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット		・ノベル構法 ・溝構法	100	・1.0G ・0.6G	・3.000N ・5.000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット		・ノベル構法 ・溝構法		・1.0G ・0.6G	・3.000N ・5.000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット	27 可動開閉仕切 (20.2.3) <table border="1"> <tr> <th>構造形式</th> <th>ノベル部の 厚さ(mm)</th> <th>表面材質</th> <th>仕上げ</th> <th>遮音性 (JISによる)</th> <th>不燃材料 の認定</th> </tr> <tr> <td>※ノベル式 ・スタッド式 ・スタッドノベル式</td> <td></td> <td>※鋼板 (※0.6・0.8)</td> <td>※メラミン樹脂 又はアクリル 樹脂面付付</td> <td>・0・12 ・20・28 ・36</td> <td>・あり</td> </tr> </table>	構造形式	ノベル部の 厚さ(mm)	表面材質	仕上げ	遮音性 (JISによる)	不燃材料 の認定	※ノベル式 ・スタッド式 ・スタッドノベル式		※鋼板 (※0.6・0.8)	※メラミン樹脂 又はアクリル 樹脂面付付	・0・12 ・20・28 ・36	・あり	28 移動開閉仕切 (20.2.4) <table border="1"> <tr> <th>遮音性能による区分</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>表面材</th> <th>表面仕上げ (注2)</th> <th>操作方法</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・一般タイプ</td> <td></td> <td>※鋼板</td> <td>・焼付け塗装 ・壁紙張り</td> <td>・手動式 ・電動式 ・部分電動式</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・遮音タイプ (注1)</td> <td></td> <td>※鋼板</td> <td>・焼付け塗装 ・壁紙張り</td> <td>・手動式 ・電動式 ・部分電動式</td> <td></td> </tr> </table>	遮音性能による区分	厚さ(mm)	表面材	表面仕上げ (注2)	操作方法	施工箇所	・一般タイプ		※鋼板	・焼付け塗装 ・壁紙張り	・手動式 ・電動式 ・部分電動式		・遮音タイプ (注1)		※鋼板	・焼付け塗装 ・壁紙張り	・手動式 ・電動式 ・部分電動式		29 トイレブース (20.2.5) <table border="1"> <tr> <th>表面仕上げ材</th> <th>照壁の形状・材質</th> <th>ドアエッジの形状・材質</th> </tr> <tr> <td>※メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板</td> <td>※樺木タイプ ・支柱タイプ</td> <td>・アルミニウム ・フラット形 ・ステンレス ・曲面形</td> </tr> </table>	表面仕上げ材	照壁の形状・材質	ドアエッジの形状・材質	※メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板	※樺木タイプ ・支柱タイプ	・アルミニウム ・フラット形 ・ステンレス ・曲面形	30 階段滑止め (20.2.6) 材質 ステンレス SUS304 形状 ビニルタイヤ入り 間隔フラットエンド ※有り(・ステンレス製 ※ビニル製) ・無し 幅(mm) 約5 取付け工法 ※接着工法 ・埋込み工法	31 階段手すり (20.2.7) <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>仕上り等</th> <th>手すり径等(mm)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・集材材(市販品)</td> <td>※クリアラッカー</td> <td>・45</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ビニル製ハンドレール ※アルミ製 塩ビ被覆</td> <td>・耐熱性タイプ</td> <td>・50(幅) ・34・40</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ステンレスタイプ ・鋼製タイプ</td> <td>・HL</td> <td>・40</td> <td></td> </tr> </table>	種 別	仕上り等	手すり径等(mm)	施工箇所	・集材材(市販品)	※クリアラッカー	・45		・ビニル製ハンドレール ※アルミ製 塩ビ被覆	・耐熱性タイプ	・50(幅) ・34・40		・ステンレスタイプ ・鋼製タイプ	・HL	・40		32 車止め支柱 ・ステンレス製(上下端角型、反折テープ付) 径14.3mm t=2.5mm H=GL+100mm ※スプリング付 ・スプリング無し ・図示	33 21章 排水工 特記事項 (21.2.1)(21.3.3)																																																																					
			施工箇所	構 法	仕上り高 (mm)	適用地盤時 水平力	耐荷重性能 (注1)	表面仕上げ材 (注2)																																																																																																																																																		
	・ノベル構法 ・溝構法	100	・1.0G ・0.6G	・3.000N ・5.000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット																																																																																																																																																					
	・ノベル構法 ・溝構法	100	・1.0G ・0.6G	・3.000N ・5.000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット																																																																																																																																																					
	・ノベル構法 ・溝構法		・1.0G ・0.6G	・3.000N ・5.000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット																																																																																																																																																					
構造形式	ノベル部の 厚さ(mm)	表面材質	仕上げ	遮音性 (JISによる)	不燃材料 の認定																																																																																																																																																					
※ノベル式 ・スタッド式 ・スタッドノベル式		※鋼板 (※0.6・0.8)	※メラミン樹脂 又はアクリル 樹脂面付付	・0・12 ・20・28 ・36	・あり																																																																																																																																																					
遮音性能による区分	厚さ(mm)	表面材	表面仕上げ (注2)	操作方法	施工箇所																																																																																																																																																					
・一般タイプ		※鋼板	・焼付け塗装 ・壁紙張り	・手動式 ・電動式 ・部分電動式																																																																																																																																																						
・遮音タイプ (注1)		※鋼板	・焼付け塗装 ・壁紙張り	・手動式 ・電動式 ・部分電動式																																																																																																																																																						
表面仕上げ材	照壁の形状・材質	ドアエッジの形状・材質																																																																																																																																																								
※メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板	※樺木タイプ ・支柱タイプ	・アルミニウム ・フラット形 ・ステンレス ・曲面形																																																																																																																																																								
種 別	仕上り等	手すり径等(mm)	施工箇所																																																																																																																																																							
・集材材(市販品)	※クリアラッカー	・45																																																																																																																																																								
・ビニル製ハンドレール ※アルミ製 塩ビ被覆	・耐熱性タイプ	・50(幅) ・34・40																																																																																																																																																								
・ステンレスタイプ ・鋼製タイプ	・HL	・40																																																																																																																																																								
21章 ユニット及びその他工事 特記事項	21章 排水工 特記事項																																																																																																																																																									

特記事項		確認日	一級建築士 横道 謙一 (登録番号 20319 号) 二級建築士 横道 謙一 (登録番号 2423 号) 酒井 豊	雙 星 設 計 一級建築士 中村 武司 (登録番号 174376 号)	工事名称(プロジェクトNo) 160613 公立小坂大学 薬津キャンパス 校舎整備工事(2期)(建築)	図面名称 建築工事仕様書(6)
		確認者	一級建築士 横道 謙一 (登録番号 20319 号) 二級建築士 横道 謙一 (登録番号 2423 号) 酒井 豊	代表 一級建築士 横道 謙一 (登録番号 20319 号)	年月日 2018. 03	図面番号 A-06

17 工事現場の標示板



(監修)内は、監修を委託した場合、業者名が多くなった場合でも、縦75cm以内とする。
 工事名は、各工事とも共通な名称とし、各文字は、角ゴシック体とする。

18 施工の検査等

監督員等の検査を受ける工程は次のものとする。 [1.6.5]
 ※「接切り 掘削完了時 ※主要構造部の直切り ・ 型枠の組立て 其他監督員が指示するもの。

19 施工の立会い等

請負契約第14条第2項で定める監督員等の立会いのう施工するものは次のものとする。
 ※材料 ○エントラシ 確認及び点検 [1.6.7]
 ・ 屋外タイル接着力試験 其他監督員等の指示するもの

20 中間検査

中間検査の実施 ※有 ・ 無 [1.7.2]
 実施時期 ※総工事完了時 ・

21 公共事業等関係等に対する協力

・ 発注者は、当該工事が発注者の実施する公共事業労働者調査の対象工事となった場合には、次の各号に掲げる協力をしなければならない。また、工期経過後においても同様とする。
 1) 調査票等に必要事項を正確に記載し、発注者に提出する等必要な協力をしなければならない。
 2) 調査票等を提出した事業所を発注者が、事後に訪問して行う調査・指導の対象とならな場合は、その実態に協力しなければならない。
 3) 正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従い、就業規則を作成すると共に賃金台帳を調整・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行わなければならない。
 4) 対象工事の一部について下請け契約を締結する場合には、当該下請け工事の受注者(当該下請け工事の一部に係る二次以降の下請け人を含む。)が前号と同様の義務を負う旨を定めなければならない。
 ・ 本工事が「建設副産物実態調査」の対象である場合、工事完了後速やかに調査票を作成し、監督員に提出しなければならない。

22 保険

工事的目的物、工事材料等に生ずる損害を填補する保険は、下記による。
 ※建設工事保険又は組立保険(工事対象物を全て解体する工事を除く)
 加入期間 引渡しまで(引き渡しを要しない工事の場合は、工事完了まで)

23 室内空気汚染対策

室内空気の汚染対策の実施 ※実施する ・ 実施しない [1.6.9]
 1) 測定の有無等
 測定する場合は、下記の通り揮発性有機化合物について室内濃度を測定し、厚生労働省の定める指値以下であることを確認し、報告すること。
 イ) 測定の有無 ※有 ・ 無
 ロ) 測定対象室
 測定は原則として、内装仕上げ材の仕様が完了した居室に行う。ただし、居室の規模が著しく異なる場合は、それぞれ実施する。
 内装改修等を行った居室について測定を行う。

ハ) 1室当たりの測定箇所数				
室の面積積 A (㎡)	A ≤ 10	10 < A ≤ 200	200 < A ≤ 500	500 < A
測定箇所数	1	2	3	4

全ての測定箇所において、二)の測定対象化学物質全ての濃度を同時に測定する。

二) 測定対象化学物質及び測定方法
 測定対象化学物質は、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン及びスチレンとし、同時に測定する。測定方法は、ハンシブ型型取機を用い、国土交通大臣官房官庁労働部建築課長通知(平成15年4月1日 国富建第1号)「官庁営繕における平成15年度からのホルムアルデヒド等の室内空気中の化学物質の抑制に関する措置について」により行う。
 ホ) 測定時期
 測定は下記の時期を行うものとする。
 ① 測定対象化学物質が、関連工事による測定対象室への流入や急激な拡散がほぼなくなり、引き渡し後の室内空気環境と同程度となった時期。
 ② 別途工事又は家具の設置等が行われる前。
 ③ 内装又は塗装等の施工が終了し、その後十分な換気が行われていること。
 ④ 中央式空調設備のように換気を行いつつながら空調機を行う設備がある場合は、設備の運転が完了していること。
 へ) 測定対象物質が指値値を超える濃度で検出された場合の措置
 測定結果が厚生省の指値値を超えていた場合は、発生源を特定し、換気等の措置を講じた後、再度測定を行う。
 ト) その他、採取、測定及び分析の方法は、上記二)の国土交通省通知によるほか、監督員の指示による。

2) 施工中・施工後の通風、換気
 接着剤、塗料等の塗布に当たっては、使用方法や塗布量を十分管理し、適切な乾燥時間をとるようにする。また、施工中、施工後の通風、換気を十分に行い、室内に不散らした溶剤成分等の希釈を図るものとする。

3) 引渡し時
 室内空気中に化学物質を発生させるおそれのある建築材料等の使用状況の一覧表を提出する。
 4) 揮発性有機化合物を放散させる建築材料等本工事の建物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所定の品質及び性能を有するものとし、次のイ)からホ)の事項を満たすものとする。

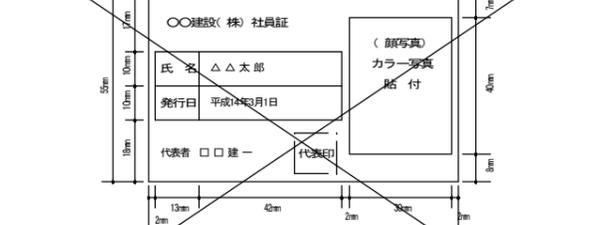
- イ) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板及び仕上げ材は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
- ロ) 保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
- ハ) 接着剤は、フタル酸ジエーテルブチル及びフタル酸ジエーテルヘキシンを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
- ニ) 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
- ホ) 上記イ)、ハ)、ニ)の材料を使用て作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。

24 名札の着帯

また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。
 ※「規制対象外」のもの

- ① J I S又はJ A SのF☆☆☆規格品
 - ② 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品
 - ③ 下記表示のあるJ A S規格品
 カ非ホルムアルデヒド系接着剤使用
 カ接着剤不使用
 カ非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料を使用
 カホルムアルデヒドを放散させない塗料使用
 カ非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用
 カ非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用
- ・「第三種」のもの
 ① J I S又はJ A SのF☆☆☆規格品
 ② 建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品
 ③ 旧 J I SのE O規格品
 ④ 旧 J A SのF O規格品

現場代理人及び主任(監理)技術者は、工事期間中は次で定める様式例等による顔写真入り名札を着帯すること。(但し、請負額100万円以上の工事)



(注意事項)
 ① 名札として使用する用紙(台紙)は白色、寸法は上記(名刺サイズ、縦5.5cm横9.1cm)のとおりとする。
 ② 顔写真(カラー写真)の寸法は縦4.0cm横3.0cmとし、撮影する部分は胸から上の上半身とする。
 ③ ケースの寸法は上記①の用紙(台紙)が入る大きさとする。

25 施工体制台帳の作成等

建設業法第24条の7に該当する施工体制台帳の作成が必要な工事は、当該台帳を現場に備え付け、施工体系図を工事関係者及び一般が見やすい場所に掲げておくこと。

26 排出ガス対策型建設機械 G

- 次に掲げる指定建設機械は、排気ガス対策型とする。
 1) バックホウ
 2) トラクター・ショベル
 3) 発電発電機
 4) 空気圧縮機
 5) ローラ類
 6) ホイールクレーン

27 創意工夫等

工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や工事制約に関する項目、または地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時まで(に所定の様式)より提出することができる。

28 保険の付与及び事故の対応

- 1) 受注者は、雇用保険法、労働者災害補償保険法、健康保険法及び中小企業退職金共済法の規定により、雇用者等の雇用形態に応じ、雇用者等を被保険者とするこれらの保険に加入しなければならない。
- 2) 受注者は、雇用者等の業務に關して生じた負傷、疾病、死亡及びその他の事故に対して責任をもって適正な補償をしなければならない。
- 3) 受注者は、建設業退職金共済制度の対象労働者数及び就労予定日数を事前把握し、その損益収支の写しを工事請負契約締結1ヶ月以内及び工事完成時に、監督員を通じて発注者に提出しなければならない。

○ 行う(「電子納品仕様書」による。) ・ 行わない

電子納品仕様書

名称	摘要
各種工事電子納品要領	平成24年4月
各種工事写真撮影要領(平成24年版)	平成24年4月
官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】(平成24年度版)	平成24年4月

基事・要領のダウンロード http://www.mlit.go.jp/gbaul/d/gbaul_d_oal_s_siryod4.htm

- 2 工事関係書類の最終成果品を、従来の紙での納品と別々CD-R又はDVD-Rで
- 1 納品する。なお、工事写真については、カラープリンターで出力したものでよい。
- 3 工事着手時は、事前協議チェックシートを用いて事前協議を行うものとする。
- 工事関係書類内の、電子データで提出するものは、事前協議にて決定する。
- 4 発注者が行うCALS/EC電子納品に関する調整について協力を行うものとする。
- 5 工事完成図書の提出の際は、以下の項目を確認するものとする。
 - 1) 電子成果物作成支援・検査システムによるチェックを行い、エラーがないことを確認すること。
 入手先 http://www.mlit.go.jp/gbaul/d/gbaul_d_oal_s_syrn3.htm
 - 2) 最新のウイルスチェックソフトで、提出物にウイルスが混入していないことを確認すること。
- 6 電子納品の媒体は、CD-R又はDVD-Rを利用することとする。

30 騒音振動の防止

低騒音(G) 低振動型建設機械を使用する。
 ※「行う」 ・ 行わない

31 隣接建物又は工作物の調査

着工に先立ち地下に埋設されたガス管、電話ケーブル、給排水管及び架設物がないか関係機関の協力を得て確認し、報告するとともに事故を未然に防ぐよう留意する。

32 敷地の状況確認

「石川県建設工事総合評価方式施行要領」に基づく「技術提案」がある場合は、提案内容を本工事において確実に履行し、受注者が「技術提案履行状況報告書」を監督員に提出の上、履行状況の確認を受ける。なお、受注者の責任以外の理由等により、変更等の必要が生じた場合は、事前に監督員に協議する。

33 総合評価における技術提案

- 1) 積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込まないこと。
- 2) さし積載車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込まないこと。
- 3) 過積載車、さし積載車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受けること等、過積載を助長することのないようにすること。
- 4) 取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行い、又はさし積載車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。
- 5) 建設発土の処理及び資材の購入に当たって、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。
- 6) 「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」(昭和42年8月2日法律第131号。)の目的に鑑み、法第12条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体等への加入者の使用を促進すること。
- 7) 1から6に付き、元請建設業者は下請建設業者を十分指導すること。

34 ダンプトラック等による過積載等の防止

当該工事は、石川県公共事業景観形成ガイドラインに基づく重点事業であり、景観に配慮した工事施工に努めること。
 この工事の受注者か、近接する区域(概ね100m)において、工期が重複する小中規模発注の工事を受注している場合には、全工事との合計額により定まる率によって謝礼金を再計算し、これにより変更契約(減額)する。
 ※「工期が重複する」とは、開閉日から近接する工事の完成日を受理した日以前の場合をいう。

35 景観への配慮

36 近接工事の謝礼金調整

2 1 工事用水

構内既存の施設 ・ 利用できる(※有償・無償) ※利用できない

2 工事用電力

構内既存の施設 ・ 利用できる(※有償・無償) ※利用できない

3 工事用道路

工事用道路(敷地内外)は良好なる維持管理を行い、使用後は請負者において速やかに原則で復旧すること。
 仮設は、下記より強固に対して倒壊、飛散等しない堅固な構造とし、事前に施工図を提出して監督員の承認を得ること。
 イ) 材料 ・ 鋼板 ・ 亜鉛波状鉄板
 ロ) 高さ ・ 1.8m ・ 2.0m ・ 3.0m
 ハ) 塗装 ・ する ・ しない
 ニ) 延長 ・ m ・ 図示

4 指定仮設

- 1) 外脚足場 [2.2.1]
- (1) 種別 ※A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種 [表2.1]
- (2) 特種足場の種類 ※特種足場(手すり先行足場)

足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」について(厚生労働省平成21年4月の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さ及び床木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2)手すり設置又は3)手すり先行専用足場方式より行うこと。
 ・ 特種足場

5 足場その他

種別	下地	仕上材(厚さmm)
・ A種	※軽量鉄骨	※せつこうボード(※9.5)
○ B種	・ 木造	・ 合板(※9)
※C種	・ 単管	・ 防火シート
仮設扉	※木製扉	合板張り程度

6 既存部分の養生

- 1) 仮設仕切り種別 [2.3.2] [表3.1]
- 種別 下地
- ・ A種 ※軽量鉄骨 ※せつこうボード(※9.5)
- B種 ・ 木造 ・ 合板(※9)
- ※C種 単管 防火シート
- 仮設扉 ※木製扉 合板張り程度

7 仮設間仕切

- 2) 仮設仕切り種別 [2.3.2] [表3.1]
- 種別 下地
- ・ A種 ※軽量鉄骨 ※せつこうボード(※9.5)
- B種 ・ 木造 ・ 合板(※9)
- ※C種 単管 防火シート
- 仮設扉 ※木製扉 合板張り程度

8 仮設部分の養生

- ※設置する ※ネット 養生シート又は養生シート
- ・ 設置しない
- ・ 防音パネル なお、出入口等の上扉は必要に応じて防塵網を設ける。

9 仮設部分の養生

- ※設置する ※ネット 養生シート又は養生シート
- ・ 設置しない
- ・ 防音パネル なお、出入口等の上扉は必要に応じて防塵網を設ける。

10 仮設部分の養生

- ※設置する ※ネット 養生シート又は養生シート
- ・ 設置しない
- ・ 防音パネル なお、出入口等の上扉は必要に応じて防塵網を設ける。

<p>8 監督員事務所</p> <p>※図例 監督員事務所 規模 2 種別 号 号 号 号 号 面積 10程度 20程度 35程度 65程度 100程度</p> <p>監督員事務所 設計 備品等 ※保護帽 ※安全带 ※長靴 ※合羽 ※机 ※椅子 ※懐中電灯 ※原図大及 縮小 設計図面製本各々部 書棚 黒板 ※設計</p> <p>等有機溶剤 使用す 場合、特 火災及 盗難 い 管理 徹底す。 [2.4.2]</p> <p>原研計画日 方法 内容 [2.5.1]</p> <p>建設工事公衆災害防止対策要綱 建築工事編 及 建設副産物適正処理推進要綱 等関係規定 遵守し 災害 防止 努 こ す。</p>	<p>1) 改修方法 種類 [3.1.4][表3.1.2][3.7.4.7]</p> <table border="1"> <tr><th>改修方法 種類</th><th>施 工 箇 所</th></tr> <tr><td>充填工法</td><td></td></tr> <tr><td>再充填工法</td><td></td></tr> <tr><td>挿入 再充填工法</td><td></td></tr> <tr><td>工法</td><td></td></tr> </table> <p>張 及 材種 工法 場合 適用す [3.7.7]</p> <p>材 種類及 施工箇所 [3.7.2][表3.7.1]</p> <p>下表以外、改修仕様表3.7.1 標準 す</p> <table border="1"> <tr><th>施 工 箇 所</th><th>材 種類 記号</th></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> </table>	改修方法 種類	施 工 箇 所	充填工法		再充填工法		挿入 再充填工法		工法		施 工 箇 所	材 種類 記号									<p>6</p> <p>7. 防水工事 保証</p> <p>8. い</p> <p>9. 製法木</p> <p>4-1 外 壁 改 修 工 事</p> <p>2. 改修使用材料</p>	<p>外 壁 改 修 工 事 共 通 事 項</p> <p>打 放 し 仕 上 げ 外 壁 改 修 工 事</p> <p>2. 欠損部改修工法</p>	<p>※図例 監督員事務所 規模 2 種別 号 号 号 号 号 面積 10程度 20程度 35程度 65程度 100程度</p> <p>監督員事務所 設計 備品等 ※保護帽 ※安全带 ※長靴 ※合羽 ※机 ※椅子 ※懐中電灯 ※原図大及 縮小 設計図面製本各々部 書棚 黒板 ※設計</p> <p>等有機溶剤 使用す 場合、特 火災及 盗難 い 管理 徹底す。 [2.4.2]</p> <p>原研計画日 方法 内容 [2.5.1]</p> <p>建設工事公衆災害防止対策要綱 建築工事編 及 建設副産物適正処理推進要綱 等関係規定 遵守し 災害 防止 努 こ す。</p>																																																																									
	改修方法 種類	施 工 箇 所																																																																																															
	充填工法																																																																																																
	再充填工法																																																																																																
	挿入 再充填工法																																																																																																
工法																																																																																																	
施 工 箇 所	材 種類 記号																																																																																																
<p>1) 改修方法 種類 [3.1.4][表3.1.2][3.7.4.7]</p> <table border="1"> <tr><th>改修方法 種類</th><th>施 工 箇 所</th></tr> <tr><td>充填工法</td><td></td></tr> <tr><td>再充填工法</td><td></td></tr> <tr><td>挿入 再充填工法</td><td></td></tr> <tr><td>工法</td><td></td></tr> </table> <p>張 及 材種 工法 場合 適用す [3.7.7]</p> <p>材 種類及 施工箇所 [3.7.2][表3.7.1]</p> <p>下表以外、改修仕様表3.7.1 標準 す</p> <table border="1"> <tr><th>施 工 箇 所</th><th>材 種類 記号</th></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> </table>	改修方法 種類	施 工 箇 所	充填工法		再充填工法		挿入 再充填工法		工法		施 工 箇 所	材 種類 記号									<p>1) 調査</p> <p>調査範囲 ※外壁全面 図示 範囲 ○ 既存外壁仕上げ材等撤去後 躯体面 仕上げ材等撤去範囲 [1.5.2]</p> <p>調査内容 割 幅及 長さ 壁面 表示す。三、 割 部 挙動 有無、漏水 有無及 有無及 鉛十 流出 有無 調査す。 、 及 等 が 及 く 落部 壁面 表示す。 三、 欠損部 寸法形状等 調査す。 及 浮き部分 壁面 表示す。 仕上げ塗材等 劣化部分、 < 落部分等 壁面 表示す。 三、 既存塗膜 新規上塗 材 適合性 確認す。 調 査 報 告 書 部 数 ※ 部</p> <p>可 う 性 樹脂 [4.2.2]</p> <table border="1"> <tr><th>項目</th><th>引張 強さ (N/mm²)</th><th>伸 (%)</th><th>引張 接着性 最大引張 応力(N/mm²)</th><th>破断時 伸 (%)</th></tr> <tr><td>常温特性</td><td>1.0以上</td><td>30.0以上</td><td>1.0以上</td><td>10.0以上</td></tr> <tr><td>低温性</td><td>1.0以上</td><td>30.0以上</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>加熱変化</td><td>1.0以上</td><td>30.0以上</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>比 重</td><td colspan="4">表示値 ±0.10</td></tr> <tr><td>弾出し性</td><td colspan="4">60秒 以下</td></tr> <tr><td></td><td colspan="4">3.0mm 以下</td></tr> <tr><td>加齢耐重</td><td colspan="4">5.0 以下</td></tr> <tr><td>その他</td><td colspan="4">均質 有害 認 異物 混入が いこ。 対象 す 被着体 浸さず、か、周囲 汚損し いこ。 常温常温 温度5℃ 35℃、湿度45% 85% おい 製造所 指定す 期間又 製造後 か月間保存し三後 あ、品質 性能 各項目 適合し いこ。</td></tr> </table>	項目	引張 強さ (N/mm ²)	伸 (%)	引張 接着性 最大引張 応力(N/mm ²)	破断時 伸 (%)	常温特性	1.0以上	30.0以上	1.0以上	10.0以上	低温性	1.0以上	30.0以上			加熱変化	1.0以上	30.0以上			比 重	表示値 ±0.10				弾出し性	60秒 以下					3.0mm 以下				加齢耐重	5.0 以下				その他	均質 有害 認 異物 混入が いこ。 対象 す 被着体 浸さず、か、周囲 汚損し いこ。 常温常温 温度5℃ 35℃、湿度45% 85% おい 製造所 指定す 期間又 製造後 か月間保存し三後 あ、品質 性能 各項目 適合し いこ。				<p>1) 防水改修工法 種類 [3.1.4][表3.1.1][3.6.3][表3.6.1]</p> <table border="1"> <tr><th>防水改修工法 種類</th><th>施 工 箇 所</th><th>新規防水工法 種類</th><th>仕上げ塗料塗</th></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>二重 工法 場合 設計 [3.2.5] 既存露出防水層表面 仕上げ塗膜 除去 工法 場合 行い [3.2.6]</p>	防水改修工法 種類	施 工 箇 所	新規防水工法 種類	仕上げ塗料塗																										
改修方法 種類	施 工 箇 所																																																																																																
充填工法																																																																																																	
再充填工法																																																																																																	
挿入 再充填工法																																																																																																	
工法																																																																																																	
施 工 箇 所	材 種類 記号																																																																																																
項目	引張 強さ (N/mm ²)	伸 (%)	引張 接着性 最大引張 応力(N/mm ²)	破断時 伸 (%)																																																																																													
常温特性	1.0以上	30.0以上	1.0以上	10.0以上																																																																																													
低温性	1.0以上	30.0以上																																																																																															
加熱変化	1.0以上	30.0以上																																																																																															
比 重	表示値 ±0.10																																																																																																
弾出し性	60秒 以下																																																																																																
	3.0mm 以下																																																																																																
加齢耐重	5.0 以下																																																																																																
その他	均質 有害 認 異物 混入が いこ。 対象 す 被着体 浸さず、か、周囲 汚損し いこ。 常温常温 温度5℃ 35℃、湿度45% 85% おい 製造所 指定す 期間又 製造後 か月間保存し三後 あ、品質 性能 各項目 適合し いこ。																																																																																																
防水改修工法 種類	施 工 箇 所	新規防水工法 種類	仕上げ塗料塗																																																																																														
<p>1) 防水改修工法 種類 [3.3.3]</p> <table border="1"> <tr><th>防水改修工法 種類</th><th>施 工 箇 所</th><th>新規防水工法 種類</th></tr> <tr><td>保護防水</td><td></td><td>※</td></tr> <tr><td>露出防水</td><td></td><td>※</td></tr> <tr><td>屋内防水</td><td></td><td>※</td></tr> </table> <p>種類 ※ 種 種 工法 工法 [3.2.2][3.3.2] [3.2.5]</p> <p>二重 設計 工法 工法 [3.2.5] 既存露出防水層表面 仕上げ塗膜 除去 工法 行い [3.2.6] 断熱工法 断熱材 厚さ(mm) ※25 [3.4.2] 断熱材 購入法 おけ 特定調達品目 使用す こ [3.4.2] 工上 部防水層保護 布製品 か、又 か形 見え隠 部分 [3.3.2] 仕上げ塗料塗 O-1、O-3、D-1、D-3、D-1、D-2 ※有 使用量 製造所標準仕様 屋上排水溝 図示 水圧配 1/200以上 す</p>	防水改修工法 種類	施 工 箇 所	新規防水工法 種類	保護防水		※	露出防水		※	屋内防水		※	<p>1) 形式 製法木 種類 [3.9.2][3.9.3][表3.9.1]</p> <table border="1"> <tr><th>種 類</th><th>板厚(mm)</th><th>表面処理及 色合い</th><th>固定箇所</th><th>下地補修</th></tr> <tr><td>100型</td><td>1.5以上</td><td>※A-1又 B-1種 無着色</td><td>建築基準法 基 き</td><td>※行い 図示 行 い</td></tr> <tr><td>200型</td><td>1.6以上</td><td>B-2種</td><td>指定す 条件</td><td></td></tr> <tr><td>300型</td><td>1.8以上</td><td>系</td><td>施工計画書 定</td><td></td></tr> <tr><td>350型</td><td>2.0以上</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>既存笠木等 撤去 行い 範囲 ※図示</p> <p>板材折曲り形 製法木 取付方法 笠木 固定金具「改修仕様」3.9.3(b)(1) し、そ 以外 取付方法 図示。</p>	種 類	板厚(mm)	表面処理及 色合い	固定箇所	下地補修	100型	1.5以上	※A-1又 B-1種 無着色	建築基準法 基 き	※行い 図示 行 い	200型	1.6以上	B-2種	指定す 条件		300型	1.8以上	系	施工計画書 定		350型	2.0以上				<p>1) 防水改修工法 種類 [3.4.3] 表3.4.1.3</p> <table border="1"> <tr><th>防水改修工法 種類</th><th>施 工 箇 所</th><th>新規防水工法 種類</th></tr> <tr><td>密着工法</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>絶縁工法</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>断熱工法</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>二重 設計 工法 工法 [3.2.5] 既存露出防水層表面 仕上げ塗膜 除去 工法 行い [3.2.6] 断熱工法 断熱材 厚さ(mm) ※25 [3.4.2] 下地 部分的 密着又 接着 行い 工法 ※製造所 標準仕様 [3.4.4]</p>	防水改修工法 種類	施 工 箇 所	新規防水工法 種類	密着工法			絶縁工法			断熱工法																																																
防水改修工法 種類	施 工 箇 所	新規防水工法 種類																																																																																															
保護防水		※																																																																																															
露出防水		※																																																																																															
屋内防水		※																																																																																															
種 類	板厚(mm)	表面処理及 色合い	固定箇所	下地補修																																																																																													
100型	1.5以上	※A-1又 B-1種 無着色	建築基準法 基 き	※行い 図示 行 い																																																																																													
200型	1.6以上	B-2種	指定す 条件																																																																																														
300型	1.8以上	系	施工計画書 定																																																																																														
350型	2.0以上																																																																																																
防水改修工法 種類	施 工 箇 所	新規防水工法 種類																																																																																															
密着工法																																																																																																	
絶縁工法																																																																																																	
断熱工法																																																																																																	
<p>1) 防水改修工法 種類 [3.4.3] 表3.4.1.3</p> <table border="1"> <tr><th>防水改修工法 種類</th><th>施 工 箇 所</th><th>新規防水工法 種類</th></tr> <tr><td>密着工法</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>絶縁工法</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>断熱工法</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>二重 設計 工法 工法 [3.2.5] 既存露出防水層表面 仕上げ塗膜 除去 工法 行い [3.2.6] 断熱工法 断熱材 厚さ(mm) ※25 [3.4.2] 下地 部分的 密着又 接着 行い 工法 ※製造所 標準仕様 [3.4.4]</p>	防水改修工法 種類	施 工 箇 所	新規防水工法 種類	密着工法			絶縁工法			断熱工法			<p>1) 防水改修工法 種類 [3.4.3] 表3.4.1.3</p> <table border="1"> <tr><th>防水改修工法 種類</th><th>施 工 箇 所</th><th>新規防水工法 種類</th></tr> <tr><td>密着工法</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>絶縁工法</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>断熱工法</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>二重 設計 工法 工法 [3.2.5] 既存露出防水層表面 仕上げ塗膜 除去 工法 行い [3.2.6] 断熱工法 断熱材 厚さ(mm) ※25 [3.4.2] 下地 部分的 密着又 接着 行い 工法 ※製造所 標準仕様 [3.4.4]</p>	防水改修工法 種類	施 工 箇 所	新規防水工法 種類	密着工法			絶縁工法			断熱工法			<p>1) 調査</p> <p>調査範囲 ※外壁全面 図示 範囲 ○ 既存外壁仕上げ材等撤去後 躯体面 仕上げ材等撤去範囲 [1.5.2]</p> <p>調査内容 割 幅及 長さ 壁面 表示す。三、 割 部 挙動 有無、漏水 有無及 有無及 鉛十 流出 有無 調査す。 、 及 等 が 及 く 落部 壁面 表示す。 三、 欠損部 寸法形状等 調査す。 及 浮き部分 壁面 表示す。 仕上げ塗材等 劣化部分、 < 落部分等 壁面 表示す。 三、 既存塗膜 新規上塗 材 適合性 確認す。 調 査 報 告 書 部 数 ※ 部</p> <p>可 う 性 樹脂 [4.2.2]</p> <table border="1"> <tr><th>項目</th><th>引張 強さ (N/mm²)</th><th>伸 (%)</th><th>引張 接着性 最大引張 応力(N/mm²)</th><th>破断時 伸 (%)</th></tr> <tr><td>常温特性</td><td>1.0以上</td><td>30.0以上</td><td>1.0以上</td><td>10.0以上</td></tr> <tr><td>低温性</td><td>1.0以上</td><td>30.0以上</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>加熱変化</td><td>1.0以上</td><td>30.0以上</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>比 重</td><td colspan="4">表示値 ±0.10</td></tr> <tr><td>弾出し性</td><td colspan="4">60秒 以下</td></tr> <tr><td></td><td colspan="4">3.0mm 以下</td></tr> <tr><td>加齢耐重</td><td colspan="4">5.0 以下</td></tr> <tr><td>その他</td><td colspan="4">均質 有害 認 異物 混入が いこ。 対象 す 被着体 浸さず、か、周囲 汚損し いこ。 常温常温 温度5℃ 35℃、湿度45% 85% おい 製造所 指定す 期間又 製造後 か月間保存し三後 あ、品質 性能 各項目 適合し いこ。</td></tr> </table>	項目	引張 強さ (N/mm ²)	伸 (%)	引張 接着性 最大引張 応力(N/mm ²)	破断時 伸 (%)	常温特性	1.0以上	30.0以上	1.0以上	10.0以上	低温性	1.0以上	30.0以上			加熱変化	1.0以上	30.0以上			比 重	表示値 ±0.10				弾出し性	60秒 以下					3.0mm 以下				加齢耐重	5.0 以下				その他	均質 有害 認 異物 混入が いこ。 対象 す 被着体 浸さず、か、周囲 汚損し いこ。 常温常温 温度5℃ 35℃、湿度45% 85% おい 製造所 指定す 期間又 製造後 か月間保存し三後 あ、品質 性能 各項目 適合し いこ。				<p>1) 防水改修工法 種類 [3.4.3] 表3.4.1.3</p> <table border="1"> <tr><th>防水改修工法 種類</th><th>施 工 箇 所</th><th>新規防水工法 種類</th></tr> <tr><td>密着工法</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>絶縁工法</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>断熱工法</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>二重 設計 工法 工法 [3.2.5] 既存露出防水層表面 仕上げ塗膜 除去 工法 場合 行い [3.2.6]</p>	防水改修工法 種類	施 工 箇 所	新規防水工法 種類	密着工法			絶縁工法			断熱工法															
防水改修工法 種類	施 工 箇 所	新規防水工法 種類																																																																																															
密着工法																																																																																																	
絶縁工法																																																																																																	
断熱工法																																																																																																	
防水改修工法 種類	施 工 箇 所	新規防水工法 種類																																																																																															
密着工法																																																																																																	
絶縁工法																																																																																																	
断熱工法																																																																																																	
項目	引張 強さ (N/mm ²)	伸 (%)	引張 接着性 最大引張 応力(N/mm ²)	破断時 伸 (%)																																																																																													
常温特性	1.0以上	30.0以上	1.0以上	10.0以上																																																																																													
低温性	1.0以上	30.0以上																																																																																															
加熱変化	1.0以上	30.0以上																																																																																															
比 重	表示値 ±0.10																																																																																																
弾出し性	60秒 以下																																																																																																
	3.0mm 以下																																																																																																
加齢耐重	5.0 以下																																																																																																
その他	均質 有害 認 異物 混入が いこ。 対象 す 被着体 浸さず、か、周囲 汚損し いこ。 常温常温 温度5℃ 35℃、湿度45% 85% おい 製造所 指定す 期間又 製造後 か月間保存し三後 あ、品質 性能 各項目 適合し いこ。																																																																																																
防水改修工法 種類	施 工 箇 所	新規防水工法 種類																																																																																															
密着工法																																																																																																	
絶縁工法																																																																																																	
断熱工法																																																																																																	
<p>1) 防水改修工法 種類 [3.4.3] 表3.4.1.3</p> <table border="1"> <tr><th>防水改修工法 種類</th><th>施 工 箇 所</th><th>新規防水工法 種類</th></tr> <tr><td>密着工法</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>絶縁工法</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>断熱工法</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>二重 設計 工法 工法 [3.2.5] 既存露出防水層表面 仕上げ塗膜 除去 工法 場合 行い [3.2.6]</p>	防水改修工法 種類	施 工 箇 所	新規防水工法 種類	密着工法			絶縁工法			断熱工法			<p>1) 形式 製法木 種類 [3.9.2][3.9.3][表3.9.1]</p> <table border="1"> <tr><th>種 類</th><th>板厚(mm)</th><th>表面処理及 色合い</th><th>固定箇所</th><th>下地補修</th></tr> <tr><td>100型</td><td>1.5以上</td><td>※A-1又 B-1種 無着色</td><td>建築基準法 基 き</td><td>※行い 図示 行 い</td></tr> <tr><td>200型</td><td>1.6以上</td><td>B-2種</td><td>指定す 条件</td><td></td></tr> <tr><td>300型</td><td>1.8以上</td><td>系</td><td>施工計画書 定</td><td></td></tr> <tr><td>350型</td><td>2.0以上</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>既存笠木等 撤去 行い 範囲 ※図示</p> <p>板材折曲り形 製法木 取付方法 笠木 固定金具「改修仕様」3.9.3(b)(1) し、そ 以外 取付方法 図示。</p>	種 類	板厚(mm)	表面処理及 色合い	固定箇所	下地補修	100型	1.5以上	※A-1又 B-1種 無着色	建築基準法 基 き	※行い 図示 行 い	200型	1.6以上	B-2種	指定す 条件		300型	1.8以上	系	施工計画書 定		350型	2.0以上				<p>1) 調査</p> <p>調査範囲 ※外壁全面 図示 範囲 ○ 既存外壁仕上げ材等撤去後 躯体面 仕上げ材等撤去範囲 [1.5.2]</p> <p>調査内容 割 幅及 長さ 壁面 表示す。三、 割 部 挙動 有無、漏水 有無及 有無及 鉛十 流出 有無 調査す。 、 及 等 が 及 く 落部 壁面 表示す。 三、 欠損部 寸法形状等 調査す。 及 浮き部分 壁面 表示す。 仕上げ塗材等 劣化部分、 < 落部分等 壁面 表示す。 三、 既存塗膜 新規上塗 材 適合性 確認す。 調 査 報 告 書 部 数 ※ 部</p> <p>可 う 性 樹脂 [4.2.2]</p> <table border="1"> <tr><th>項目</th><th>引張 強さ (N/mm²)</th><th>伸 (%)</th><th>引張 接着性 最大引張 応力(N/mm²)</th><th>破断時 伸 (%)</th></tr> <tr><td>常温特性</td><td>1.0以上</td><td>30.0以上</td><td>1.0以上</td><td>10.0以上</td></tr> <tr><td>低温性</td><td>1.0以上</td><td>30.0以上</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>加熱変化</td><td>1.0以上</td><td>30.0以上</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>比 重</td><td colspan="4">表示値 ±0.10</td></tr> <tr><td>弾出し性</td><td colspan="4">60秒 以下</td></tr> <tr><td></td><td colspan="4">3.0mm 以下</td></tr> <tr><td>加齢耐重</td><td colspan="4">5.0 以下</td></tr> <tr><td>その他</td><td colspan="4">均質 有害 認 異物 混入が いこ。 対象 す 被着体 浸さず、か、周囲 汚損し いこ。 常温常温 温度5℃ 35℃、湿度45% 85% おい 製造所 指定す 期間又 製造後 か月間保存し三後 あ、品質 性能 各項目 適合し いこ。</td></tr> </table>	項目	引張 強さ (N/mm ²)	伸 (%)	引張 接着性 最大引張 応力(N/mm ²)	破断時 伸 (%)	常温特性	1.0以上	30.0以上	1.0以上	10.0以上	低温性	1.0以上	30.0以上			加熱変化	1.0以上	30.0以上			比 重	表示値 ±0.10				弾出し性	60秒 以下					3.0mm 以下				加齢耐重	5.0 以下				その他	均質 有害 認 異物 混入が いこ。 対象 す 被着体 浸さず、か、周囲 汚損し いこ。 常温常温 温度5℃ 35℃、湿度45% 85% おい 製造所 指定す 期間又 製造後 か月間保存し三後 あ、品質 性能 各項目 適合し いこ。				<p>1) 防水改修工法 種類 [3.4.3] 表3.4.1.3</p> <table border="1"> <tr><th>防水改修工法 種類</th><th>施 工 箇 所</th><th>新規防水工法 種類</th></tr> <tr><td>密着工法</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>絶縁工法</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>断熱工法</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>二重 設計 場合 設計 [3.2.5] 既存露出防水層表面 仕上げ塗膜 除去 工法 場合 行い [3.2.6]</p>	防水改修工法 種類	施 工 箇 所	新規防水工法 種類	密着工法			絶縁工法			断熱工法		
防水改修工法 種類	施 工 箇 所	新規防水工法 種類																																																																																															
密着工法																																																																																																	
絶縁工法																																																																																																	
断熱工法																																																																																																	
種 類	板厚(mm)	表面処理及 色合い	固定箇所	下地補修																																																																																													
100型	1.5以上	※A-1又 B-1種 無着色	建築基準法 基 き	※行い 図示 行 い																																																																																													
200型	1.6以上	B-2種	指定す 条件																																																																																														
300型	1.8以上	系	施工計画書 定																																																																																														
350型	2.0以上																																																																																																
項目	引張 強さ (N/mm ²)	伸 (%)	引張 接着性 最大引張 応力(N/mm ²)	破断時 伸 (%)																																																																																													
常温特性	1.0以上	30.0以上	1.0以上	10.0以上																																																																																													
低温性	1.0以上	30.0以上																																																																																															
加熱変化	1.0以上	30.0以上																																																																																															
比 重	表示値 ±0.10																																																																																																
弾出し性	60秒 以下																																																																																																
	3.0mm 以下																																																																																																
加齢耐重	5.0 以下																																																																																																
その他	均質 有害 認 異物 混入が いこ。 対象 す 被着体 浸さず、か、周囲 汚損し いこ。 常温常温 温度5℃ 35℃、湿度45% 85% おい 製造所 指定す 期間又 製造後 か月間保存し三後 あ、品質 性能 各項目 適合し いこ。																																																																																																
防水改修工法 種類	施 工 箇 所	新規防水工法 種類																																																																																															
密着工法																																																																																																	
絶縁工法																																																																																																	
断熱工法																																																																																																	

4-3 1. 既存 塗 撤去
2. 割 前改修工法

塗 仕上げ外壁改修工事

3. 欠損部改修工法

4. 浮き部改修工法

行う ※全面 図示 範囲

既存 撤去工法 範囲 図示 撤去部分 補修、欠損部改修工法

※樹脂注入工法 [4.1.4][4.2.2][4.4.5]

注入工法 種類	割幅 mm	注入間隔 mm	注入量 ml/m ²
※自動式低圧	0.2以上 1.0未満	※200 300	※
樹脂注入工法			
手動式	0.2以上 0.3未満	※50 100	※40
樹脂注入工法	0.3以上 0.5未満	※100 200	※70
機械式	0.5以上 1.0未満	※150 250	※130
樹脂注入工法			

注入材料 [4.2.2]
※建築補修用注入 樹脂 JIS A9024低粘度形状 中粘度形

検査 抜取 ※行い 行う 抜取部 補修方法 ※充填工法 樹脂 [4.3.7]

材充填工法 [4.1.4][4.2.2][4.3.5][4.4.6]

充填材料	種別	備考
材	※成分形又 成分形系 材	※行い 行う 充填

可 う性 樹脂 4-1-2項 改修使用材料

工法 材料 [4.1.4][4.2.2][4.3.6][4.4.7]
状 樹脂 4-1-2項 改修使用材料
可 う性 樹脂 4-1-2項 改修使用材料

充填工法 [4.1.4][4.2.2][4.3.7][4.4.8]
充填材料 ※ 4-1-2項 改修使用材料

塗替え工法 [4.1.4][4.2.2][4.3.7][4.4.9]
塗替え材料 ※「改修用土」4.2.2
仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置
※適用す 範囲 図示
※ 製 網眼200μ程度 間隔 打込、等
図示 既製目地材 適用す 形状 ※図示 [4.2.2]

撤去し 場合 [4.1.4][4.2.2][4.4.10][4.4.15][表4.4.3][表4.4.4]

改修工法 種類	本数 (本数) 2		注入口 箇所数 箇所/m ²		充填量又 注入量 (ml/箇所)
	一般部	指定部	一般部	指定部	
部分 樹脂注入工法	※16	※25			※25
全面 樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25
全面 注入工法	※13	※20	※12	※20	※50
注入口付 部分 樹脂注入工法	※9	※16			※25
注入口付 全面 樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25
注入口付 全面 注入工法	※9	※16	※9	※16	※50

材質 ※ステンレスSUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの [4.2.2]

注入口付 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径外径6mm [4.2.2]

4-4 1. 既存 塗 撤去
2. 割 前改修工法

張 仕上げ外壁改修工事

外壁 張 全面 図示 範囲 外壁撤去範囲300mm 撤去範囲 ※下地 張付け

改修箇所 ※既存 張 面 面 面 面 面 面

※樹脂注入工法 [4.1.4][4.2.2][4.3.4][4.5.5]

注入工法 種類	割幅 mm	注入間隔 mm	注入量 /
※自動式低圧	0.2以上 1.0未満	※200 300	※
樹脂注入工法			
手動式	0.2以上 0.3未満	※50 100	※40
樹脂注入工法	0.3以上 0.5未満	※100 200	※70
機械式	0.5以上 1.0未満	※150 250	※130
樹脂注入工法			

注入材料 [4.2.2]
※建築補修用注入 樹脂 JIS A9024低粘度形状 中粘度形

検査 抜取 ※行い 行う 抜取部 補修方法 [4.3.4]

材充填工法 既存 張 撤去面 [4.1.4][4.2.2][4.3.5][4.4.6]

充填材料	種別	備考
材	※成分形又 成分形系 材	※行い 行う 充填

可 う性 樹脂 4-1.2項 改修使用材料

4-5 1. 塗 仕上げ外壁 改修

① 既存塗膜等の除去 及 下地処理

既存塗膜 劣化部 除去及 下地処理 工法 [4.6.3][表4.6.2.5]

工法	処理範囲	割 部等 補修
※ 工法	※既存仕上げ面全体	割 前改修工法
高圧水洗工法	※既存仕上げ面全体	浮き前改修工法
塗膜 剥離工法	※既存仕上げ面全体	欠損部改修工法
水洗い工法	※上記処理範囲以外 既存仕上げ面全体	

※下地調整塗材 [4.6.3]

防水形仕上げ塗材主材

種別及 凸面処理仕上げ [4.6.4][表4.6.6] 表7.15.1		
種別	仕上げ	仕上材塗
種	凸面処理仕上げ	樹脂
種		有合成樹脂

① 一般事項

5 5 ①改修工法 [5.1.3]
※改修工法 [5.1.7]
新規建具周囲 補修工法及 範囲
③防火戸 防火性能 防火設備 建具番号 [5.1.4]
特定防火設備 建具番号
防火戸 閉鎖機構 建具番号
自動閉鎖機構 装置 運動 建具番号
熱感知器 運動 建具番号
煙感知器 運動 建具番号
④見本の製作等 建具見本 製作 建具番号 [5.1.5]
特殊 建具 仮組 建具番号
⑤建具回り等の 防水剤 混入す 防水剤 品質 [6.15.3]

項目	混合割合	凝結及 安定性 (JIS R 5201)		曲げ及 圧縮強度比 (%)	吸水比 (%)	透水比 (%)
		凝結時間	安定性			
品質	質量 %以下	始乾時間以上 終乾時間以内	収縮性、膨脹性 割	以上	以下	以下

○ [5.1.6]

外部 面す 建具 性能等級 [5.2.2][5.2.4][表5.2.1]

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込 mm	施工箇所
○ 種					
○ 種					

防音 ※適用 建具表
断熱 ※適用 建具表
耐震 ※適用 建具表

表面処理 [5.2.4][表5.2.2]

施工箇所	種別	色合い等	
		無着色	※標準色
外部建具	○ 種		
内部建具	※O-1種又 B-1種 O-2種又 B-2種	無着色	※標準色

防虫網 [5.2.3][5.2.4]

網 種別 合成樹脂製 ※ 網種入り 合成樹脂製 製 SUS16
形式 ※外部可動式 固定式

外部 面す 建具 性能等級等 [5.3.2][5.3.4][表5.3.1]

種別	耐風圧性	気圧性	水密性	枠見込 mm	施工箇所

表面色 ※白色 [5.3.4]
※樹脂 単層 三重 [5.3.3]

簡易気密型 簡易気密型 性能値 [5.4.2][表5.4.1]
※適用す 適用箇所 建具表

② 製建具

③ 網戸

4. 樹脂製建具

⑤ 網製建具

6. 標準型鋼製建具

① 網製建具

8. 標準型鋼製建具

9. 製建具

10. 木製建具

① 建具金物

12. 自動 閉鎖装置

13. 重量

14. 軽量

15.

外部 面す 建具 耐風圧性 [5.4.2][表5.2.1]
S-4 S-5 S-6
材料 ※JIS G3032 溶融亜鉛 5% 鋼板及 鋼帯
JIS G317 溶融亜鉛 5% 合金 鋼板及 鋼帯
鋼板厚さ 枚 戸 有効開口幅 900mm 又 有効高さ 2,400mm 超え 場合
※ 下表以外 表5.4.2 [5.4.4][表5.4.2]

区分	使用箇所		厚さ mm
	種類	外部 下枠、水切 板	
窓	種類	外部 面す	2.3
出入口	種類	外部 面す	2.3
	戸	中骨	2.3

図示

簡易気密型 性能値 適用 建具表 [5.4.2][5.4.6][表4.1]
適用す 適用箇所 建具表

外部 面す 建具 耐風圧性 [5.4.2][5.4.6][表5.2.1]
施工箇所

簡易気密型 性能値 適用 建具表 [5.5.2]
簡易気密型 性能値 適用 建具表 [5.5.2][5.5.6]
簡易気密型 性能値 適用 建具表 [5.4.2][5.6.2][表4.1]
外部 面す 建具 耐風圧性 [5.4.2][5.6.2][表5.2.1]
施工箇所

建物内部 木製建具 使用す 表面材及 接着剤 放散量 16.7.2
※規制対象外 第三種
戸 表面材 種類
※天然木化粧合板
か 戸 樹脂 か 鏡板 16.7.2
す 上張 ※新鳥 子又 紙程度 鳥子 表16.7.3
枠及 靴す 材料 16.7.2
枠 ※木製枠 鋼製
靴す 木製 製

1) 材質、形状及 寸法 [5.7.2][表5.7.1]
外側 ※
内側 ※
軸吊 自閉装置機能 適用す 適用し い
戸当 あお 止 付き 適用す 適用し い ※64mm
2) 鍵 ○ 製作す ※製作し 但し、既設 合せ [5.7.4]
3) 鍵付 適用す 閉鎖機構 [5.8.3][表5.8.3]
自動 閉鎖機構 種類
※ 音波 光線 反射 熱線 電波
多機能取付所

凍結防止措置 行う 行い [5.8.3]
1) 形式及 機構 [5.10.2][表5.10.1]

種類	閉鎖機構	危害防止機構
一般重量	※上部電動式	※障害物感知装置
屋外用防火	手動併用	自動閉鎖型
屋内用防火	上部手動式	設計し い
防煙		
外部 面す	耐風圧性角度	耐風圧性性能 / 2

閉鎖形式 ※手動式 上部電動式 手動併用 [5.11.2][表5.11.1]
外部 面す 耐風圧強度
耐風圧性能 N/m² [5.11.2]
厚さ mm ※0.5 0.8 [5.11.3][表5.11.2]
材質 ※ JIS G3112 溶融亜鉛 5% 鋼板又 鋼帯
JIS G3032 溶融亜鉛 5% 鋼板又 鋼帯 亜鉛合金 鋼板及 鋼帯
形状 ※ 形 形 [5.11.4]
等 ※鋼板製 製 SUS304 厚さ 1.5mm [表5.11.2]

形式及 機構 [5.12.2][5.12.3][表5.12.1]

材料	閉鎖方式	収容形式	材料
※	※ 式	形	溶融亜鉛 鋼板
	電動式	形	※ SUS304
		形	

耐風圧性能 / 2

解体工事仕様書

I 工事概要

Table with 5 rows: 1. 工事名 (公立小松大学 薬津キャンパス 校舎整備工事(建築)), 2. 工事場所 (石川県小松市四丁町ス1番地3), 3. 工事種目 (解体撤去工事), 4. 工事期間, 5. 別添図録連工事 (電気設備工事)

II 工事仕様

- 1. 図面及び特記仕様(解体工事)に記載されていない事項は、すべて国土交通大臣官房官庁営繕部監修の「建築物解体工事共通仕様書」(平成24年版) (以下「解体共仕」という。)により、解体共仕に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書」(平成25年版) (以下「改修標仕」という。)及び国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書」(平成25年版) (以下「標仕」という。)による。
2. 電気設備改修工事及び機械設備改修工事を本工事に含まれる場合は電気設備工事及び機械設備工事、それぞれの工事仕様書を適用する。
3. 解体部と既存部との取合工事の仕様は、別添「建築改修工事仕様書」による。
4. 本工事は、この仕様書(解体工事)に基づく他、下記の関連法令等に基づき施工する。
1) 建築業法
2) 建築基準法
3) 労働安全衛生法
4) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
5) 建設工事に関する資材の再資源化等に関する法律(建設リサイクル法)
6) 建築工事安全施工技術指針(建設大臣官房官庁営繕部)
7) 建築物の解体工事における外壁の崩落等による公衆災害防止対策に関するガイドライン(国土交通省住宅局長ほか)
8) 特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律(フロン回収破壊法)
9) 特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)
10) 国等による環境物品等の流通の推進等に関する法律(グリーン購入法)
5. 特記事項
1) 項目は番号①印の付いたものを適用する。
2) 特記事項欄は②印の付いたものを適用する。
3) ③印のないものは①印のあるものを適用する。
4) ①印②印のある場合は共に適用する。
5) 特記事項欄に記載の()内表示番号は「解体共仕」の当該項目を示す。
6) 特記事項欄に記載の()内表示番号は「標仕」の当該項目・図・表を示す。
7) 特記事項欄に記載の[]内表示番号は「改修標仕」の当該項目・図・表を示す。
8) 斜線で消去した章は適用しない。

Table with 3 columns: 章, 項目, 特記事項. Includes sections for ① 適用範囲, ② 適用基準, ③ 工事契約額の登録, ④ 施工の立会い等, ⑤ 発生材の処理.

⑥ 施工条件

- 1) 安全対策
イ) 交通安全施設の設置
ロ) 交通整理員の配置
ハ) 施工時間帯の制限
ニ) 近隣への安全対策
ホ) 鉄道、ガス、電気、電話、水道等の施設と近接する工事での施工方法、施工時間、安全対策措置
ヘ) その他の安全対策

⑦ 保険

- 1) 請負契約第49条に定める火災保険等は、次のものとする。
2) その他の保険
3) 加入期間

⑧ 工事写真等の記録

Table with 4 columns: 区分, 分類, 規格, 撮影枚数, 部数. Rows for 着工前, 工事中, 完成時.

⑨ 工事報告書

2) 写真はタブレットA4版に調子よく、説明事項を記入の上、所定の部数を提出する。
3) 監督員の指示により手直しを命ぜられた工事は、手直し前、中、後が半断出来る写真を撮影し、報告書に添え提出する。
工事の進捗度表、作業員の出席報告、工事箇所図及び工事現況写真等を記載した工事報告書を毎月15日及び月末に提出する。

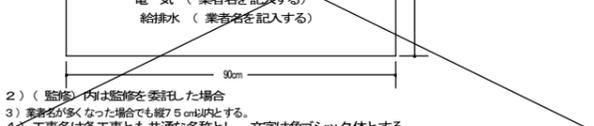
⑩ 敷地状況の確認

着工に先立ち、地下に埋設されたガス管、電話ケーブル、給排水管及び埋設物がないか関係機関の協力を得て確認し、報告すると共に事故を未然に防ぐよう留意する。

⑪ 隣接建物または工作物の調査

※行う ・ 行わない

12 工事現場看板



13 名札の着帯



⑭ 創意工夫等

1) 名札として使用する用紙(台紙)は白色、寸法は上図(名刺サイズ、縦9.5cm横9.1cm)のとおりとする。
2) 顔写真(カラー写真)の寸法は縦4.0cm横3.0cmとし、撮影する部分は胸から上の上半身とする。
3) ケースの寸法は上記①の用紙(台紙)が入る大きさとする。

⑮ 公共事業労務費調査等に対する協力

・受注者は、当該工事が発注者の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合には、次の各号に掲げる協力をしなければならない。
1) 調査票等に必要事項を正確に記入し、発注者に提出する等必要な協力をしなければならない。
2) 調査票等を提出した事業所を発注者が事前に行う調査・指導の対象になった場合には、その実施に協力しなければならない。

⑯ 施工体制台帳の作成等

建設業法第24条の7に該当する施工体制台帳の作成が必要な工事は、当該台帳を現場へ備え付け、施工体系図を工事関係者及び公衆が見やすい場所に掲げておくこと。

⑰ 排出ガス対策型建設機械

- 次に掲げる指定建設機械は、排気ガス対策型とする。(グリーン購入法「特定取組産品目」半断の基準等を参照)
1) バックホウ
2) トラクターショベル
3) 発動発電機
4) 空気圧縮機
5) ローラ類
6) ホイールクレーン

⑱ 騒音振動の防止

低騒音型、低振動型建設機械を使用する。(低騒音型については、グリーン購入法「特定取組産品目」半断の基準等を参照)
1) 受注者は、雇用保険法、労働者災害補償保険法、健康保険法及び中小企業退職金共済法の規定により、雇用者等の雇用形態に応じ、雇用者等を被保険者とするこれらの保険に加入しなければならない。
2) 受注者は、雇用者等の業務に関して生じた負傷、疾病、死亡及びその他の事故に対して責任をもって適正な補償をしなければならない。
3) 受注者は、建設業退職金共済制度の対象労働者数及び労務予定日数を的確に把握し、その掛金収納書の写しを工事請負契約締結1ヶ月以内及び工事完成前、監督員を通じて発注者に提出しなければならない。

⑳ 電子納品

○行う(「電子納品仕様書」による。) ・ 行わない
電子納品仕様書
1 電子納品とは、出来形管理資料や工事写真等の工事完成図書電子データを納品するものである。
ここでいう電子データとは、下表に示す各種電子納品要領(案)等で定めるフォーマットに基づいて作成されたものを指す(※表裏記の図書は工事契約時点の改訂版に読み替え適用する。)

Table with 2 columns: 名称, 概要. Lists requirements for construction work electronic submission documents.

- 2 工事関係書類の最終成果品を、従来の紙での納品と別CD-R又はDVD-Rで1部納品する。
3 工事着手時には、事前協議チェックシートを用いて事前協議を行うものとする。
4 発注者が行うCALS/E/C電子納品に関する講習について協力を行うものとする。
5 工事完成図書提出の際には、以下の項目を確認するものとする。
1) 電子成果物作成支援・検査システムによるチェックを行い、エラーがないことを確認すること。
2) 最新のウイルスチェックソフトで、提出物にウイルスが感染していないことを確認すること。
6 電子納品の媒体は、CD-R又はDVD-Rを利用することとする。

㉑ 電気保安技術者

適用する [1.3.3] <1.3.3>
建設工事公衆災害防止対策要綱(建築工事編)及び建設部産物適正処理促進要綱関係規定を遵守して災害の防止に努める。 <1.3.7><1.3.10>

㉒ 関連する設備等

関連する設備等については適正に処置を行う。
・ 給水
・ 電気
・ 排水
・ 電話
・ 雨水
・ ガス
・ その他

㉓ 総合評価における技術要素

「石川県建設工事総合評価方式実行要領」に基づく「技術要素」がある場合は、提案内容を本工事において確実に履行し、受注者は「技術提案履行状況報告書」を監督員に提出の上、履行状況の確認を受ける。なお、受注者の責任以外の理由等により、変更等の必要が生じた場合は、事前に監督員に協議する。

㉔ 近接工事の調整等

この工事の受注者から、近接する区域(概ね100m)において、工期が重複する小規模発注の工事を受注している場合には、全工事との合計額より定める率によって調整費を再計算し、これにより変更契約(減額)する。
※「工期が重複する」とは、開札日が、近接する工事の完成届を受理した日以前の場合を言う。

㉕ 技能士等

Table with 2 columns: 適用工事種別, 技能士等. Lists requirements for skill workers.

㉖ ダンプトラック等による過積載等の防止

- 1) 積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込まないこと。
2) さし積載車、不表示車等土砂等を積み込まず、また積み込まないこと。
3) 過積載車両、さし積載車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受けること等、過積載を助長することのないようにすること。
4) 取引関係のあるダンプカー事業者から過積載を行い、又はさし積載車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に対応を促す措置を講ずること。
5) 建設発生土の処理及び資材の購入に当たって、下請事業者及び資材納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。
6) 「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」(昭和42年8月2日法律第131号。)の目的に鑑み、法第12条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体等への加入者の使用を促進すること。
7) 1)から6)につき、元請建設業者は下請建設業者を十分指導すること。

Table with 2 columns: 改訂履歴, 履歴. Lists revision dates from Heisei 6 to Heisei 24.

<p>2. 仮設 ① 工事用水 ② 工事用電力 ③ 工事用道路 ④ 仮設計画 5. 指定仮設等 ⑥ 足場その他 8. 監督員事務所</p>	<p>構内既存の施設 ・利用できる(※有償・無償) ※利用できない 構内既存の施設 ・利用できる(※有償・無償) ※利用できない 工事用道路(敷地内外)は良好なる維持管理を行い、使用後は施工者において速やかに原形に復する。 1) 総合仮設計画 工事へ先立ち事前調査を行い、その結果に基づき、総合仮設及び安全に対する施工計画を立て、監督員の承認を得ること。(1.2.2) 2) 安全対策 周辺環境及び第三者に対する配慮並びに飛散、倒壊等による事故・災害の防止策等の安全対策を講じること。(1.3.6) (1.3.7) (1.3.8) 3) 解体作業中の騒音対策(設置範囲及び高さ等は図示による) (2.2.1) イ) 市街地 ※防音パネル・防音シート ロ) 一般地 ・防音シート 4) 解体作業中に発生する粉塵は、散水等の方法で拡散を防止すること。(2.2.2) 1) 工事現場の状況に応じて、次の指定仮設を設置し、安全対策を講じるものとする。 イ) 仮囲い ・市街地 ※鋼板製 ・高さ3m 延長 m ・一般地 ・鋼板製 ・垂吊設け鉄線板製 ・防音シート ・高さ m 延長 m ロ) 仮設道路 ・鋼板敷き ・幅 m 延長 m ハ) 出入口 ・パネルゲート ニ) その他 ・ 1) 外部足場 [2.2.1] (1) 種別 ※A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・E種 [表2.1] (2) 枠組本足場の種類 ※枠組本足場(手すり先行足場) 足場を設ける足場は、「手すり先行工法に関するガイドライン」において(厚生労働省基準第042401号平成21年4月24日)の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び臨木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2)の手すり設置方式又は手すり先行専用足場方式により行うこと。 ・ 枠組本足場 (3) 建枠・布枠 建 枠 布 枠 ・ 1,200枠 500布枠2枚 ① 900枠 ※800+240布枠 ・ 600枠 500布枠1枚 (4) 防護ネット、シート ・要 ・不要 ・ ネット ・シート 2) 内部足場 種別 ・ ※きやたつ [2.2.1] 3) 材料、撤去材の選別方法 [2.2.1] ・ A種 ※B種 ・C種 ・D種 ・E種 [表2.2] ※図示する ・ 既存建築物の一部を使用 ・ 図けなし [2.4.1] 監督員事務所の規模(m²) 種 別 ・ 1号 ・ 2号 ・ 3号 ・ 4号 ・ 5号 面 積 10程度 20程度 35程度 65程度 100程度 監督員事務所を設ける備品等 (表4.1) ※保護帽 ※安全帯 ※長靴 ※合羽 ※机 ※椅子 ※表中電灯 ※原図大及びA3縮小の設計図面製本各々2部 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 差込計 ・</p>	<p>4. 建設廃棄物の処理 ① 再資源化等 建設廃棄物の種類 中規模施設又は再資源化施設の名称等 所在地 ①コンクリート ②コンクリート及び鉄筋から成る建設資材 ・アクリル・エポキシ ③木材 ④金属類 ・小型二次電池 (注) 施設の名称等については、受注者が別冊に選定することを妨げるものではない。 建設廃棄物の種類 再資源化 再資源化施設の名称等 所在地 ・蛍光灯、HIドラムランプ ・硬質ポリ塩化ビニル管 ・ガラス (注) 施設の名称等については、受注者が別冊に選定することを妨げるものではない。 現場利用する再資源化された建設廃棄物の種類 利用する場所(箇所)等 ・安定型 ・アスベスト含有成型板等 (注) 施設の名称等については、受注者が別冊に選定することを妨げるものではない。 ・管理型、遮断型 ・アスベスト含有吹き付け材等 (注) 施設の名称等については、受注者が別冊に選定することを妨げるものではない。 種類 受入施設の名称等 所在地 ・CCA処理木材 ・ヒモカドミウム含有せっこうボード ・せっこうボード(有害物質非含有) (注) 施設の名称等については、受注者が別冊に選定することを妨げるものではない。 ② 最終処分 ③ 処分注意を要する建設廃棄物 種類 受入施設の名称等 所在地 1. 廃石綿等 「改修標記9章第1節及び解体共仕6章によるほか、下記6・アスベスト含有建材の除去及び処理」による。(5.4.2) 2. 廃PCB等 PCB含有物の旨、保管年月日をペンキで記入した堅固な容器に密封し、保管台帳を添えて県に提出する。(5.4.3) 3. PCB含有ケーブル材 分析調査 ※しない ・する 6. アスベスト含有吹き付け材の処理 1) 処理を行う吹き付けアスベストの仕様等 材料名 厚さ(mm) 処理を行う範囲 ※図示 2) 処理方法 [9.1.1] (6.3.2) ※除去工法 ・ 封じ込め工法 ・ 囲い込み工法 3) 吹き付けアスベストの施工調査 [9.1.1] (6.1.3) ※行(「解体共仕」6.1.2による) 4) 分析によるアスベスト含有調査 ※行かない ・ 行(調査箇所は図示 [9.1.1] (6.1.3)) 5) アスベスト粉じん濃度測定 [9.1.1] (6.1.4) ・ 行(下表による) 測定室() ・ 行かない 適用 測定名称 測定時期 測定場所 測定点(各施工箇所ごと) 測定1 処理作業前 処理作業室内 ・各2点 ・各3点 測定2 処理作業前 施工区画周辺又は敷地境界 ・各2点 測定3 処理作業前 処理作業室内 ・各2点 ※測定4 セキュリティゾーン入口 ・各1点 ※測定5 処理作業中 負圧・除じん装置の排出口(処理作業室内の場合) 出口吹出し風速1m/sec以下の位置 ・各1点 測定6 施工区画周辺又は敷地境界 ・4方向各1点 ※測定7 処理作業後(閉鎖シート撤去前) 処理作業室内 ・各2点 測定8 施工区画周辺又は敷地境界 ・4方向各1点</p>	<p>2. アスベスト含有保温材・成型板の処理等 3. その他</p>	<p>(注) 1. 各施工箇所ごとの室内面積が0.2以下または2点、300.2以下または3点とする。300.2を超えるものは、監督職員と協議する。 アスベスト粉じん濃度の測定方法は、「解体共仕」表1.3による。 6) 作業管理者 (a) 作業管理者は資格証明書の写しに工事経歴書を添付して監督職員に提出し、承認を受ける。 (b) 作業管理者は作業中に事前にアスベストに関する教育を行い、十分理解させる。 (c) 作業管理者は除去工事に使用する負圧・除じん装置の管理、呼吸用の保護具、作業衣、保護衣等の管理を行う。 7) 特別管理産業廃棄物管理責任者 排出業者は資格証明書の写しに工事経歴書を添付して監督職員に提出し、承認を受ける。 8) 安全衛生管理 (6.2.3) (a) 除去作業 7ヶ月以内の作業については特別健康診断(特定科学物質)を受診した者とし、異常がない者とする。 (b) 負圧除じん装置の設置 負圧除じん装置が適切な運転状態となるように、スモークテスター等による気流の確認やU字マンメーター等に用いる維持確認などを行う。 (c) プラスチックシートの仕様 床 : 厚さ0.15m以上、2層製 壁その他 : 厚さ0.08mm以上 接合部の重ね長さ : 30cm以上 (d) セキュリティゾーン 高性能真空掃除機を設置し、保護衣、カバー、保護手袋等に付着しているアスベストを十分吸引して取り除くこと。 セキュリティゾーン内は、作業場外のアスベストが飛散しないよう関係法令等に規定された措置等を行う。 9) アスベストの除去 除去作業中に粉じんの発生が多い場合は、適宜エアレス構造の器具を用いて散水、または飛散防止剤等を噴霧し、粉じんの飛散を防止する。なお、アスベストを含んだ排水は他の場所へ排水しないよう十分止水したうえで、HEPAフィルタ等であらかじめ適切に処理する。 10) 除去したアスベストの処分 [6.3.3] ※処理処分 ・ 中間処理 11) アスベストの封じ込め工事 劣化の著しい部分、下地との接合が不良な部分については「解体共仕」6章3節より除去し、粉じん飛散防止処理剤を用いて封じ込め処理を行う。 封じ込めの工法は施工業者の仕様より、除去物及び汚染物質の処理等(「解体共仕」6.3.2)~6.3.4による。 なお、施工にあたっては、「解体共仕」6.1.2 施工調査、施工計画、1.3.6、1.3.9 安全衛生管理、6.3.4確認及び後片付けを適用する。 12) 官公署その他への手続き 「解体共仕」1.1.3によるほか、次の必要な手続きを行う。 (1) 建築物解体等作業届(所管労働基準監督署) (2) 特別管理産業廃棄物管理責任者設置報告書(都道府県知事又は市長) 1) 処理を行うアスベスト含有保温材・成型板の仕様等 材料名 厚さ(mm) 処理を行う範囲 ※図示 2) 官公署その他への手続き(レベル3を除く) 「解体共仕」1.1.3によるほか、次の必要な手続きを行う。 (1) 建築物解体等作業届(所管労働基準監督署) (2) 特別管理産業廃棄物管理責任者設置報告書(都道府県知事又は市長) 3) 洗浄設備 (1) 汚染うがいの設備を設ける。 (2) 更衣設備等を設ける。 4) 表示・掲示 「解体共仕」6.2.9による表示・掲示を行う。 5) 除去物及び汚染物質の処分等 (a) 密封処理する場合 プラスチック袋: 厚さ0.15m以上 (b) 固化した物の圧縮密度: 10kg/cm²以上 (c) 処分 ※処理処分(安定型) ・ 中間処理 上記1. 2. のほか、アスベスト含有建材の処理工事については、「改修標記」9章1節及び「解体共仕」6章に基づき、適切に行う。</p>
<p>3. 解体 ① 一般事項 ② 施工調査 ③ 解体範囲 ④ 解体工法 ⑤ 解体手順 ⑥ 有価物の処理 7. 整地</p>	<p>1) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び建設工事に係る資材の再資源化に関する法律等関係法令を遵守する。(1.1.13) (1.3.6) (1.3.9) 2) 解体にあたっては低騒音低振動型、排出ガス対策型の解体機材を使用する。 3) 解体工事へ先立ち工事現場及び周辺状況を調査し、工事中の安全対策、解体工法、解体手順等を明示した施工計画書を提出し監督員の承認を得ること。(1.2.2) 1) 事前調査を実施 ※する (1.4.1) (1.3.1) (1.3.2) (1.3.3) (1.3.4) (1.3.5) (1.3.6) (1.3.7) (1.3.8) イ) 構造体(種類、規模、形状、主要部材断面等) ※アスベストが含有されている可能性のある ロ) 強度試験の実施 ・ 試し(土質) ・ コア採取 構造体について事前調査を実施する。 ハ) 仕上げ材等(特別管理産業廃棄物、発泡ウレタン等) 調査の結果、基準値を超えたアスベストを含有している建材がある場合には監督員へ報告し除去方法及びその費用について協議する。 ニ) 設備機器等(設備機器、配管、配管等) ・ 既設防音音障除去 ①基礎 ・ 杭 : 引抜き工法() ・ 破砕による解体() (3.8.2) ②ピット内等地下埋設物: (3.10.1) 1) 解体工法の選定 (3.1.2) ※破砕解体(圧搾機使用) : ・ 破砕解体(大型プレーク使用) : ・ 破砕解体 : ・ 部材解体 : 解体工事の手順は次のとおり。 1. 吹付け石綿の除去 (3.3.1) 2. 建築設備機器の取外し 照明器具、暖房機、ボイラー、ポンプ、高架水槽、キュービクル、エレベーター等(配管類保温材は、配管・ダクト等より分離する) 3. 内装材その他の建築物の部分の取外し 床・壁・天井仕上材(断熱・保温材は分離)、間仕切、内装下地材、建具、ガラス、造作家具等の取外し 4. 屋根葺き材の取外し 5. 外装材及び庇構造体の取外し 6. 基礎及び基礎杭の取外し 7. 廃棄物の処理 8. 埋戻し及び整地 鉄類、銅類、アルミニウム類の売却 ※できる ・ できない 種別 ※A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 (3.2.3) (表2.1) (3.12.1) ※埋戻し、盛土にあたっては、各帯30cm程度毎に締め固めること。</p>	<p>5. 特殊な建設廃棄物の処理 1. フロン類の処理 フロン類を使用している機器の処理は下記による。 1) 業務用冷凍空調機器等(エアコンディショナー、冷蔵庫、冷凍機器等)で「フロン回収破壊法」の対象となっている機器 (7.3.1) (7.3.2) イ) 「第一種フロン類回収業者登録通知書」の写しを提出 ロ) 「フロン類回収証明書」を提出 ハ) フロン類の破壊 ・ する ※しない 2) 家庭用エアコン等で「家電リサイクル法」の対象となっている機器 イ) 「特定家庭用機器廃棄物管理票」の写しを提出</p>	<p>1. フロン類の処理 フロン類を使用している機器の処理は下記による。 1) 業務用冷凍空調機器等(エアコンディショナー、冷蔵庫、冷凍機器等)で「フロン回収破壊法」の対象となっている機器 (7.3.1) (7.3.2) イ) 「第一種フロン類回収業者登録通知書」の写しを提出 ロ) 「フロン類回収証明書」を提出 ハ) フロン類の破壊 ・ する ※しない 2) 家庭用エアコン等で「家電リサイクル法」の対象となっている機器 イ) 「特定家庭用機器廃棄物管理票」の写しを提出</p>	<p>特記事項 確認日 確認者 設計監理部長 確認者 主任 作成 工事名称(プロジェクトNo) 160613 公立小坂大学 薬学キャンパス 校舎整備工事(2期)(建築) 図面名称 解体工事仕様書(2) 図面番号 A-15</p>

工事仕様書（別紙）

1) 次の特記事項に該当する事項は、下記の事項に読み替えるものとする。ただし、該当する事項がない場合は、追加事項として扱うものとする。

項目 特記事項

1) 環境法令等を遵守し、環境負荷の低減に努めること。
2) 請負者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や技術力に関する項目、または地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時まで所定の様式により提出することができる。

3) 低入札価格調査制度を適用した場合
1. 調査基準価格を下回る価格で落札した場合においては、請負者は、所管課長の求めに応じて、建設業法（昭和24年法律第100号）第24条の7に規定する施工体制台帳を所管課長に提出しなければならない。

2) 現場代理人及び監理技術者（主任技術者）の専任を要しない期間
現場代理人及び監理技術者（主任技術者）の専任を要しない期間
・請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入または仮設工事等が開始されるまでの期間）については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。また、現場代理人においても工事現場への常駐を要しない。尚、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督職員との打ち合わせにおいて定める。

3) 建築材料等
1) 小松市が発注する公共工事においては、地域経済の活性化に配慮し、工事材料及び建設機械の使用について次のとおり努めること。
1. 土木・建築資材等調達する工事材料は、小松産とする。
(小松市産建築資材有効活用制度実施要領に基づく小松市産建築資材を含む)

2) 小松市が発注する公共工事においては、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号。略称「グリーン購入法」という。）」及び下記の要綱等の趣旨を踏まえ、工事全体の環境負荷の少ない製品・材料等の利用促進に努めること。
1. 対象製品等
・石川県エコ・リサイクル製品利用推進要綱における「石川県リサイクル認定製品」
・石川県内の公共建築物・公共土木工事等における木材利用方針における県産材

3) 小松市建設工事標準請負契約約款（以下「請負契約約款」という。）第13条第2項に定める監督員の検査を受けて使用すべき工事材料は次のものとする。
※杭 ・打ち差し型枠 ・防水材料 ・木材（構造材、造作材のみ）
・防音工事用建具 ・防音工事用内装材（ロックウール吸音材、ロックウール化粧吸音材、グラスウール吸音材、吸音用穴あき石膏ボード、吸音用軟質繊維板、石膏ボード、合板、穿孔合板、紙布裏地雑毛品、壁クロス等）
・配分電盤
・空調機器 ・送風機、排風機 ・ダクト類（保温材等も含む） ・ボイラー
・し尿浄化槽
・その他、監督員が指定したもの
但し、杭以外のJIS規格品は除く。

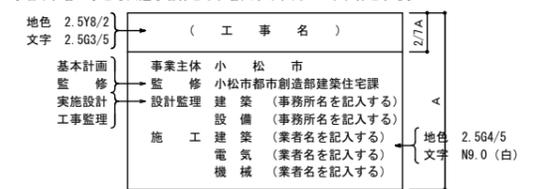
4) 上記の建築材料等を使用する場合は、施工前に市担当者（監督員）へ主要材料納入業者選任届その他市担当者（監督員）が指示する各種関係書類を提出すること。

1. 画像をフィルムに記録する銀塩カメラ
2. 画像を電気信号からデジタル信号化して内蔵するハードディスク等に記録するデジタルカメラ
a. 有効画素数については200万画素以上とする。
(必要な文字、数値等の内容の判読ができる機能、精度を確保できること)
b. 記録形式についてはJPEGとする。
c. プリンターはフルカラー300dpi以上とする。

3. 銀塩カメラとデジタルカメラとの混合はやむを得ない場合を除き認めない。
a. 工事写真は工事完成後見ることができない箇所の出来形確認等の資料となるものであることから工事施工中の情報を鮮明に記録すること。

工事現場には、下記掲示板を設置する。（記入例）

工事名は、各工事とも共通な名称とし、各文字は、丸ゴシック体とする。



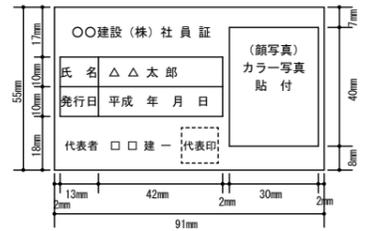
- ・第1号 1200×2400 特に目玉となる大規模な工事
・第2号 900×1800 一般的な工事（学校など）
・第3号 600×1200 一般的な工事（学供など）
・第4号 450×900 学供など小規模な工事で特に敷地が狭い場合
・特符号 1800×3600 宅地造成など特に大規模な工事

6 室内空気汚染対策
7 名札の着帯

1) 測定対象室数は、居室数の2割を標準とする。
学校の教室等で仕上げが同じ室が多数ある場合は、代表する1室を測定対象室とする。
ただし、公営住宅の場合は建設戸数の1割以上、各住戸2室以上で測定する。

Table with columns for room area (A) and number of measurement points. A ≤ 200, 200 < A ≤ 500, 500 < A.

現場代理人及び主任（監理）技術者は、工事期間中は次に定める様式例等による顔写真入り名札を着帯すること。



(注意事項)
①名札として使用する用紙（台紙）は白色、寸法は上図（名刺サイズ、縦5.5cm×横9.1cm）のとおりとする。
②顔写真（カラー写真）の寸法は縦4.0cm×横3.0cm、また撮影する部分は胸から上の上半身とする。
③ケースの寸法は上記①の用紙（台紙）が入る大きさとする。
④工事名が長い場合、簡略化してもよいものとする。
⑤現場代理人及び主任（監理）技術者が変更となった場合は、直ちに作成すること。
⑥名札の有効期限は、発行日より2年間とする。

8 竣工後の検査等

1) 点検の対象施設は、関連工事の全体工事設計額の合計が1億5千万円以上（発注の分離形態は問わない）の施設とする。
2) 点検の時期は、原則として工事引渡後、概ね1年とする。

9 監督職員事務所

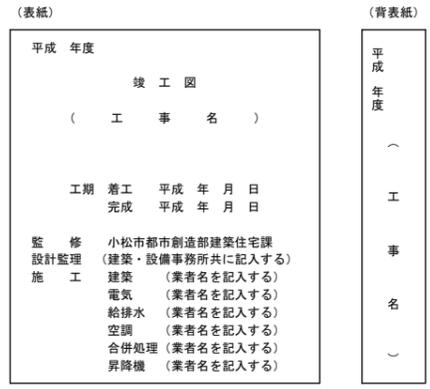
監督職員事務所に設ける備品等
※洗面設備 ※原図大及びA3縮小の設計図面製本各2部 ※黒板 ※ロッカー
※机 ※椅子 ※検査用具 ※安全带 ※保護帽 ※長靴 ※合羽
※軍手 ※懐中電灯 ・書棚 ・寒暖計

10 定礎

定礎の設置等は、下記による。
(イ) 設置 ・設置する ・設置しない
(ロ) 材料、大きさ ・影石水磨き仕上げ（W450×H300×D30程度）
文字は彫り込みとする。

11 竣工図の装丁

竣工図の装丁は、下記による。
(イ) 青表紙に装丁テープ無しとする。
(ロ) 製本記数例



12 合成高分子系ルーフィングシート防水

塩ビシート防水（絶縁工法）のディスク板の施工方法は、下図のとおりとする。



13 小松市産建築資材

設計図書に定める小松市産建築資材は、「小松市産建築資材有効活用制度実施要領」に基づき登録された下表によるものとし、所要の品質及び性能を有するものとする。

「小松市産建築資材有効活用制度実施要領」に基づき登録されている小松市産建築資材の一覧

Table listing building materials with columns for No., 製品名 (Product Name), 用途 (Usage), 製造・販売企業 (Manufacturer/Distributor), and 考察 (Remarks).

注記
1) 上記の小松市産建築資材以外の上記の小松市産建築資材についても積極的に使用すること。
2) 上記の小松市産建築資材が設計図書で指定された場合は、その指定材料を原則使用すること。
3) 上記の小松市産建築資材が設計図書で指定されていない場合は、使用材料が設計図書に定める材料と同等以上の品質及び性能を有するものとして適合するものであれば、地域特性に配慮し小松市産建築資材を設計図書に定める材料に代えて使用することができる。
4) 上記の小松市産建築資材を使用する場合は、施工前に市担当者（監督員）へ主要材料納入業者選任届、施工計画書、下請負人通知書、その他市担当者（監督員）が指示する各種関係書類を提出すること。
5) 上記の小松市産建築資材を使用した場合は、施工後に小松市産建築資材の使用実績として、市担当者（監督員）へ出荷証明書、納品書、小松市産建築資材使用実績表、その他市担当者（監督員）が指示する各種関係書類を提出すること。
6) 上記1)～5)によりやりたい場合は市担当者（監督員）と協議することができる。
7) 上記3)により小松市産建築資材を使用した場合は、工事完成時に創意工夫として所定の書式で市担当者（監督員）へ提出することができる。

14 ワンデーレスポンス

1) この工事はワンデーレスポンス試行工事である。
「ワンデーレスポンス」とは、
①工事発注に先立ち、事前に想定される手持ちとなる要因を確認すること。
②受注者との綿密な打合せと情報共有
③受注者からの協議等に対してその日のうちに「速やかに」回答。対外協議、検討が必要な場合においても回答予定日をその日のうちに回答。
以上により現場の手待ちを減少し、効率的な現場施工を実施する取組である。
2) 受注者は、計画工程表の提出にあたり、工程上支障となる事項等を監督員と共に確認するものとする。また、施工段階においては前もって問題点の抽出に努め、事前に計画を立て早めの協議を行うものとする。
3) 受注者は、工事施工中に発生する様々な問題について、受注者の意見・資料を付して速やかに監督員へ報告するものとする。また、併せて回答希望日を報告するものとする。

15 契約後VE工事

1) 定義
「VE提案」とは、小松市建設工事標準請負契約約款（以下「約款」という。）第19条の2の規定に基づき、設計図書に定める工事事務物の機能、性能等を低下させることなく請負代金額の低減を可能とする施工方法等に係る設計図書の変更について、受注者（申請者）が発注者に行う提案をいう。

2) VE提案の意義及び範囲
(1) 受注者（申請者）がVE提案を行う範囲は、設計図書に定められている内容のうち、工事材料及び施工方法等に係る変更により請負代金額の低減を伴うものとし、原則として、工事事務物の変更を伴わないものとする。
(2) 以下の提案は、VE提案の範囲に含まないものとする。
①工期の延長等施工条件として求めた同種工事又は類似工事の範囲を超えるような工事材料又は施工方法等の変更の提案
②入札時に入札参加資格要件として求めた同種工事又は類似工事の範囲を超えるような工事材料又は施工方法等の変更の提案
③入札時における総合評価方式に係る技術提案の範囲

3) VE提案書の提出
(1) 受注者（申請者）は、前項のVE提案を行う場合は、VE提案書に次に掲げる事項を記載した書類を添付し、発注者に提出しなければならない。
①設計図書に定める内容とVE提案の内容の対比及び提案理由
②VE提案の実施方法に関する事項（当該提案に係る施工上の条件等を含む）
③VE提案が採用された場合の請負代金額の概算低減額及び算出根拠
④発注者が別途発注する関連工事との関係
⑤工業所有権を含むVE提案である場合、その取扱いに関する事項
⑥その他VE提案が採用された場合に留意すべき事項
(2) 発注者は、提出されたVE提案書に関する追加的な資料、図面その他の書類の提出を受注者（申請者）に求めることができる。
(3) 受注者（申請者）は、前項のVE提案を契約の締結日より、当該VE提案に係る部分の施工に着手する35日前までに、発注者に提出できるものとする。
(4) VE提案に関する費用は、受注者（申請者）の負担とする。

4) VE提案の審査
VE提案の審査にあたっては、施工の確実性、安全性、設計図書と比較した経済性等を評価する。

5) VE提案の採否の通知
(1) 発注者はVE提案の採否について、VE提案の受領後14日以内に受注者（申請者）に通知しなければならない。ただし、その期間内に通知できないやむをえない理由があるときには、あらかじめ受注者（申請者）の同意を得た上で、この期間を延長することができるものとする。
(2) 提出されたVE提案が適正と認められなかった場合の前項の通知は、採用しない理由を付して行うものとする。

6) VE提案が適正と認められた場合の変更設計等
(1) 発注者は、約款第19条の2の規定に基づき、VE提案による設計図書を変更し、請負代金額を変更する場合は、約款第24条の規定により、請負代金額の変更を行うものとする。
(2) 前項の変更を行う場合において（以下「VE管理費」という。）を計上するものとする。
(3) VE提案を採用した後、約款第18条の条件変更が生じた場合において、発注者がVE提案に対する変更を求めた場合、受注者（申請者）はこれに応じるものとする。
(4) 発注者は、約款第18条の条件変更が生じた場合には、約款第24条第1項の規定に基づき、請負代金額の変更を行うものとする。VE提案を採用した後、約款第18条の条件変更が生じた場合の前記（2）のVE管理費については、変更しないものとする。
(5) 双方の責に帰することができない事由（不可抗力や予測することが不可能な事由等）により、工事の続行が不可能、又は著しく工事低減額が減少した場において、発注者と受注者（申請者）が協議して定めるものとする。
(6) VE管理費に関する部分払は、VE提案に関する部分が完了（完成）したと認められる場合に支払い対象とする。

7) VE提案の保護
VE提案については、その後の工事において、その内容が一般的（標準歩掛）に使用されている状態となった場合は、無償で使用できるものとする。ただし、工業所有権等の排他的権利を有する提案についてはこの限りでない。

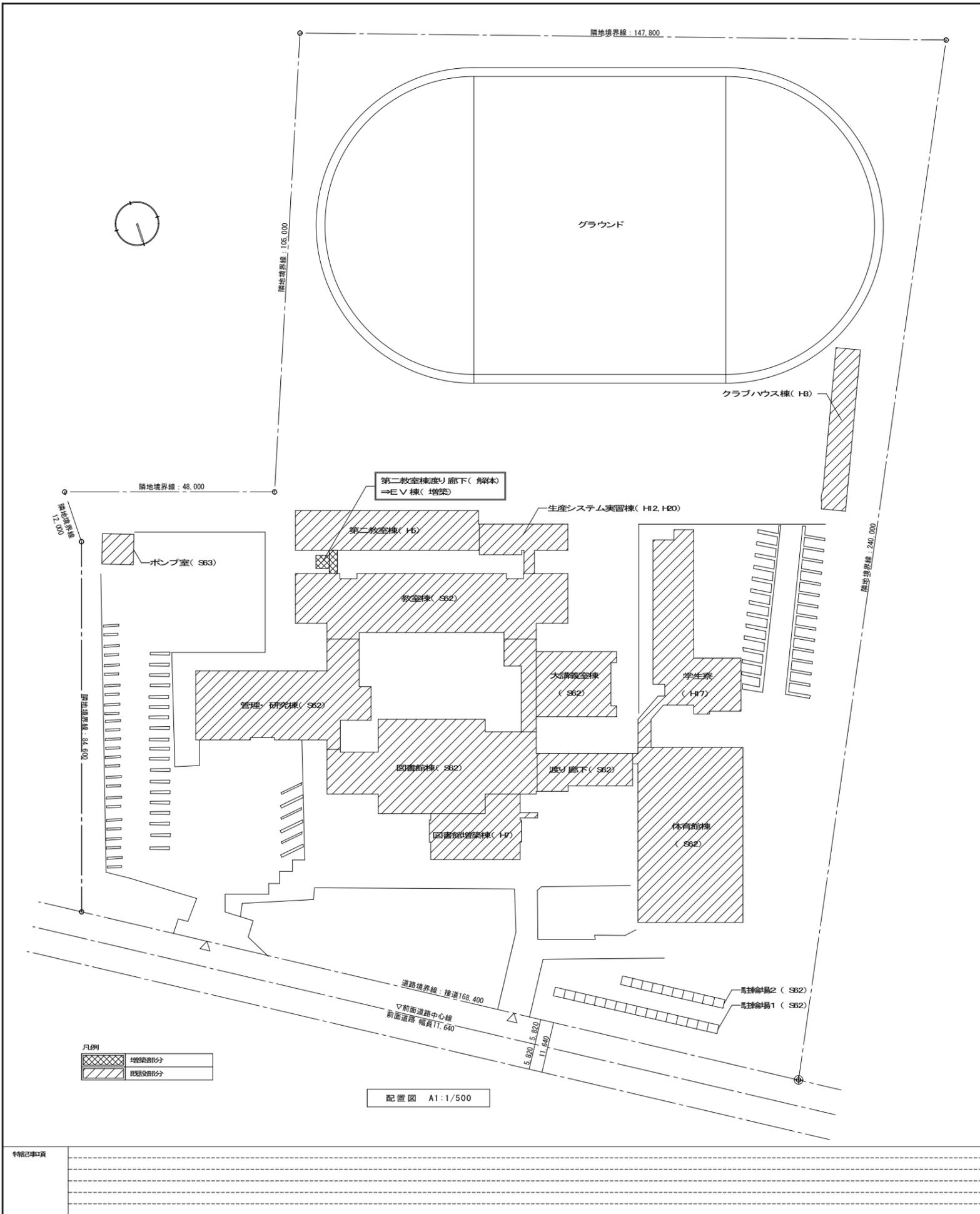
8) 責任の所在
発注者がVE提案を適正と認め、設計図書の変更を行った場合においても、VE提案を行った受注者（申請者）の責任が否定されるものではない。

16 グッドマナーこまつフローラルこまつ

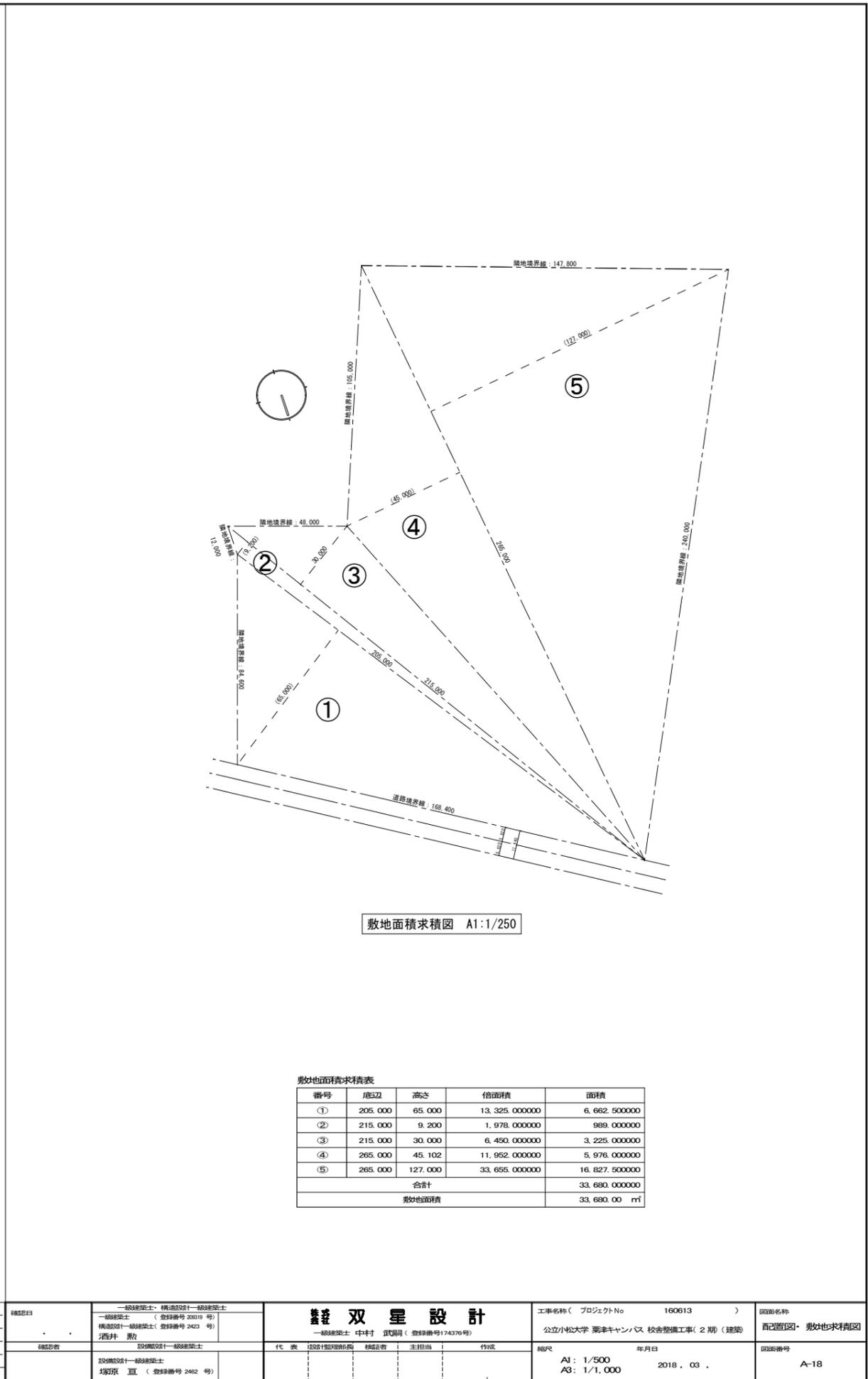
1) 目的
ひと・まちのイメージアップや交流人口・定住人口拡大、花と緑が美しいまちを次世代に引き継ぐために市民総参加で「グッドマナーこまつ」、「フローラルこまつ」に取り組み。このため、小松市が発注する公共工事においては、「グッドマナーこまつ」「フローラルこまつ」の趣旨を踏まえ、工事全体において積極的な取り組みに努めること。

2) 取組内容
■グッドマナーこまつ各種ロゴ等を活用した工事現場でのグッドマナーの推進。
・おもてなし力の向上：気持ちのよいあいさつ、笑顔でコミュニケーション
・交通マナーアップ：運転マナーの向上の徹底、通行車両、通行人の交通安全の徹底。（交通マナーロゴを利用したステッカーによる意識啓発等）
・美しいまちづくり：工事現場周辺の美化活動の推進。（工事看板等に取組ステッカー貼り付けによる意識啓発等）

3) 手続き等
工事の着手前に担当監督員に取組内容を報告し、必要なロゴデータ等を借用する。
工事完了後は取組結果報告を行うこと。



配置図 A1:1/500



敷地面積求積図 A1:1/250

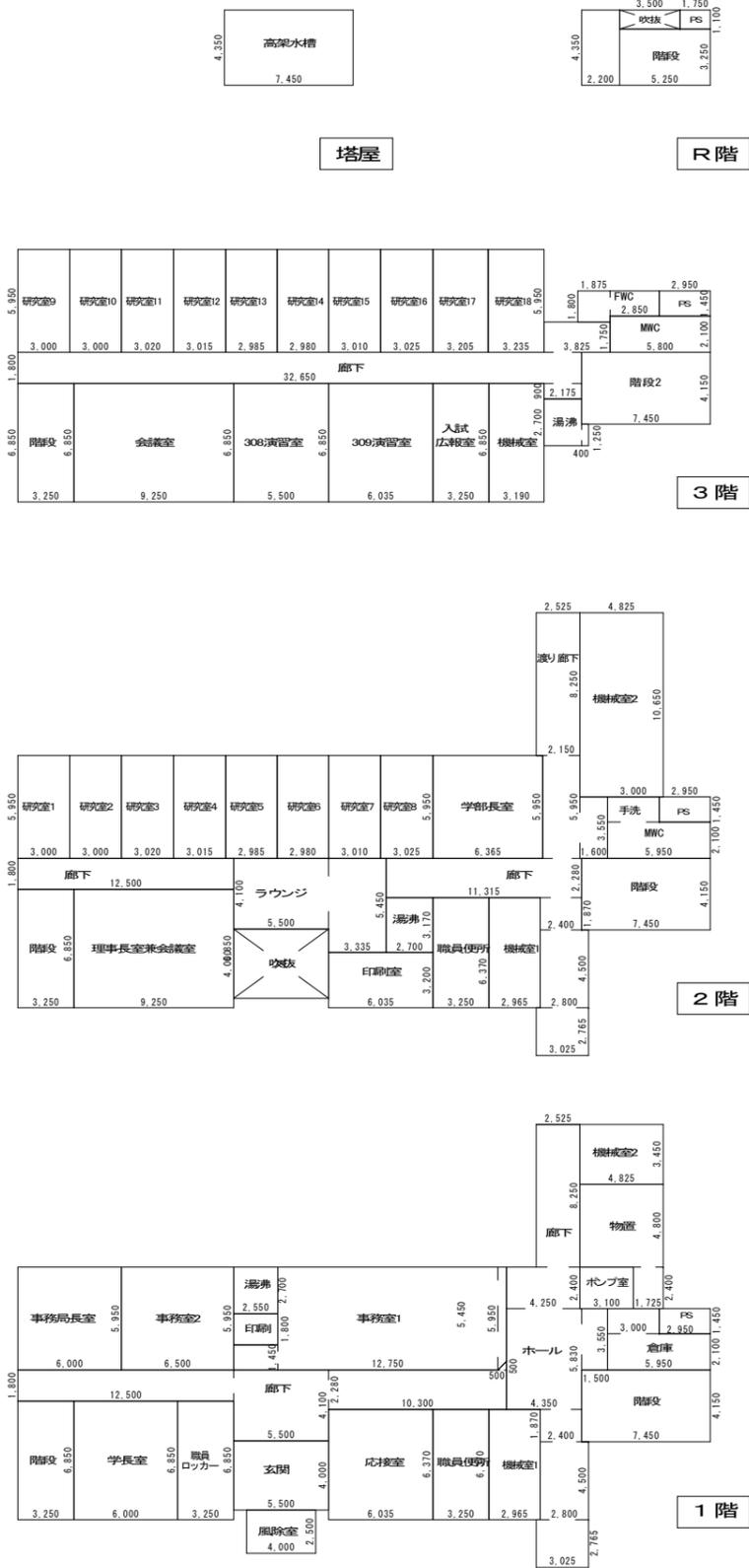
敷地面積求積表

番号	底辺	高さ	倍面積	面積
①	205,000	65,000	13,325.000000	6,662.500000
②	215,000	9,200	1,978.000000	989.000000
③	215,000	30,000	6,450.000000	3,225.000000
④	265,000	45,102	11,952.000000	5,976.000000
⑤	265,000	127,000	33,655.000000	16,827.500000
合計				33,680.000000
敷地面積				33,680.00 m ²

特記事項	
------	--

設計者 一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号 20019 号) 構造設計一級建築士(登録番号 2423 号) 酒井 景	代表 設計監理部長 一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462 号)	雙 双 星 設 計 一級建築士 中村 真樹 (登録番号 174376 号)	工事名称 (プロジェクトNo. 160613) 公立小松大学 薬学キャンパス 校舎整備工事(2期)(建築)	図面名称 百改置図・敷地面積図
確認者 設備設計一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462 号)	主担当 作成	縮尺 A1: 1/500 A3: 1/1,000	年月日 2018. 03 .	図面番号 A-18

【管理・研究棟 求積図】



【室面積表 3、R階、塔屋】

階	室名	計算式	面積(m ²)
塔屋	高架水槽	7.450 × 4.350	32.41
	階段		
小計			32.41

階	室名	計算式	面積(m ²)
R階	ホール	2.200 × 4.350	9.57
	階段	5.250 × 3.250	17.06
	PS	1.750 × 1.100	1.92
	小計		28.55

階	室名	計算式	面積(m ²)
3階	研究室9	3.000 × 5.950	17.85
	研究室10	3.000 × 5.950	17.85
	研究室11	3.020 × 5.950	17.97
	研究室12	3.015 × 5.950	17.94
	研究室13	2.985 × 5.950	17.76
	研究室14	2.980 × 5.950	17.73
	研究室15	3.010 × 5.950	17.91
	研究室16	3.025 × 5.950	18.00
	研究室17	3.205 × 5.950	19.07
	研究室18	3.235 × 5.950	19.25
	階段	3.250 × 6.850	22.26
	会議室	9.250 × 6.850	63.36
	308演習室	5.500 × 6.850	37.67
	309演習室	6.035 × 6.850	41.34
	入試広報室	3.250 × 6.850	22.26
	機械室	3.190 × 6.850	21.85
	湯沸	2.175 × 2.700 + 0.400 × 1.250	6.37
	廊下	32.650 × 1.800 + 3.825 × 1.750 + 2.175 × 0.900	67.42
	階段	7.450 × 4.150	30.92
	MWC	5.800 × 2.100	12.18
FWC	2.850 × 1.450 + 1.875 × 1.800	7.51	
PS	2.950 × 1.450	4.28	
小計		518.75	

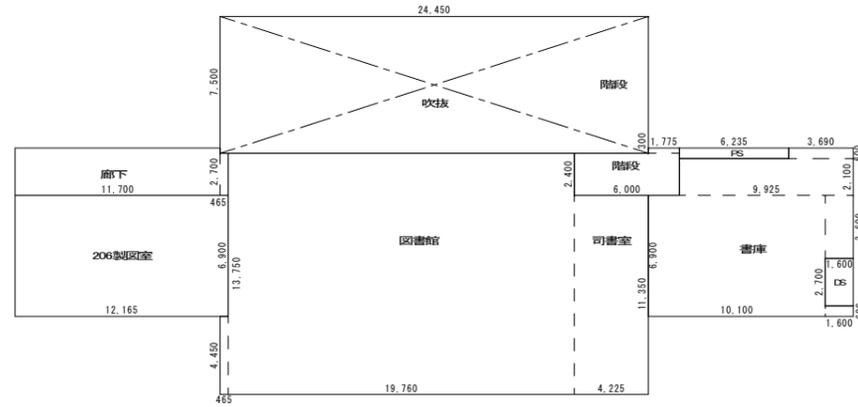
【室面積表 1、2階】

階	室名	計算式	面積(m ²)
2階	研究室1	3.000 × 5.950	17.85
	研究室2	3.000 × 5.950	17.85
	研究室3	3.020 × 5.950	17.97
	研究室4	3.015 × 5.950	17.94
	研究室5	2.985 × 5.950	17.76
	研究室6	2.980 × 5.950	17.73
	研究室7	3.010 × 5.950	17.91
	研究室8	3.025 × 5.950	18.00
	学部長室	6.365 × 5.950	37.87
	廊下	12.500 × 1.800	22.50
	階段	3.250 × 6.850	22.26
	理事長室兼会議室	9.250 × 6.850	63.36
	ラウンジ	5.500 × 4.100 + 3.335 × 5.450	40.73
	印刷室	6.035 × 3.200	19.31
	湯沸	2.700 × 3.170	8.56
	職員便所	3.250 × 6.370	20.70
	機械室	2.965 × 6.370	18.89
	廊下・渡り廊下	11.315 × 2.280 + 2.400 × 1.870 + 2.800 × 4.500 + 3.025 × 2.765 + 1.600 × 3.950 + 2.150 × 5.950 + 2.525 × 8.250	90.55
機械室2	4.825 × 10.650	51.39	
階段	7.450 × 4.150	30.92	
FWC	5.950 × 2.100 + 3.000 × 1.450	16.84	
PS	2.950 × 1.450	4.28	
小計		591.17	

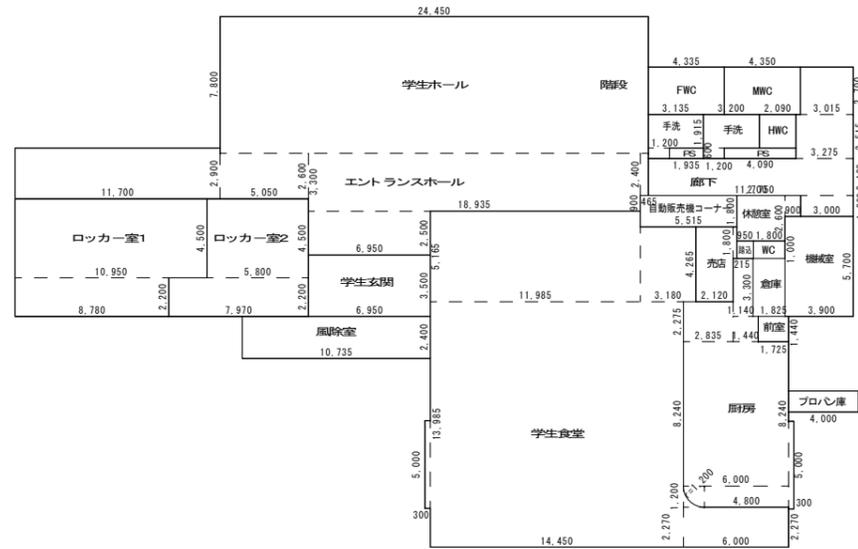
階	室名	計算式	面積(m ²)
1階	風除室	4.000 × 2.500	10.00
	玄関	5.500 × 4.000	22.00
	廊下	5.500 × 4.100 + 12.500 × 1.800 + 10.300 × 2.280 + 0.500 × 0.500 ÷ 2	68.66
	事務局長室	6.000 × 5.950	35.70
	事務室1	12.750 × 5.950 + 2.550 × 1.450 + (5.950 × 5.450) × 0.500 ÷ 2	82.41
	事務室2	6.500 × 5.950	38.68
	湯沸	2.550 × 2.700	6.88
	印刷	2.550 × 1.800	4.59
	階段	3.250 × 6.850	22.26
	学長室	6.000 × 6.850	41.10
	職員ロッカー	3.250 × 6.850	22.26
	応接室	6.035 × 6.370	38.44
	職員便所	3.250 × 6.370	20.70
	機械室1	2.965 × 6.370	18.89
	ホール・廊下	4.350 × 5.830 + 2.400 × 1.870 + 2.800 × 4.500 + 3.025 × 2.765 + 1.500 × 3.950 + 4.250 × 2.400 + 2.525 × 8.250	87.17
	階段	7.450 × 4.150	30.92
	倉庫	5.950 × 2.100 + 3.000 × 1.450	16.84
	PS	2.950 × 1.450	4.28
	ポンプ室	3.100 × 2.400	7.44
	物置	4.825 × 4.800 + 1.725 × 2.400	27.30
機械室2	4.825 × 3.450	16.65	
小計		623.17	

合計	1794.05
----	---------

【 図書館棟 求積図】



2階



1階

【 室面積表】

階	室名	計算式	面積(㎡)
2階	図書館・司書室	19.760 × 13.750 + 0.465 × 4.450	321.72
	書庫	+ 4.225 × 11.350 10.100 × 6.900 + 9.925 × 2.100 + 3.690 × 0.600 + 1.600 × 3.600 + 1.600 × 0.600	99.47
	FS	6.235 × 0.600	3.74
	DS	1.600 × 2.700	4.32
	廊除室	6.000 × 2.400 + 1.775 × 0.300	14.93
	206製図室	12.165 × 6.900	83.94
廊下	11.700 × 2.700 + 0.465 × 2.400	32.70	
小計		560.82	

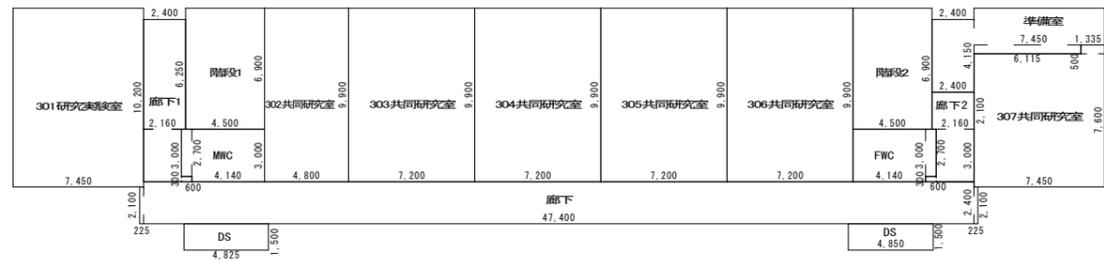
1階	廊除室	10.735 × 2.400	25.76
	学生玄関	6.950 × 3.500	24.32
	エントランスホール	11.700 × 2.900 + 5.050 × 2.600 + 18.935 × 3.300 + 0.465 × 2.400 + 6.950 × 2.500	128.04
	学生ホール	24.450 × 7.800	190.71
	ロッカー室1	10.950 × 4.500 + 8.780 × 2.200	68.59
	ロッカー室2	5.800 × 4.500 + 7.970 × 2.200	43.64
	学生食堂	14.450 × 13.985 + 0.300 × 5.000 + 11.985 × 5.165 + 3.180 × 4.265 + 6.000 × 2.270 + 1.200 × 1.200 - 1.200 × 1.200 × 3.140 ÷ 4	292.98
	厨房	6.000 × 8.240 + 2.835 × 2.275 + 1.440 × 1.440 + 1.140 × 3.300 + 0.300 × 5.000 + 4.800 × 1.200 + 1.200 × 1.200 × 3.140 ÷ 4	70.12
	前室	1.725 × 1.440	2.49
	倉庫	1.825 × 3.300	6.02
	踏込	0.950 × 1.000	0.95
	WC	1.800 × 1.000	1.80
	休憩室	2.750 × 2.600 + 0.900 × 1.200	8.23
	売店	2.120 × 4.265 + 0.215 × 1.800	9.43
	自販機コーナー	5.515 × 1.800	9.93
	機械室	3.900 × 5.700	22.23
	プロハコ庫	4.000 × 1.200	4.80
	廊下	11.700 × 2.100 + 3.000 × 1.200 3.275 × 2.515 + 3.015 × 2.700	44.55
	FWC	4.335 × 2.700	11.70
	手洗	3.135 × 1.915 + 1.200 × 0.600	6.72
	MWC	4.350 × 2.700	11.74
	手洗	3.200 × 1.915 + 1.200 × 0.600	6.85
	HWC	2.090 × 1.915	4.00
	PS	1.935 × 0.600	1.16
	PS	4.090 × 0.600	2.45
小計		999.21	

合計	1560.03
----	---------

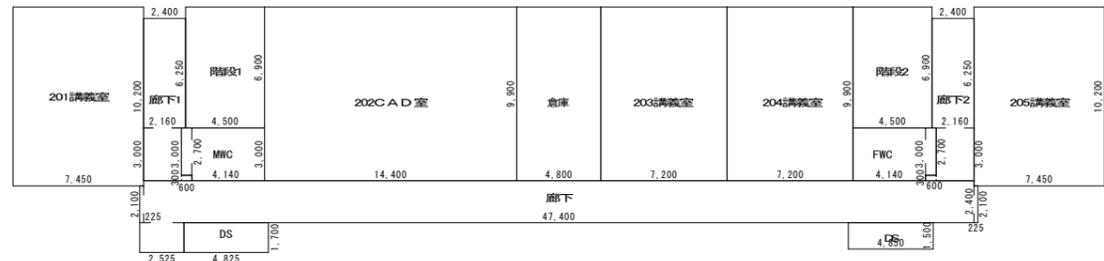
※422.6.17 生産システム実習棟増築工事 確認申請の延べ床面積に於て、7.26 図書館棟食堂増築工事の増築面積が反映されておらず、面積を加算して延べ床面積を修正
 ※427.7.26 図書館棟食堂増築工事 確認申請の面積算定に誤りがあるため、増築面積を22.92㎡⇒221.32㎡に修正

特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号 20019 号) 構造設計一級建築士(登録番号 2423 号) 酒井 康	雙 星 設 計 一級建築士 中村 直樹 (登録番号174376号)	工事名称(プロジェクトNo)	160613	図面名称	求積図・面積表(2)	
	確認者	設備設計一級建築士		代表	酒井 康	確認者	主担当	作成
	図面番	設備設計一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462 号)		縮尺	年月日	2018. 03 .	図面番	A-20
				縮尺	A1: 1/200 A3: 1/400			

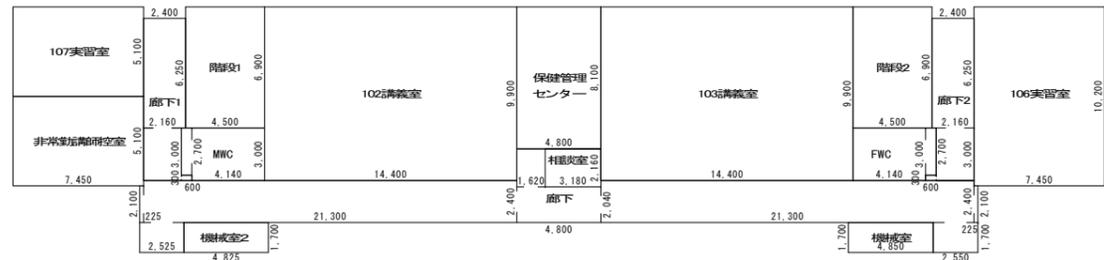
【 教室棟 求精図】



3階



2階



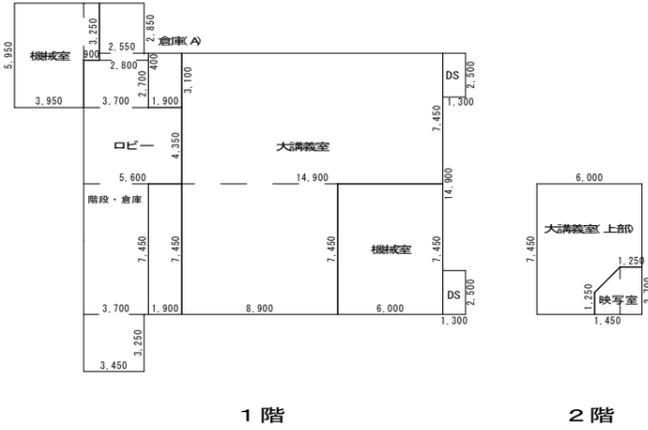
1階

【 室面積表】

階	室名	計算式	面積 [㎡]	
			既設部	新設部
3階	廊下1	2.400×6.250+2.160×3.000+0.600×0.300	21.66	
	廊下2	2.400×2.100+2.160×3.000+0.600×0.300	11.70	
	廊下	47.400×2.400+0.225×2.100×2	114.71	
	301 研究実験室	7.450 × 10.200	75.99	
	302 共同研究室	4.800 × 9.900	47.52	
	303 共同研究室	7.200 × 9.900	71.28	
	304 共同研究室	7.200 × 9.900	71.28	
	305 共同研究室	7.200 × 9.900	71.28	
	306 共同研究室	7.200 × 9.900	71.28	
	準備室	7.450×2.100+6.115×0.500+2.400×4.150	28.66	
	307 共同研究室	7.450×7.600+0.500×1.335	57.29	
	階段(東側)	4.500 × 6.900	31.05	
	階段(西側)	4.500 × 6.900	31.05	
	MWC	0.600×2.700+4.140×3.000	14.04	
	FWC	0.600×2.700+4.140×3.000	14.04	
	DS(東側)	4.825 × 1.500	7.23	
	DS(西側)	4.850 × 1.500	7.27	
小計		747.33		
2階	廊下1	2.400×6.250+2.160×3.000+0.600×0.300	21.66	
	廊下2	2.400×6.250+2.160×3.000+0.600×0.300	21.66	
	廊下	47.400×2.400+0.225×2.100×2+2.525×1.700	119.00	
	小講義室1	7.450 × 10.200	75.99	
	202CAD室	14.400 × 9.900	142.56	
	倉庫	4.800 × 9.900	47.52	
	203 講義室	7.200 × 9.900	71.28	
	204 講義室	7.200 × 9.900	71.28	
	205 講義室	7.450 × 10.200	75.99	
	階段(東側)	4.500 × 6.900	31.05	
	階段(西側)	4.500 × 6.900	31.05	
	MWC	0.600×2.700+4.140×3.000	14.04	
	FWC	0.600×2.700+4.140×3.000	14.04	
	DS(東側)	4.825 × 1.700	8.20	
	DS(西側)	4.850 × 1.500	7.27	
	小計		752.59	
	1階	廊下1	2.400×6.250+2.160×3.000+0.600×0.300	21.66
廊下2		2.400×6.250+2.160×3.000+0.600×0.300	21.66	
廊下		2.525×1.700+0.225×2.100+21.300×2.400+4.800×2.040+1.620×2.160+21.300×2.400+0.225×2.100+2.550×1.700	125.10	
107 実習室		7.450 × 5.100	37.99	
非常災害避難待合室		7.450 × 5.100	37.99	
102 講義室		14.400 × 9.900	142.56	
保健管理センター		4.800 × 8.100	38.88	
相模炊室		3.180 × 2.160	6.87	
103 講義室		14.400 × 9.900	142.56	
106 実習室		7.450 × 10.200	75.99	
階段(東側)		4.500 × 6.900	31.05	
階段(西側)		4.500 × 6.900	31.05	
MWC		0.600×2.700+4.140×3.000	14.04	
FWC		0.600×2.700+4.140×3.000	14.04	
機械室2		4.825 × 1.700	8.20	
機械室		4.850 × 1.700	8.24	
小計			757.88	
合計		2257.80		

特記事項	確認日	一級建築士 構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号 20019 号) 構造設計一級建築士(登録番号 2423 号) 西井 貴	雙 双 星 設 計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174376号)	工事名称	プロジェクトNo	160613	図面名称	求精図・面積表(3)
	確認者	設備設計一級建築士 設備設計一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462 号)		代表 設計監理部長 確認者 主担当 作成	縮尺	年月日	2018.03	図面番号

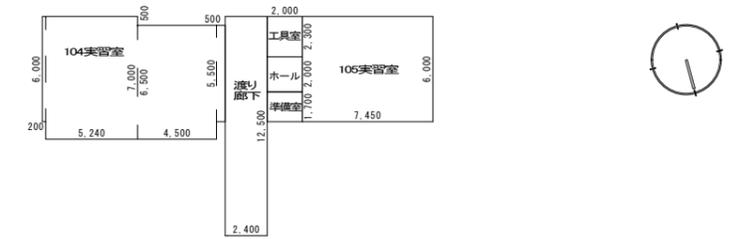
【大講義室棟 求積図】



【室面積表】

階	室名	計算式	面積 [㎡]
2階	大講義室(上部)	$6.000 \times 7.450 - 6.24$	38.46
	映写室	$1.250 \times 2.700 + (1.250 + 2.700) \times 1.450 / 2$	6.24
	小計		44.70
1階	ロビー	$2.550 \times 2.850 + 2.800 \times 0.400 + 3.700 \times 2.700 + 5.600 \times 4.350 + 3.700 \times 7.45 + 3.450 \times 3.250$	81.52
	倉庫(A)	1.900×3.100	5.89
	階段・倉庫	1.900×7.450	14.16
	大講義室	$14.900 \times 7.450 + 0.000 \times 7.450$	177.31
	(大講義室下) 機械室	6.000×7.450	44.70
	DS	1.300×2.500	3.25
	DS	1.300×2.500	3.25
	機械室	$3.950 \times 5.950 + 0.900 \times 3.250$	26.42
小計		356.50	
合計		401.20	

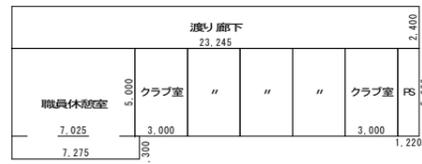
【生産システム実習棟 求積図】



【室面積表】

階	室名	計算式	面積 [㎡]
1階	渡り廊下	2.400×12.500	30.00
	104実習室	$0.200 \times 6.000 + 5.240 \times 7.000 + 4.500 \times 6.500 + 0.500 \times 5.500$	69.88
	105実習室	7.450×6.000	44.70
	工具室	2.000×2.300	4.60
	ホール	2.000×2.000	4.00
	準備室	2.000×1.700	3.40
合計		156.58	

【渡り廊下棟 求積図】



【室面積表】

階	室名	計算式	面積 [㎡]
1階	渡り廊下	23.245×2.400	55.79
	職員休憩室	$7.025 \times 5.000 + 7.275 \times 1.300$	44.58
	クラブ室	3.000×5.000	15.00
	クラブ室	3.000×5.000	15.00
	クラブ室	3.000×5.000	15.00
	クラブ室	3.000×5.000	15.00
	クラブ室	3.000×5.000	15.00
	クラブ室	3.000×5.000	15.00
	PS	1.220×5.000	6.10
	合計		181.47

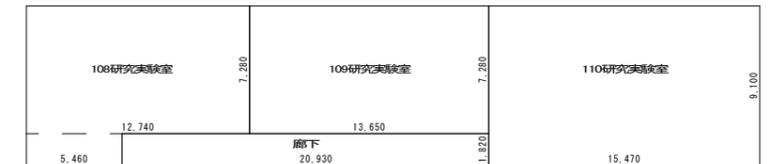
【体育館棟 求積図】



【室面積表】

階	室名	計算式	面積 [㎡]
1階	玄関ホール	3.000×4.225	12.68
	準備室	3.210×4.225	13.56
	女子更衣室	5.790×4.225	24.46
	器具庫	7.500×4.225	31.69
	男子更衣室	4.500×4.225	19.01
	アリーナ	$24.000 \times 1.275 + 0.250 \times 5.000 \times 2$	753.10
	控室	3.000×4.250	12.75
	ステージ	$18.000 \times 4.250 + 14.000 \times 0.250$	80.00
	控室	3.000×4.250	12.75
	合計		960.00

【第二教室棟 求積図】

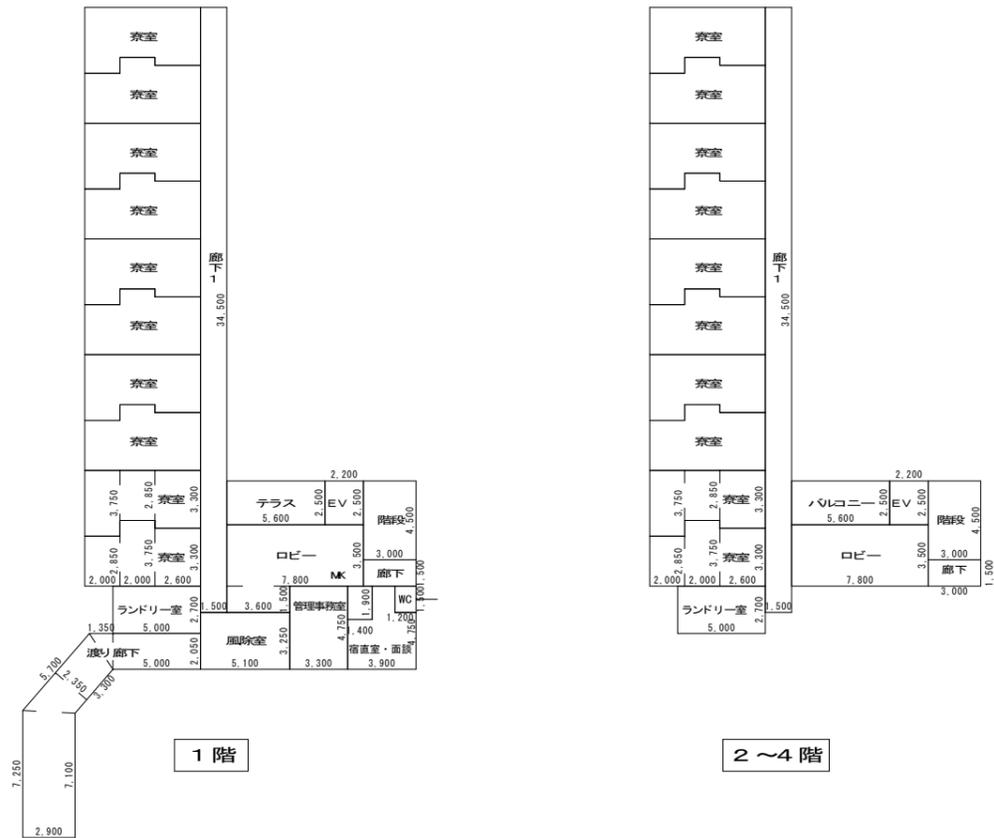


【室面積表】

階	室名	計算式	面積 [㎡]
1階	廊下	20.930×1.820	38.09
	108研究実教室	$12.740 \times 7.280 + 5.460 \times 1.820$	102.68
	109研究実教室	13.650×7.280	99.37
	110研究実教室	15.470×9.100	140.78
	合計		380.92

特記事項	確認日	一級建築士 構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号 00319号) 構造設計一級建築士(登録番号 2423号) 酒井 貴	雙 双 星 設 計 一級建築士 中村 武樹 (登録番号174376号)	工事名称(プロジェクトNo. 160613)	図面名称
	確認者	設備設計一級建築士 設備設計一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462号)		代表 設計監理部長 確認者 主担当 作成	公立小松大学 薬学キャンパス 校舎整備工事(2期)(建築)
				縮尺 年月日	図面番号
				A1: 1/200 A3: 1/400 2018.03.	A-22

【学生寮 求積図】

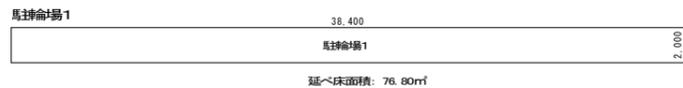


【室面積表】

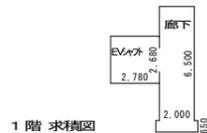
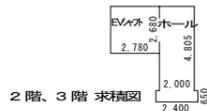
階	室名	計算式		面積[m ²]	
2～4階	ロビー	7.800	×	3.500	27.30
	EV	2.200	×	2.500	5.50
	階段	3.000	×	4.500	13.50
	廊下	3.000	×	1.500	4.50
	バルコニー	5.600	×	2.500	14.00
	廊下1	1.500	×	34.500	51.75
	寮室(各階10室)	(2.000 × 2.850 + 2.000 × 3.750 + 2.600 × 3.300) × 10			217.80
	ランドリー室	5.000	×	2.700	13.50
小計				347.85	

1階	渡り廊下	$5.000 \times 2.05 + 2.05 \times 1.35 / 2 + (3.30 + 5.70) \times 2.35 / 2 + (7.10 + 7.25) \times 2.90 / 2$		43.02	
	風除室	5.100	×	3.250	16.58
	ロビー	$7.800 \times 3.500 + 3.600 \times 1.500$		32.70	
	EV	2.200	×	2.500	5.50
	階段	3.000	×	4.500	13.50
	廊下	3.000	×	1.500	4.50
	宿直・面談室	$3.900 \times 4.750 - 1.400 \times 1.900 - 1.200 \times 1.500$		14.06	
	WC	1.200	×	1.500	1.80
	NK	1.400	×	1.900	2.66
	管理事務室	3.300	×	4.750	15.67
	テラス	5.600	×	2.500	14.00
	廊下1	1.500	×	34.500	51.75
	寮室(10室)	(2.000 × 2.850 + 2.000 × 3.750 + 2.600 × 3.300) × 10		217.80	
	ランドリー室	5.000	×	2.700	13.50
小計				447.04	

合計				347.85 × 3F + 447.04	1490.59
----	--	--	--	----------------------	---------



【EV棟 求積図】



階	室名	計算式		室面積	容積対象面積	
3階	EV/ホール	2.780	×	2.680	7.450400	7.45
	ホール	$2.000 \times 4.805 + 2.400 \times 0.65$		11.170000	11.17	
				18.62204	11.170000	
3階 床面積:				18.62	容積対象面積: 11.17	
2階	EV/ホール	2.780	×	2.680	7.450400	7.45
	ホール	$2.000 \times 4.805 + 2.400 \times 0.65$		11.170000	11.17	
				18.62204	11.170000	
2階 床面積:				18.62	容積対象面積: 11.17	
1階	EV/ホール	2.780	×	2.680	7.450400	7.45
	廊下	$2.000 \times 6.500 + 2.400 \times 0.65$		14.560000	14.56	
				22.010400	14.560000	
1階 床面積:				22.01	容積対象面積: 14.56	
延べ床面積 (m ²)						
3階 床面積				18.62	11.17	
2階 床面積				18.62	11.17	
1階 床面積				22.01	14.56	
合計				延べ床面積: 59.25	容積対象面積: 36.90	
建築面積 (m ²)						
2.780 × 2.680				7.450400		
2.000 × 6.500				13.000000		
合計				20.450400		
合計				建築面積: 20.45		

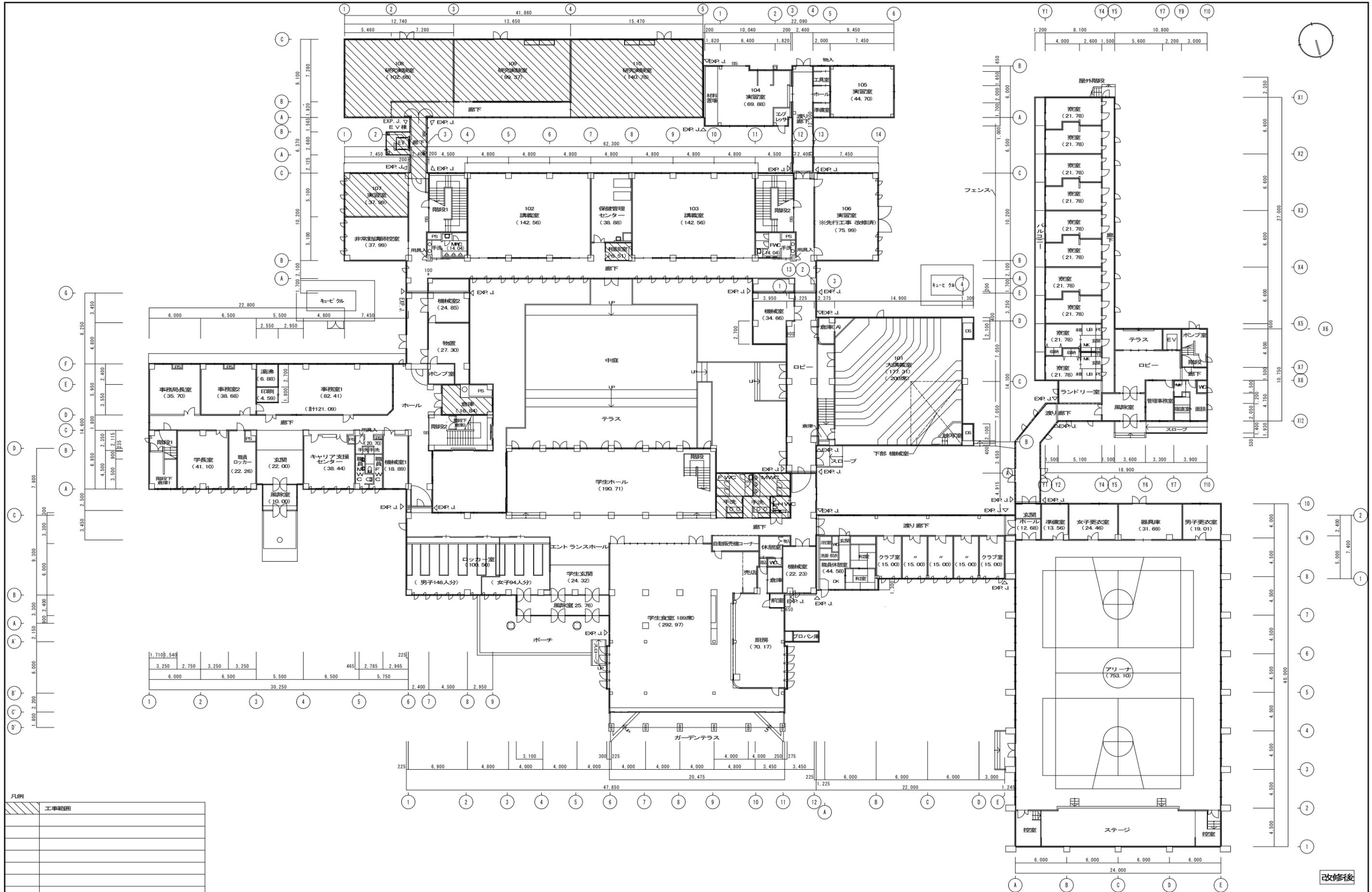


延べ床面積: 207.48m²
建築面積: 210.31m²

【室面積表】

階	室名	計算式		面積[m ²]	
1階	クラブ室1	4.600	×	5.600	25.76
	クラブ室2	4.600	×	5.600	25.76
	クラブ室3	4.600	×	5.600	25.76
	クラブ室4	4.600	×	5.600	25.76
	クラブ室5	4.600	×	5.600	25.76
	クラブ室6	4.600	×	5.600	25.76
	倉庫	3.800	×	5.600	21.28
	女子便所	CAD測定			15.56
男子便所	CAD測定			16.08	
合計				207.48	

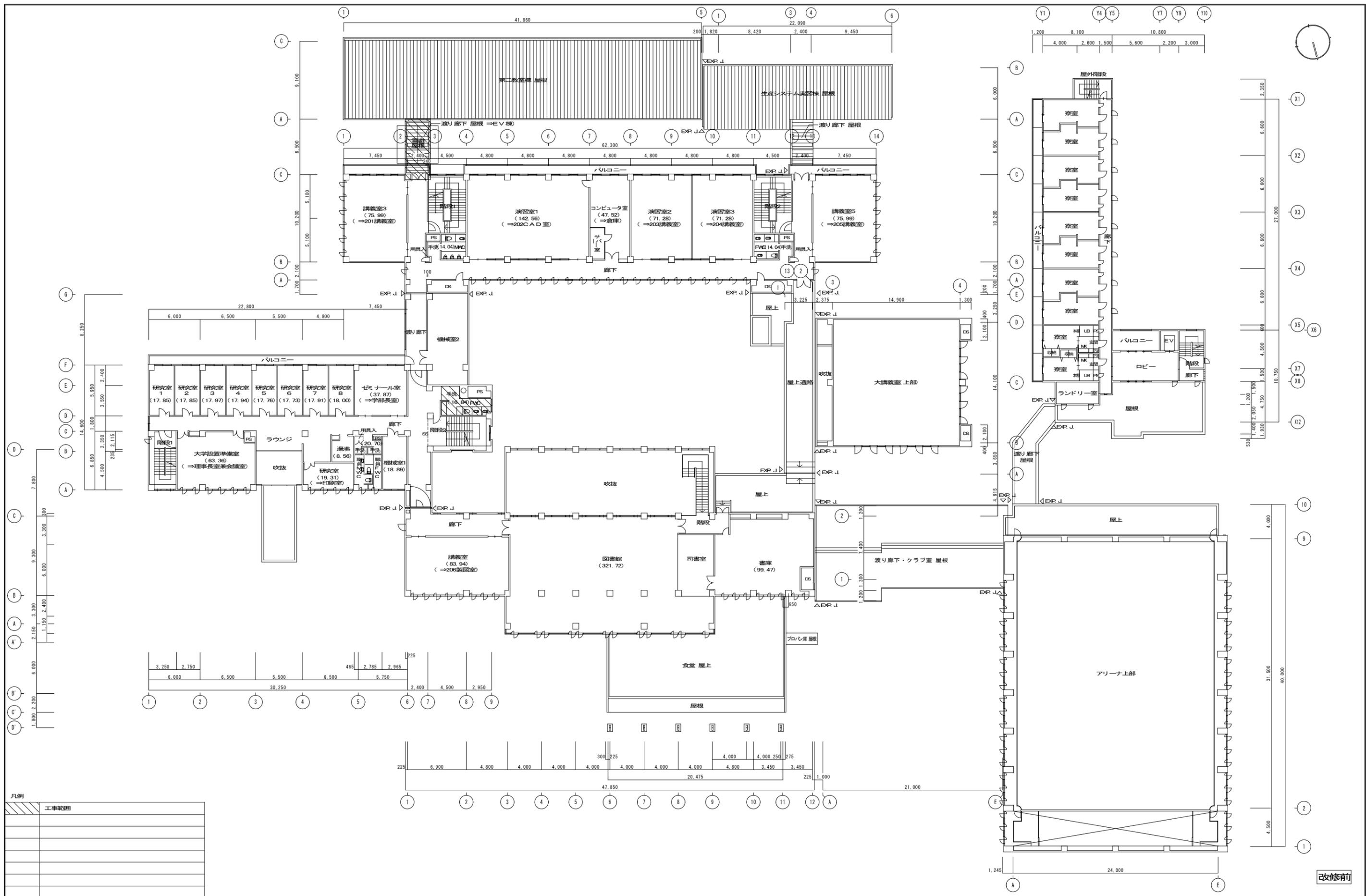
特記事項	確認日	設計者	代表	縮尺	年月日	図面名称
		一級建築士 構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号 20311号) 構造設計一級建築士(登録番号 2423号) 酒井 辰	雙 双 星 設 計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174376号)	1/200 1/400	2018.03	求積図・面積表(5)
	確認者	設備設計一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462号)	代表 1級建築士 中村 武嗣 主担当 作成			図面番号 A-23



凡例	
	工事範囲

特記事項	確認日	一級建築士 横倉 誠一 (登録番号 200310号) 一級建築士 中村 俊樹 (登録番号 2423号) 一級建築士 濱井 貴 (登録番号 2462号)	難 双 星 設 計 一級建築士 中村 俊樹 (登録番号 174376号)	工事名称 (プロジェクトNo. 160613)	図面名称
	確認者	一級建築士 横倉 誠一 (登録番号 200310号) 一級建築士 中村 俊樹 (登録番号 2423号) 一級建築士 濱井 貴 (登録番号 2462号)		代表 設計監理部長 横倉 誠一 主担当 作成	公立小松大学 薬学キャンパス 校舎整備工事(2期)(建築)
	縮尺	AI: 1/200 A3: 1/400	年月日	2018. 03 .	図面番号
					A-25

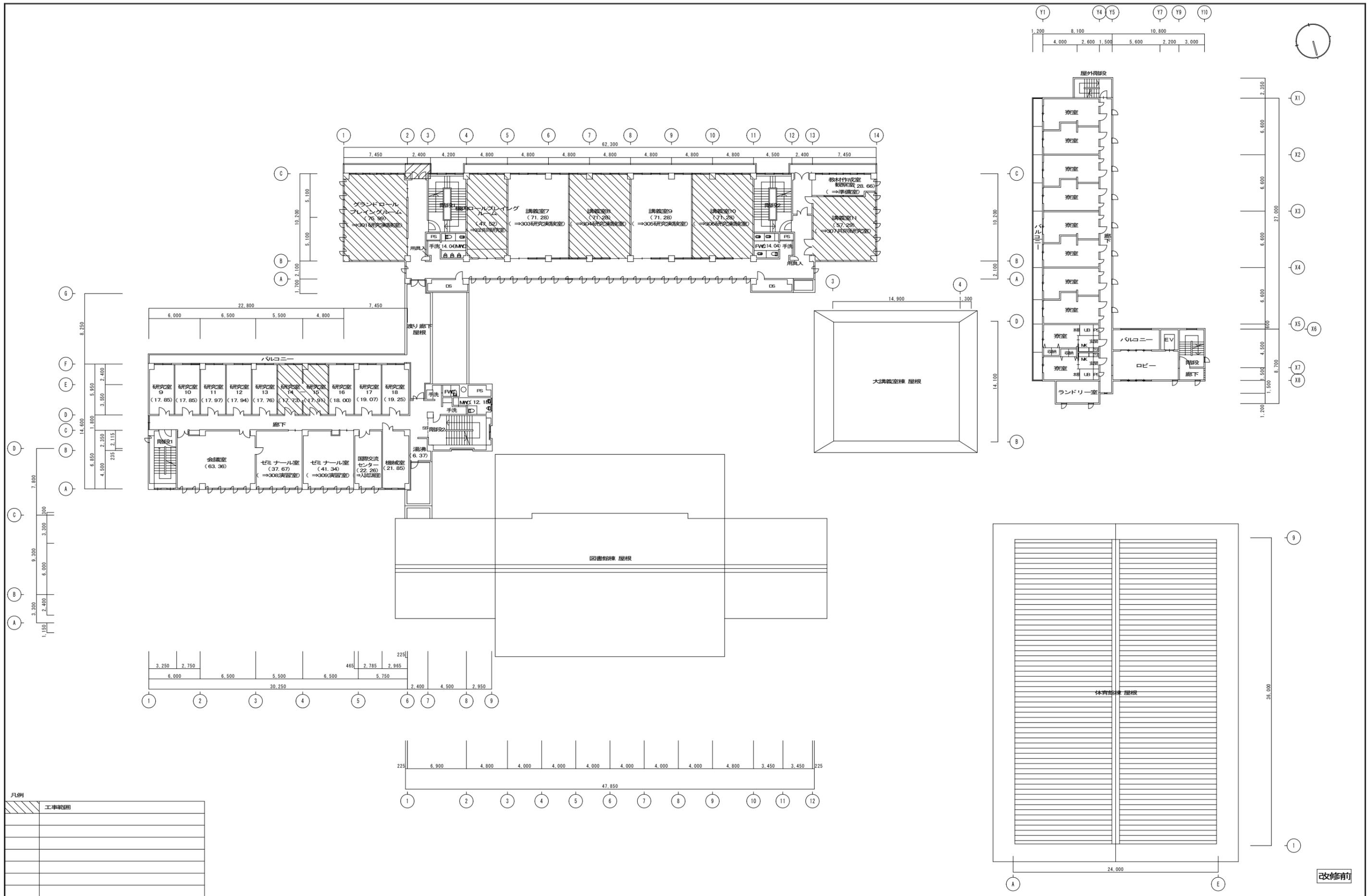
改修後



凡例	
	工事等区別

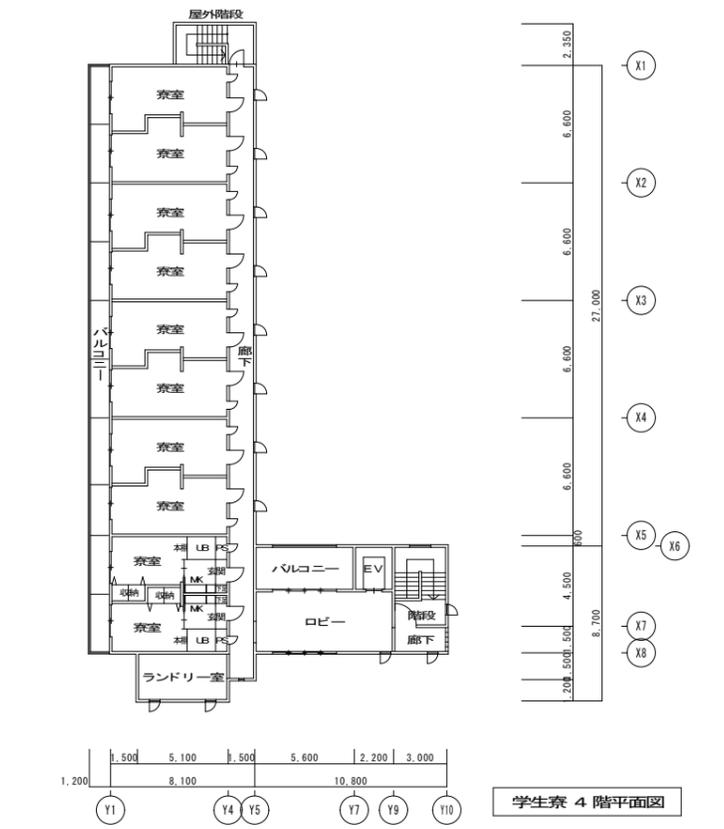
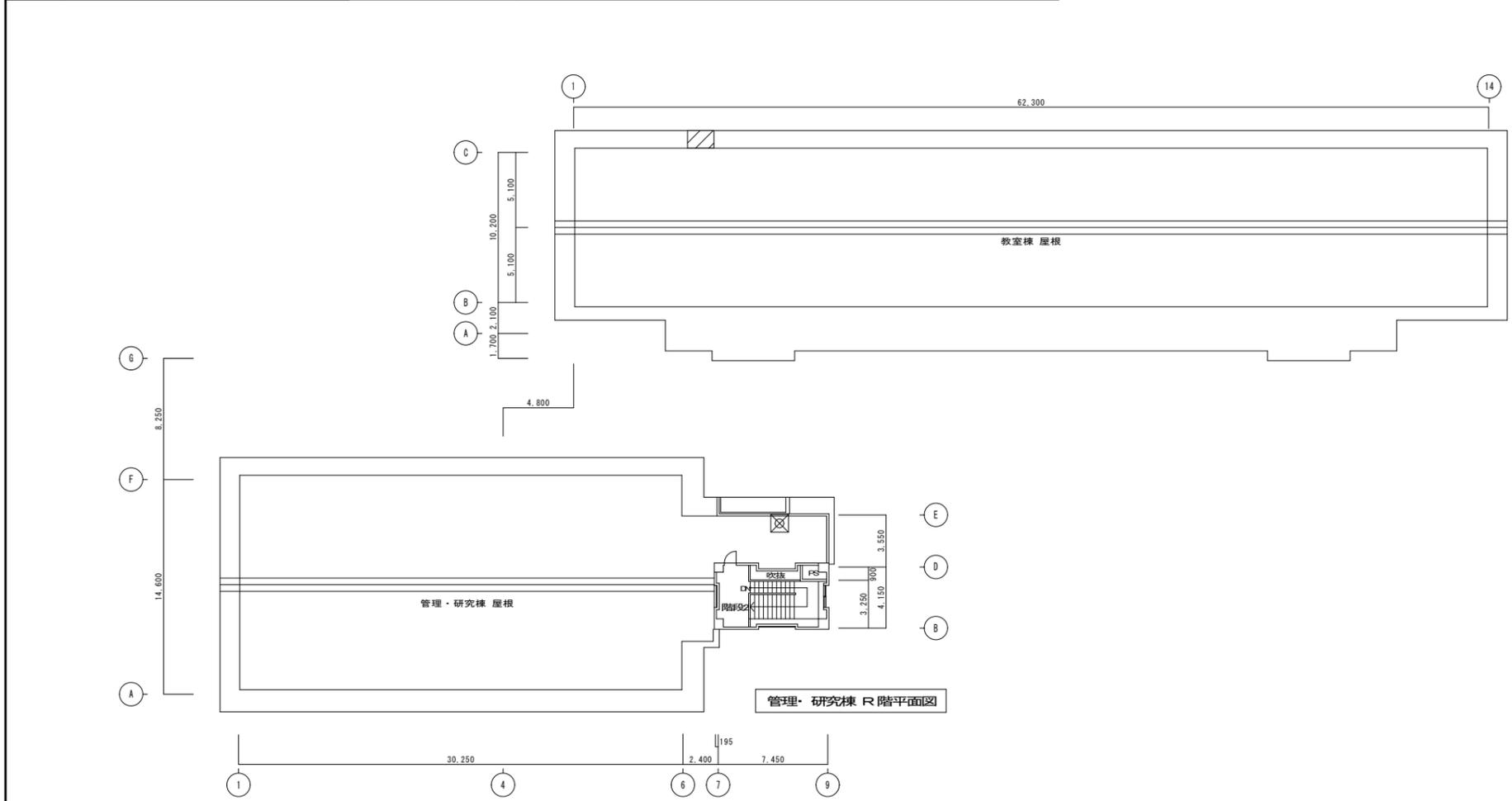
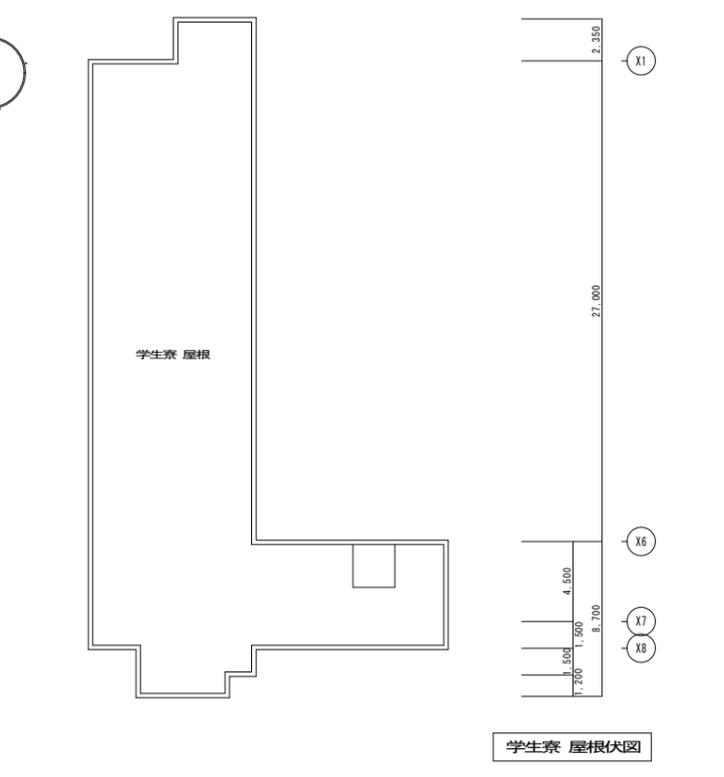
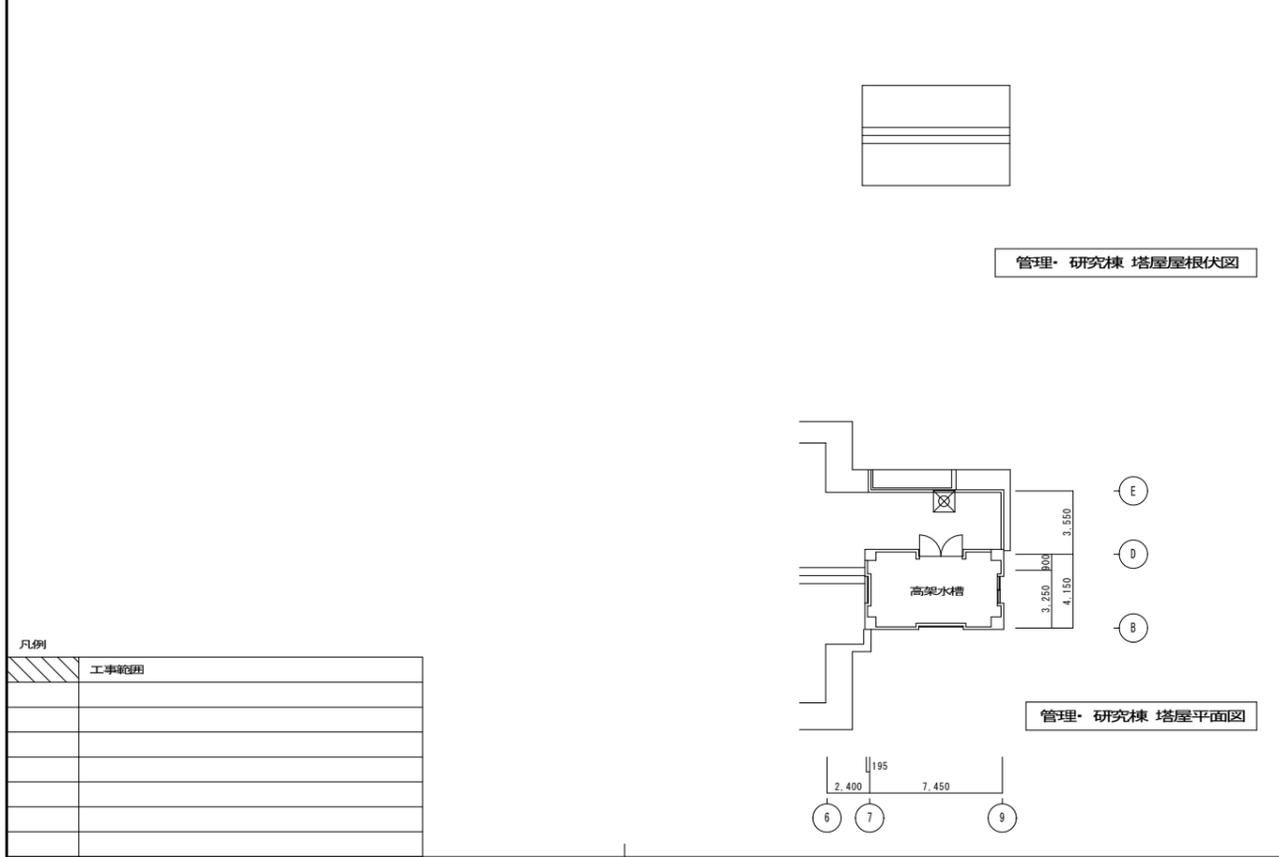
特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号209319号) 構造設計一級建築士 (登録番号 2423号)	雙星設計 一級建築士 中村 直樹 (登録番号174376号)	工事名称 (プロジェクトNo 160613)	図面名称
	確認者	設備設計一級建築士 設備設計一級建築士 (登録番号 2462号)		代表 設備情報部長 確認者 主担当 作成	公立小松大学 薬学キャンパス 校舎整備工事 (2期) (建修)
縮尺	年月日	縮尺	年月日	縮尺	年月日
A1: 1/200	2018. 03 .	A3: 1/400			
					図面番号 A-26

改修前



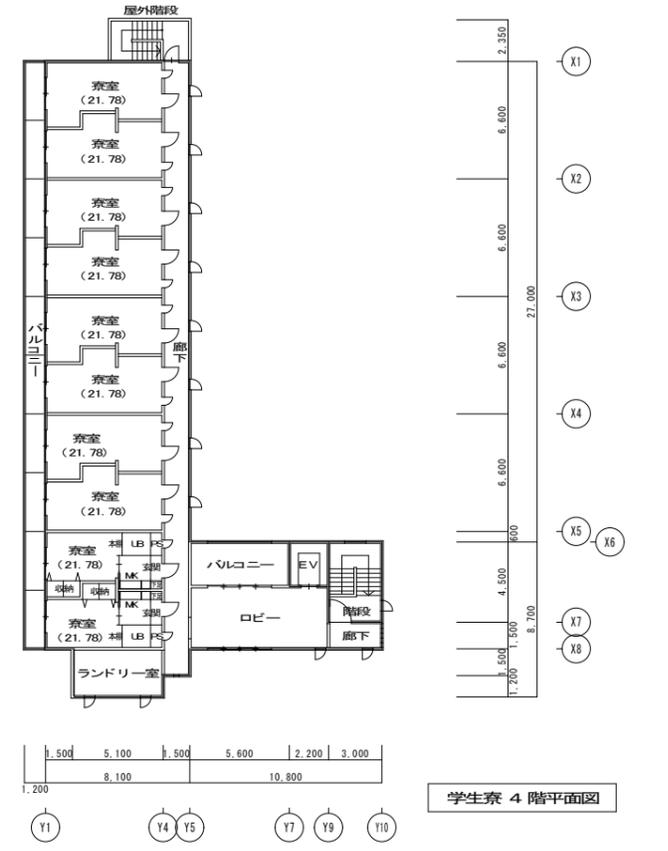
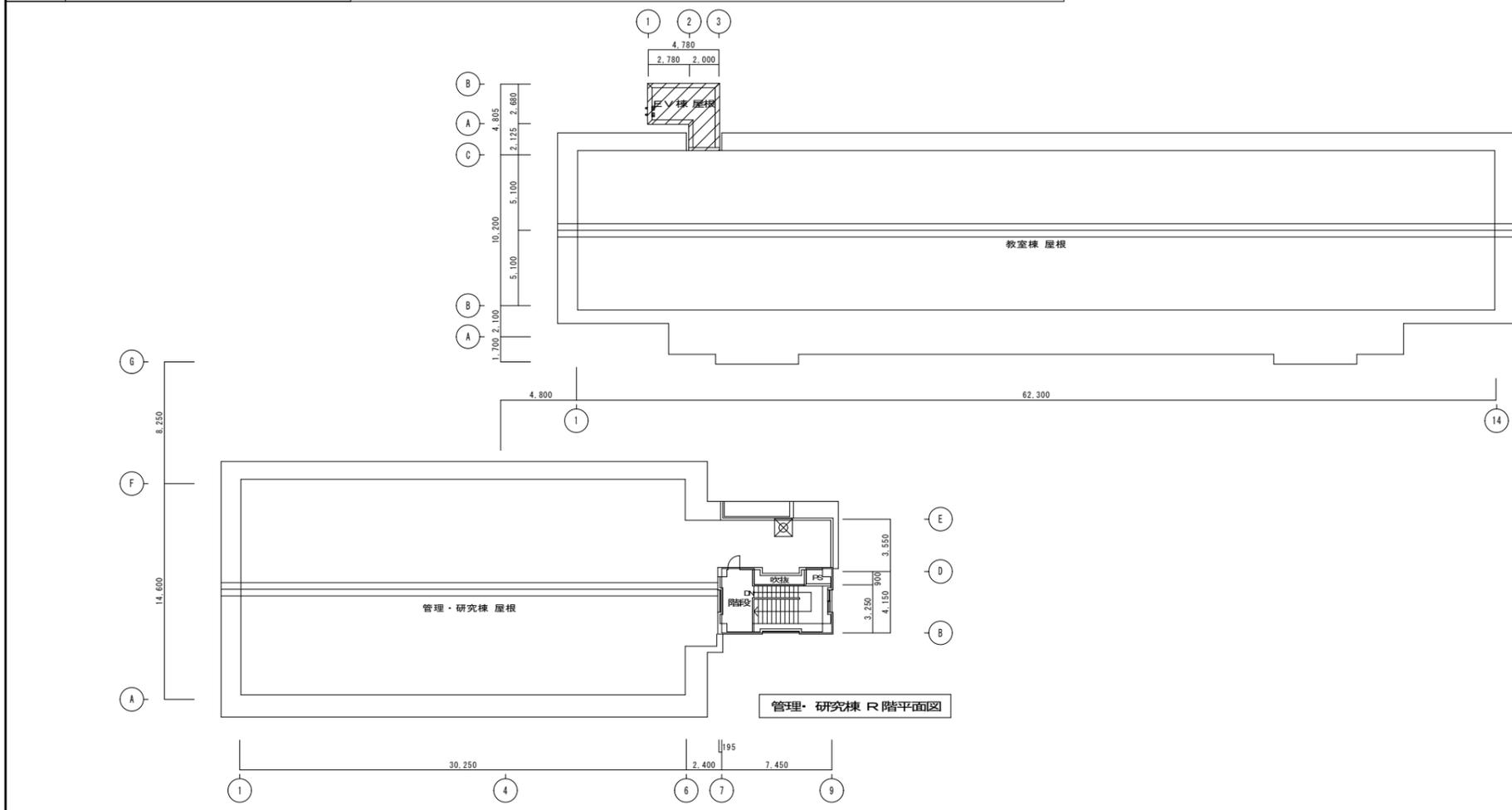
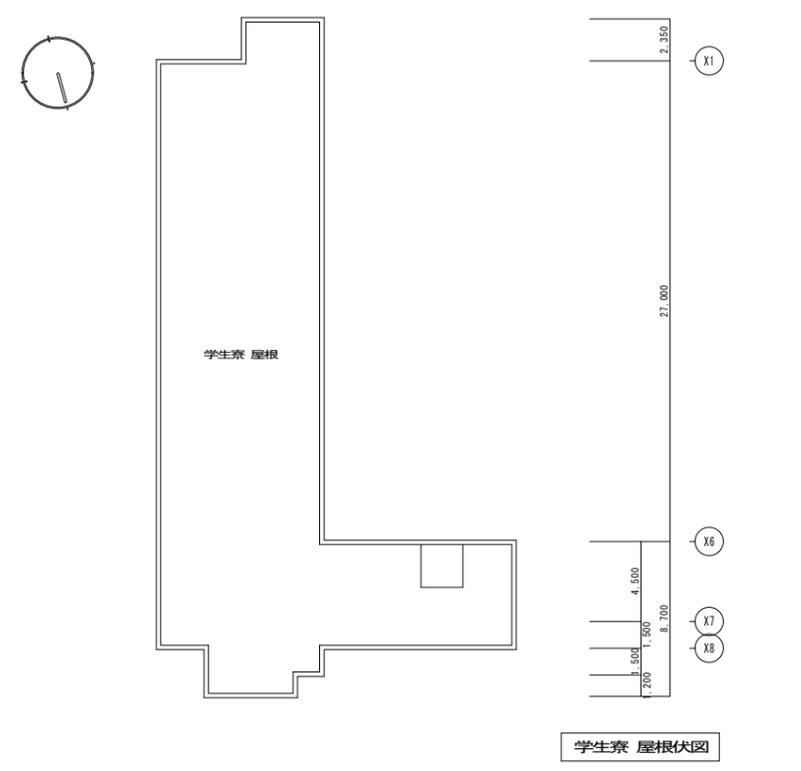
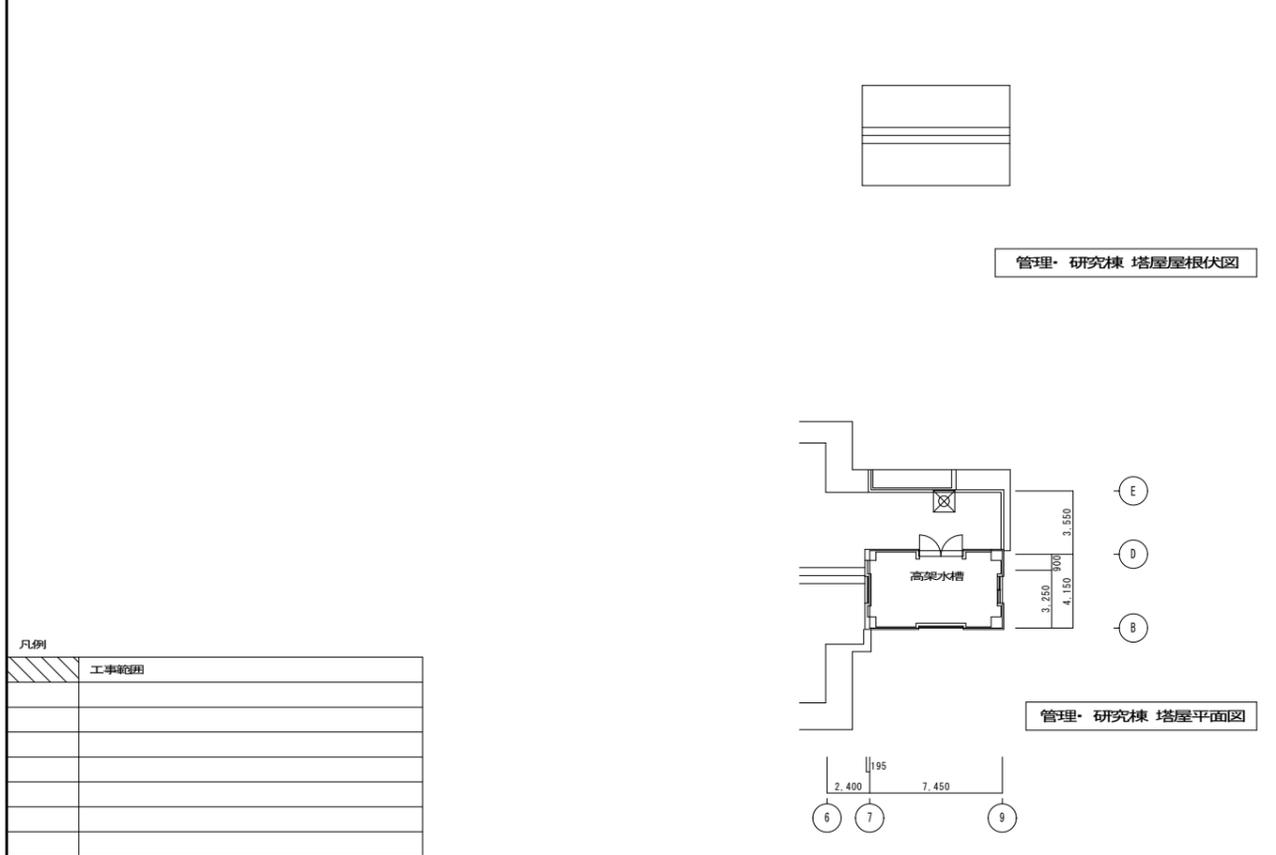
凡例	
	工事等区別

特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号209319号) 構造設計一級建築士 (登録番号 2423号)	菱 双 星 設 計 一級建築士 中村 直樹 (登録番号174376号)	工事名称 (プロジェクトNo 160613)	図面名称
	確認者	設備設計一級建築士 設備設計一級建築士 (登録番号 2462号)		代表 1級建築師部長 確認者 主担当 作成 縮尺 AI: 1/200 年月日 A3: 1/400 2018. 03 .	公立小松大学 薬津キャンパス 校舎整備工事(2期) (建盤) 3階平面図 改修前 図面番号 A-28



改修前

特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号209319号) 構造設計一級建築士 (登録番号 2423号)	雙星設計 一級建築士 中村 直樹 (登録番号174376号)			工事名称 (プロジェクトNo 160613)	図面名称
	確認者	設備設計一級建築士 設備設計一級建築士 (登録番号 2462号)				代表 1級建築師長 構造 主担当 作成	公立小松大学 薬津キャンパス 校舎整備工事 (2期) (建築)
			縮尺	年月日	図面番号		
			A1: 1/200 A3: 1/400	2018. 03 .	A-30		



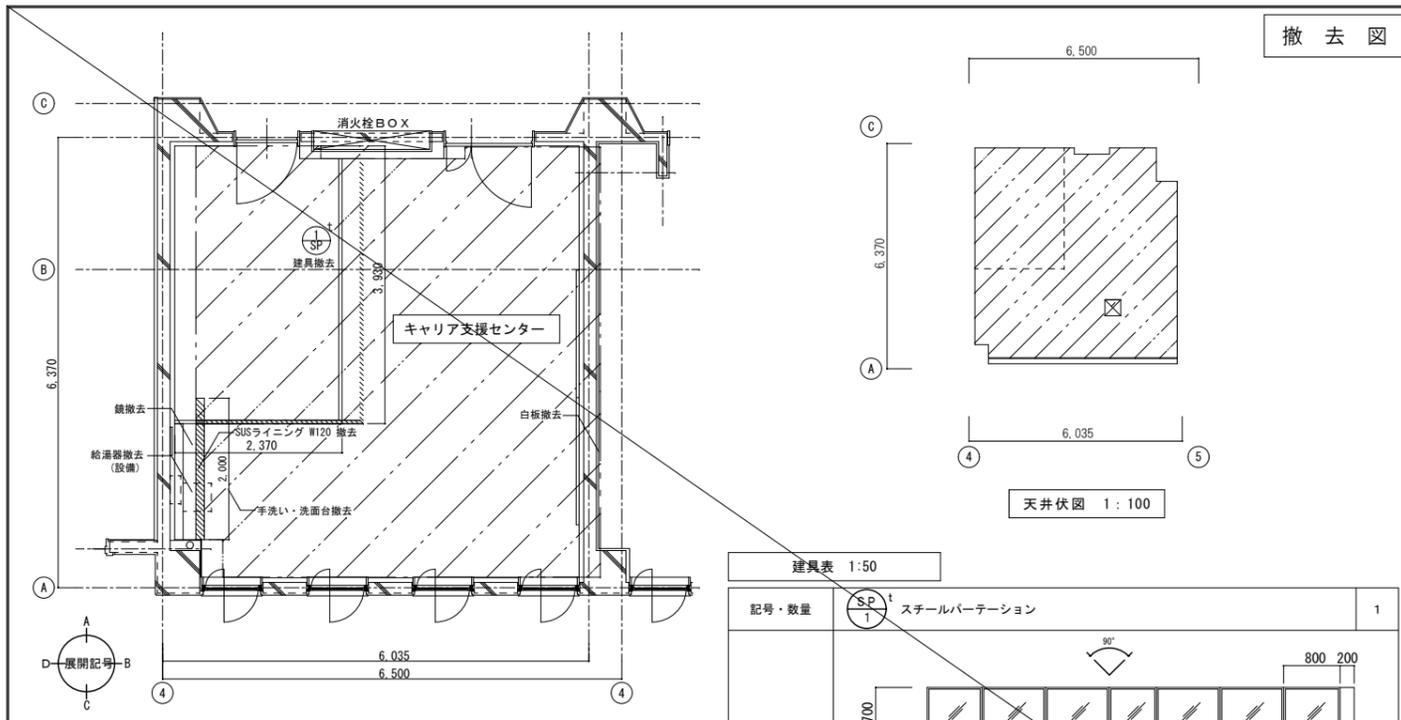
改修後

特記事項	確認日	確認者	代表	確認者	主担当	作成	縮尺	年月日	図面名称
							A1: 1/200 A3: 1/400	2018. 03.	4階平面図兼 屋根伏図 改修後
	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号209319号) 構造設計一級建築士 (登録番号 2423号) 酒井 崇 設備設計一級建築士		雙星設計 一級建築士 中村 直樹 (登録番号174376号)						図面番号
	設備設計一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462号)								A-31

<p>ライニング各種</p> <p>AI: 1/20 A3: 1/40</p> <p>D-000</p> <p>※特記なき限り寸法は下記による。 小便器: D=150 H=1,200 L=図示 (※壁掛け低リップ小便器: H=1,100) 大便器: D=150 H= 900 L=図示 洗面器: D=150 H= 900 L=図示 S<sub>K</sub>汎: D=150 H=1,200 L=図示</p>	<p>便所手摺</p> <p>AI: 1/5 A3: 1/10</p> <p>D-000</p> <p>和式便器撤去 スラブ閉塞</p> <p>AI: 1/10 A3: 1/20</p> <p>撤去 閉塞</p>
<p>備考</p> <p>小便器用手摺: 核相製 TOTO「T12Q2」同等品 大便器用手摺: 核相製 TOTO「T12Q9」同等品 多目的便所手摺: 別途 機械設備工事</p>	<p>適用</p> <p>和式便所撤去部分</p>

<p>汚垂タイル</p> <p>AI: 1/5 A3: 1/10</p> <p>D-000</p>	<p>化粧鏡</p> <p>AI: 1/5 A3: 1/10</p> <p>D-000</p> <p>洗面台</p> <p>AI: 1/10 A3: 1/20</p> <p>適用</p> <p>図書館棟 1階 MWC、F WC</p> <p>※洗面器一体型カウンター参考品番: TOTO「M60 + MN6」(設備工事)</p>
<p>モップ掛け</p> <p>AI: 1/5 A3: 1/10</p>	<p>備考</p> <p>化粧鏡A: 耐食鏡 SUSフレーム: t1.5 HL 加工 壁タイル仕上の場合には四方フレームとし埋込み(両面仕上) 化粧鏡B: 既製品 耐食鏡 上下アルミフレーム 化粧鏡C: 既製品 耐食鏡 上下ステンレスフレーム 照明付き TOTO「EL80015」同等品 全身鏡: 既製品 耐食鏡 上下アルミフレーム TOTO「YMS0K」同等品</p>

<p>特記事項</p>	<p>確認日</p> <p>確認者</p>	<p>設計者</p> <p>代表</p> <p>設計/監理部長</p> <p>検証者</p> <p>主担当</p> <p>作成</p>	<p>工事名称(プロジェクトNo)</p> <p>160613</p> <p>図面名称</p> <p>公立小松大学 薬津キャンパス 校舎整備工事(2期)(建築)</p> <p>便所共通部分詳細図</p> <p>図面番号</p> <p>A-32</p>
-------------	-----------------------	---	---



建具表 1:50

記号・数量	名称	数量
SP1	スチールパーテーション	1

材料	スチール
特見込 建具見込	50
仕上	メラミン焼付塗装仕上
ガラス	腰上: F 4mm ランマ: F 4mm
金物	付属金物一式
備考	

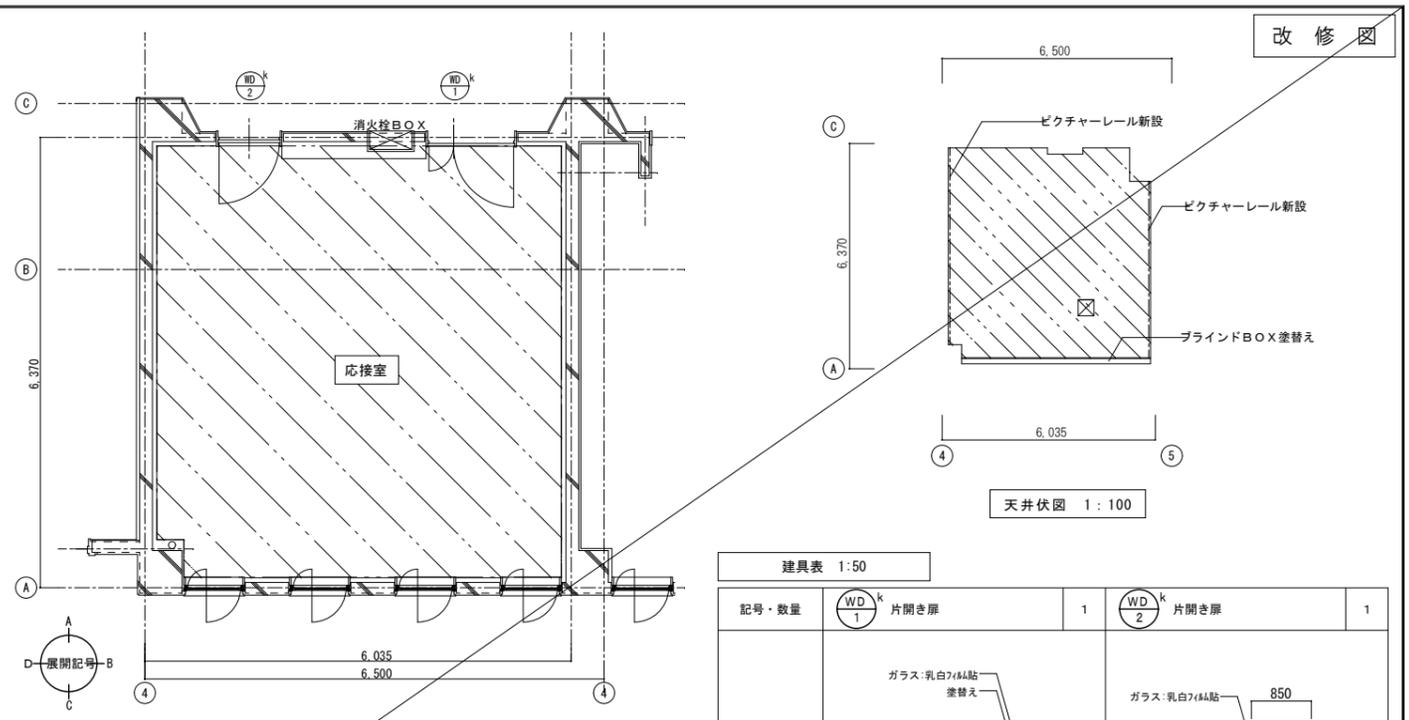
※記号の凡例及び仕様は「共通凡例・仕様」による

既存仕上表

仕上	現状	撤去
床	下地: モルタル金ゴテ押え 仕上: ビニル床シート t2.5	●
巾木	ソフト巾木 H=60	●
壁	下地: GB-R t12 仕上: EP塗、VP塗(柱型モルタル下地)	○
廻縁		○
天井	下地: LGS、GB-R t9.5 仕上: DR t9	○
備考	鏡、ライニング、手洗い、白板	●

凡例

- 床撤去範囲
- 壁下地共撤去範囲
- 壁仕上げ材のみ撤去範囲
- 建具撤去範囲



建具表 1:50

記号・数量	名称	数量
WD1	片開き扉	1
WD2	片開き扉	1

材料	木製
特見込 建具見込	36
仕上	ポリ合板貼フラッシュ
ガラス	腰上: F 4mm ランマ: F 4mm
金物	円筒錠、S(再取付)、T、F、DC SK、召合定規縁(アルミ製)、アルミガラリ
備考	

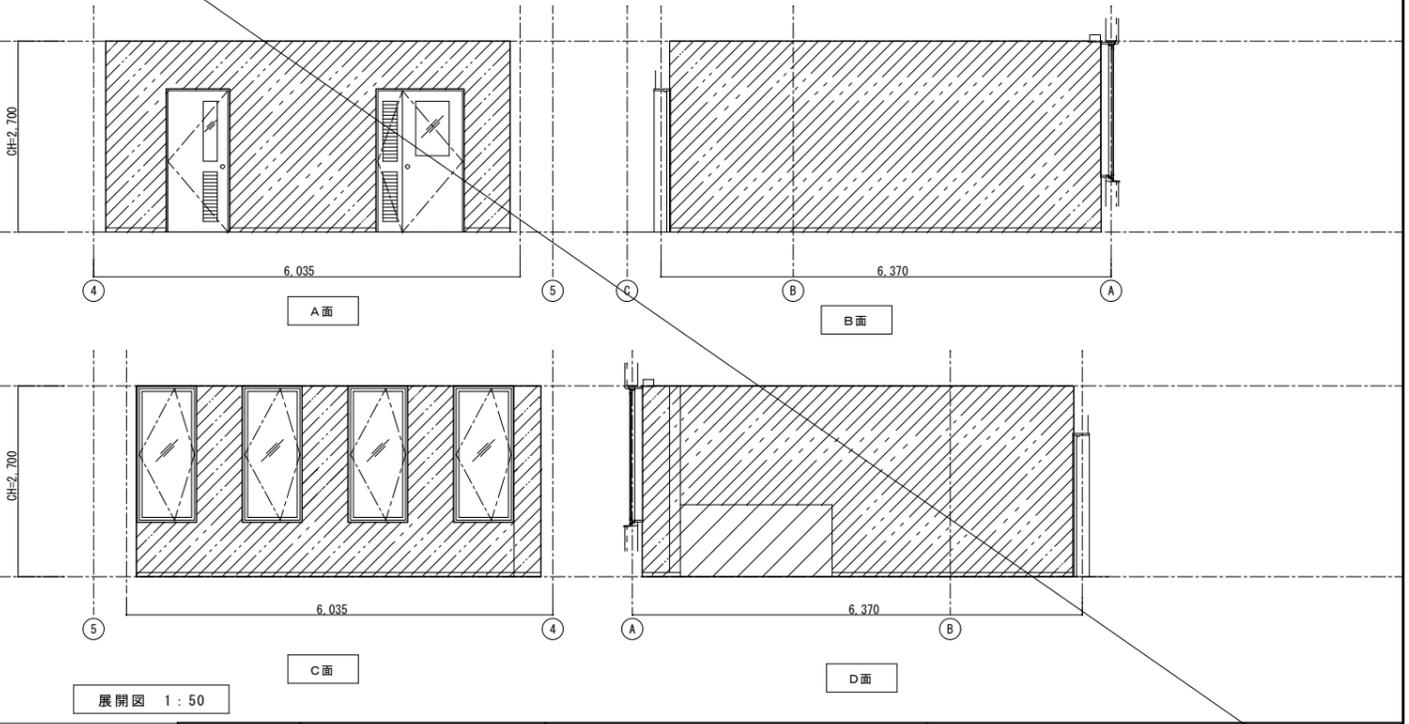
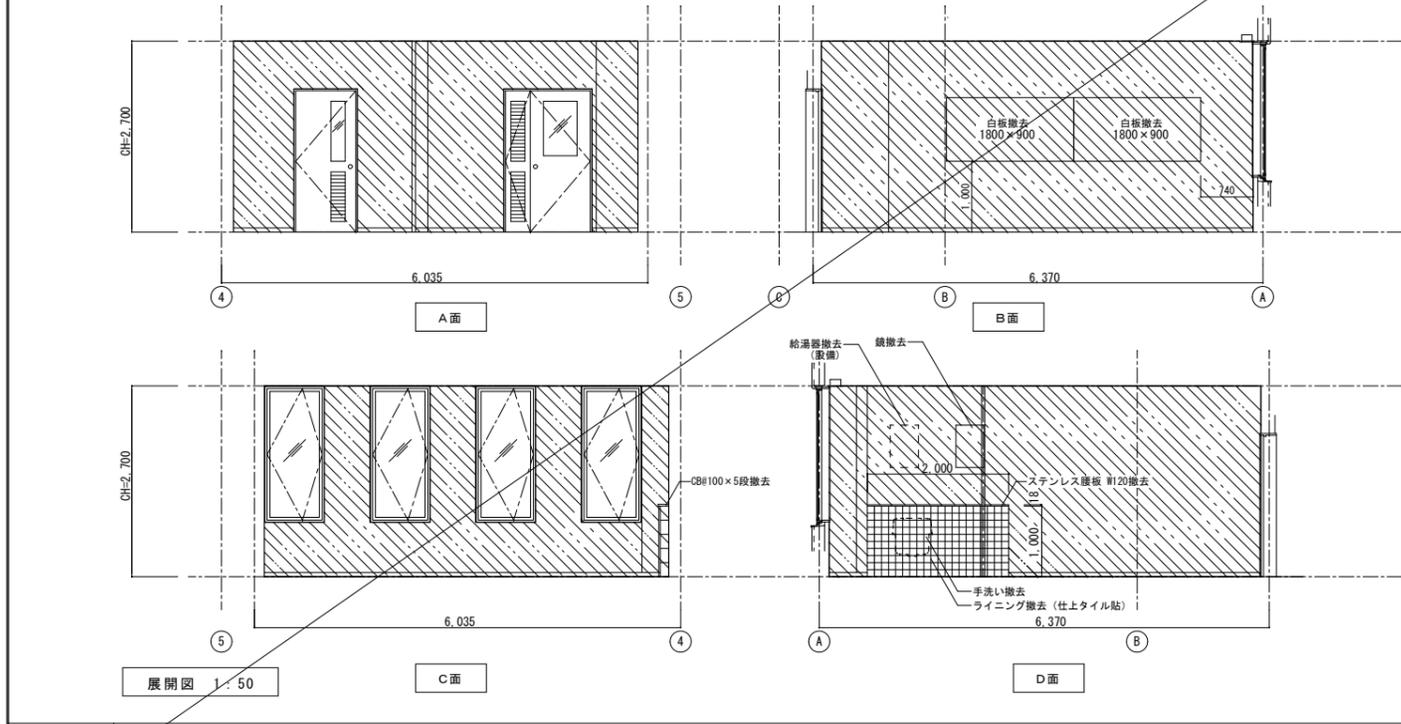
※記号の凡例及び仕様は「共通凡例・仕様」による

既存仕上表

仕上	現状	撤去
床	下地: モルタル金ゴテ押え 仕上: タイルカーペット t6.5	●
巾木	ソフト巾木 H=60	●
壁	下地: GB-R t12 仕上: ビニルクロス	○
廻縁		○
天井	下地: LGS、GB-R t9.5 仕上: DR t12(リブ付) 一部t9	○
備考	ピクチャーレール	●

凡例

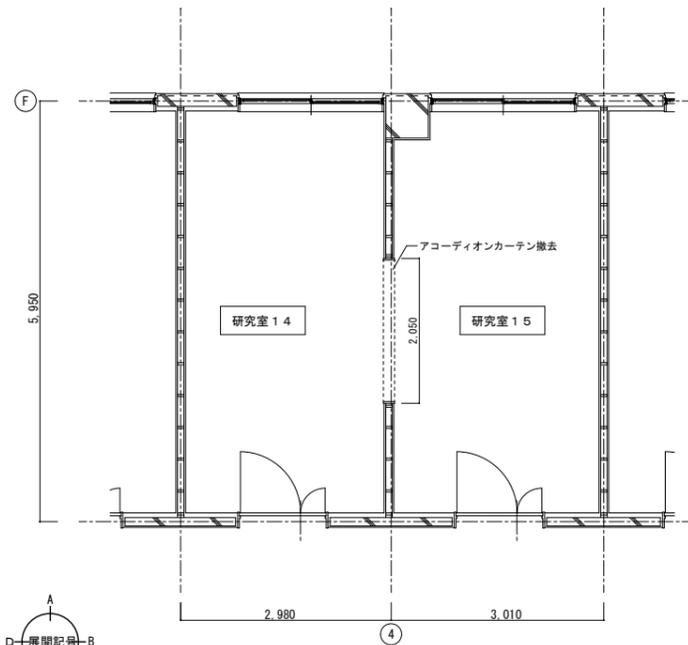
- 床新設範囲
- 壁下地共新設範囲
- 壁仕上げ材のみ新設範囲
- 建具新設範囲



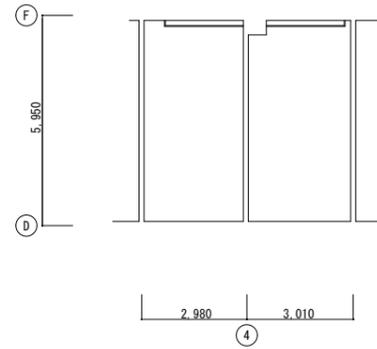
特記事項	確認日	2018.03.01	雙星設計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174376号) 代表 設計監理部長 検証者 主担当 作成	工事名称 (プロジェクトNo. 160613)	公立小松大学 栗津キャンパス 校舎整備工事(2期)(建築)	図面名称	管理・研究棟 1階 応接室(撤去・改修図)
	確認者	設備設計一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462号)		縮尺	A1 1/50 A3 1/100	年月日	2018.03.

撤去図

研究室14・研究室15 (現状)		存置	撤去
床	下地: モルタル金ゴテ押え	○	
	仕上: ビニル床シート t2.5	○	
巾木	ソフト巾木 H=60	○	
	下地: GB-R t12 2重張り	○	
壁	仕上: ビニルクロス	○	
廻縁			
天井	下地: LGS, GB-R t9.5	○	
	仕上: DR t9	○	
備考	アコーディオンカーテン		●



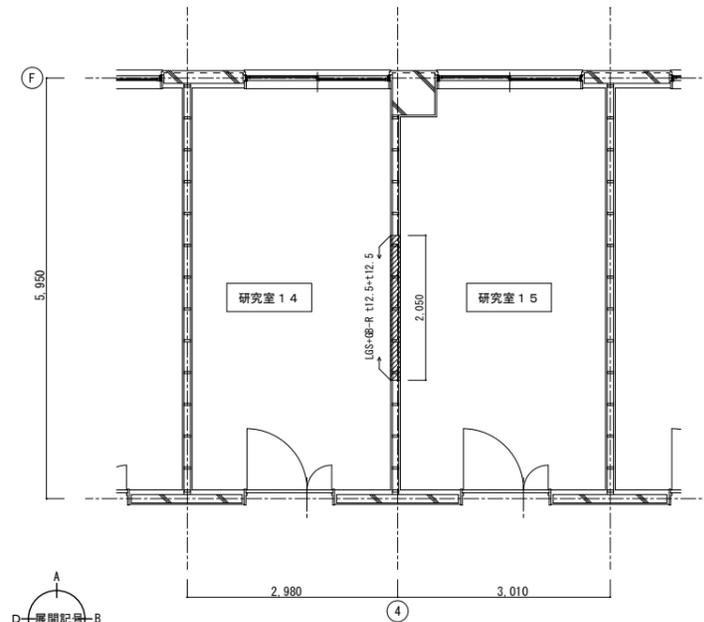
平面詳細図 1:50



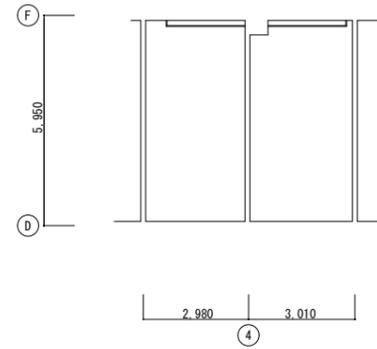
天井伏図 1:100

改修図

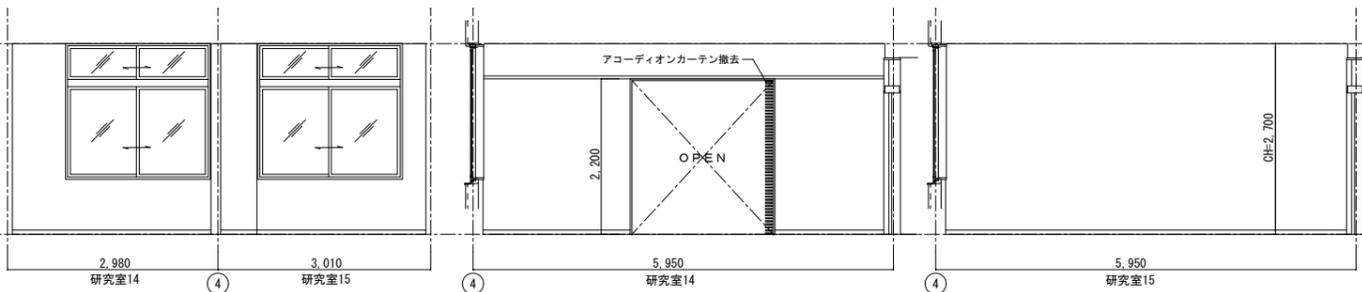
研究室14・研究室15 (現状)		既設	新設
床	下地: モルタル金ゴテ押え	○	
	仕上: ビニル床シート t2.5	○	
巾木	ビニル巾木 H=60	○	●
	下地: GB-R t12 2重張り	○	
壁	LGS下地+GB-R t12.5+t12.5	○	●
	仕上: ビニルクロス	○	●
廻縁			
天井	下地: LGS下地, GB-R t9.5	○	
	仕上: DR t9	○	
備考			



平面詳細図 1:50



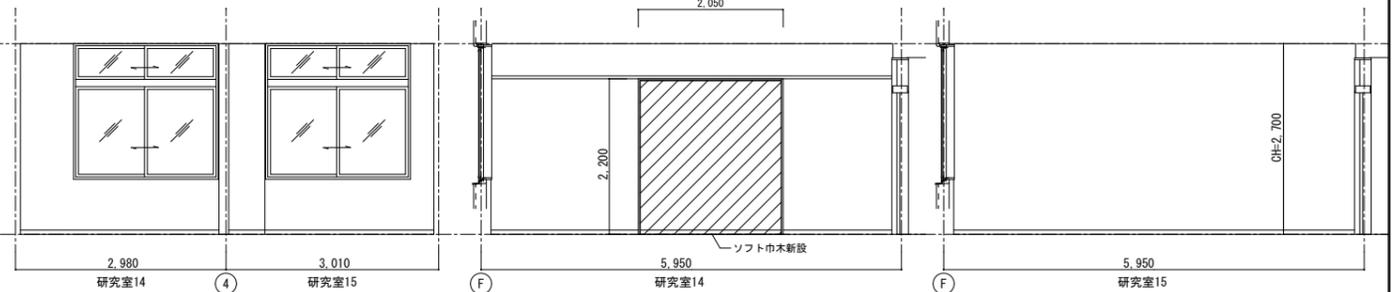
天井伏図 1:100



A面

B-1面

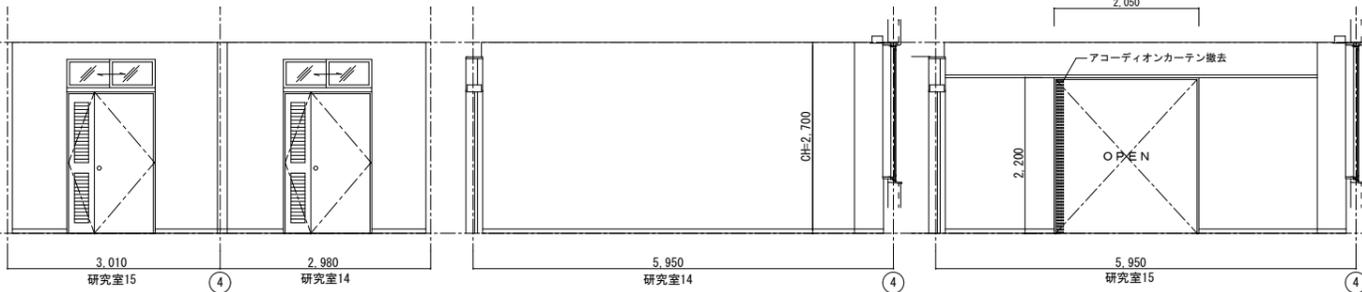
B-2面



A面

B-1面

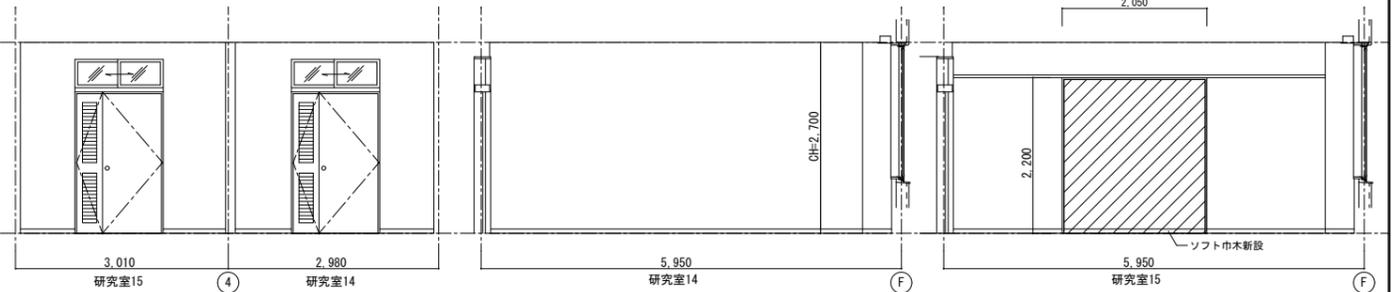
B-2面



C面

D-1面

D-2面



C面

D-1面

D-2面

展開図 1:50

- 凡例
- 床撤去範囲
 - ※天井伏図では天井撤去範囲
 - 壁下地共撤去範囲
 - 壁仕上げ材のみ撤去範囲
 - 建具撤去範囲

展開図 1:50

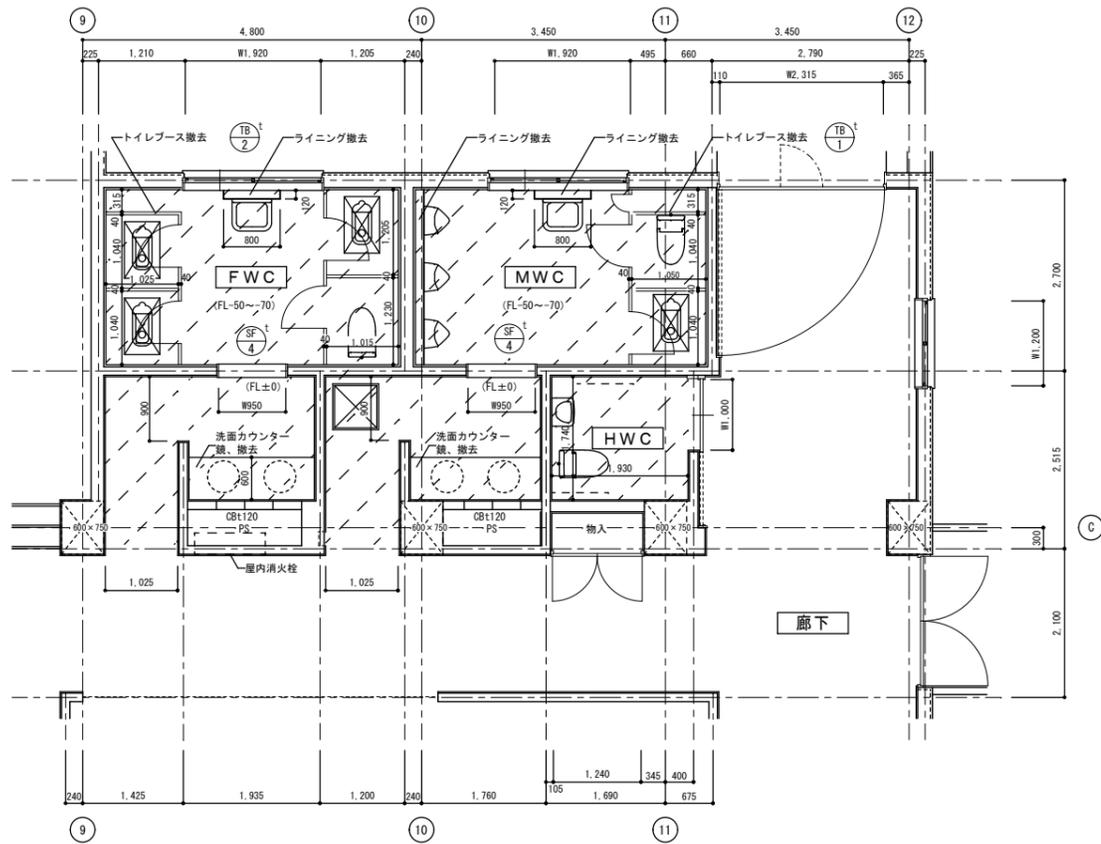
- 凡例
- 床新設範囲
 - ※天井伏図では天井新設範囲
 - 壁下地共新設範囲
 - 壁仕上げ材のみ新設範囲
 - 建具新設範囲

特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号 208319 号) 構造設計一級建築士 (登録番号 2423 号) 酒井 勲
	確認者	設備設計一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462 号)

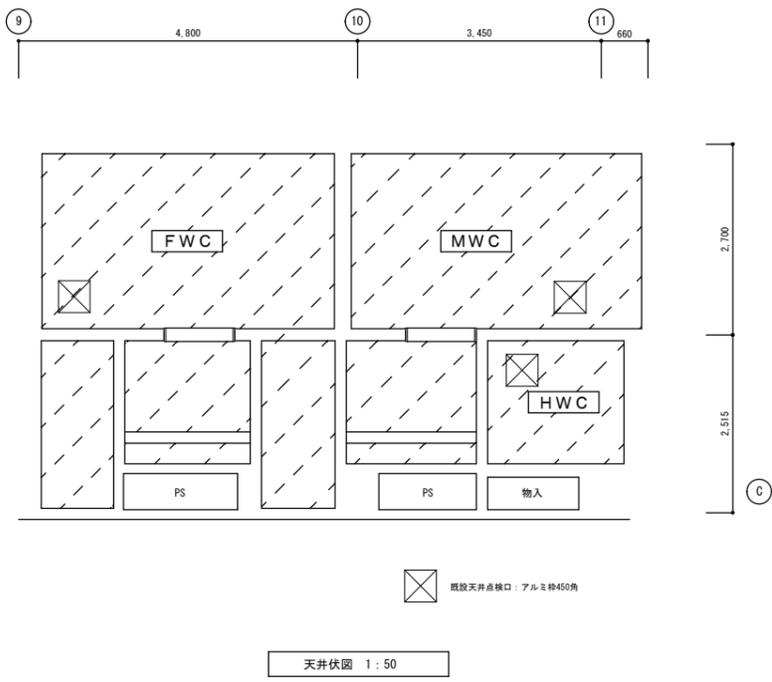
確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号 208319 号) 構造設計一級建築士 (登録番号 2423 号) 酒井 勲
確認者	設備設計一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462 号)

雙星設計	
一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174376号)	
代表	設計室長 中村 武嗣
検証者	主任 中村 武嗣
主担当	作成 中村 武嗣

工事名称 (プロジェクトNo. 160613)	図面名称
公立小松大学 栗津キャンパス 校舎整備工事 (3期) (建築)	管理・研究棟 3階 研究室14・15 (撤去・改修)
縮尺	図面番号
A1 1/50 A3 1/100	A-34
年月日	
2018. 03 .	



平面図詳細図 1:50

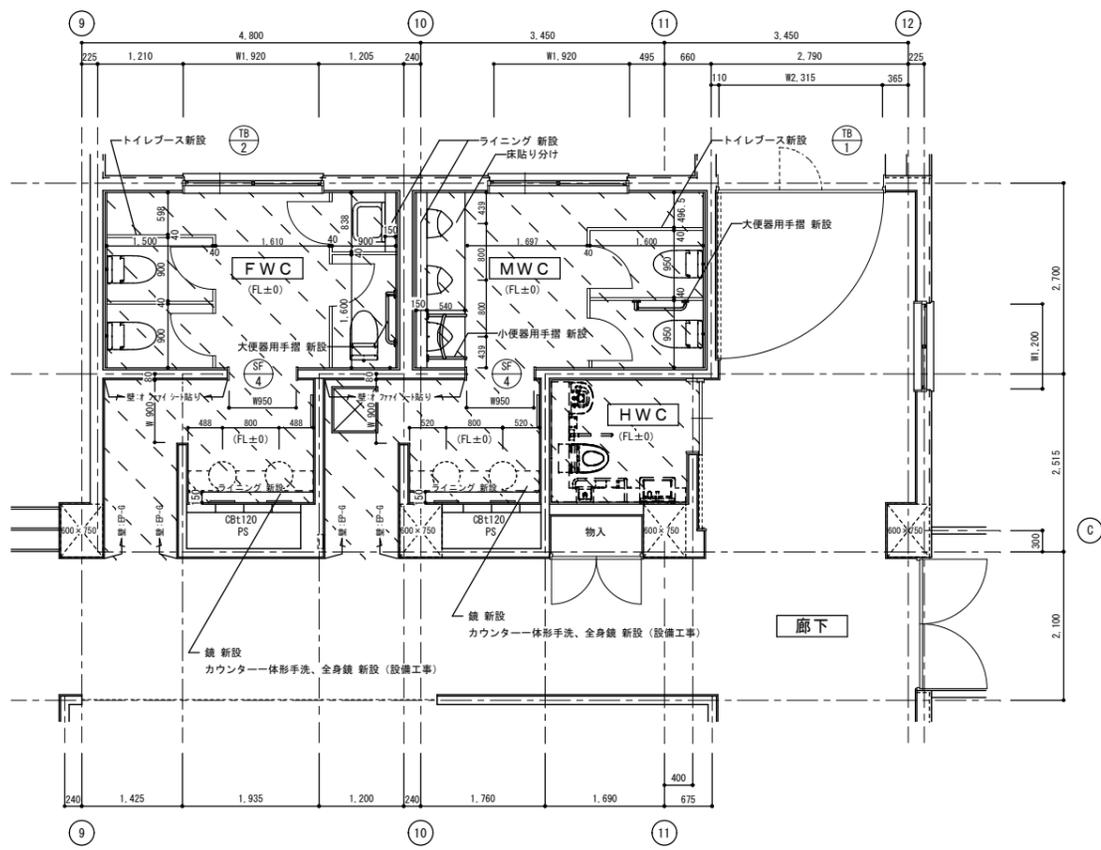


天井伏図 1:50

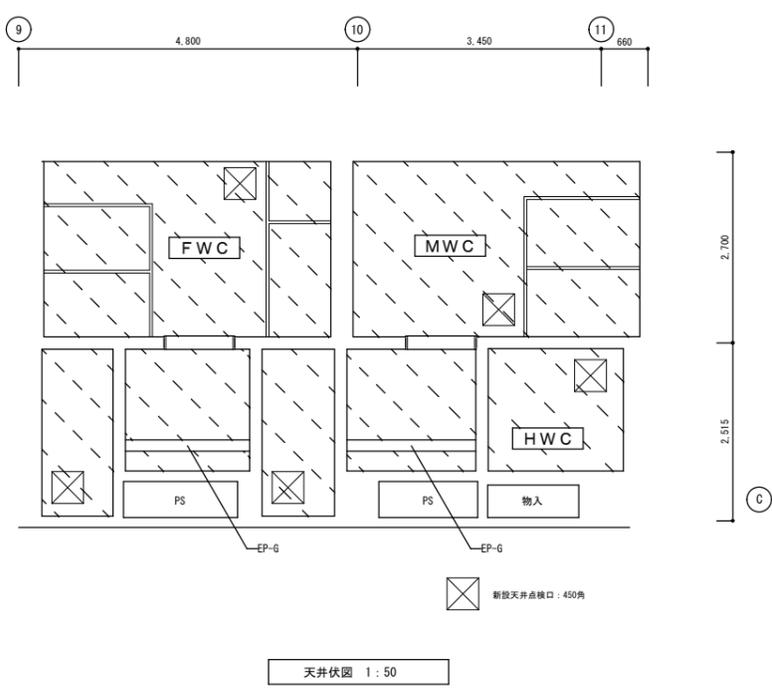
既存仕上表		MWC・FWC・HWC	→ MWC・FWC・HWC	存置	撤去
床	下地：E-2防水下地/手洗い…モルタル金コテ			○	
	仕上（便所廻り）：25角磁器タイル貼			○	
	仕上（手洗い廻り）：塩ビシート12.5				●
	仕上（HWC）：塩ビシート12.5				●
巾木	壁仕上/手洗い…ソフト巾木H60				●
	下地：2 7F-T			○	
	仕上（便所廻り）：A-1付磁器タイル伊達				●
壁	仕上（便所廻り壁）：100角半磁器タイル貼				●
	仕上（手洗い廻り）：A-1付磁器タイル伊達			○	
	下地：2 7F-T				●
間接	塩ビ				●
	下地：LSS				●
天井	仕上：GB-R19.5				●
	鏡、洗面カウンター、ライニング、TB				●
備考					●

- 凡例
- 床撤去範囲 ※天井伏図では天井撤去範囲
 - 壁下地共撤去範囲
 - 壁仕上げ材のみ撤去範囲
 - 建具撤去範囲
 - 和式便所撤去の上、スラブ剥離

撤去図



平面図詳細図 1:50



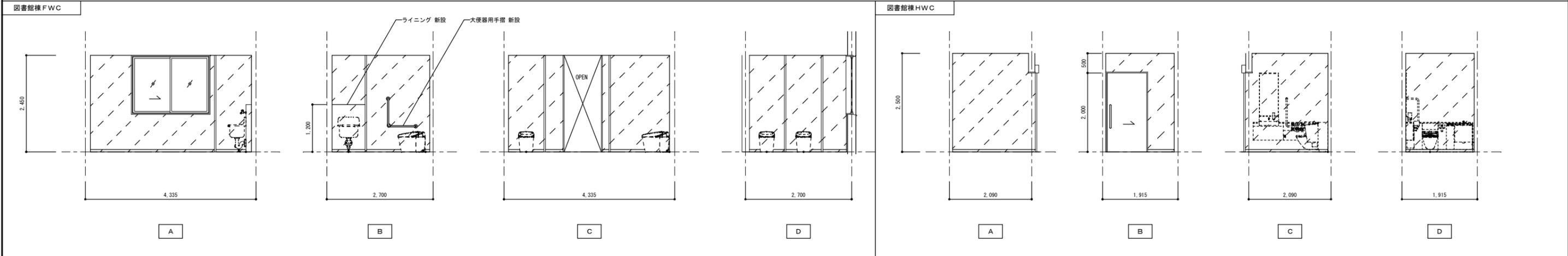
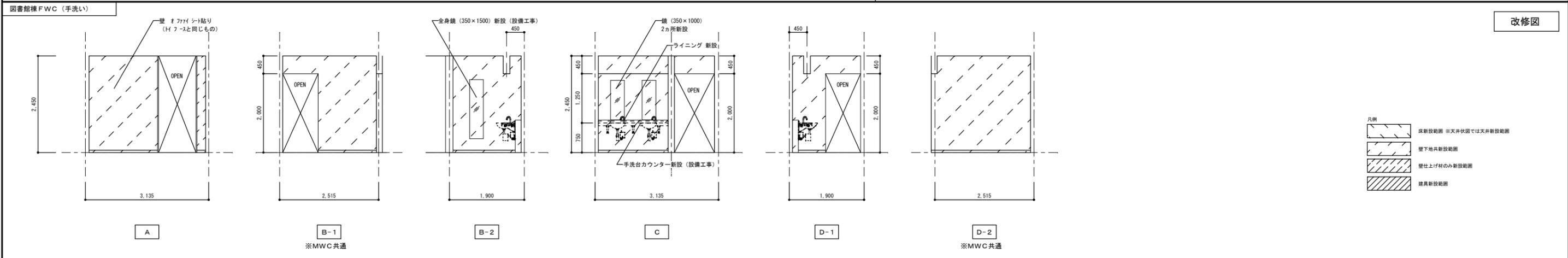
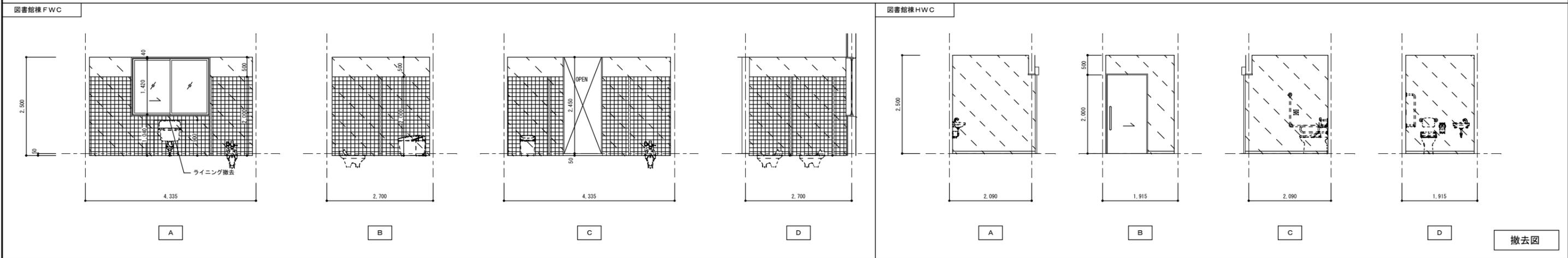
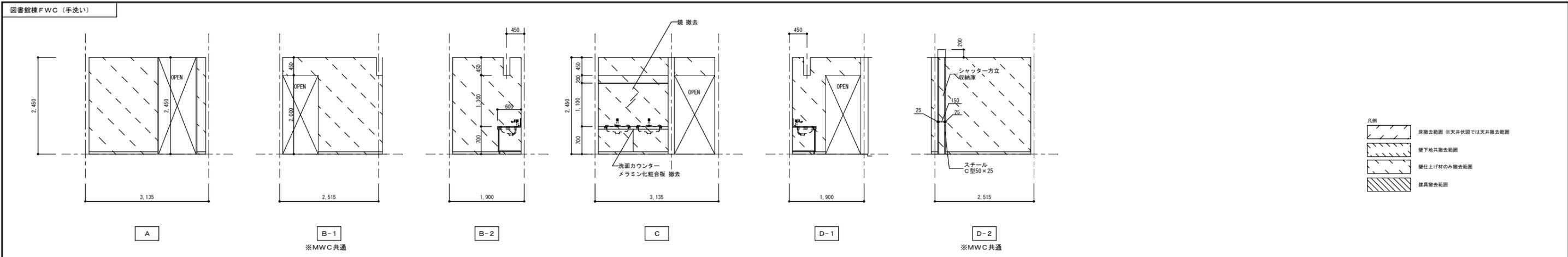
天井伏図 1:50

改修仕上表		MWC・FWC	→ MWC・FWC・HWC	既設	新設
床	下地：樹脂モルタル補修+40程度				●
	仕上：ビニル床シート（ノンワックスタイプ）12.0				●
床	下地：モルタル金コテ			○	
	仕上：ビニル床シート（ノンワックスタイプ）12.0				●
床	下地：モルタル金コテ			○	
	仕上：ビニル床シート（ノンワックスタイプ）12.0				●
巾木	t-3巾木H60				●
	下地：樹脂モルタル補修+5				●
壁	仕上：化粧ケイカル板t6				●
	仕上（手洗い廻り）：EP-G塗装				●
	下地：LSS + GB-R19.5				●
間接	塩ビ				●
	下地：LSS + GB-R19.5				●
天井	仕上：t-3巾木（不燃 M程度）				●
	大便器用手摺、小便器用手摺、鏡、TB				●
備考	設備工事：100mm厚プラスチックカウンター スタンダードボウルタイプ 黒20				●
備考	設備工事：全身鏡				●

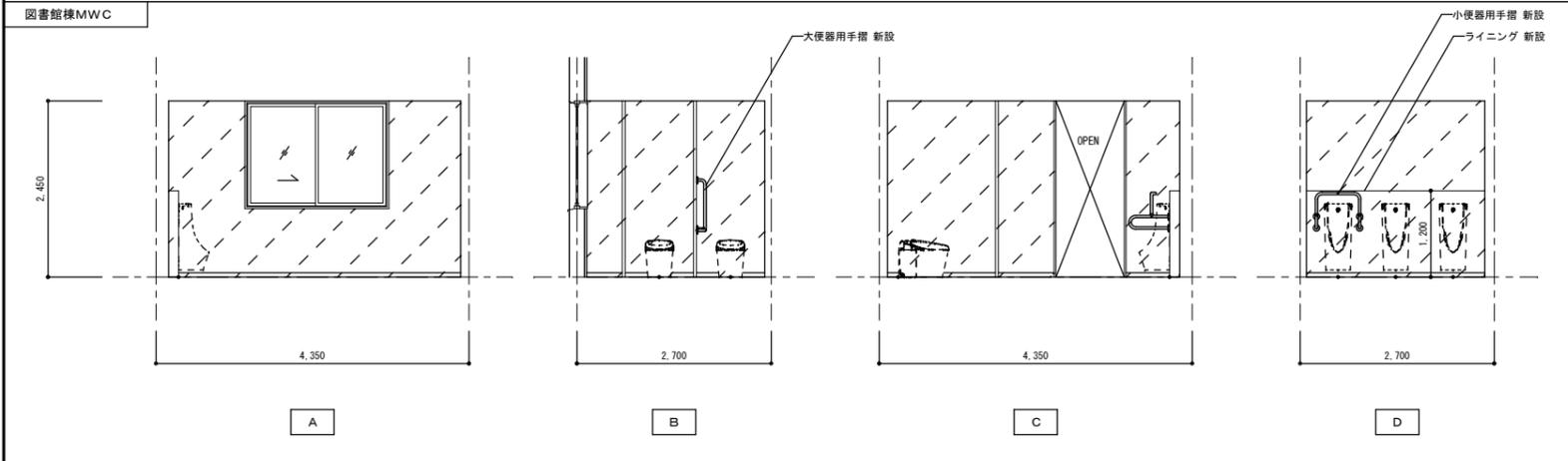
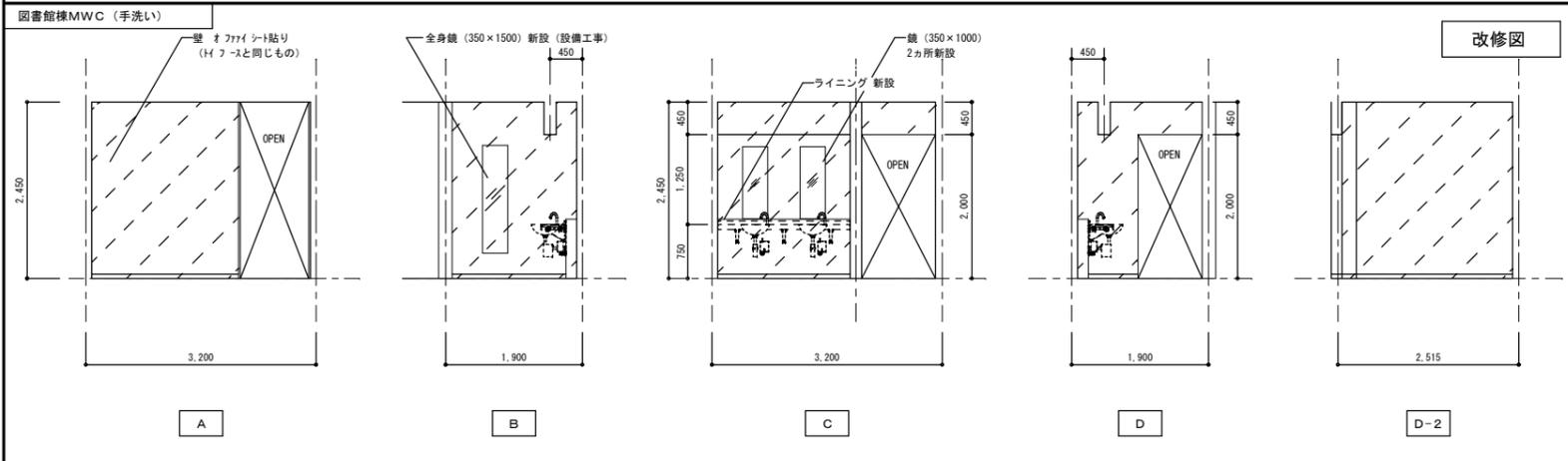
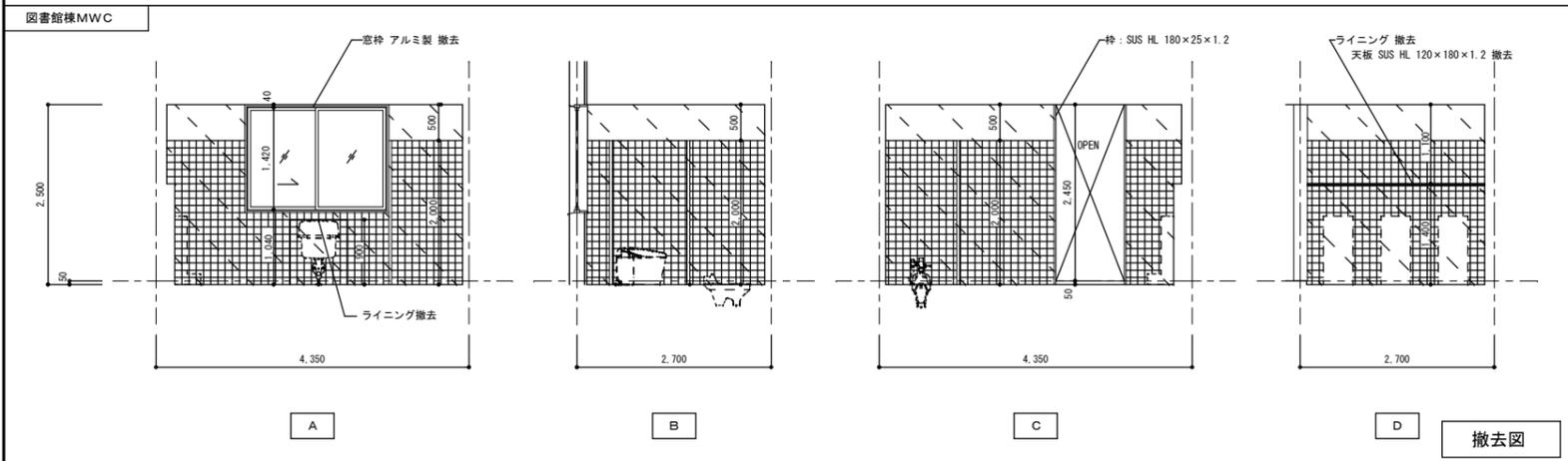
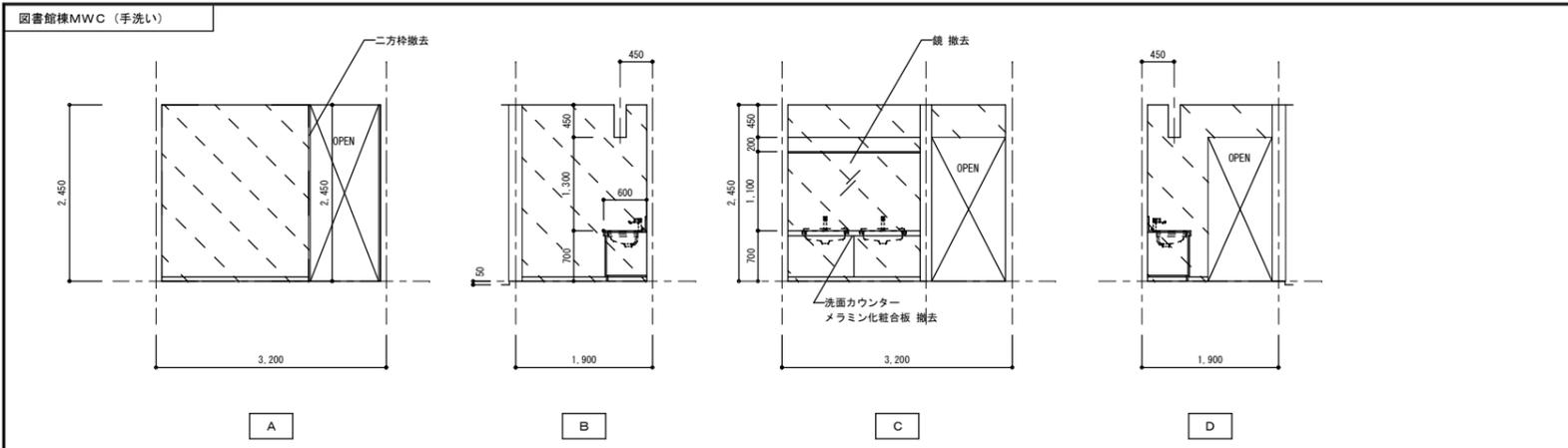
- 凡例
- 床新設範囲 ※天井伏図では天井新設範囲
 - 壁下地共新設範囲
 - 壁仕上げ材のみ新設範囲
 - 建具新設範囲

改修図

特記事項	確認印	一般建築士・構造設計一般建築士 一級建築士 (登録番号 20019号) 構造設計一般建築士 (登録番号 2402号) 酒井 勲	難双星設計 一級建築士 中村 武樹 (登録番号174376号)	工事名称 (プロジェクトNo 160613) 公立小松大学 東棟キャンパス 社会整備工事 (2期) (建築) 図面名称 図書館棟 1階 便所 撤去・改修図 (1)	図面番号 A-35
	確認者	設備設計一般建築士 設備設計一般建築士 塚原 亘 (登録番号 2462号)			
縮尺		A1: 1/50 A3: 1/100		年月日	2018. 03.

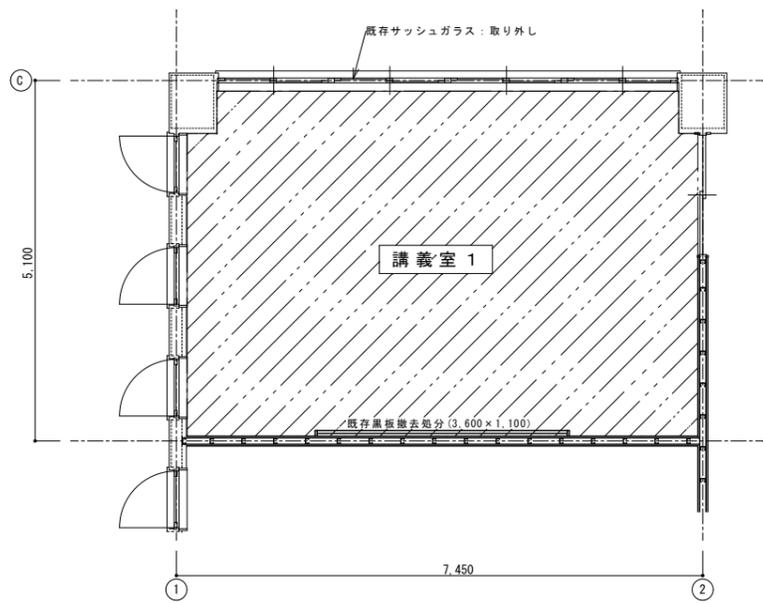


特記事項	確認日	一般建築士・構造設計一般建築士 一級建築士 (登録番号 30021号) 構造設計一般建築士 (登録番号 2421号) 酒井 勲	雙 双 星 設 計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174376号)	工事名称 (プロジェクトNo. 160613)	図書館棟 1階 便所 撤去・改修図 (2)
	確認者	設備設計一般建築士 塚原 基 (登録番号 2462号)		代表 1 設計管理部長 納証者 主理員 作成	年月日 2018. 03 .

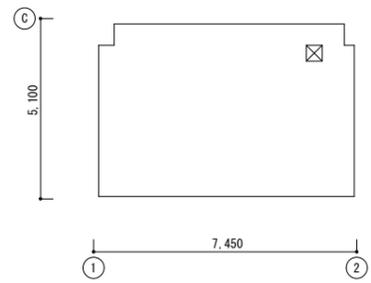


記号・数量	① 1	トイレブース	1	② 1	トイレブース	1
断面						
材料	テラゾブロック		テラゾブロック			
枠見込 建具見込	40		40			
仕上	-		-			
ガラス	-		-			
金物	付属金物一式		付属金物一式			
主要使用箇所	図書館様 MWC		図書館様 FWC			
備考						
記号・数量						
断面						
材料						
枠見込 建具見込						
仕上						
ガラス						
金物						
主要使用箇所						
備考						
記号・数量	① 1	トイレブース	1	② 1	トイレブース	1
断面						
材料	木目調 7711 シート貼り (芯材ベーパーコア若しくは木)		木目調 7711 シート貼り (芯材ベーパーコア若しくは木)			
枠見込 建具見込	40		40			
仕上	エッジ: 化粧シート、巾木: SUS		エッジ: 化粧シート、巾木: SUS			
ガラス	-		-			
金物	グレピティヒンジ (中心吊型)、非常開錠付表示錠、戸当り帽子掛		グレピティヒンジ (中心吊型)、非常開錠付表示錠、戸当り帽子掛			
主要使用箇所	図書館様 MWC		図書館様 FWC			
備考						
記号・数量						
断面						
材料						
枠見込 建具見込						
仕上						
ガラス						
金物						
主要使用箇所						
備考						

撤去図

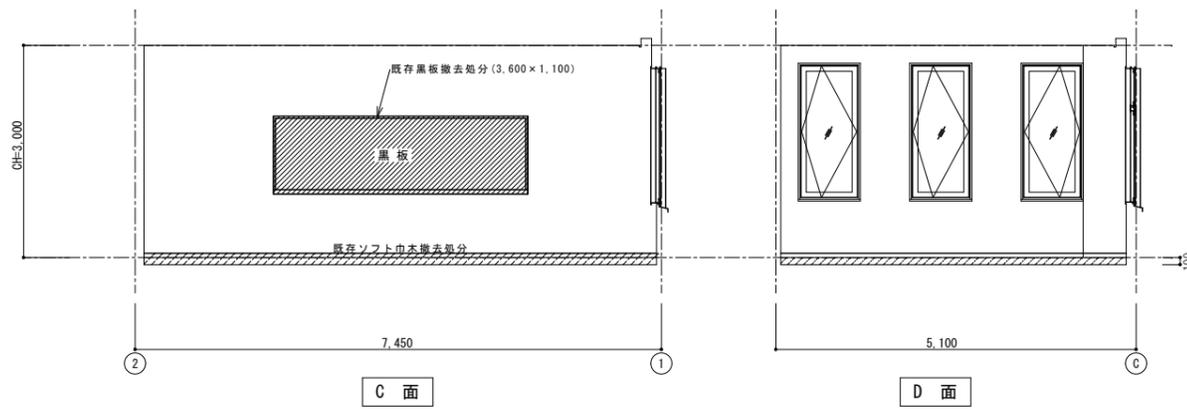
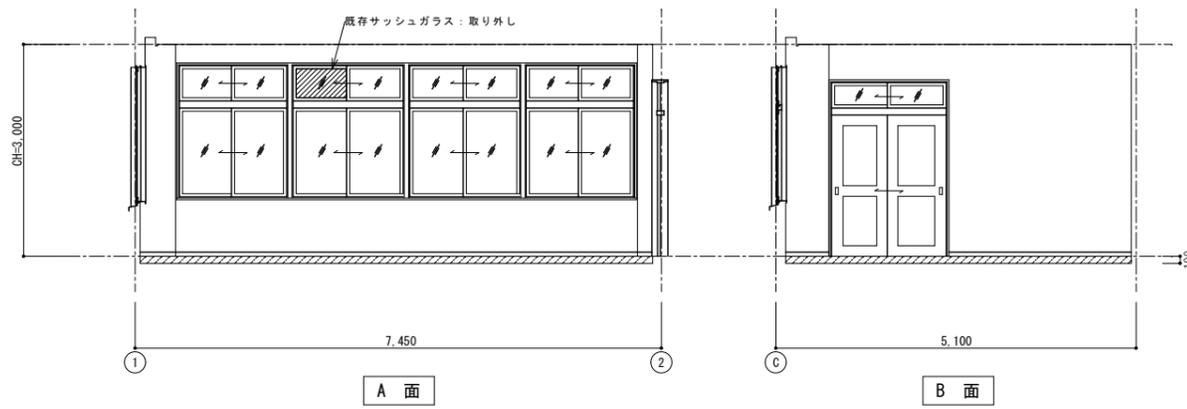


既存仕上表	講義室1 (現状)	→ 107 実習室 (改修)	存置	撤去
床	下地: モルタル金ゴテ押え		○	●
	仕上: O.Aフロア、タイルカーペットt5		○	●
巾木	ソフト巾木 H=60(間仕切り壁)		○	●
	本製巾木 SOP H=60		○	○
壁	下地: GB-R t12.5		○	○
	仕上: ビニルクロス		○	○
廻縁	塩ビ		○	○
天井	下地: LGS、GB-R t9.5		○	○
	仕上: DR t9		○	○
備考	黒板撤去部分			●
	柱型部分 モルタル金ゴテ仕上げ VP塗り			○



平面詳細図 1:50

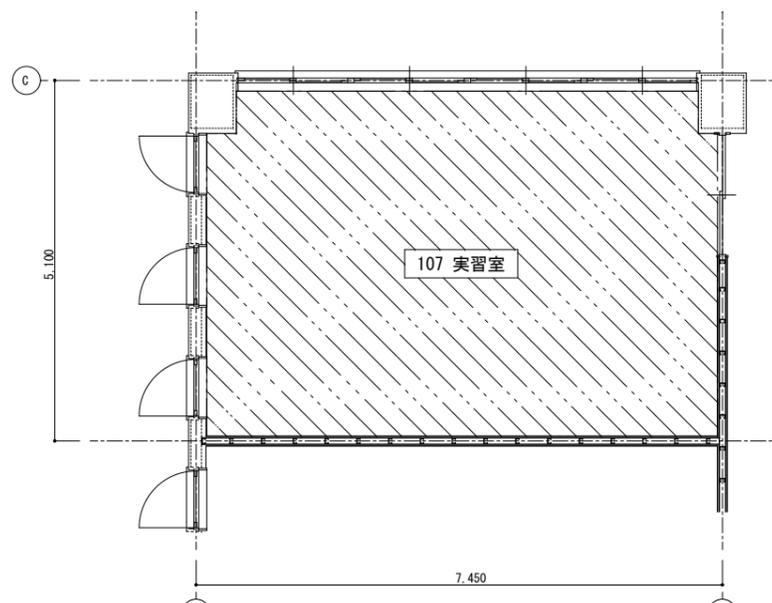
天井伏図 1:100



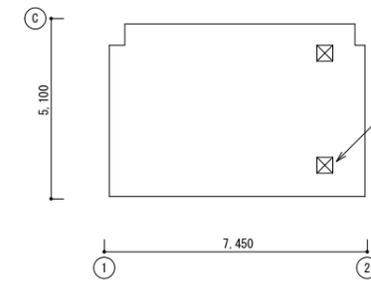
展開図 1:50

- 凡例
- 床撤去範囲
 - ※天井伏図では天井撤去範囲
 - 壁下地共撤去範囲
 - 壁仕上げ材のみ撤去範囲
 - 建具撤去範囲

改修図

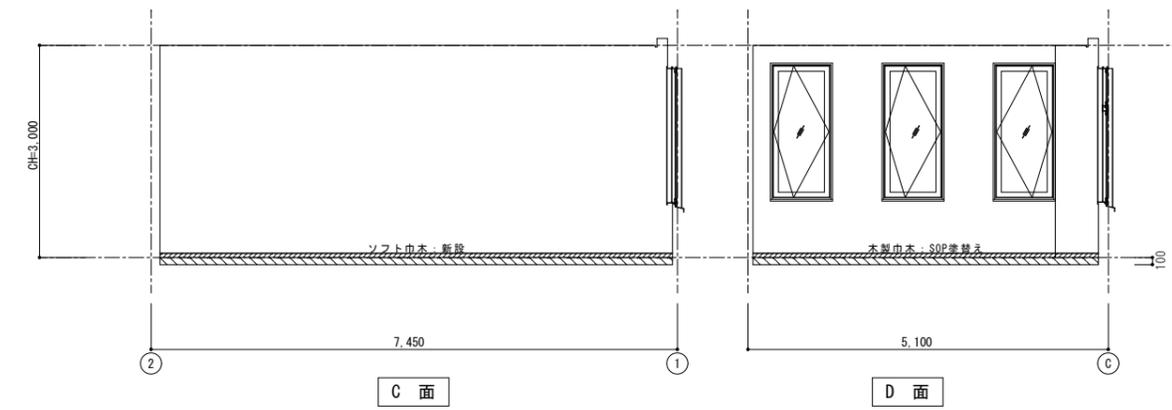
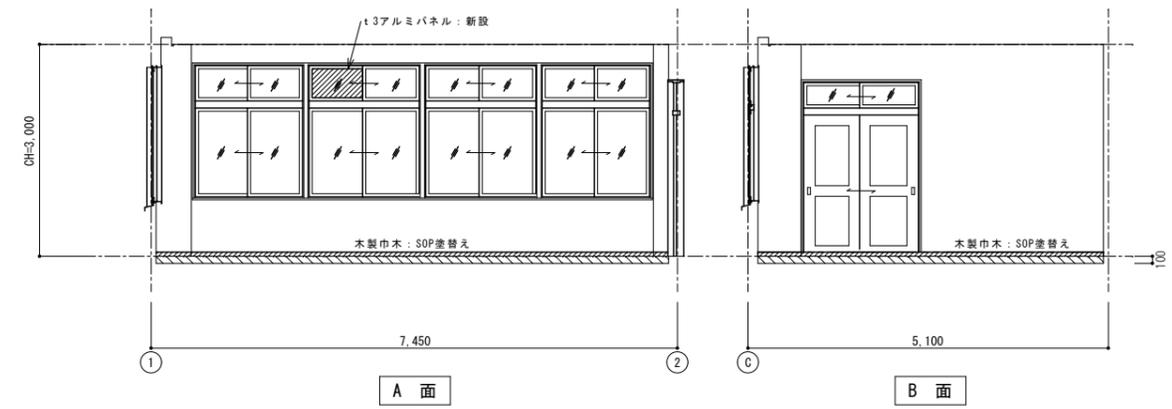


改修仕上表	講義室1 (現状)	→ 107 実習室 (改修)	既設	新設
床	下地: モルタル金ゴテ押え	下地: 床上げコシ+H100 (φ6mm-150×150)		●
	仕上: O.Aフロア、タイルカーペットt5	仕上: エポキシ樹脂系塗床材		●
巾木	ソフト巾木 H=60(間仕切り壁)	ビニル巾木 H=60		●
	本製巾木 SOP H=60	本製巾木 SOP塗替え H=60		●
壁	下地: GB-R t12.5	下地: GB-R t12.5	○	○
	仕上: ビニルクロス	仕上: ビニルクロス	○	○
廻縁				
天井	下地: LGS、GB-R t9.5	下地: LGS、GB-R t9.5	○	○
	仕上: DR t9	仕上: DR t9	○	○
備考	実習室内1カ所、廊下1カ所天井点検口増設			●
	柱型部分 モルタル金ゴテ仕上げ VP塗り			○



平面詳細図 1:50

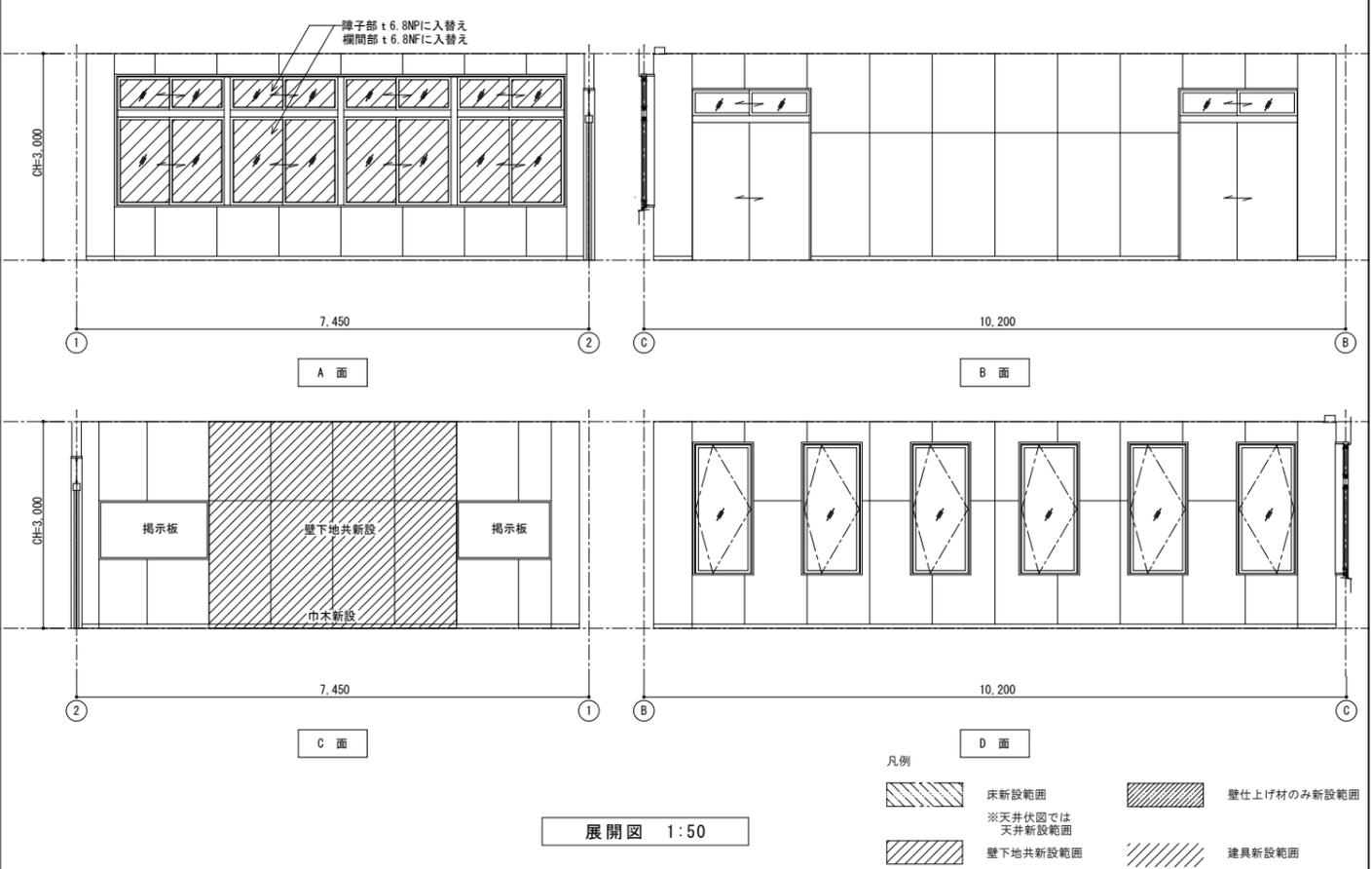
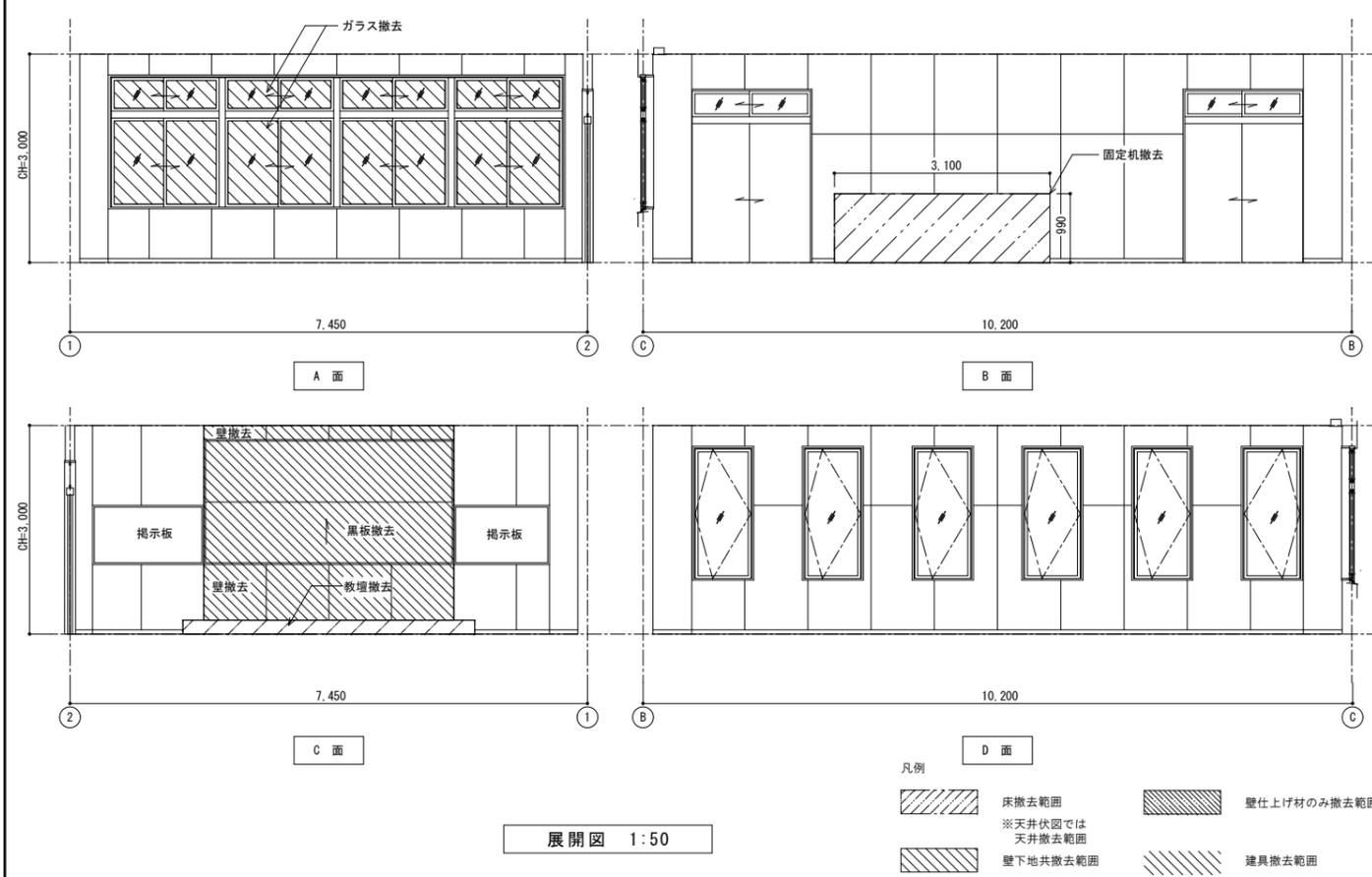
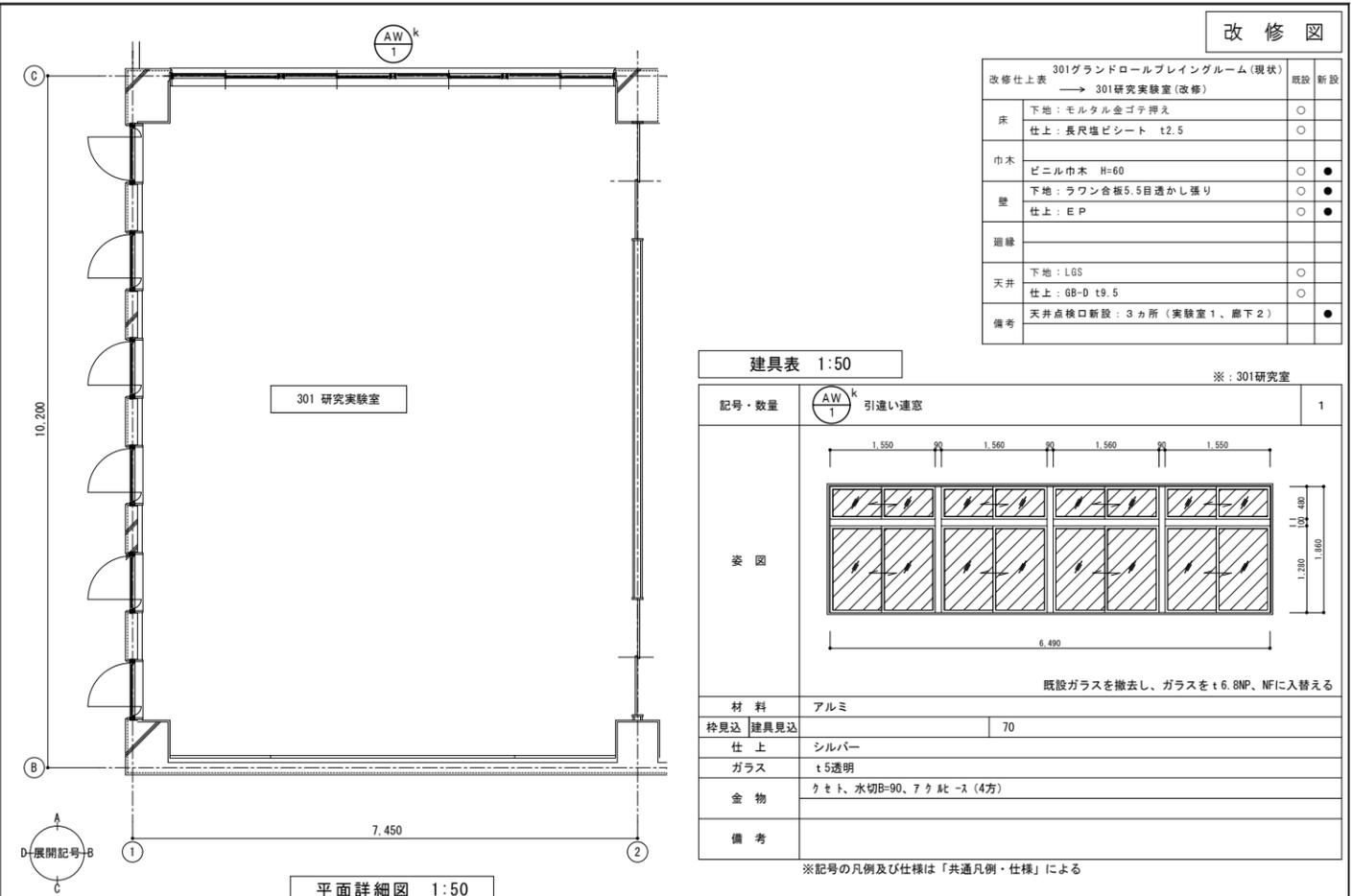
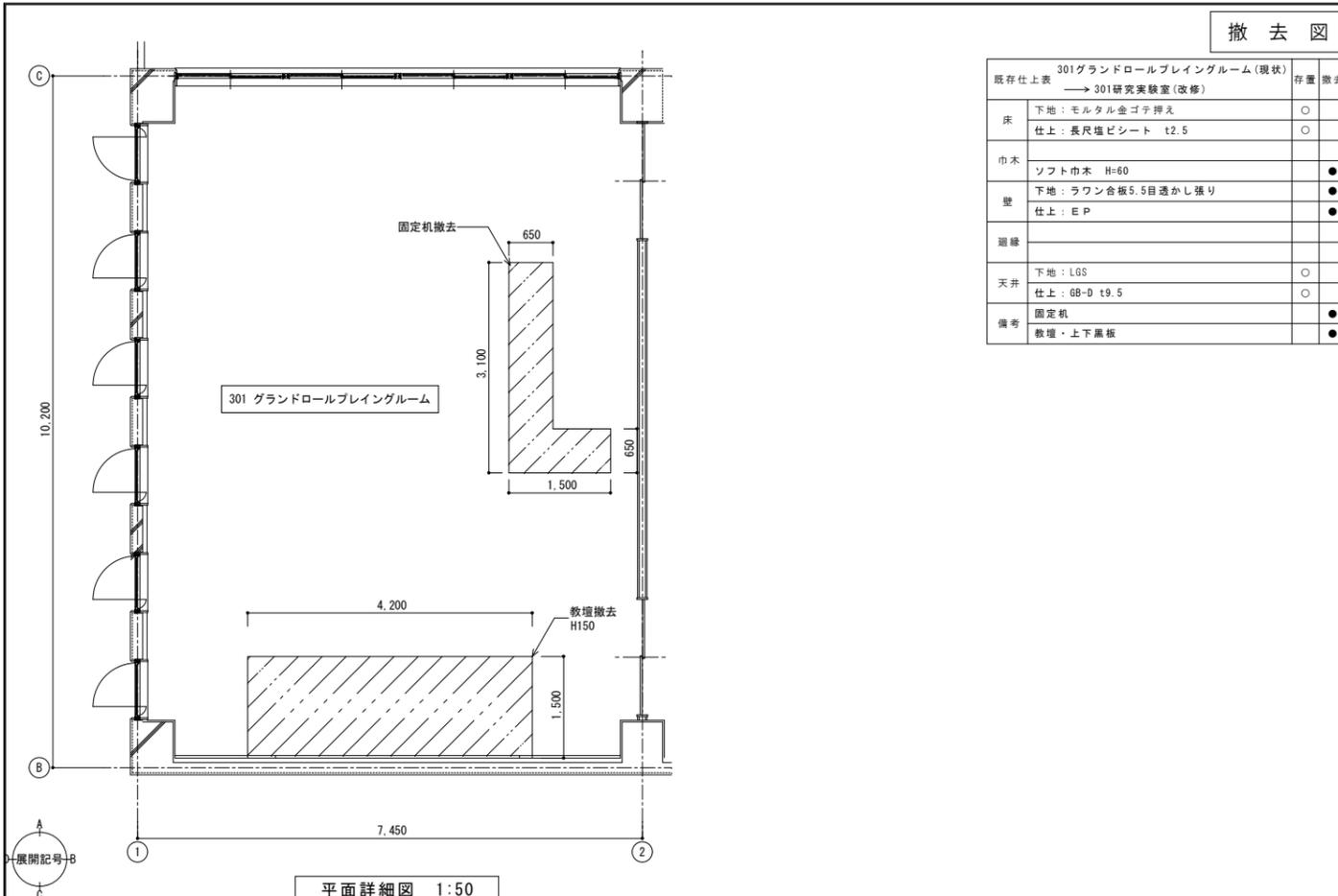
天井伏図 1:100



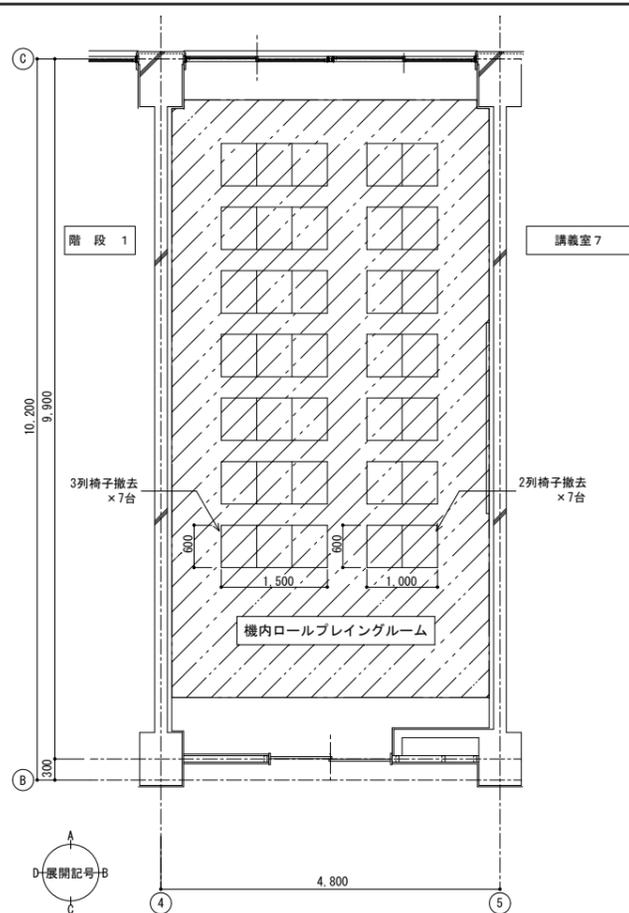
展開図 1:50

- 凡例
- 床新設範囲
 - ※天井伏図では天井新設範囲
 - 壁下地共新設範囲
 - 壁仕上げ材のみ新設範囲
 - 建具新設範囲

特記事項	確認日	2018.03.01	雙 双 星 設 計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174376号)	工事名称 (プロジェクトNo. 160613)	図面名称
	確認者	設備設計一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462号)		一級建築士 (登録番号 20919号) 構造設計一級建築士 (登録番号 2423号) 酒井 勲	公立小松大学 栗津キャンパス 校舎整備工事 (2期) (建築) 107実習室 (撤去・改修図)
	縮尺	A1 1/50 A3 1/100	年月日	2018.03.	図面番号
					A-38



特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号 208319 号) 構造設計一級建築士 (登録番号 2423 号) 酒井 勲	雙星設計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174376号)	工事名称 (プロジェクトNo. 160613)	図面名称
	確認者	設備設計一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462 号)		代表 設計監理部長 検証者 主担当 作成	公立小松大学 栗津キャンパス 校舎整備工事 (2期) (建築)
				縮尺	図面番号
				A1 1/50 A3 1/100	A-39
				年月日	
				2018. 03 .	



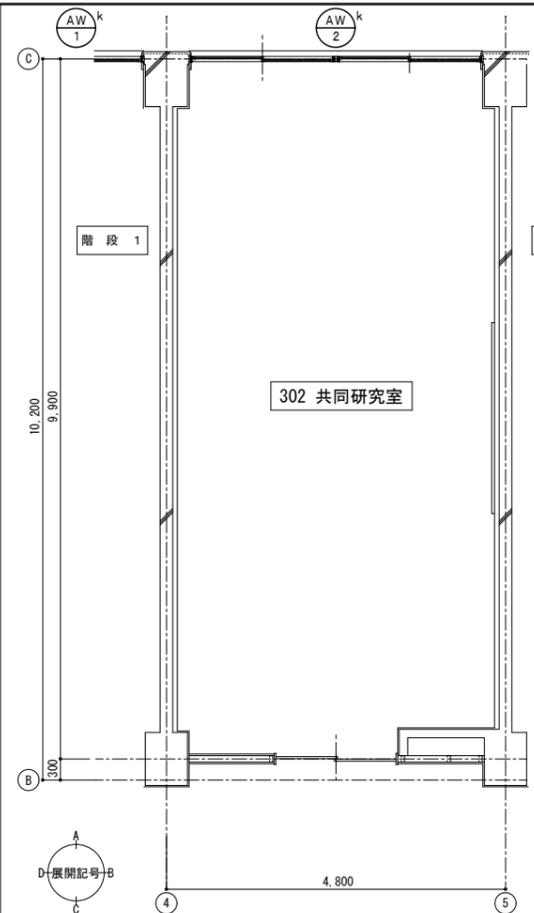
凡例

	床撤去範囲
	※天井伏図では天井撤去範囲
	壁下地共撤去範囲
	壁仕上げ材のみ撤去範囲
	建具撤去範囲

撤去

既存仕上表	機内ロールプレイングルーム(現状)	→ 302 共同研究室(改修)	存置	撤去
床	下地: モルタル金ゴテ押え		○	●
	仕上: フリーアクセスフロー		○	●
	カーペットタイル敷		○	●
	長尺塩ビシート t2.5		○	●
巾木	ソフト巾木 H=60		○	
壁	下地: GB-R t12.5		○	
	仕上: ビニルクロス		○	
廻縁			○	
天井	下地: LGS		○	
	仕上: GB-D t9.5		○	
備考	3列椅子、2列椅子			●

平面詳細図 1:50



凡例

	床新設範囲
	※天井伏図では天井新設範囲
	壁下地共新設範囲
	壁仕上げ材のみ新設範囲
	建具新設範囲

改修

改修仕上表	機内ロールプレイングルーム(現状)	→ 302 共同研究室(改修)	既設	新設
床	下地: 既存下地補修		○	
	仕上: 長尺塩ビシート t2.5		○	
巾木	ビニル巾木 H=60		○	
壁	下地: GB-R t12.5		○	
	仕上: ビニルクロス		○	
廻縁				
天井	下地: LGS		○	
	仕上: GB-D t9.5		○	
備考	天井点検口新設: 2カ所(実験室1、廊下1)			●
	※303 研究実験室			●
	天井点検口新設: 2カ所(実験室1、廊下1)			●

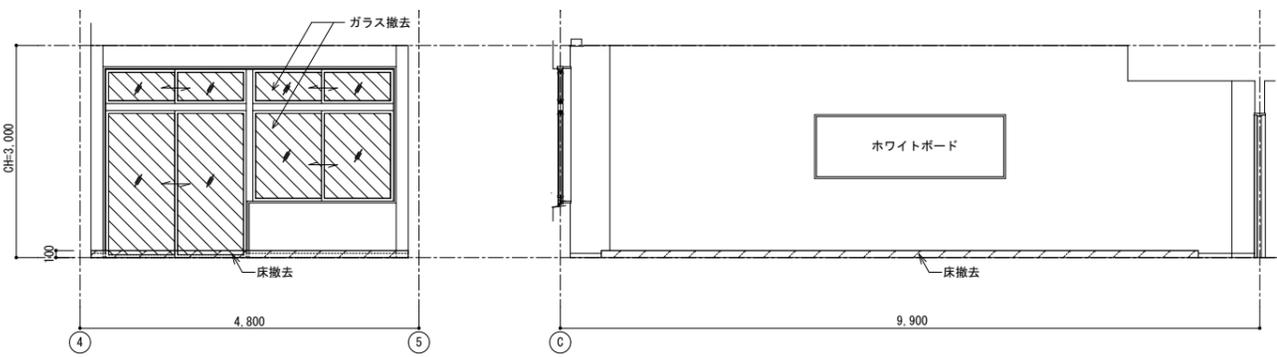
平面詳細図 1:50

建具表 1:50

※: 階段室 ※: 302共同研究室、303研究実験室

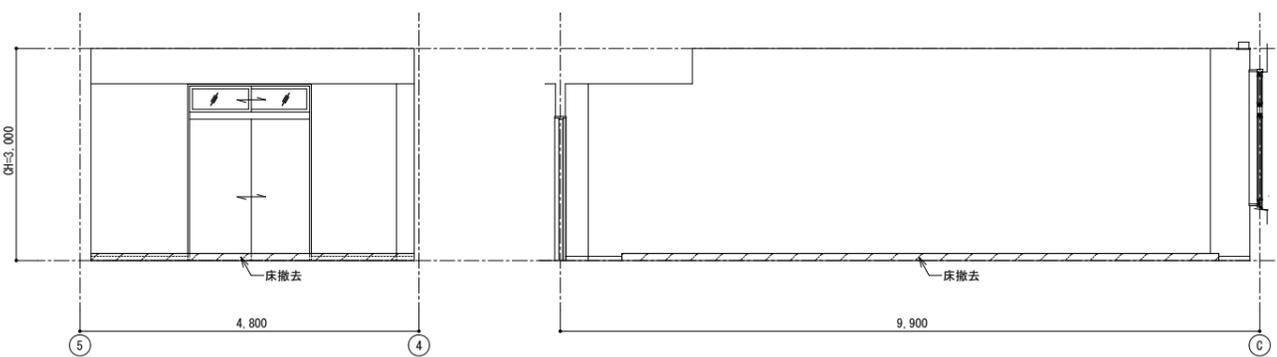
記号・数量	AW1	引違い窓	1	AW2	引違い窓	2
窓						
材料	アルミ			アルミ		
枠見込	建具見込		70		建具見込	70
仕上	シルバー			シルバー		
ガラス	t5透明			t5透明		
金物	クセト、水切B=90、アクリル-ス(4方)			クセト、水切B=90、アクリル-ス(4方)		
備考						

※記号の凡例及び仕様は「共通凡例・仕様」による



A 面

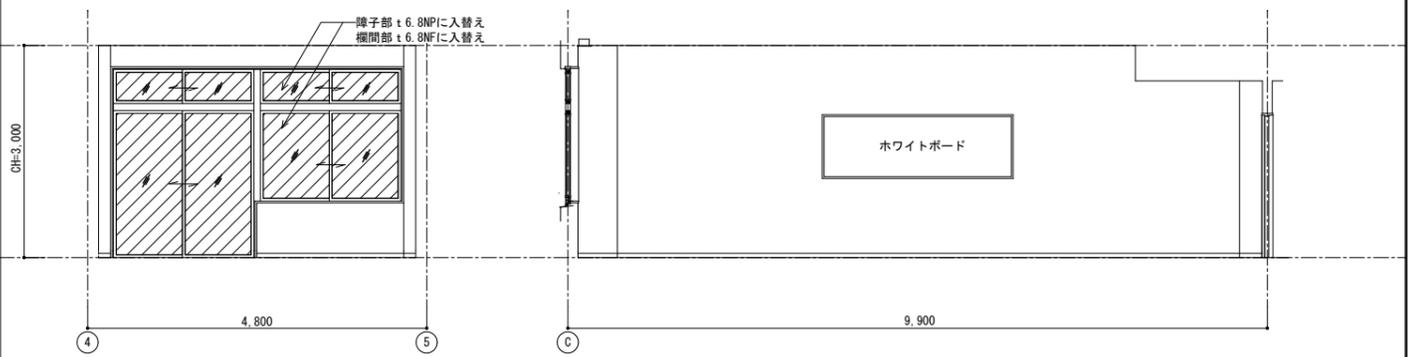
B 面



C 面

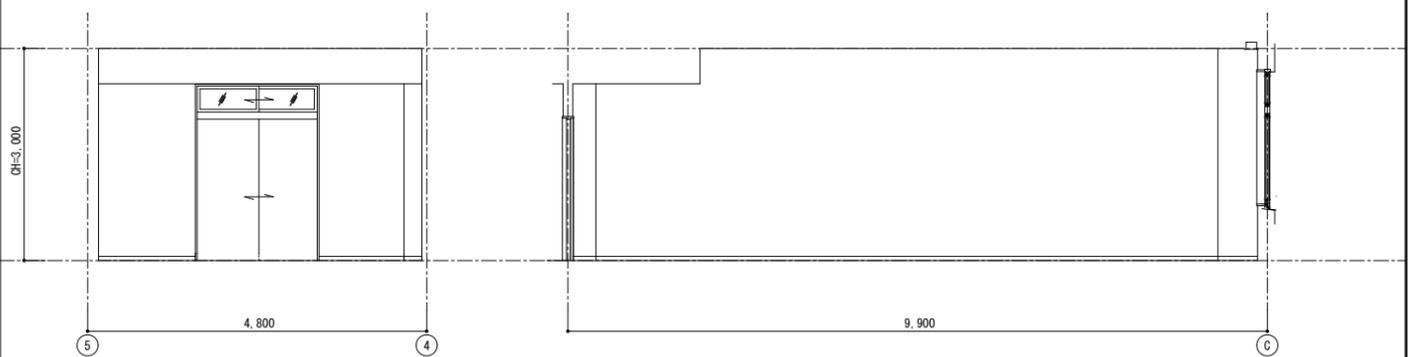
D 面

展開図 1:50



A 面

B 面

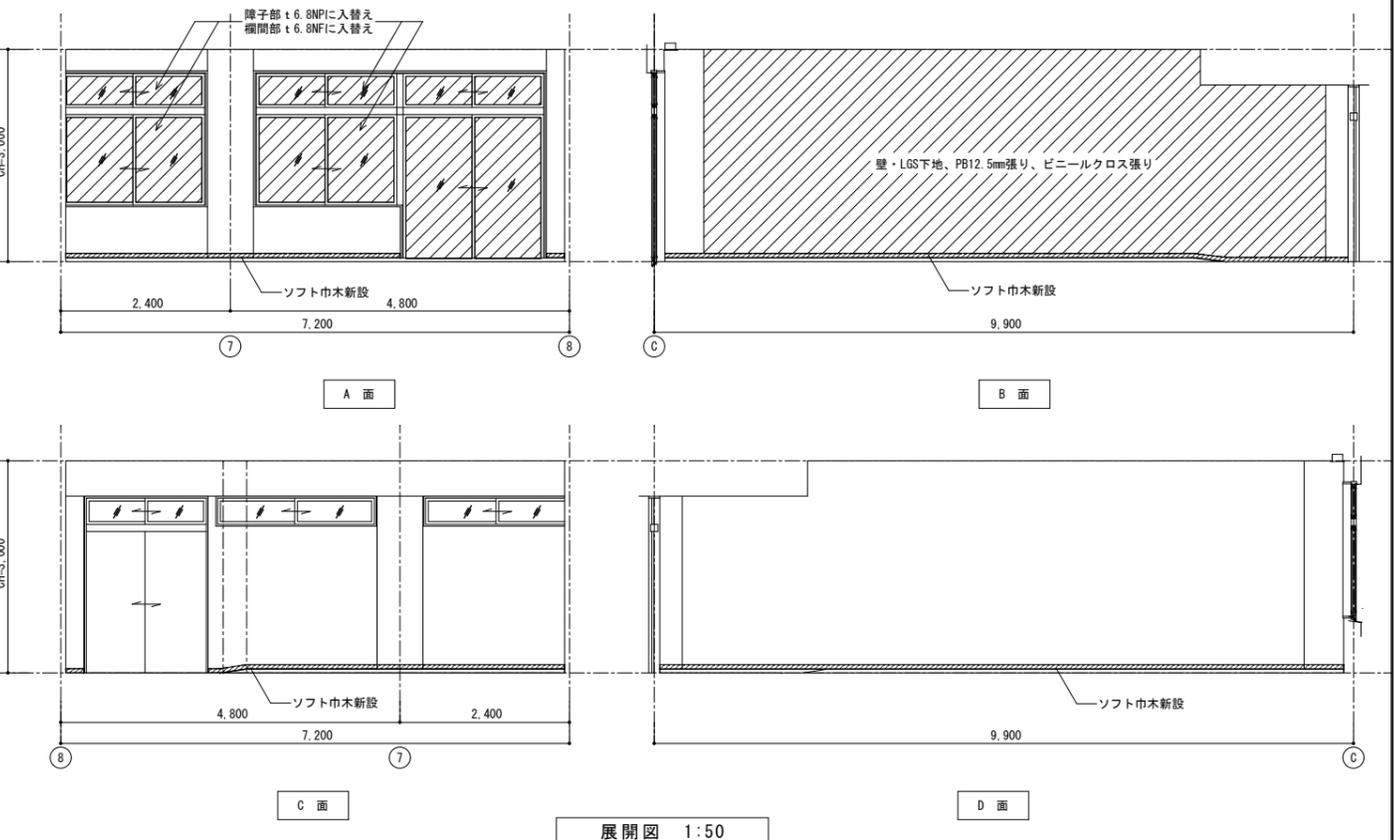
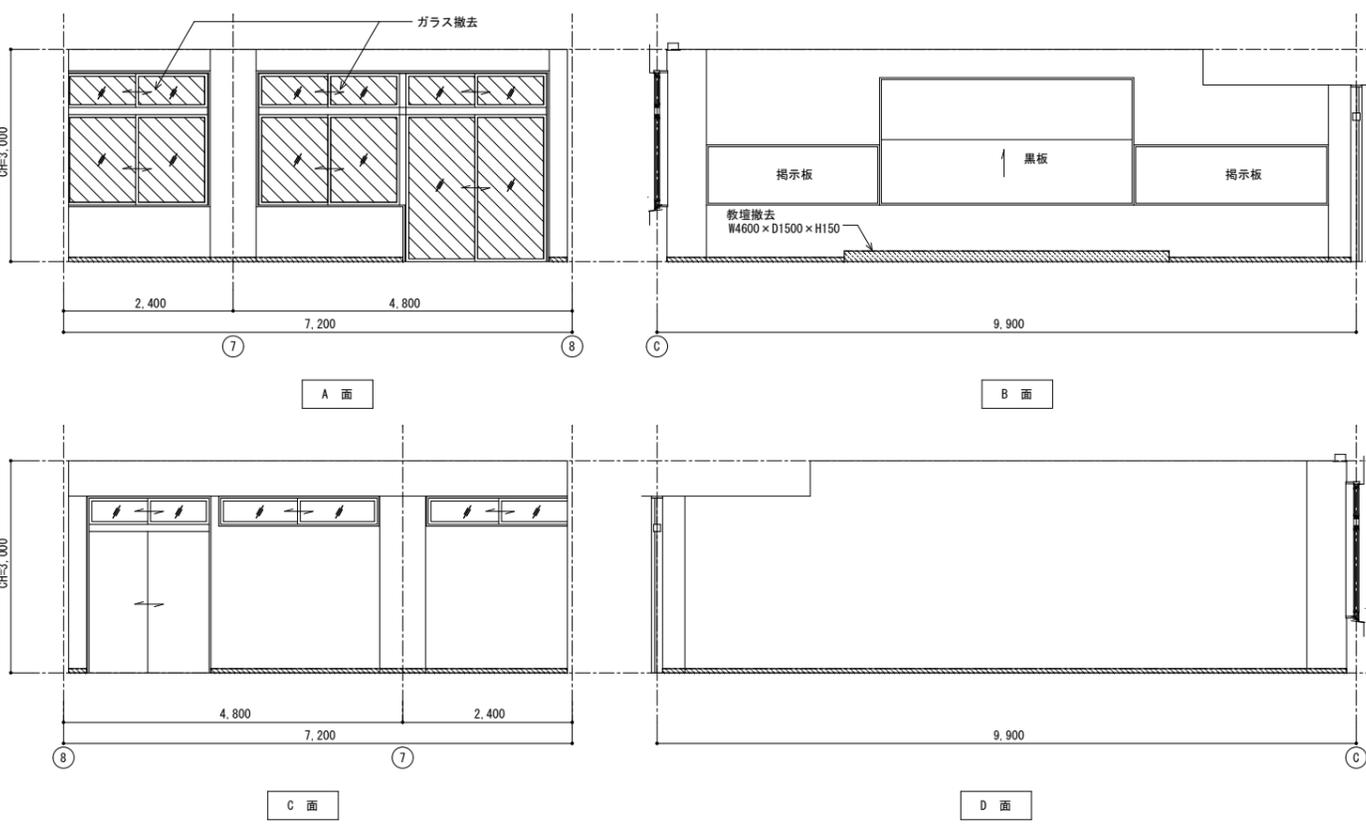
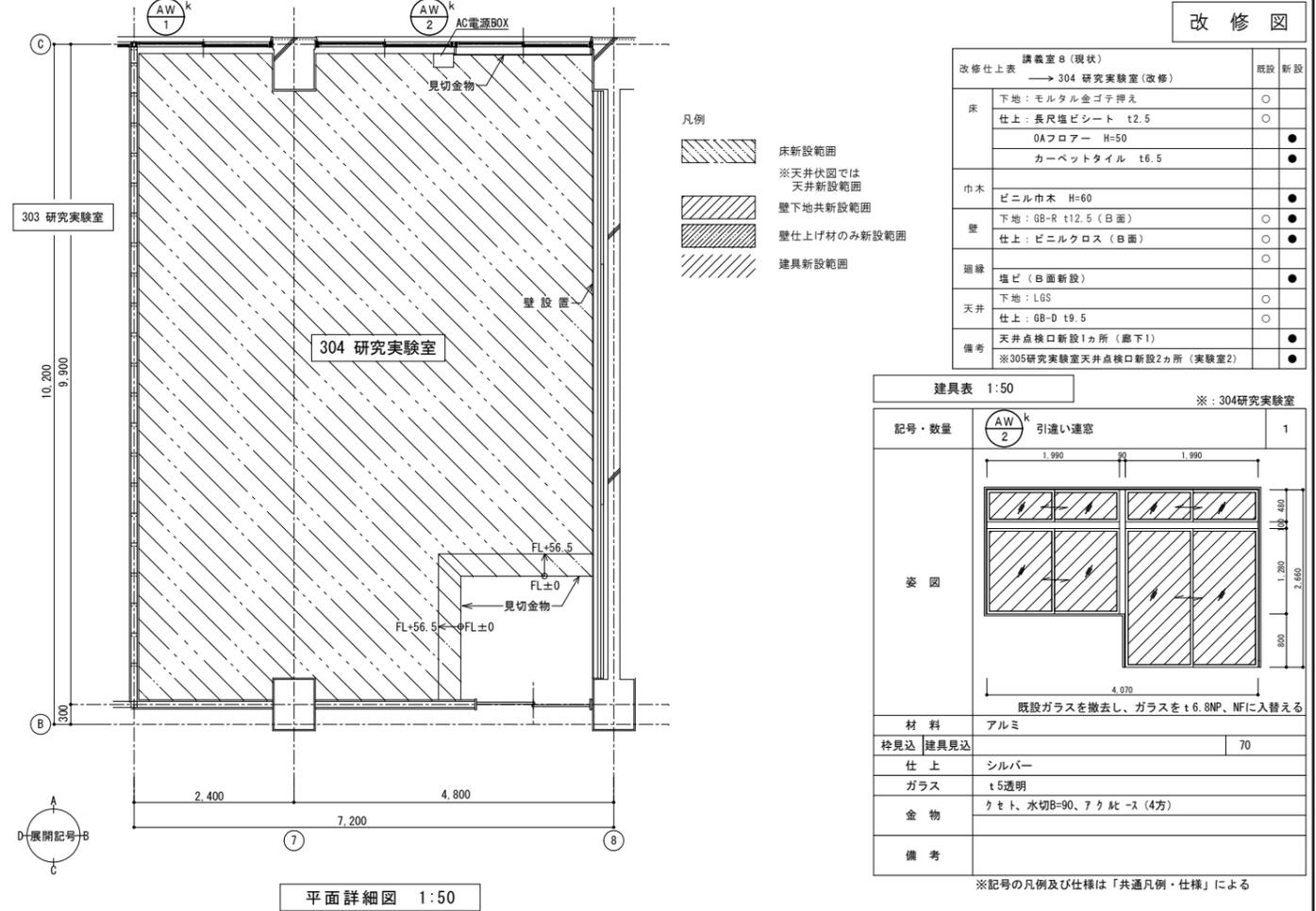
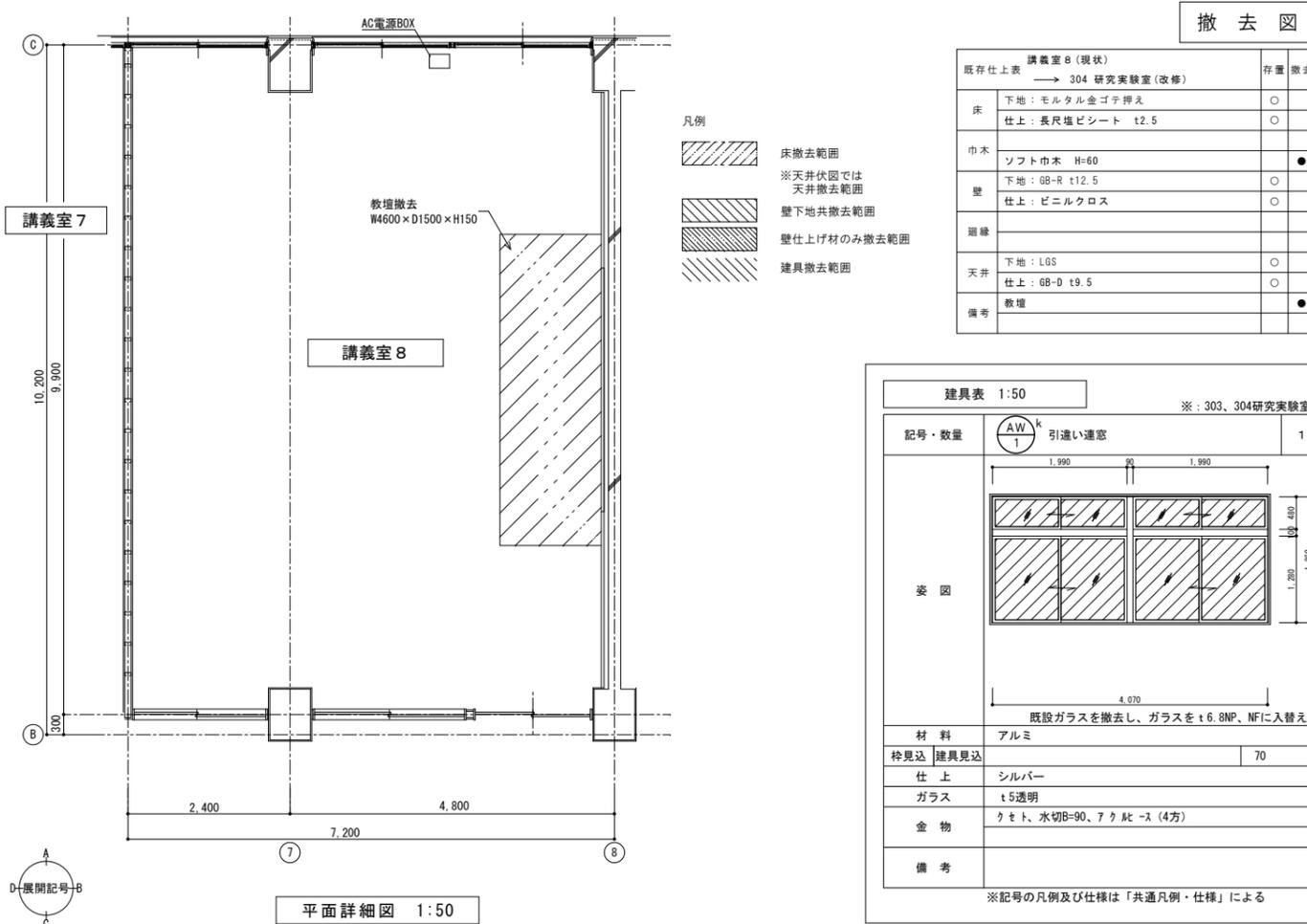


C 面

D 面

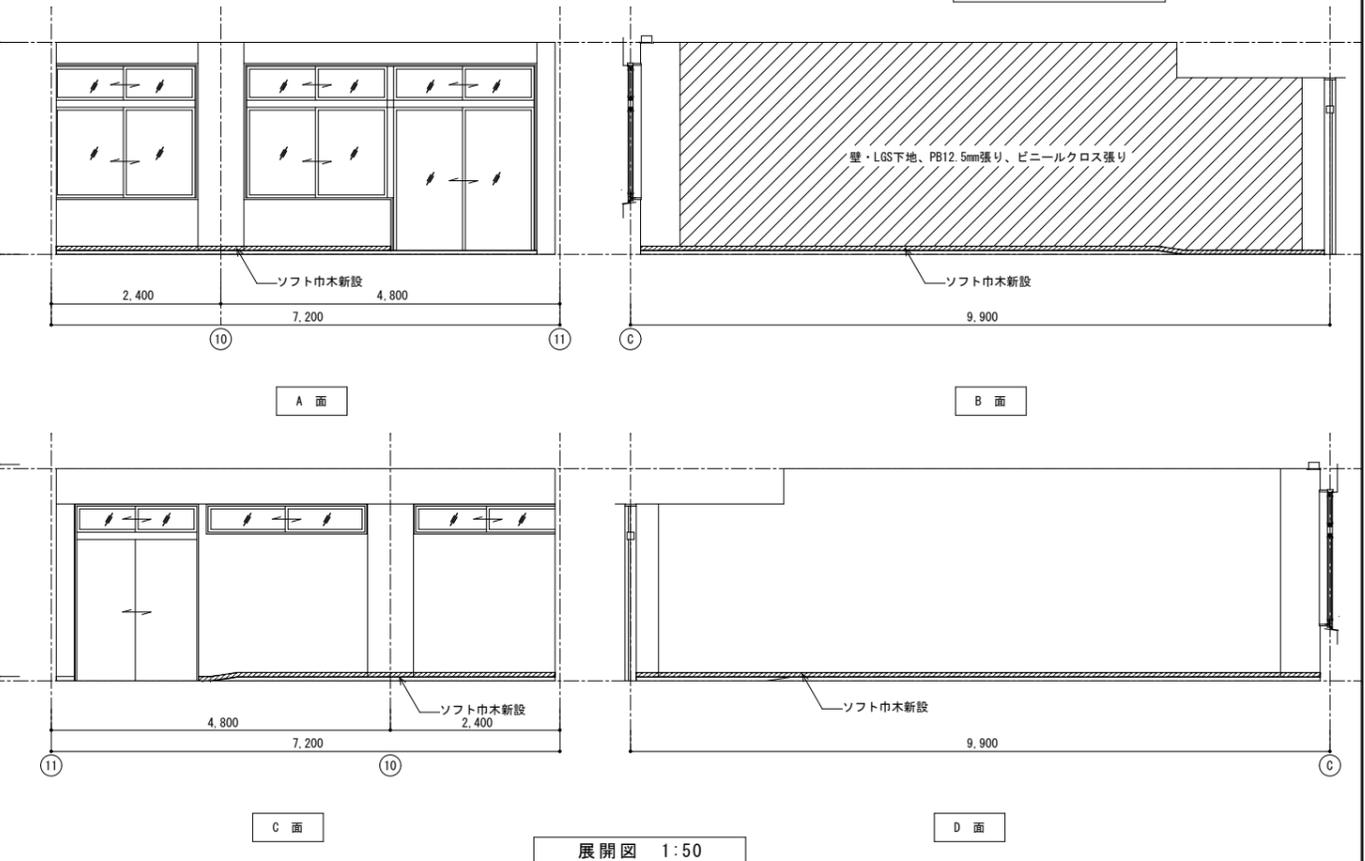
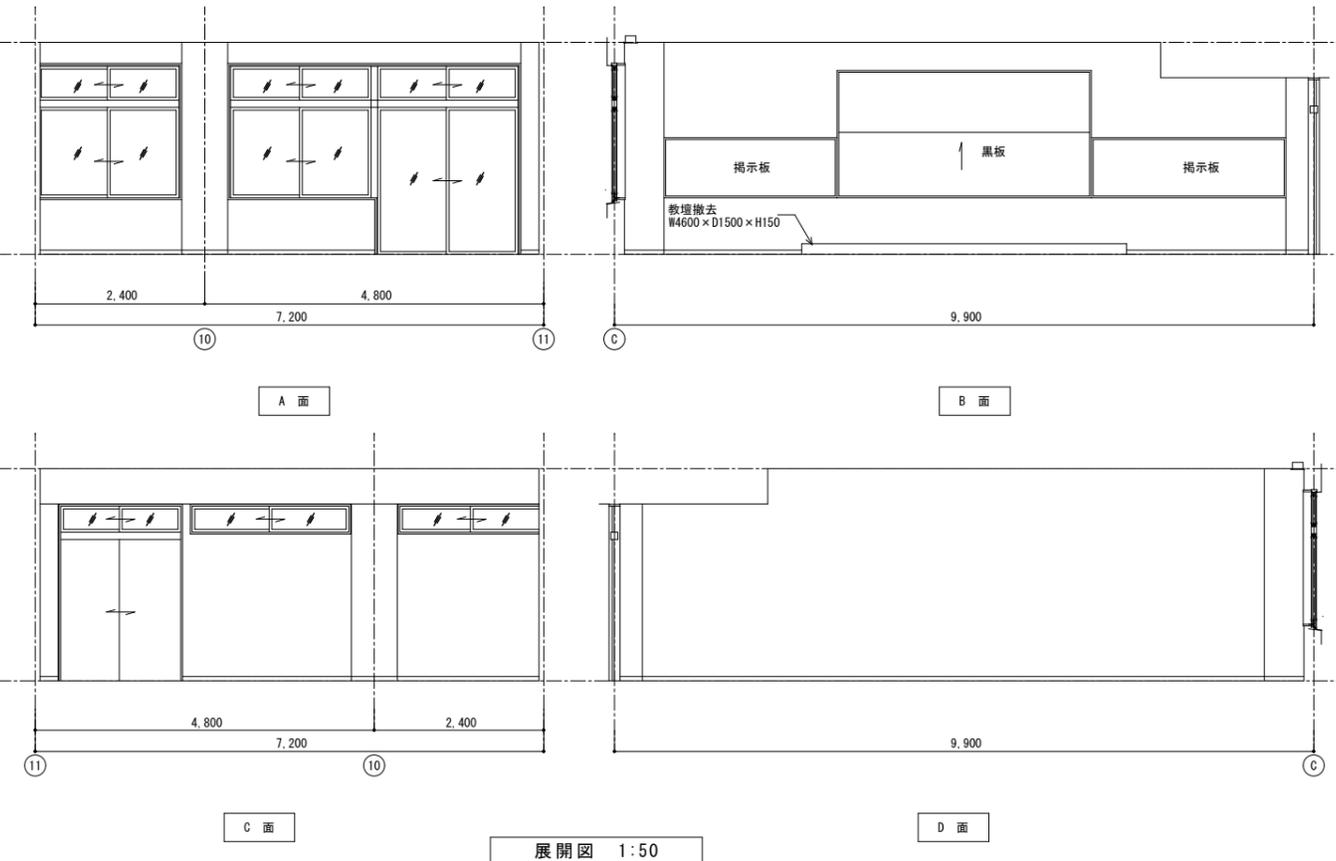
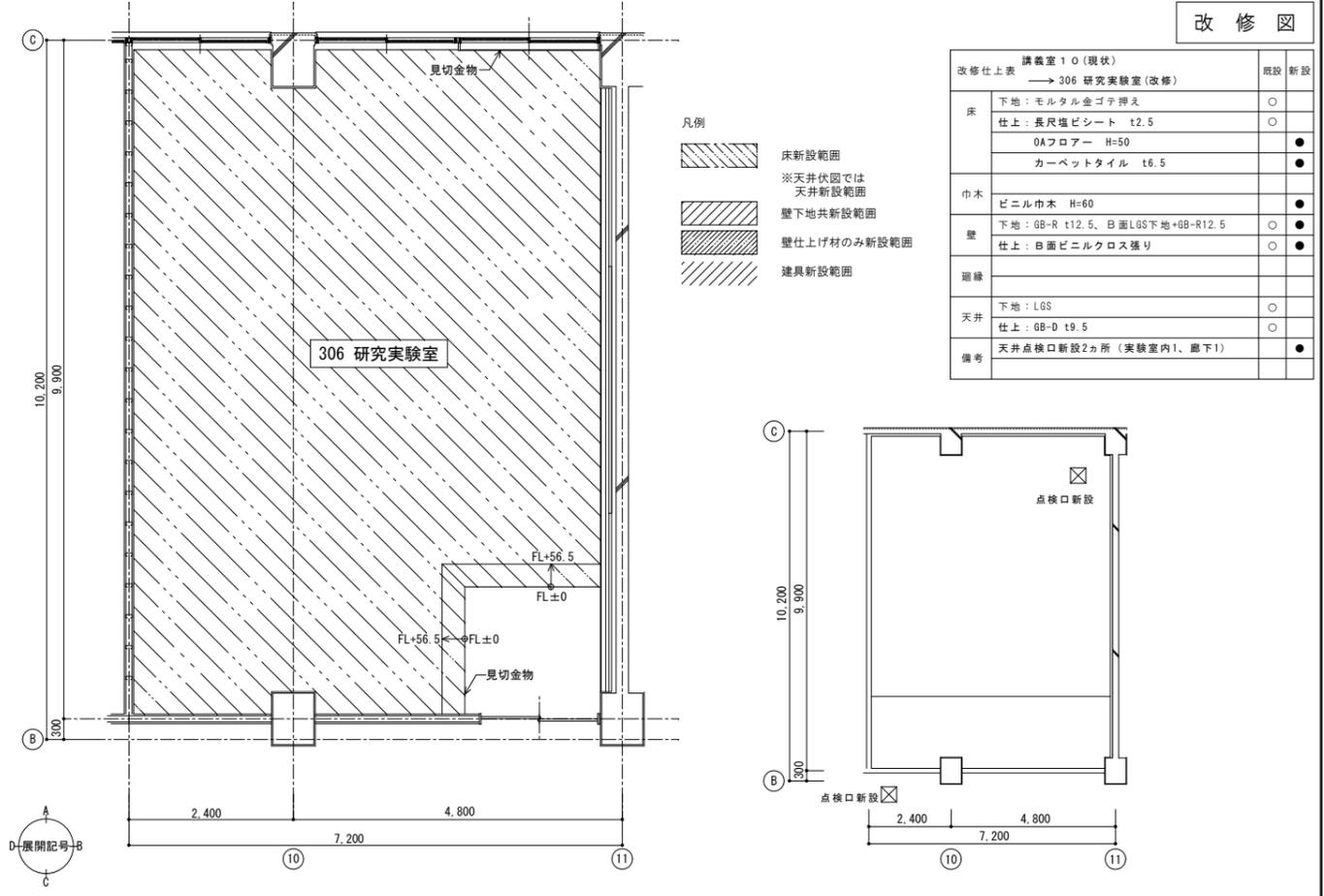
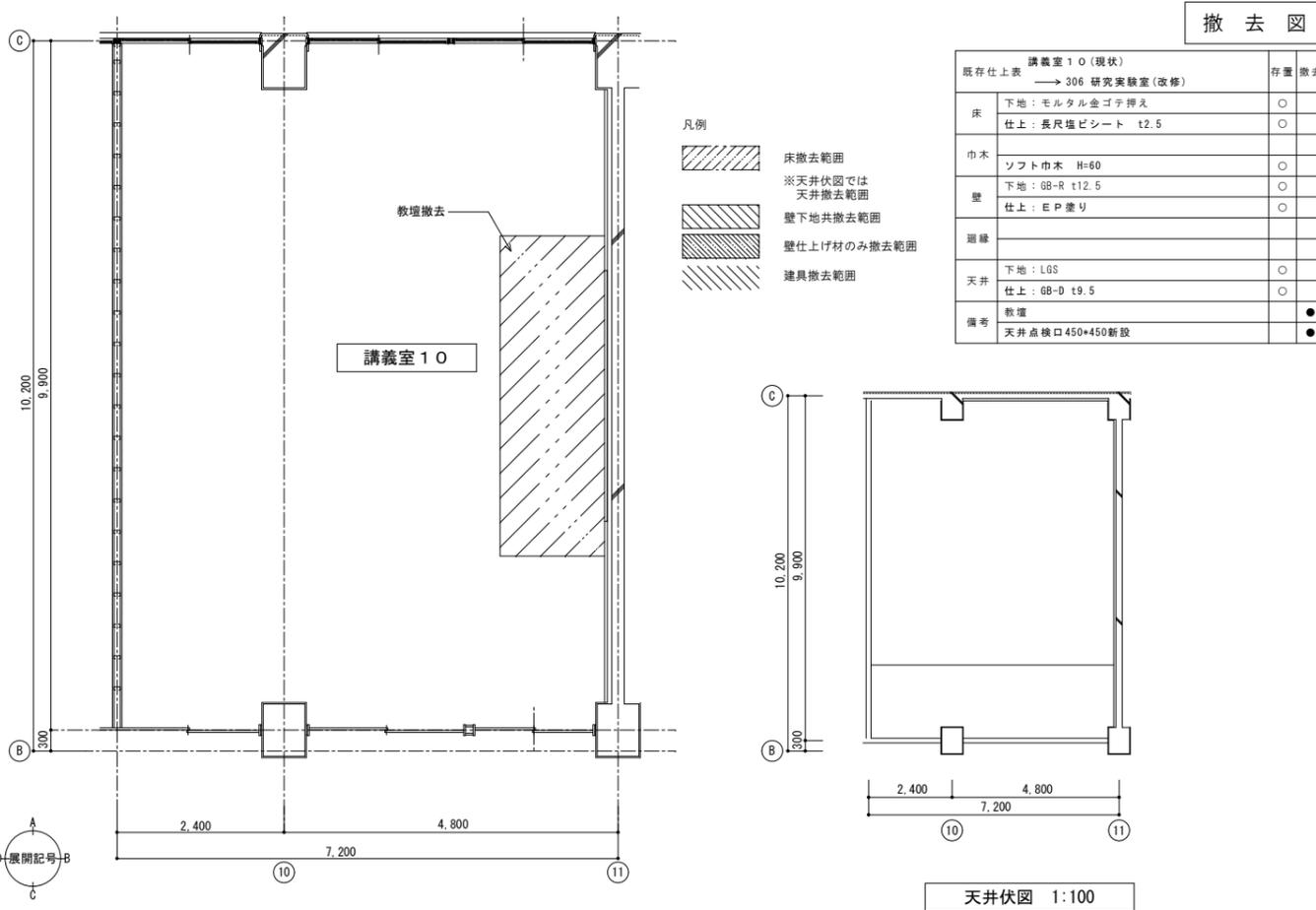
展開図 1:50

特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 酒井 勲	雙星設計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174376号) 代表 設計室部長 検証者 主任 作成	工事名称 (プロジェクトNo. 160613) 公立小松大学 栗津キャンパス 校舎整備工事(2期)(建築) 302共同研究室(撤去・改修)	図面名称 教室棟 3階 302共同研究室(撤去・改修)	
	確認者	設備設計一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462号)				縮尺
				A1 1/50 A3 1/100	2018. 03 .	A-40

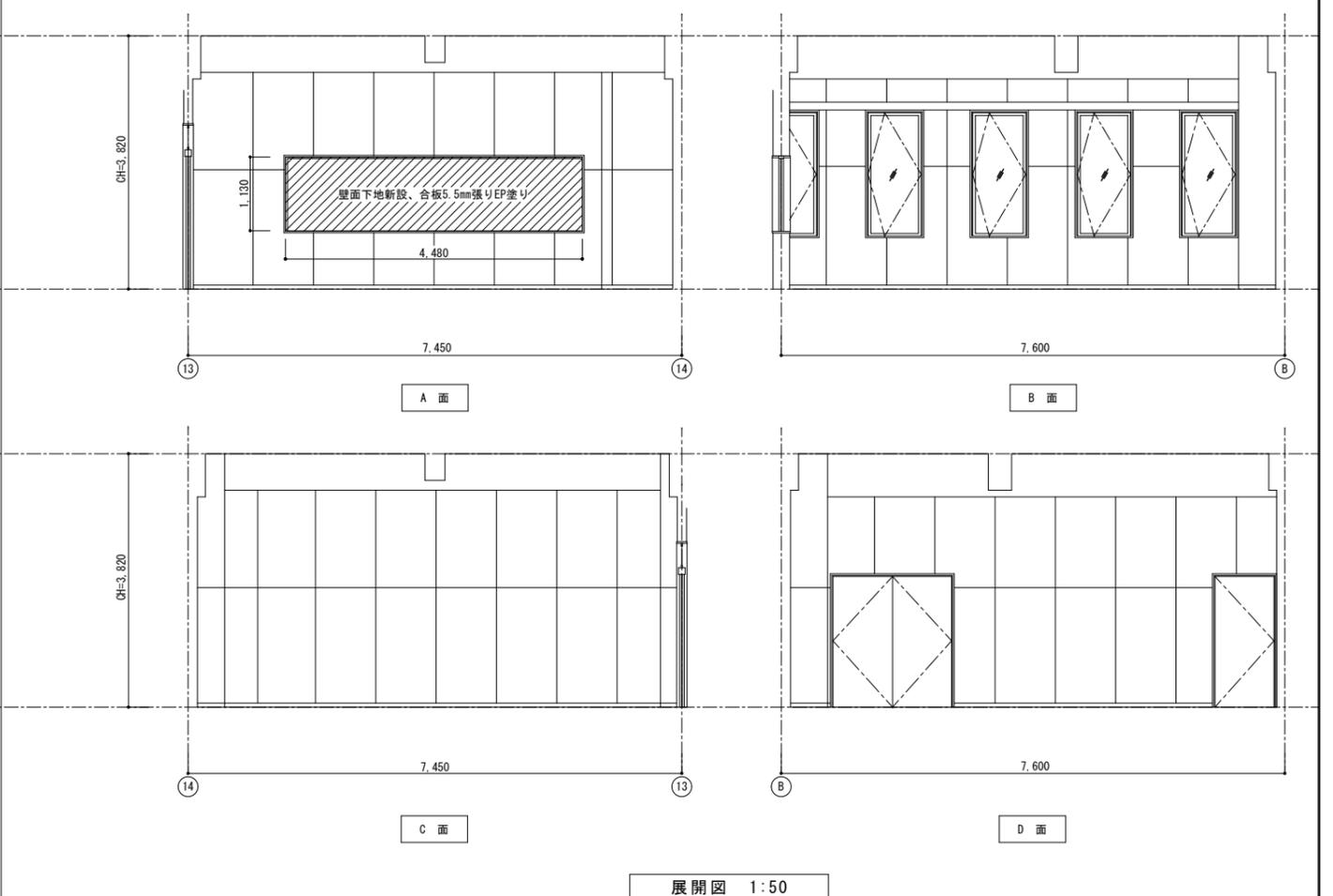
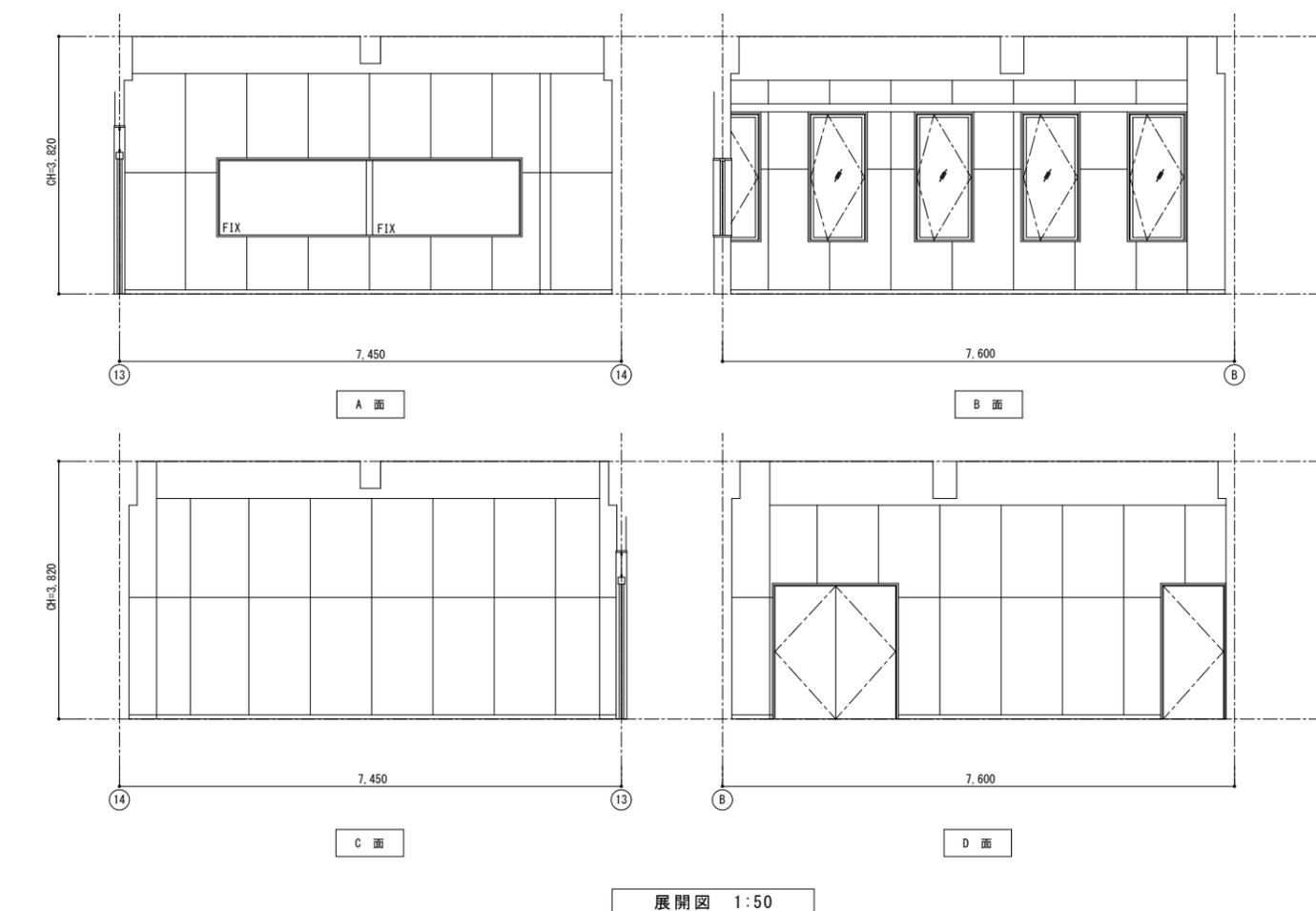
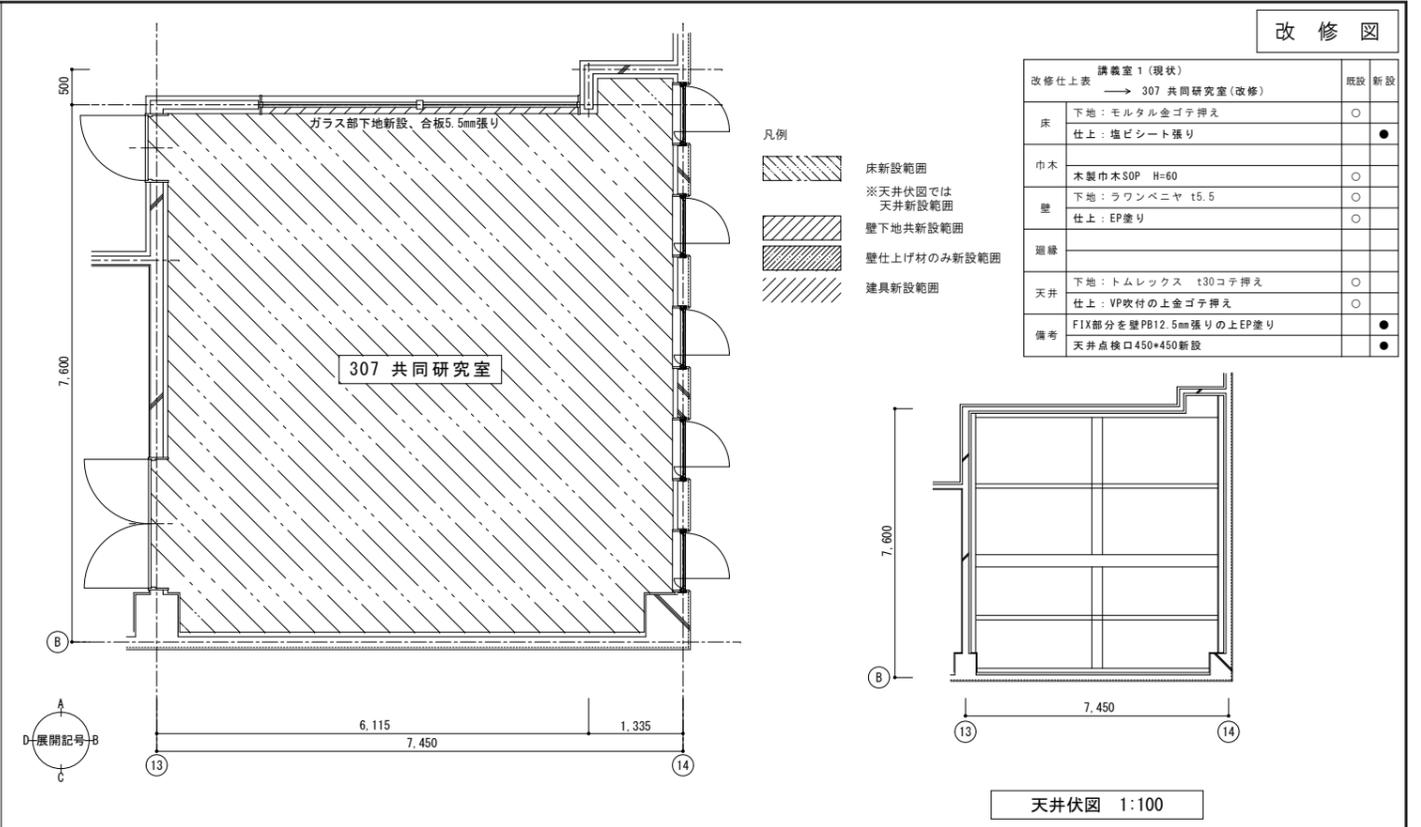
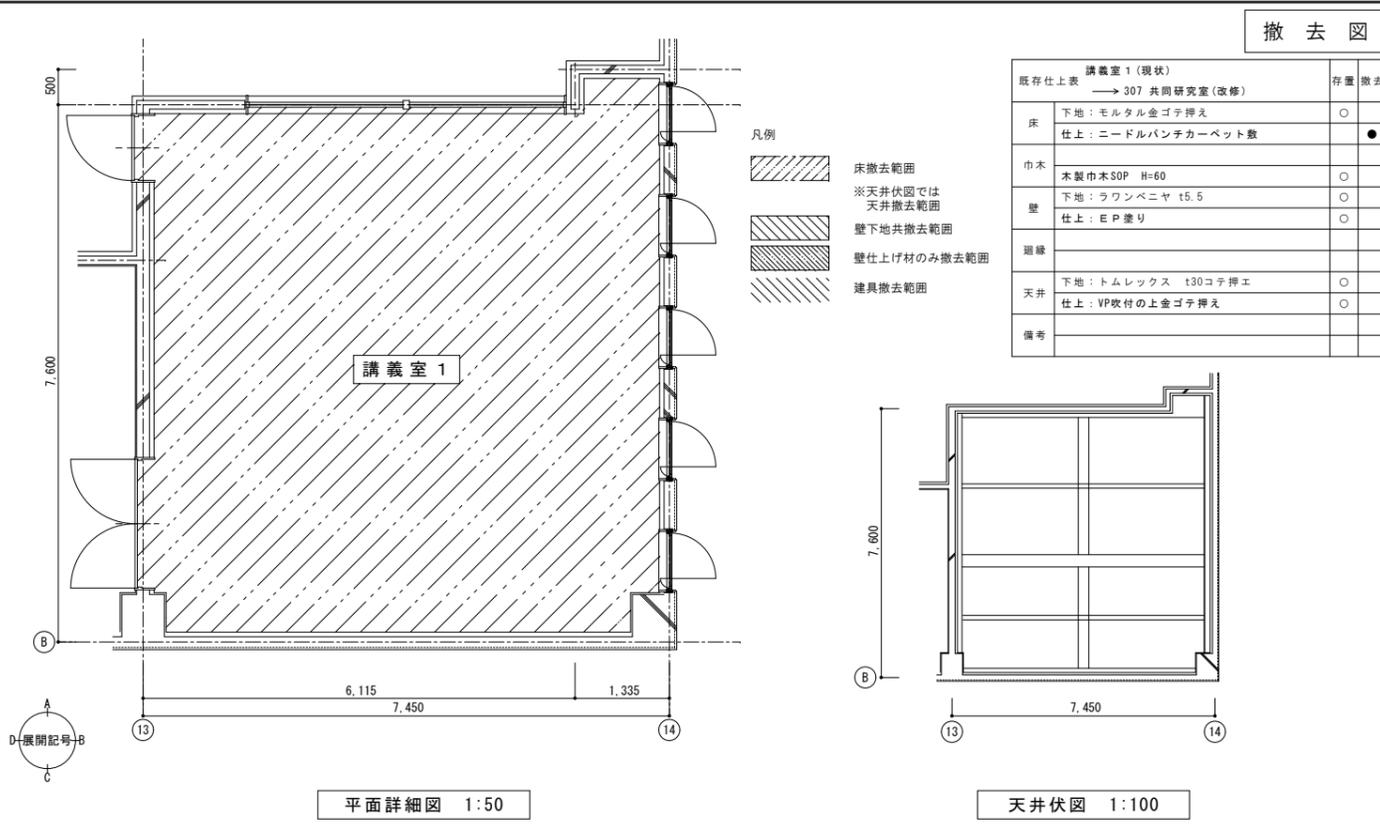


展開図 1:50

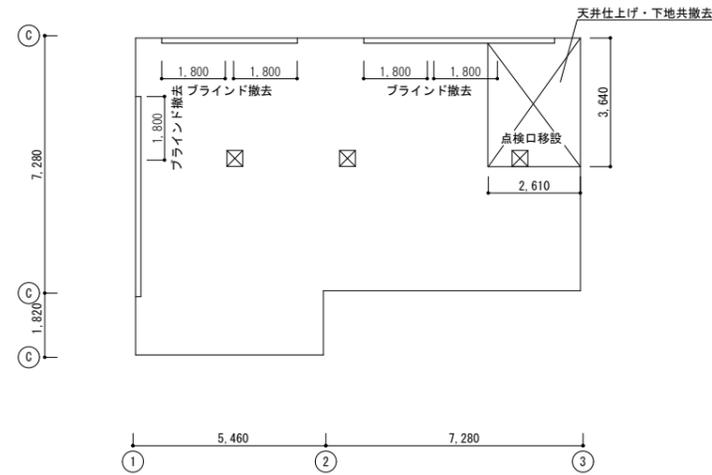
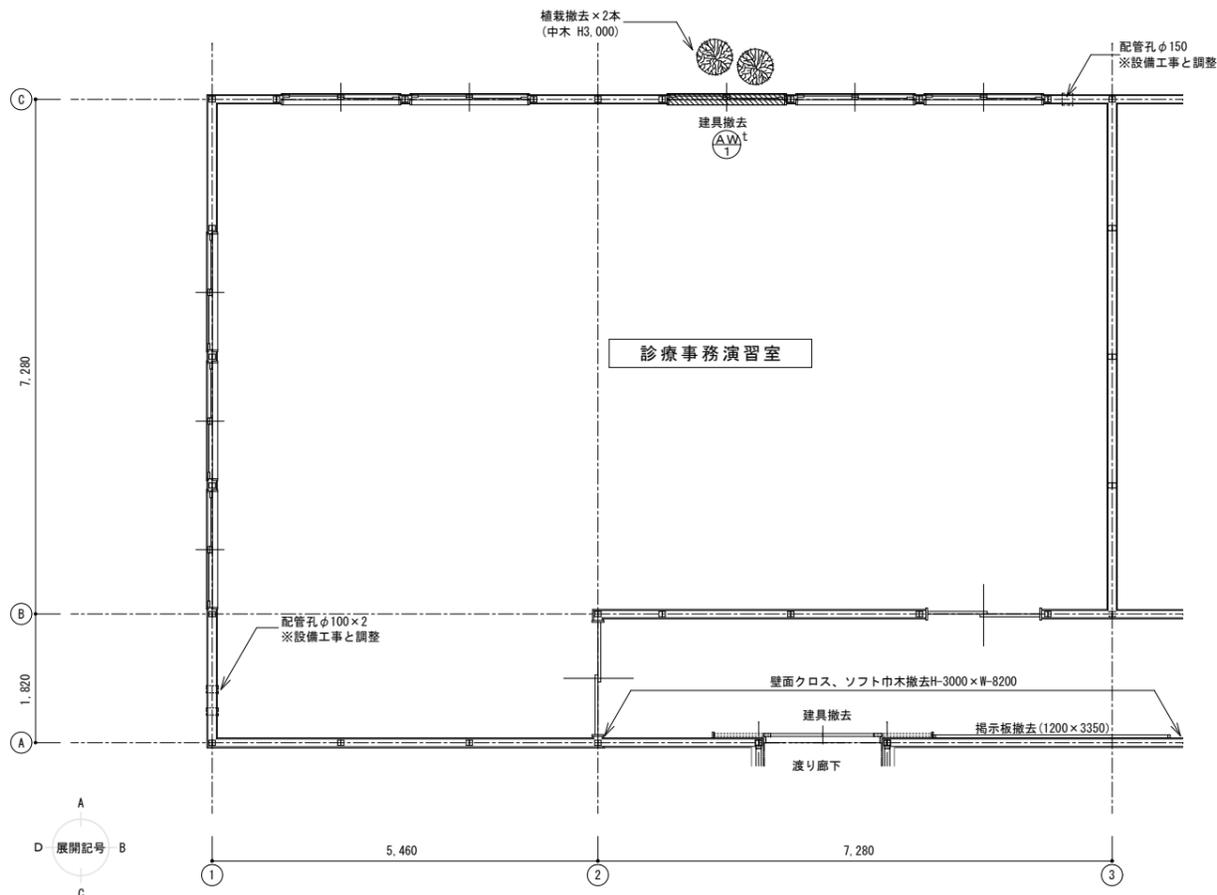
特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号 208319 号) 構造設計一級建築士 (登録番号 2423 号) 酒井 勲	代表	設計室長 中村 武嗣 (登録番号174376号)	工事名称 (プロジェクトNo. 160613)	図面名称
	確認者	設備設計一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462 号)	代表	設計室長 中村 武嗣 (登録番号174376号)	公立小松大学 栗津キャンパス 校舎整備工事 (2期) (建築)	教室棟 3階 304研究実験室 (撤去・改修図)
			縮尺	A1 1/50 A3 1/100	年月日	2018. 03 .
						図面番号 A-41



特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号 208319 号) 構造設計一級建築士 (登録番号 2423 号) 酒井 勲	雙星設計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174376号)	工事名称 (プロジェクトNo. 160613)	図面名称
	確認者	設備設計一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462 号)		代表 設計室長 検証者 主担当 作成	公立小松大学 栗津キャンパス 校舎整備工事 (2期) (建築)
	縮尺	A1 1/50 A3 1/100	年月日	2018. 03 .	図面番号 A-42

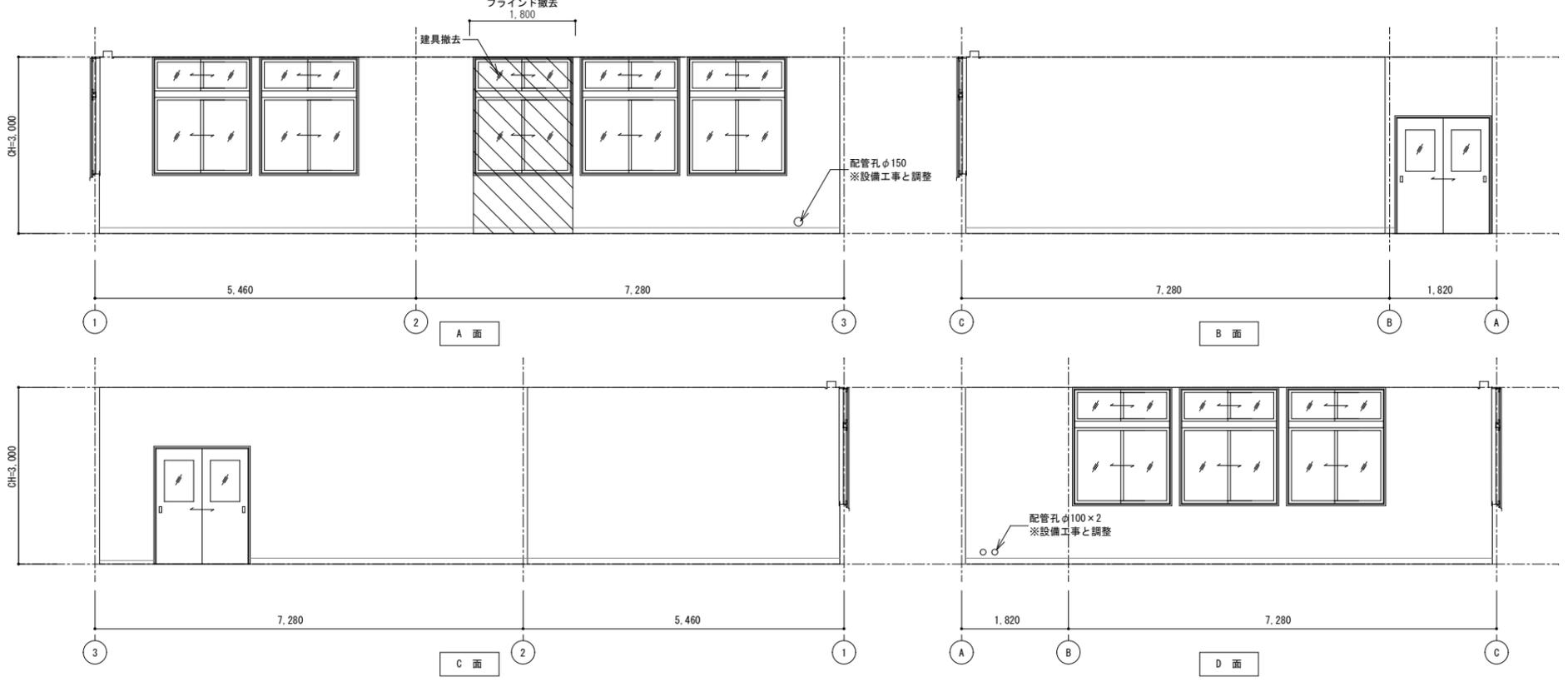


特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号 208319 号) 構造設計一級建築士 (登録番号 2423 号) 酒井 勲	雙星設計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174376号)	工事名称 (プロジェクトNo. 160613) 公立小松大学 栗津キャンパス 校舎整備工事 (2期) (建築) 307研究実験室 (撤去・改修)	図面名称 教室棟 3階 307研究実験室 (撤去・改修)
	確認者	設備設計一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462 号)			



診療事務演習室 (現状)		存置	撤去
既存仕上表	→ 108研究実験室 (改修)		
床	下地: モルタル金ゴテ押え 仕上: 塩ビシート	○	
巾木	ソフト巾木 H=100	○	
壁	下地: GB-R t12.5 仕上: ビニルクロス	○	
廻縁			
天井	下地: LGS 仕上: GB-D t9.5	○	●
備考	ブラインド、植栽		●

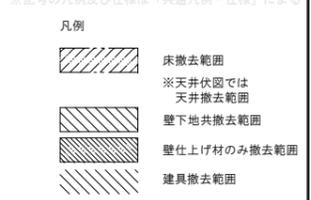
平面詳細図 1:50



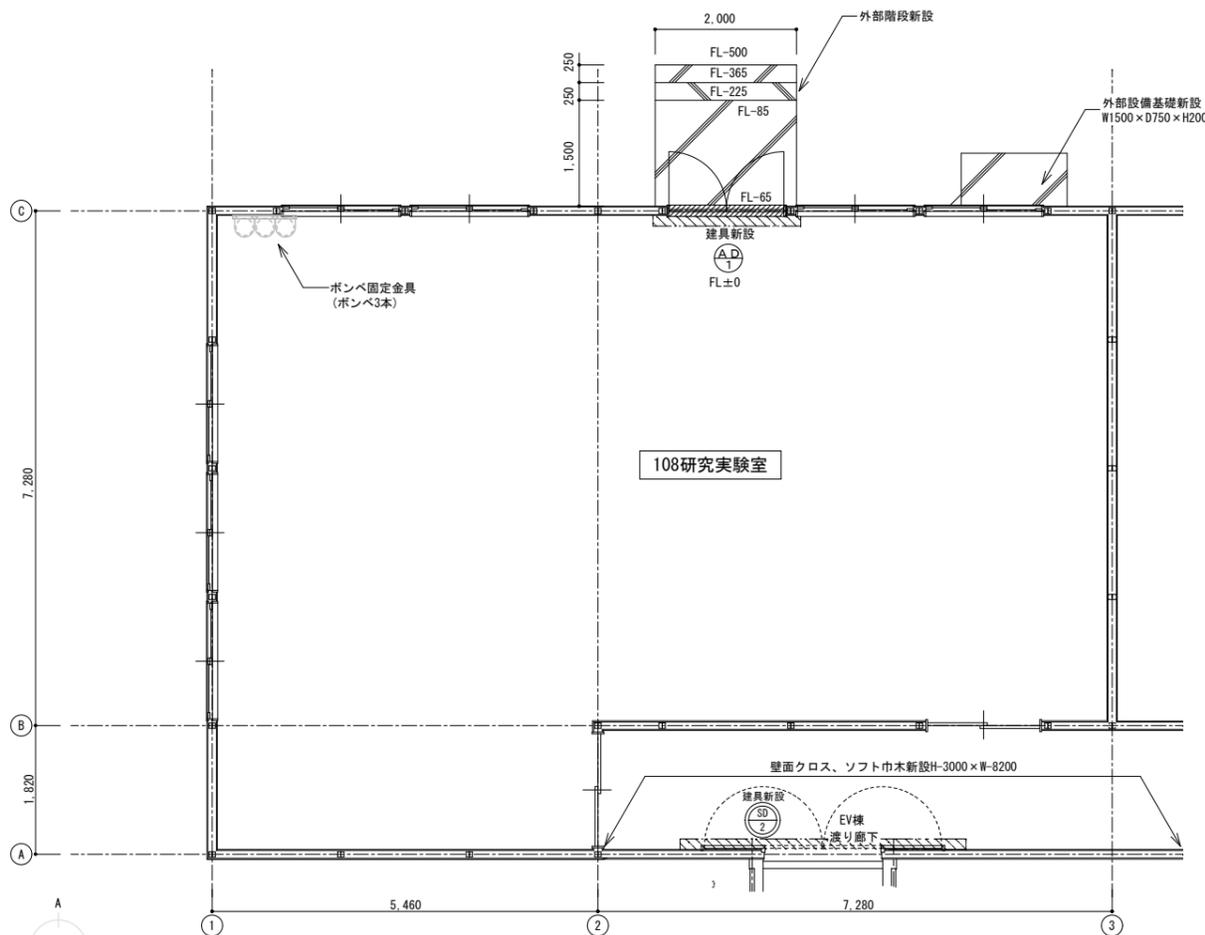
展開図 1:50

建具表 1:50

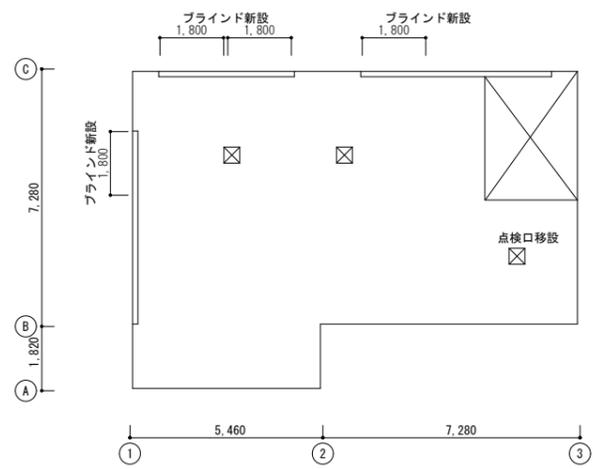
記号・数量	引違い窓、ランマ引違い窓付	1
窓	AW1	1
材料	アルミ	
枠見込	建具見込	160 40
仕上	電解二次着色	
ガラス	FL-5	
金物	CR、アングル	
備考		



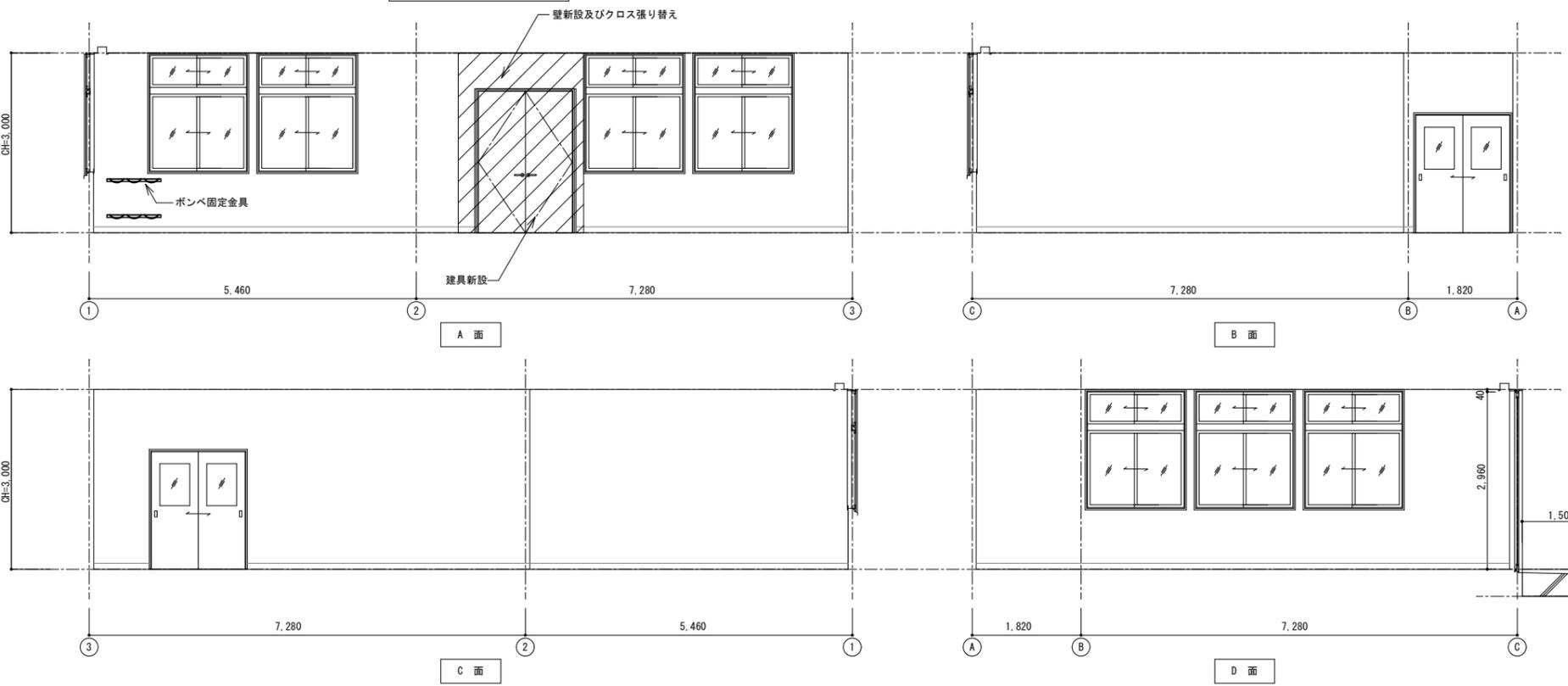
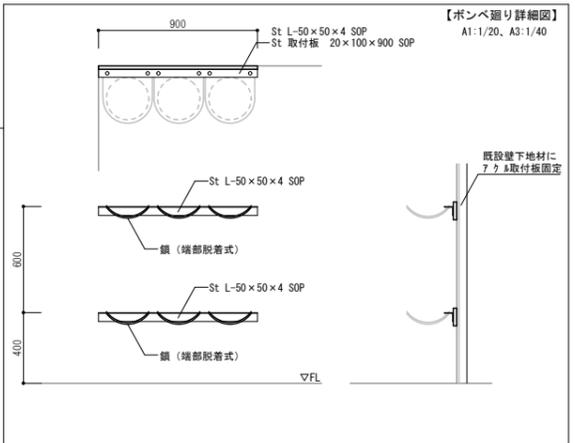
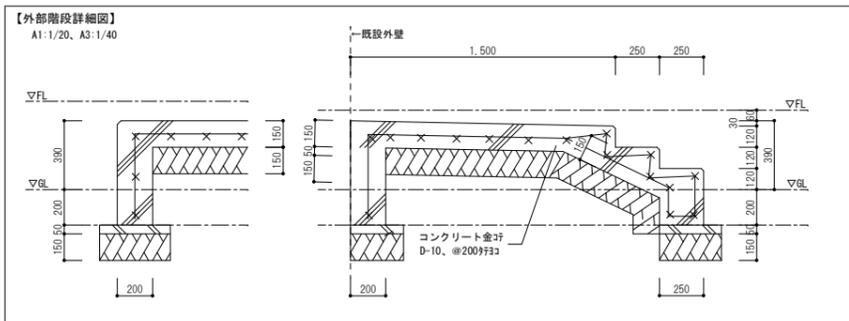
特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号 208319号) 構造設計一級建築士 (登録番号 2423号) 酒井 勲	雙星設計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174376号)	工事名称 (プロジェクトNo. 160613)	図面名称
	確認者	設備設計一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462号)		代表 設計室副部長 検証者 主担当 作成	公立小松大学 栗津キャンパス 校舎整備工事 (2期) (建築)
	縮尺	A1 1/50 A3 1/100	年月日	2018. 03 .	図面番号 A-44



平面詳細図 1:50



天井伏図 1:100



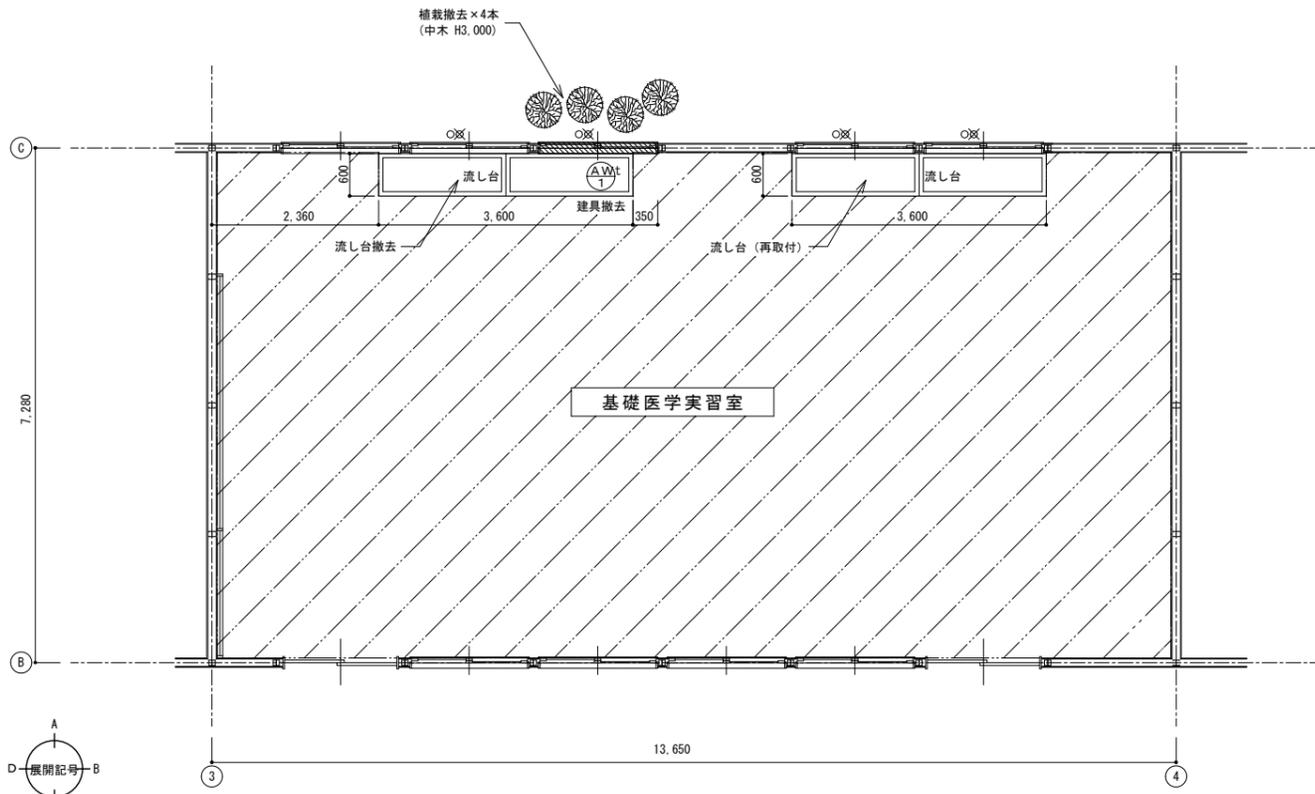
展開図 1:50

改修仕上表	診療事務演習室 (現状)	108研究実験室 (改修)	既設	新設
床	下地: モルタル金ごて押え		○	
	仕上: 塩ビシート		○	
巾木	ビニル巾木 H=100		○	
壁	下地: GB-R t12.5		○	
	仕上: ビニルクロス		○	
天井	下地: LGS		○	
	仕上: GB-D t9.5		○	
備考	外部階段、外部設備基礎			●
	渡り廊下壁クロス、ソフト巾木新設			●
	ポンベ固定金具、ブラインド4ヶ所新設			●

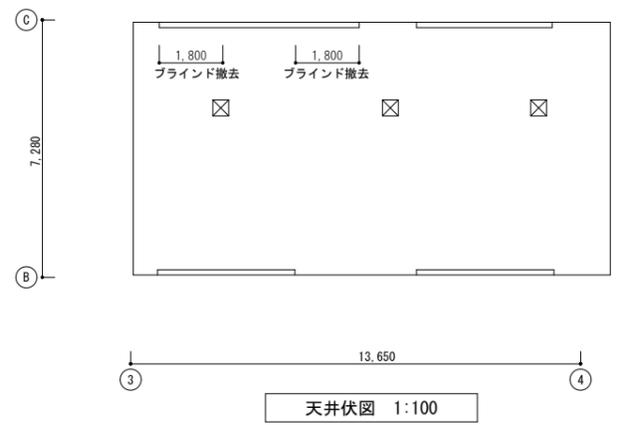
建具表 1:50		両開き扉	1
記号・数量	ASD 1		
図			
材料	アルミ		
枠見込	建具見込	220	40
仕上	二次電解着色		
ガラス	ウモハト、S、DC (ストパ-無し)、T、SK、TA		
金物	AM、付属金物一式		
備考			

- ※記号の凡例及び仕様は「共通凡例・仕様」による
- 凡例
- 床新設範囲
 - ※天井伏図では天井新設範囲
 - 壁下地共新設範囲
 - 壁仕上げ材のみ新設範囲
 - 建具新設範囲

特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号 208319 号) 構造設計一級建築士 (登録番号 2423 号) 酒井 勲	雙 星 設 計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174376号)	工事名称 (プロジェクトNo. 160613)	図面名称
	確認者	設備設計一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462 号)		代表 設計室室長 検証者 主任 作成	公立小松大学 栗津キャンパス 校舎整備工事 (2期) (建築)
	縮尺	A1 1/50 A3 1/100	年月日	2018. 03 .	図面番号
					A-45

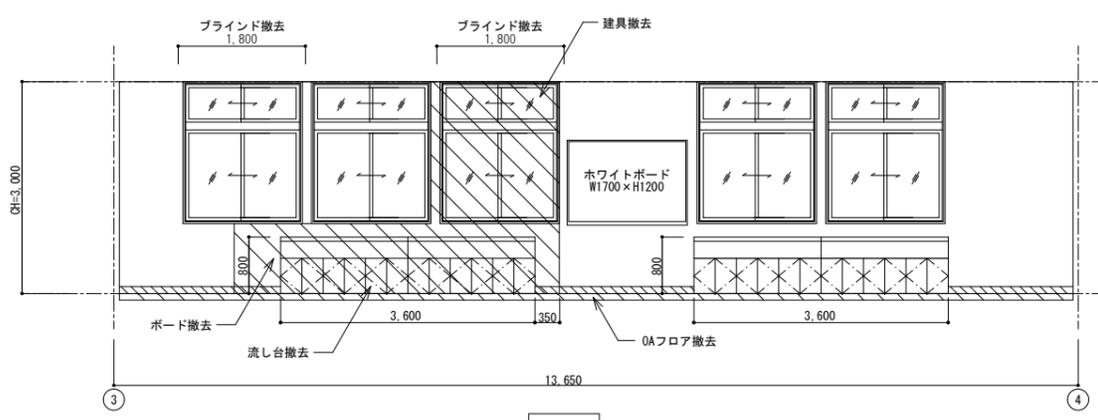


平面詳細図 1:50

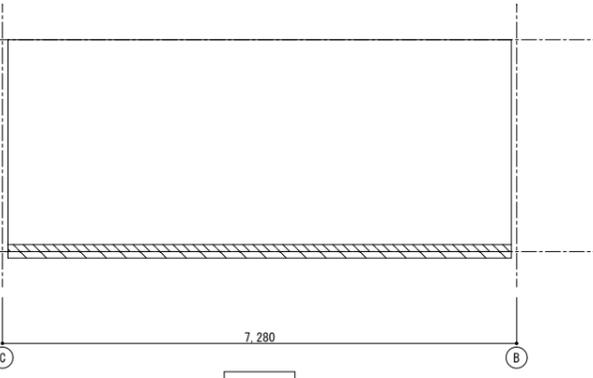


天井伏図 1:100

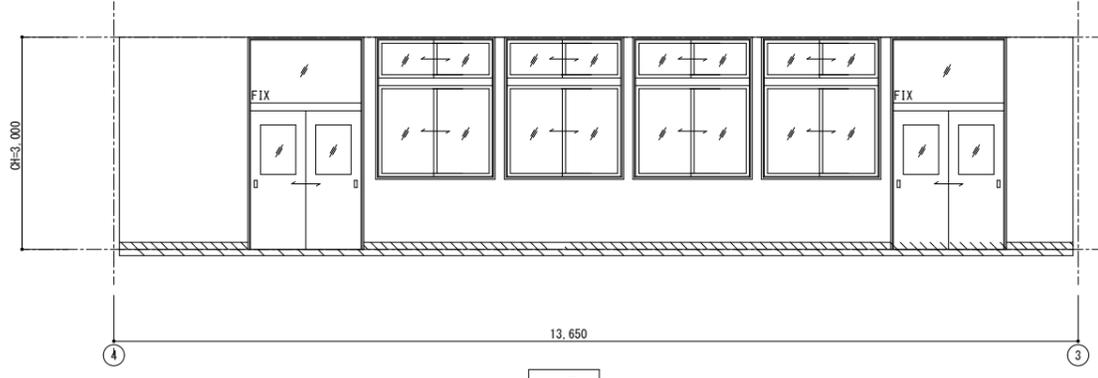
基礎医学実習室 (現状)		存在	撤去
既存仕上表	→ 109研究実験室 (改修)		
床	下地: コンクリート	○	
	仕上: O Aフロア H80+タイルカーペット t7		●
巾木	ソフト巾木 H=100		●
壁	下地: GB-R t12.5	○	●
	仕上: ビニルクロス	○	●
窓枠			
天井	下地: LGS, GB-R t9.5	○	
	仕上: DR t9	○	
備考	流し台(再取付)、植栽、ブラインド		●



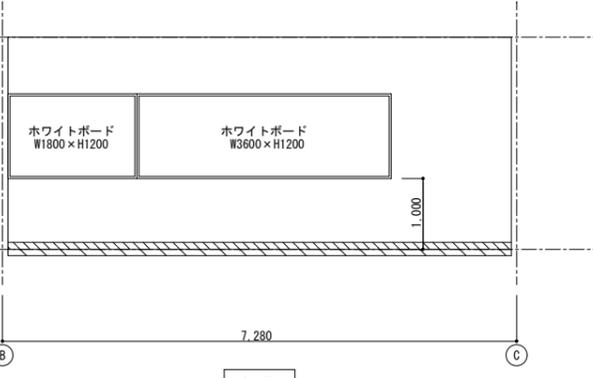
A面



B面



C面



D面

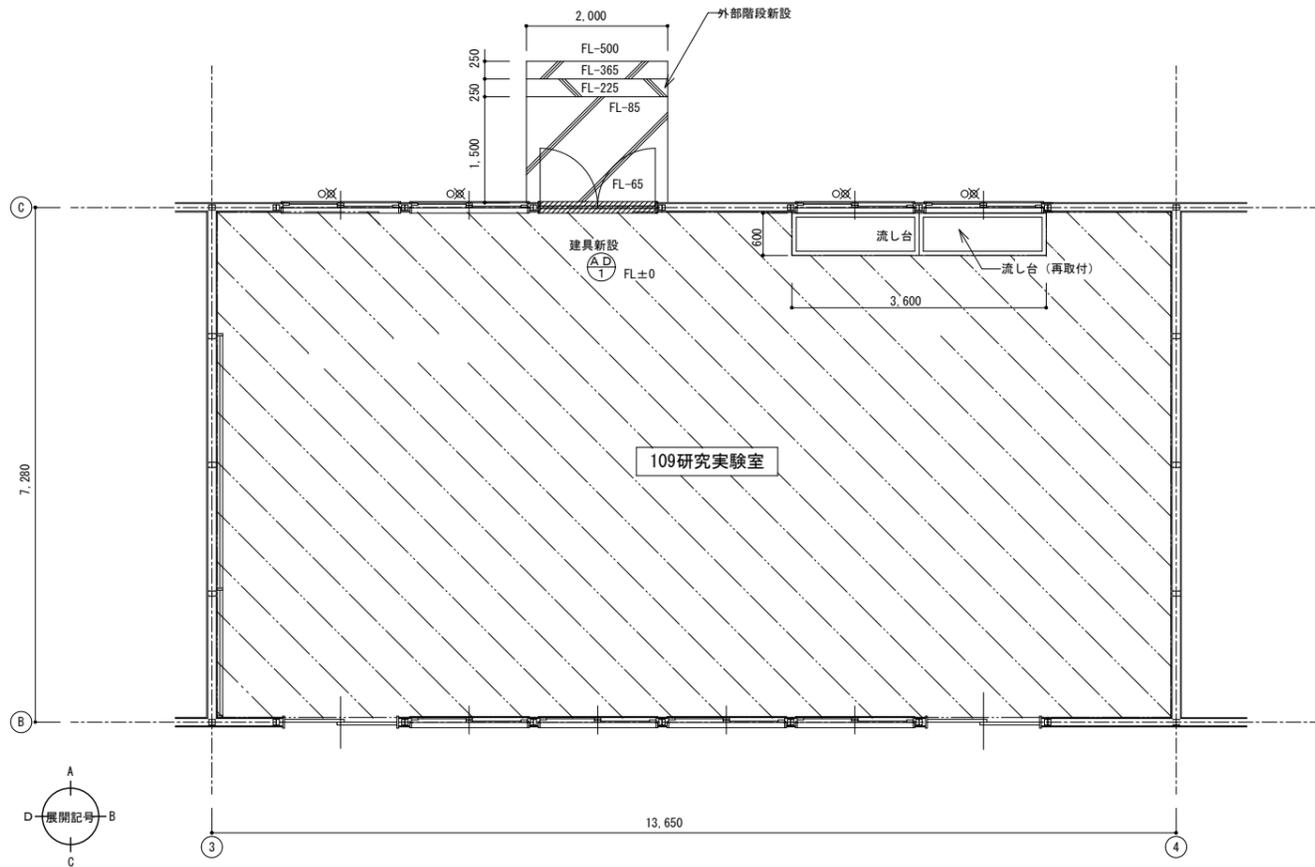
展開図 1:50

建具表 1:50	
記号・数量	AW1 引違い窓、ランマ引違い窓付 1
姿図	
材料	アルミ
枠見込	建具見込 160 40
仕上	電解二次着色
ガラス	FL-5
金物	CR、アングル
備考	

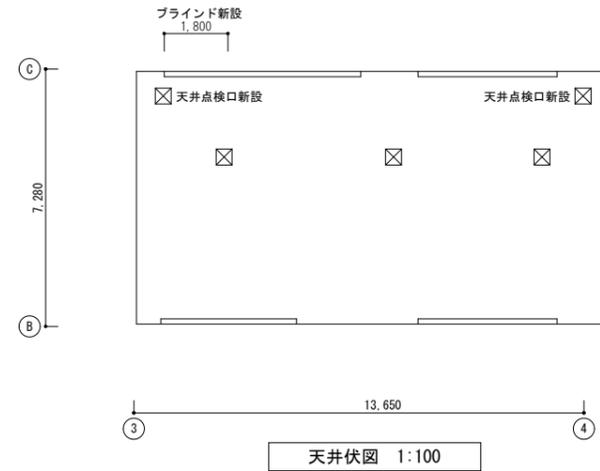
※記号の凡例及び仕様は「共通凡例・仕様」による

- 凡例
- 床撤去範囲
 - ※天井伏図では天井撤去範囲
 - 壁下地共撤去範囲
 - 壁仕上げ材のみ撤去範囲
 - 建具撤去範囲

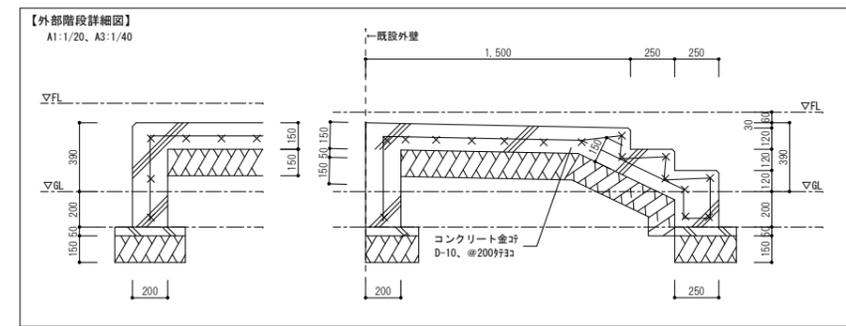
特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号 208319号) 構造設計一級建築士 (登録番号 2423号) 酒井 勲	雙 星 設 計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174376号)	工事名称 (プロジェクトNo. 160613) 公立小松大学 栗津キャンパス 校舎整備工事 (2期) (建築)	図面名称 第二教室棟 1階 109研究実験室 (撤去図)
	確認者	設備設計一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462号)			



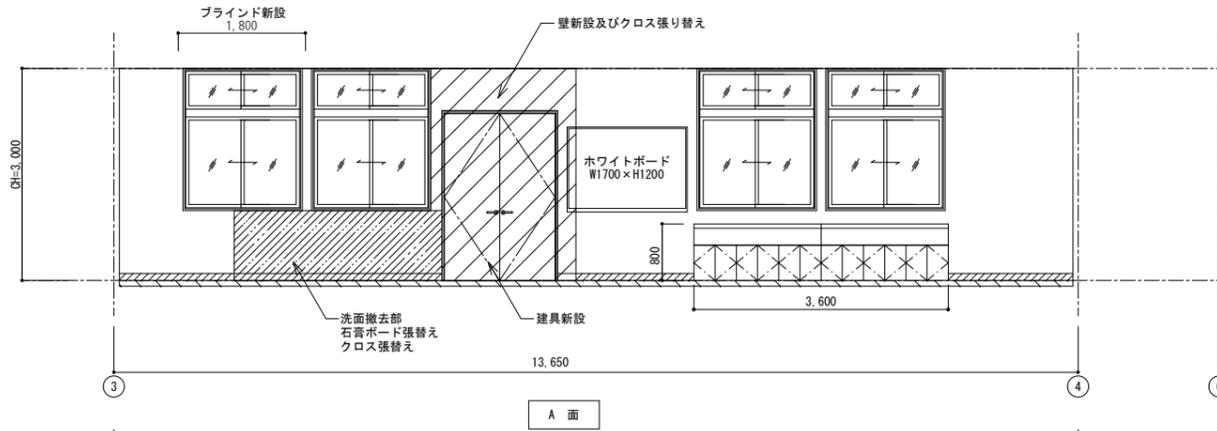
平面詳細図 1:50



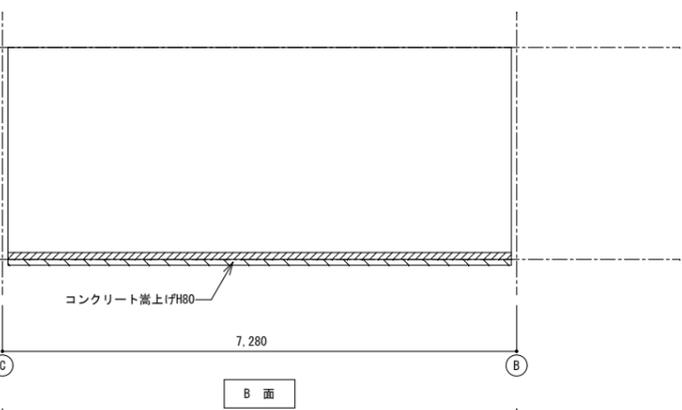
天井伏図 1:100



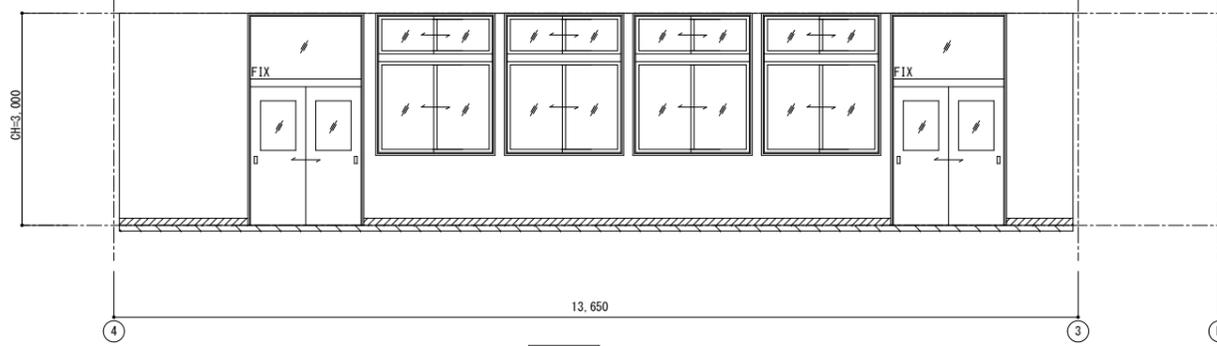
基礎医学実習室 (現状)		既設	新設
改修仕上表	→ 109研究実験室 (改修)		
床	下地: 嵩上げコケル-H80 (イ-メツクφ6 150口) 仕上: ビニル床シート t2.0	●	●
巾木	ビニル巾木 H=100	●	
壁	下地: GB-R t12.5 仕上: ビニルクロス	○	●
廻縁			
天井	下地: LGS、GB-R 9.5 仕上: DR t9	○	○
備考	流し台(再取付)、外部階段、設備基礎 ブラインド、天井点検口2ヶ所新設		●



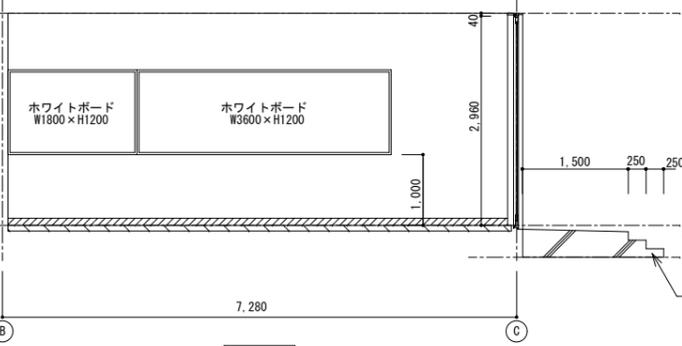
A面



B面



C面



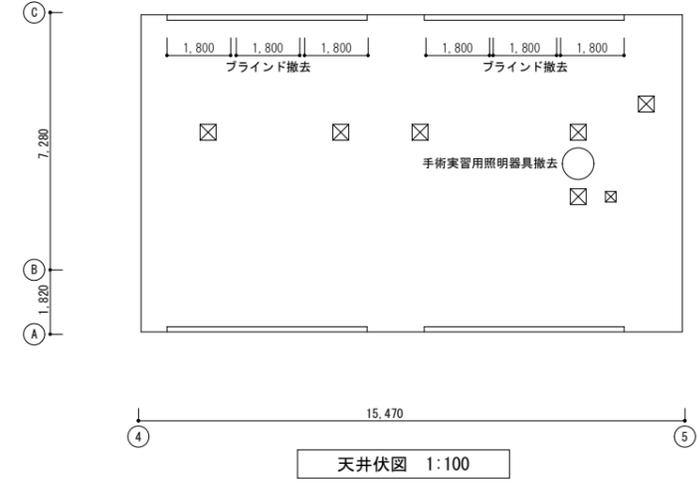
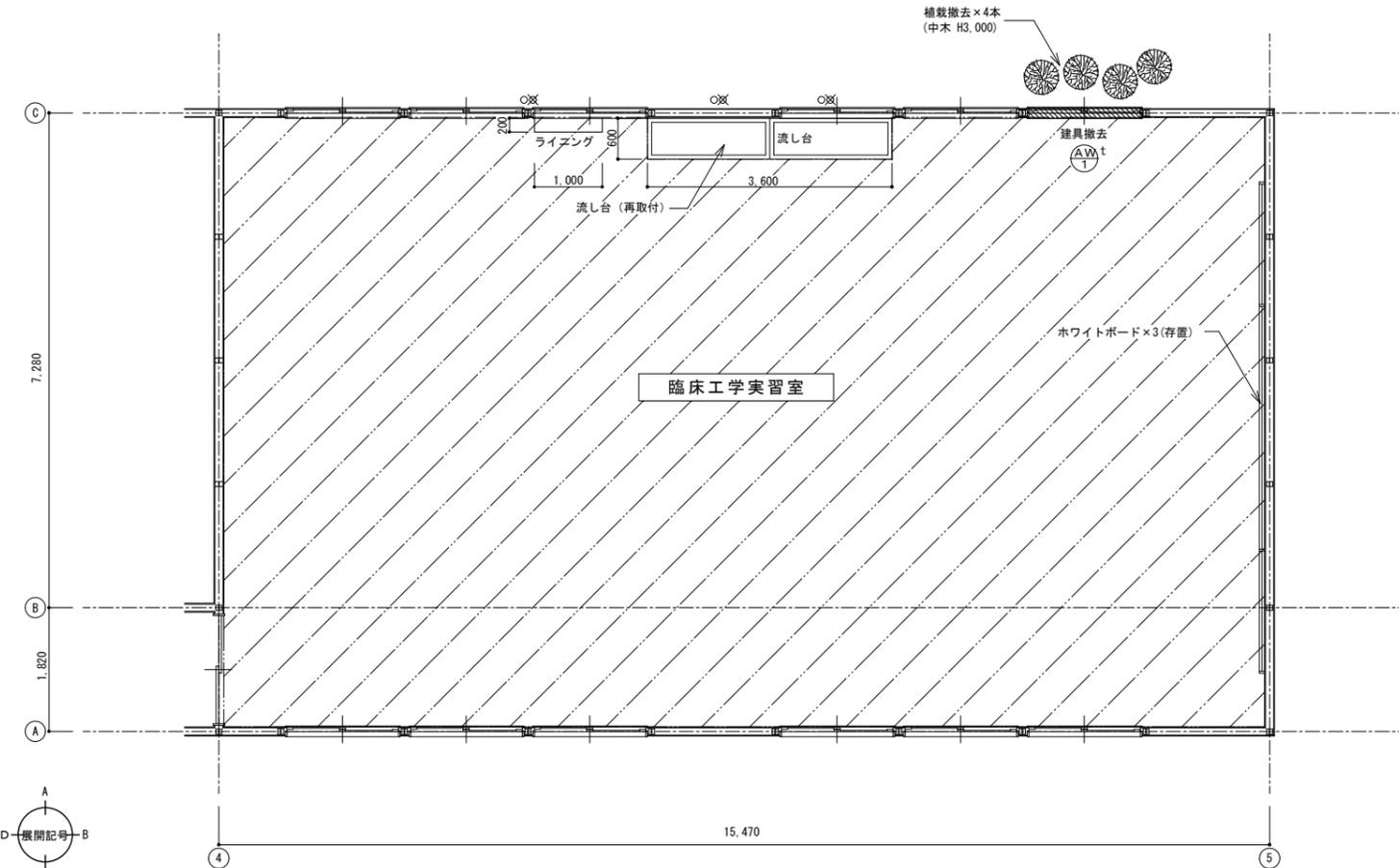
D面

展開図 1:50

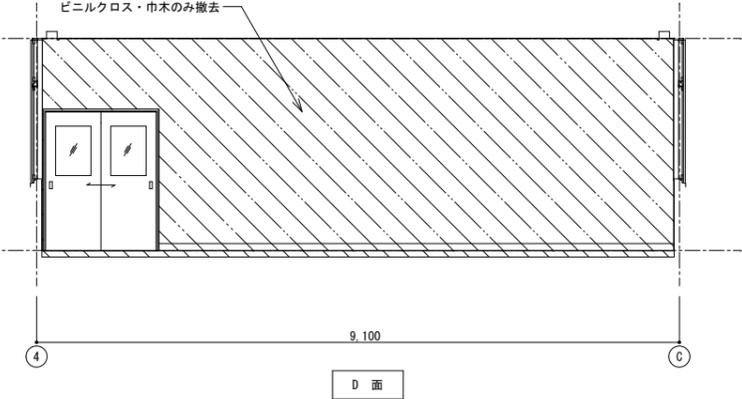
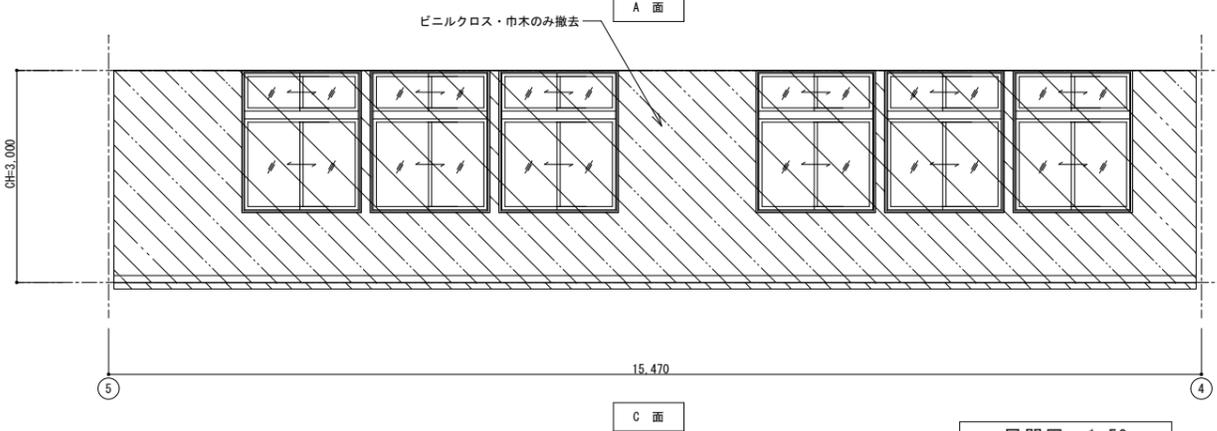
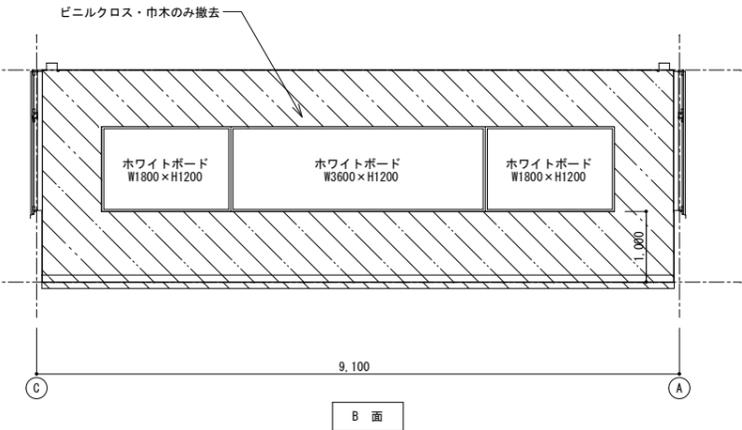
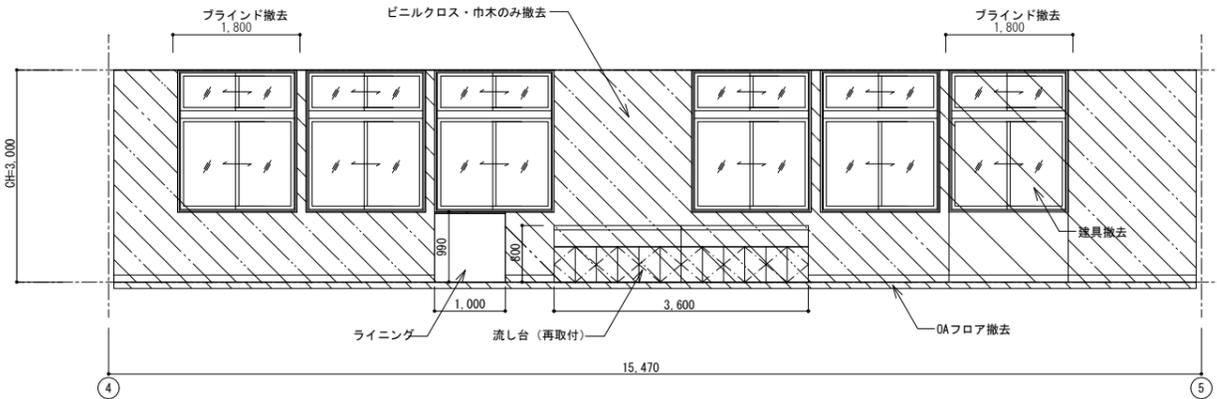
建具表 1:50	
記号・数量	AD 1 両開き扉 1
図	
材料	アルミ
枠見込	建具見込 220 40
仕上	二次電解着色
ガラス	クモハトル、S、DC (ストッパ無し)、T、SK、TA
金物	AM、付属金物一式
備考	

- ※記号の凡例及び仕様は「共通凡例・仕様」による
- 凡例
 - 床新設範囲
 - ※天井伏図では天井新設範囲
 - 壁下地共新設範囲
 - 壁仕上げ材のみ新設範囲
 - 建具新設範囲

特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号 208319 号) 構造設計一級建築士 (登録番号 2423 号) 酒井 勲	設計者	設備設計一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462 号)	代表	設計室長 中村 武嗣 (登録番号174376号)	確認者	主任	作成	工事名称 (プロジェクトNo. 160613)	公立小松大学 栗津キャンパス 校舎整備工事 (2期) (建築)	縮尺	A1 1/50 A3 1/100	年月日	2018. 03 .	図面名称	第二教室棟 1階 109研究実験室 (改修図)	図面番号	A-47
	確認者	設備設計一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462 号)																	



平面詳細図 1:50



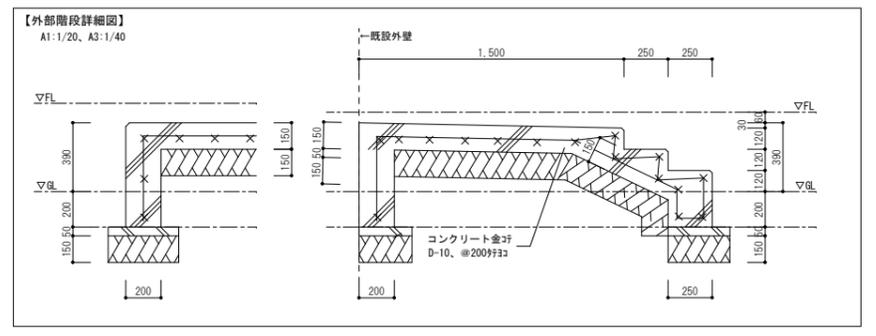
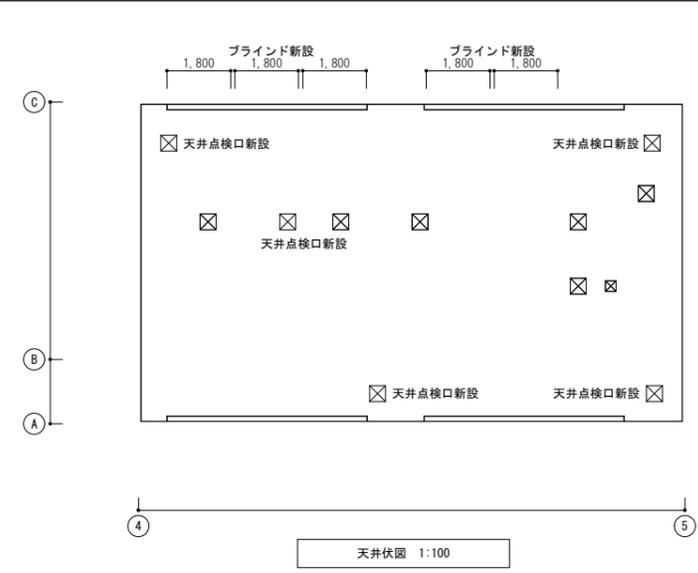
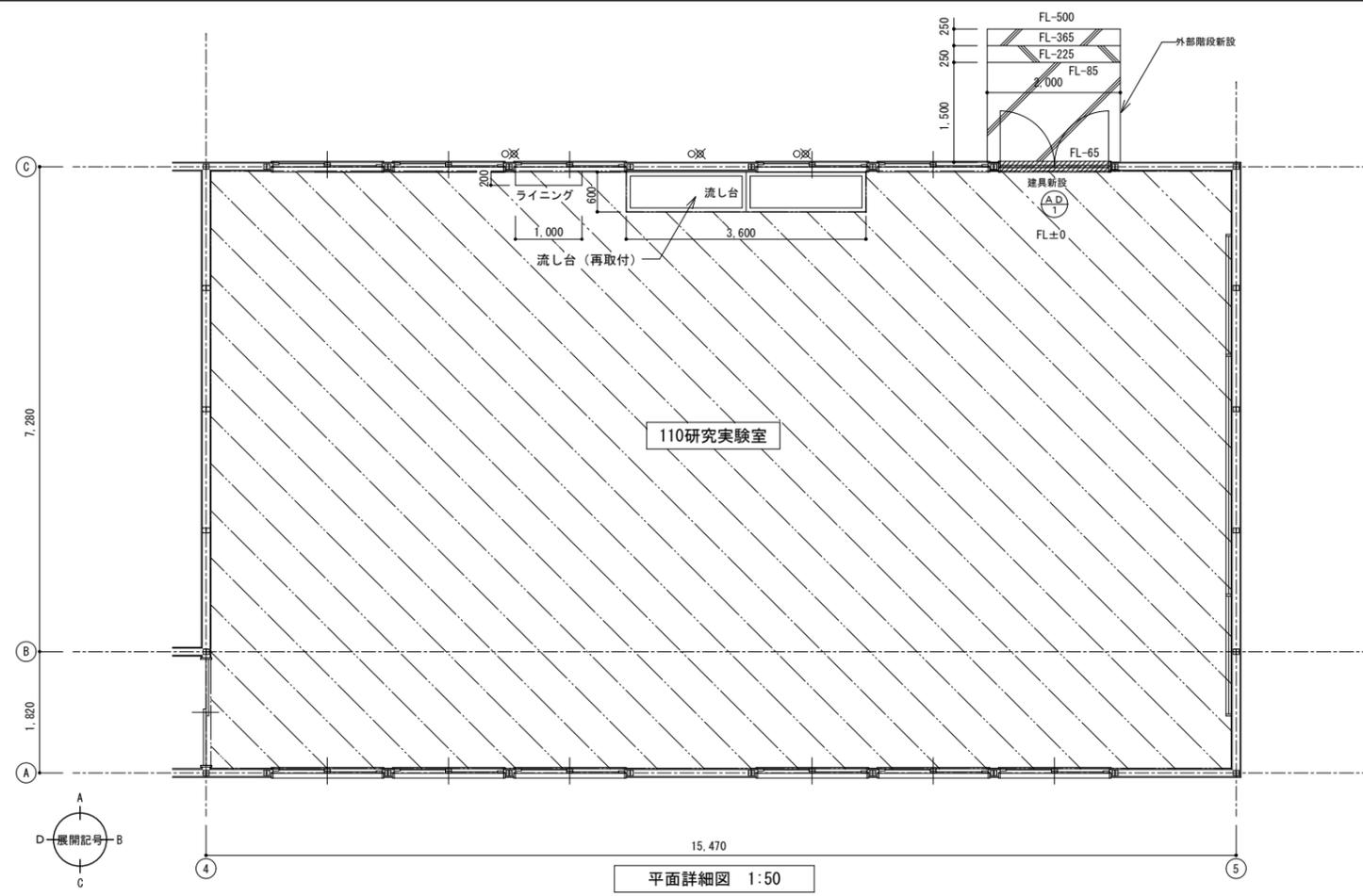
展開図 1:50

既存仕上表	臨床工学実習室 (現状)	110研究実習室 (改修)	存置	撤去
床	下地: コンクリート		○	
	仕上: OAフロア H80 + タイルカーペット t7			●
巾木	ソフト巾木 H=100			●
壁	下地: GB-R t12.5		○	
	仕上: ビニルクロス			●
窓枠				
天井	下地: LGS、GB-R t9.5		○	
	仕上: DR t9		○	
備考	流し台 (再取付)、植栽、ブラインド			●
	手術実習用照明器具撤去			●

建具表 1:50	
記号・数量	AW 1 引違い窓、ランマ引違い窓付 1
姿図	
材料	アルミ
枠見込	建具見込 160 40
仕上	電解二次着色
ガラス	FL-5
金物	CR、アングル
備考	

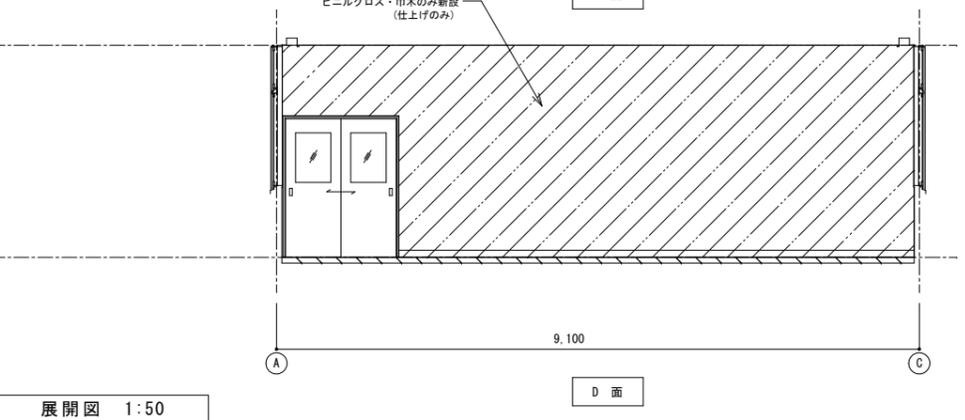
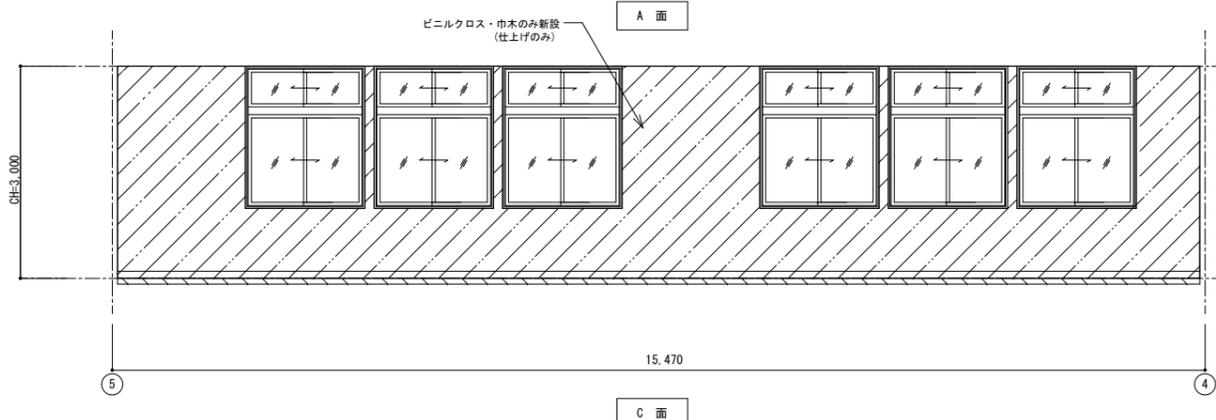
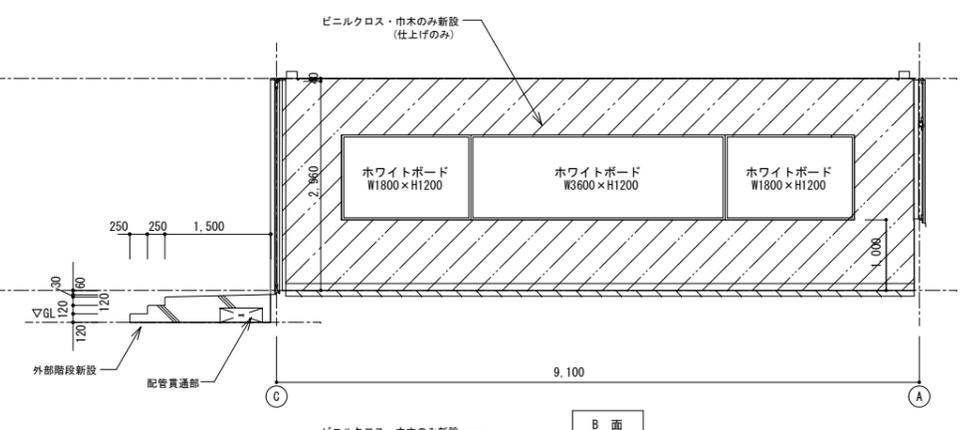
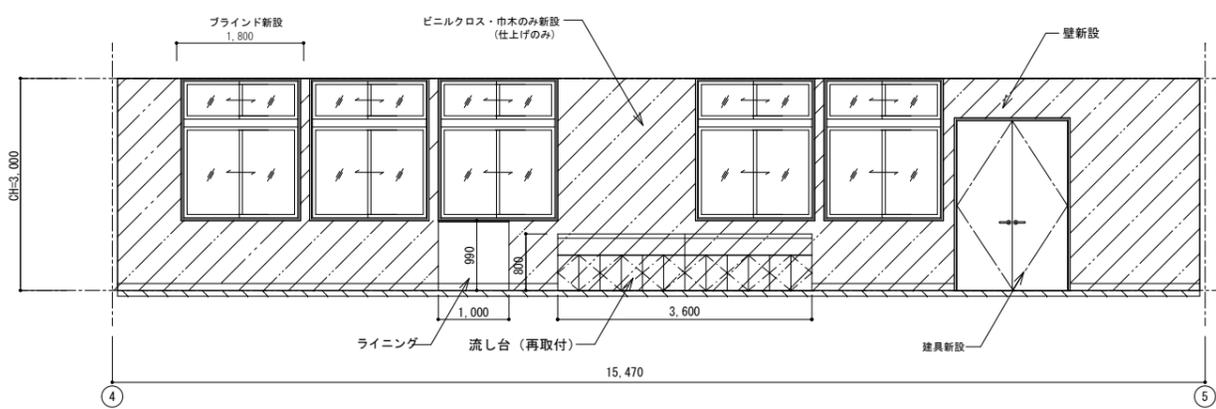
- ※記号の凡例及び仕様は「共通凡例・仕様」による
- 凡例
- 床撤去範囲
 - ※天井伏図では天井撤去範囲
 - 壁下地共撤去範囲
 - 壁仕上げ材のみ撤去範囲
 - 建具撤去範囲

特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号 208319 号) 構造設計一級建築士 (登録番号 2423 号) 酒井 勲	雙 星 設 計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174376号)	工事名称 (プロジェクトNo. 160613) 公立小松大学 栗津キャンパス 校舎整備工事 (2期) (建築)	図面名称 第二教室棟 1階 110研究実習室 (撤去図)
	確認者	設備設計一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462 号)			



改修仕上表	臨床工学実習室 (現状)	110研究実験室 (改修)	既設	新設
床	下地: 嵩上げコケラ-H80 (イ-メツルφ6 150口)	仕上: ビニル床シート t2.0	●	●
巾木	ビニル巾木 H=100		●	●
壁	下地: GB-R t12.5	仕上: ビニルクロス	○	●
廻縁			○	●
天井	下地: LGS, GB-R t12.5	仕上: DR t9	○	○
備考	流し台 (再取付)、外部階段、ブラインド5ヶ所新設		●	●
	天井点検口5ヶ所新設		●	●

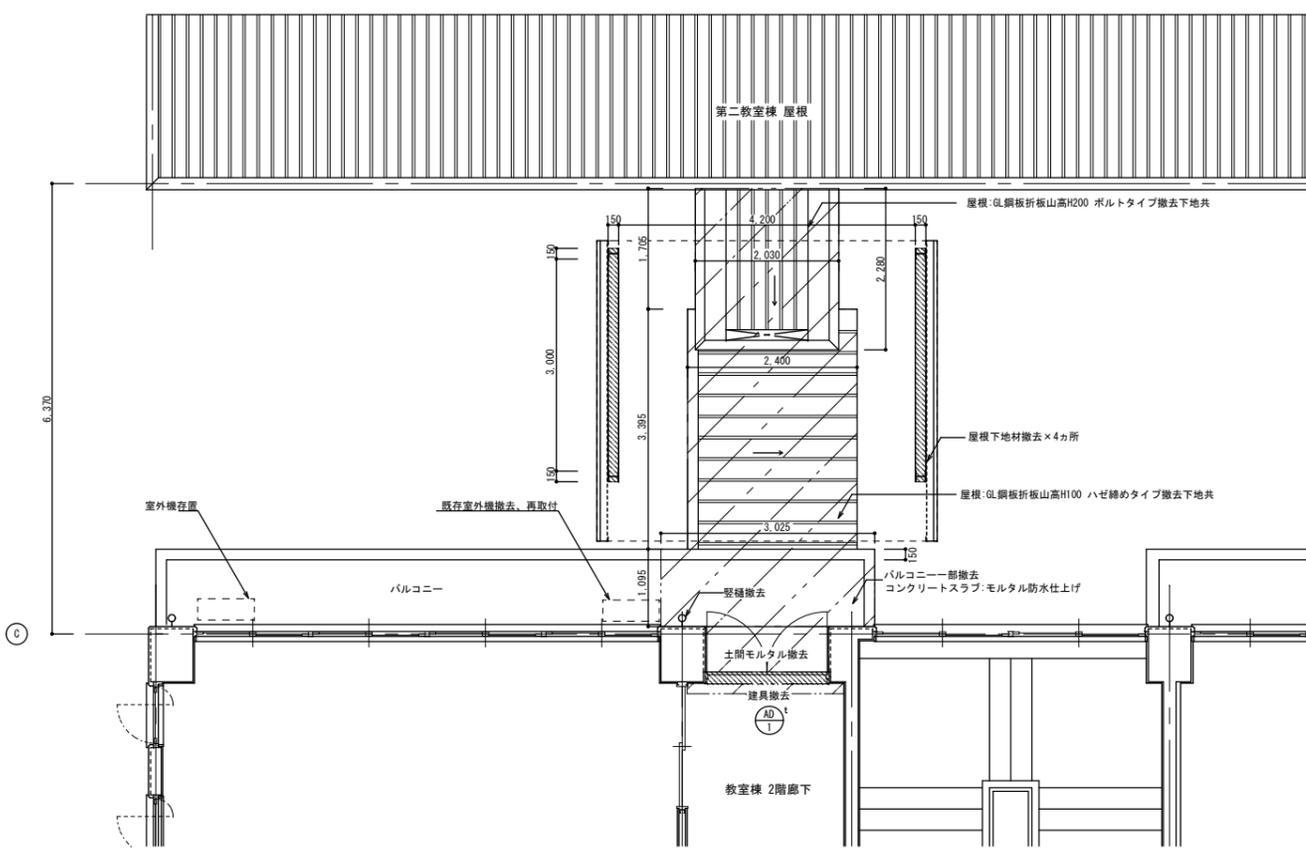
※外部階段の詳細図は「第二教室棟 1階 108研究実験室 (改修図)」参照



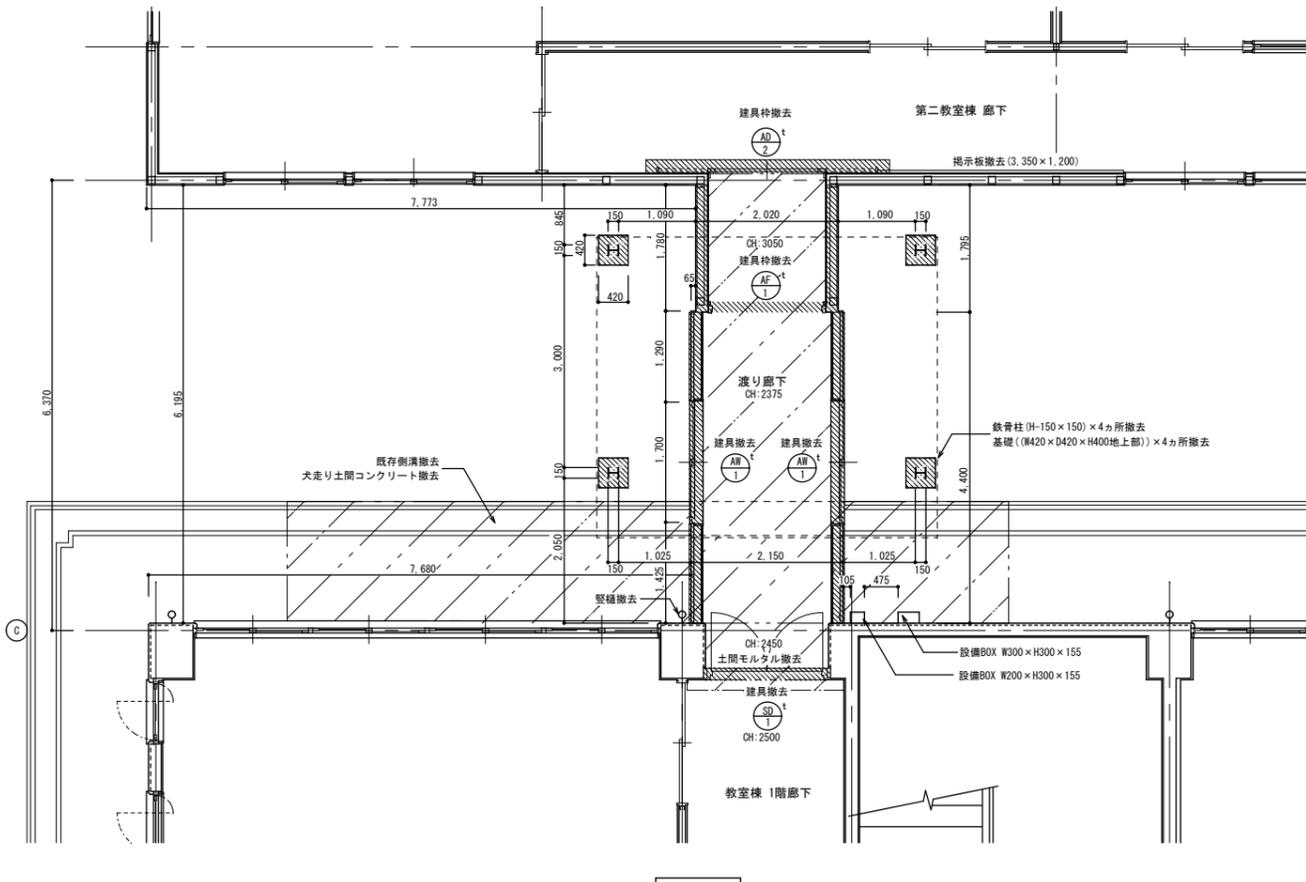
建具表 1:50			
記号・数量	AD 1	両開き扉	1
断面			
材料	アルミ		
枠見込	建具見込	220	40
仕上	二次電解着色		
ガラス	ウモハトル、S、DC (ストロン無し)、T、SK、TA		
金物	AM、付属金物一式		
備考			

- ※記号の凡例及び仕様は「共通凡例・仕様」による
- 凡例
 - 床新設範囲
 - ※天井伏図では天井新設範囲
 - 壁下地共新設範囲
 - 壁仕上げ材のみ新設範囲
 - 建具新設範囲

特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号 208319号) 構造設計一級建築士 (登録番号 2423号) 酒井 勲	雙星設計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174376号)	工事名称 (プロジェクトNo. 160613)	図面名称
	確認者	設備設計一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462号)		代表 設計室長部長 検証者 主任当 作成	公立小松大学 栗津キャンパス 校舎整備工事 (2期) (建築)
				縮尺	図面番号
				A1 1/50 A3 1/100	A-49
				年月日	
				2018. 03 .	

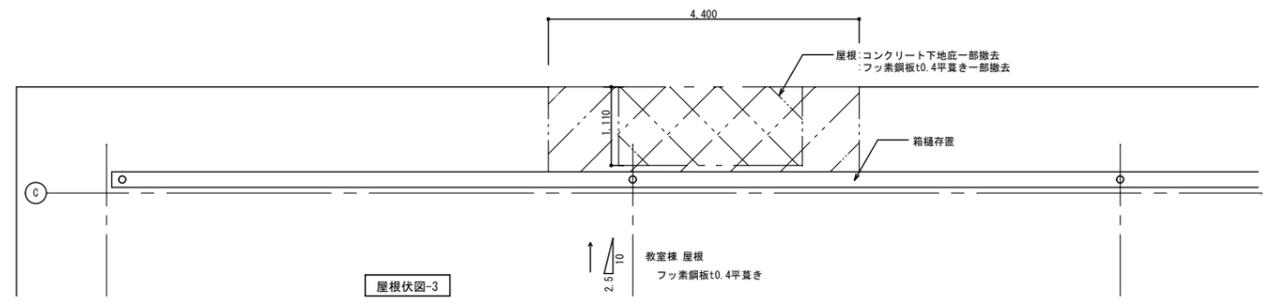


屋根伏図-1

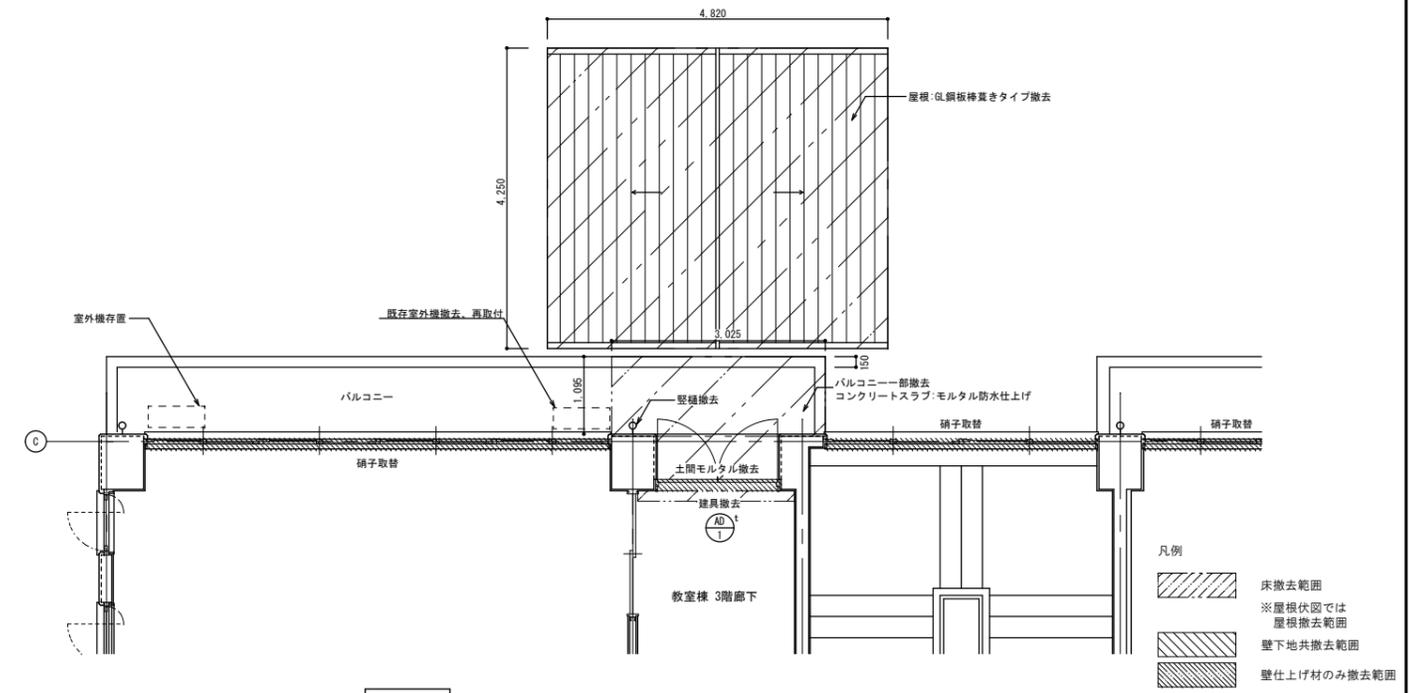


1階平面詳細図

既存仕上表		渡り廊下 (現状)		E.V.棟 (増築)	
外部	内部	存在	撤去	存在	撤去
屋根	丸軸式カラーGL鋼板折板葺き (H=171 t=1.0) 準不燃裏張材A4	●	●	●	●
窓木	アルミ製	●	●	●	●
外壁	弾性吹付タイル:押出成形セメント板 t15下地処理	●	●	●	●
扉種	塩ビ製	●	●	●	●
壁種	塩ビ製100φVP	●	●	●	●
床	下地:モルタル金ゴテ押え 仕上:ビニル床シート t2.5	●	●	●	●
巾木		●	●	●	●
壁	下地:LGS下地 仕上:石膏ボード t12.5クロス張り、柱型VE0.8FKt5	●	●	●	●
天井	下地:LGS下地 仕上:GB-D t9.5	●	●	●	●
備考					



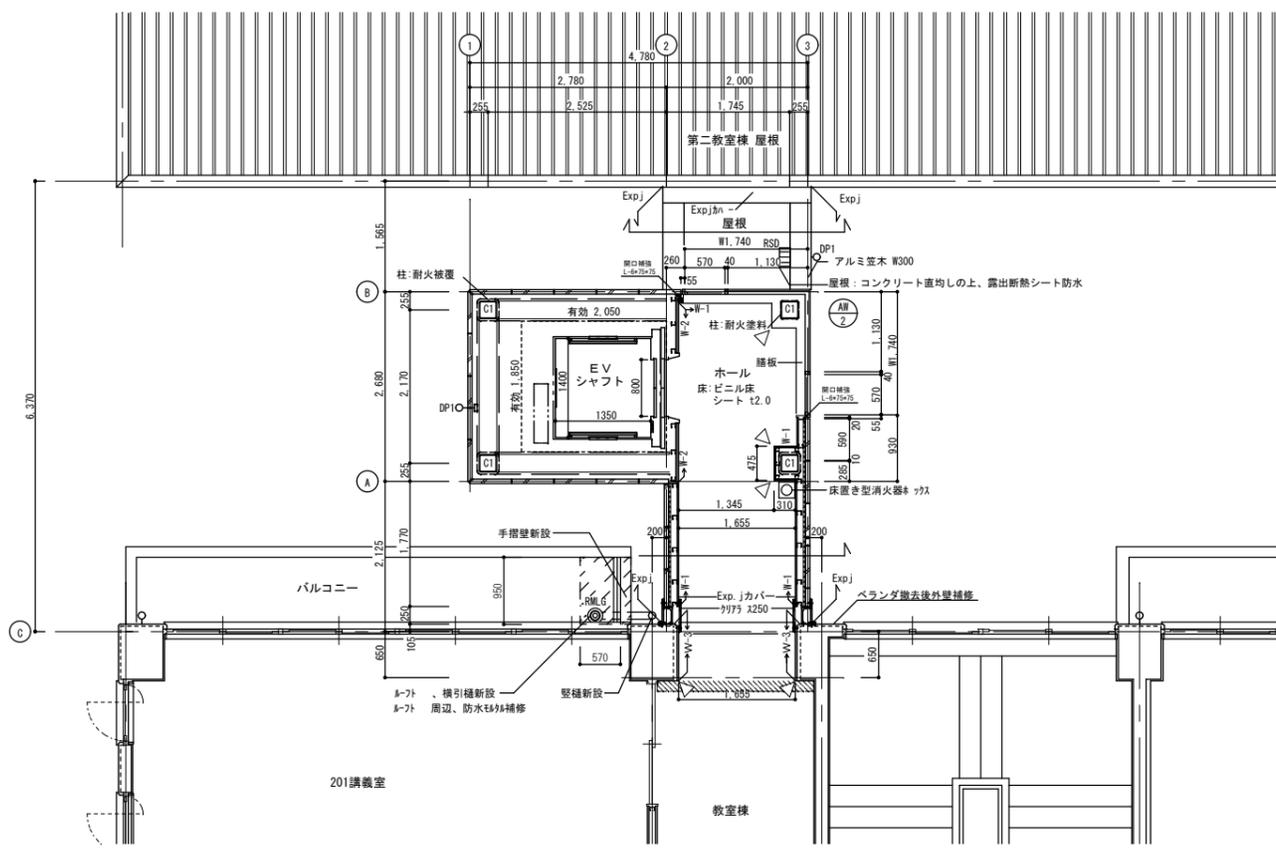
屋根伏図-3



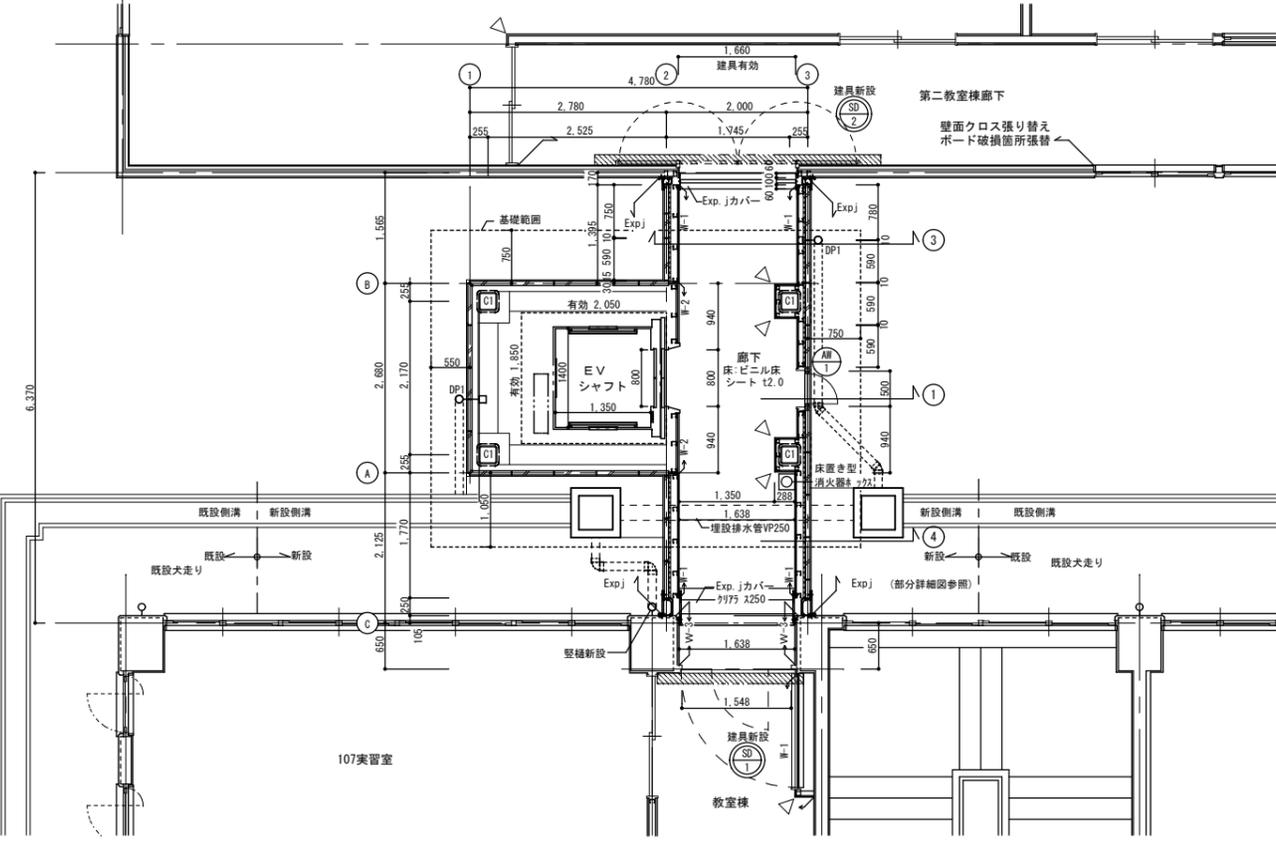
屋根伏図-2

- 凡例
- 床撤去範囲
 - ※屋根伏図では屋根撤去範囲
 - 壁下地共撤去範囲
 - 壁仕上げ材のみ撤去範囲
 - 建具撤去範囲

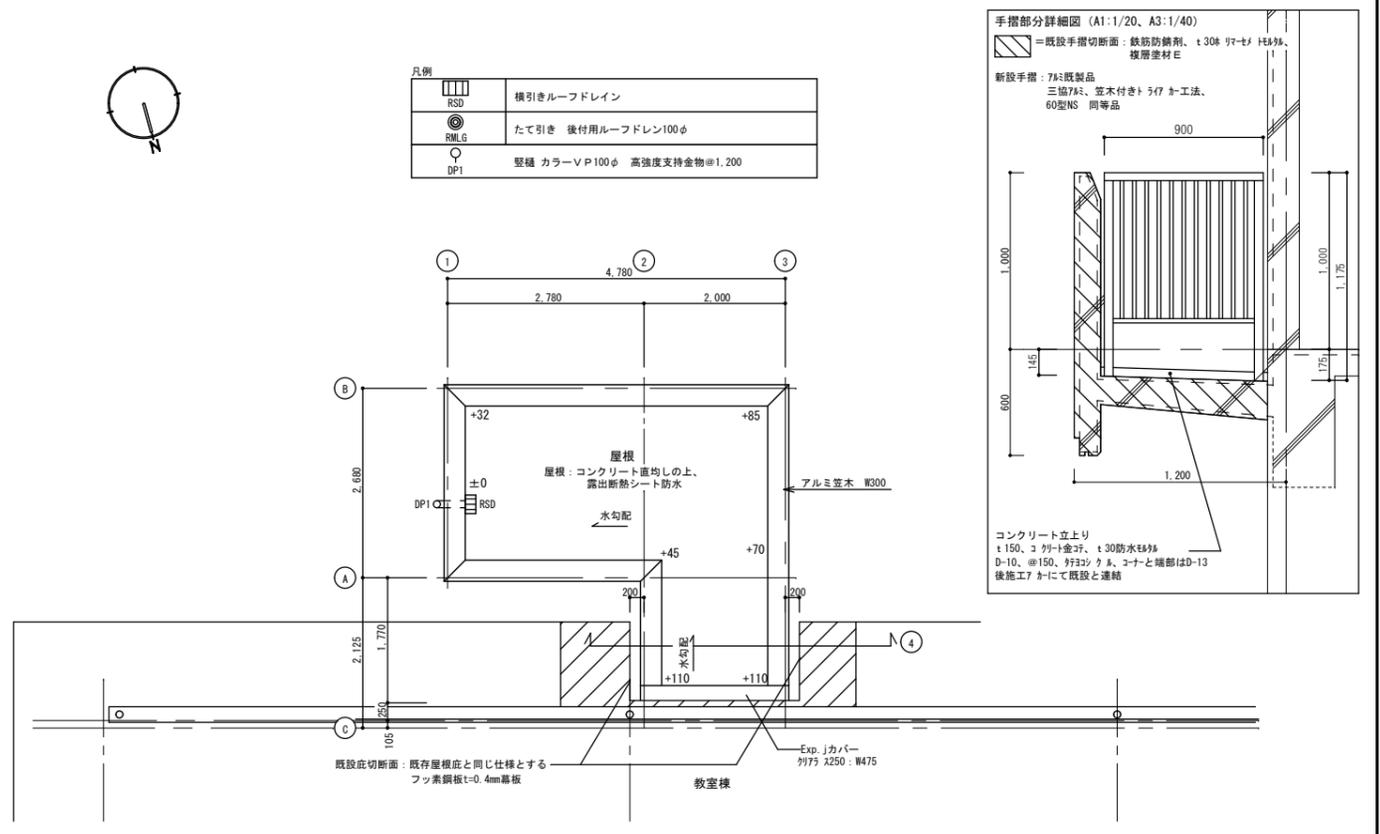
特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号 208319号) 構造設計一級建築士 (登録番号 2423号) 酒井 勲	雙星設計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174376号)	工事名称 (プロジェクトNo. 160613) 公立小松大学 栗津キャンパス 校舎整備工事 (2期) (建築)	図面名称 第二教室棟 渡り廊下 E.V.ホール (撤去図) (1)
	確認者	設備設計一級建築士 設備設計一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462号)			



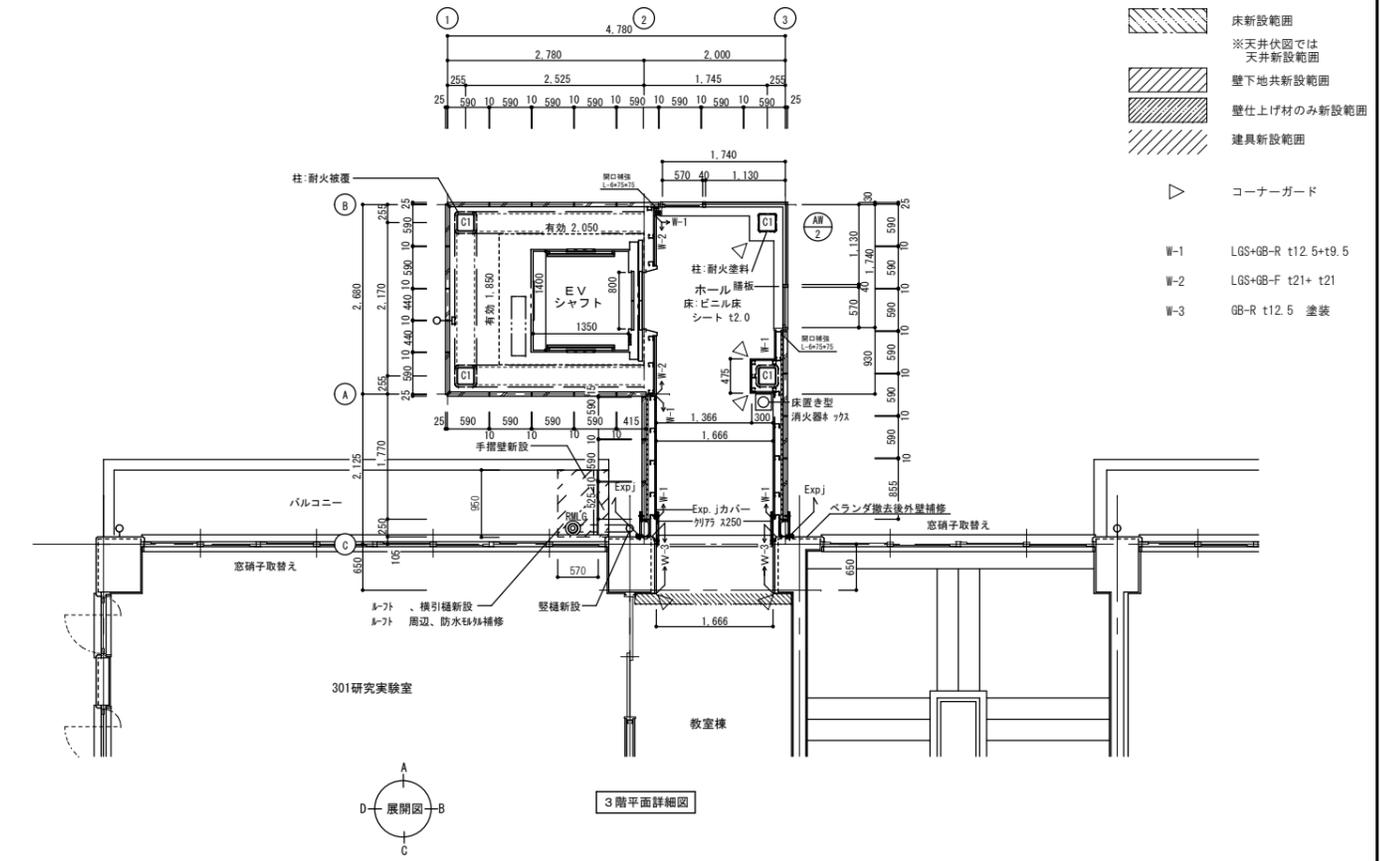
2階平面詳細図



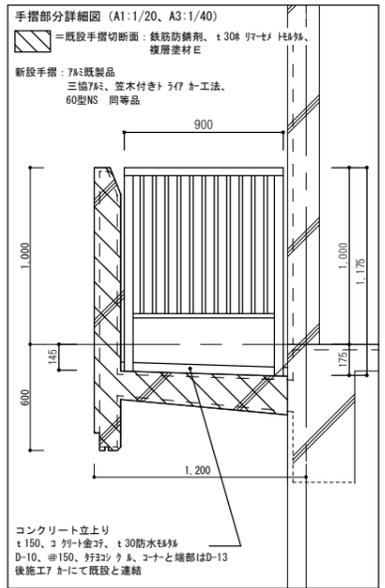
1階平面詳細図



屋根伏図



3階平面詳細図



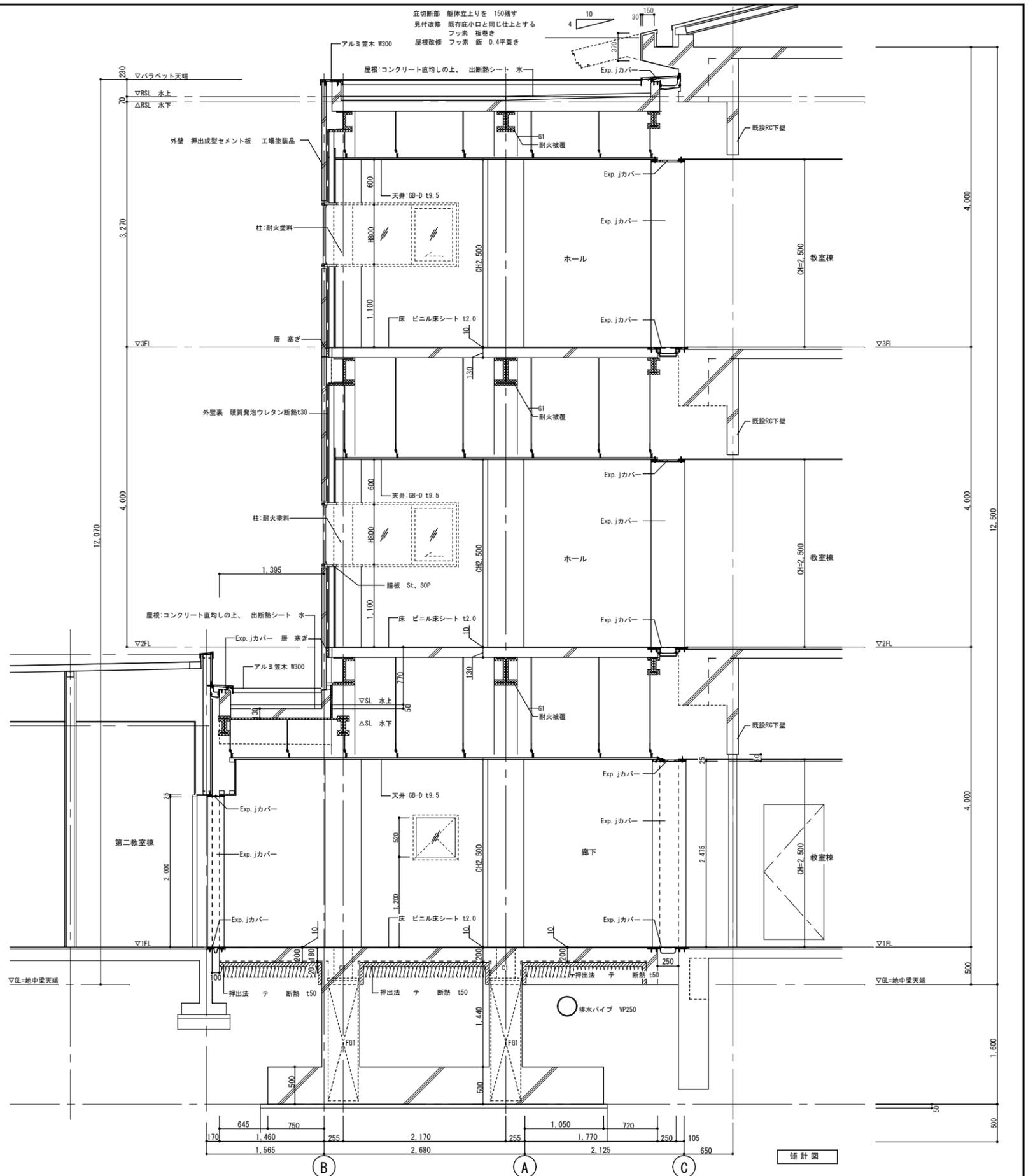
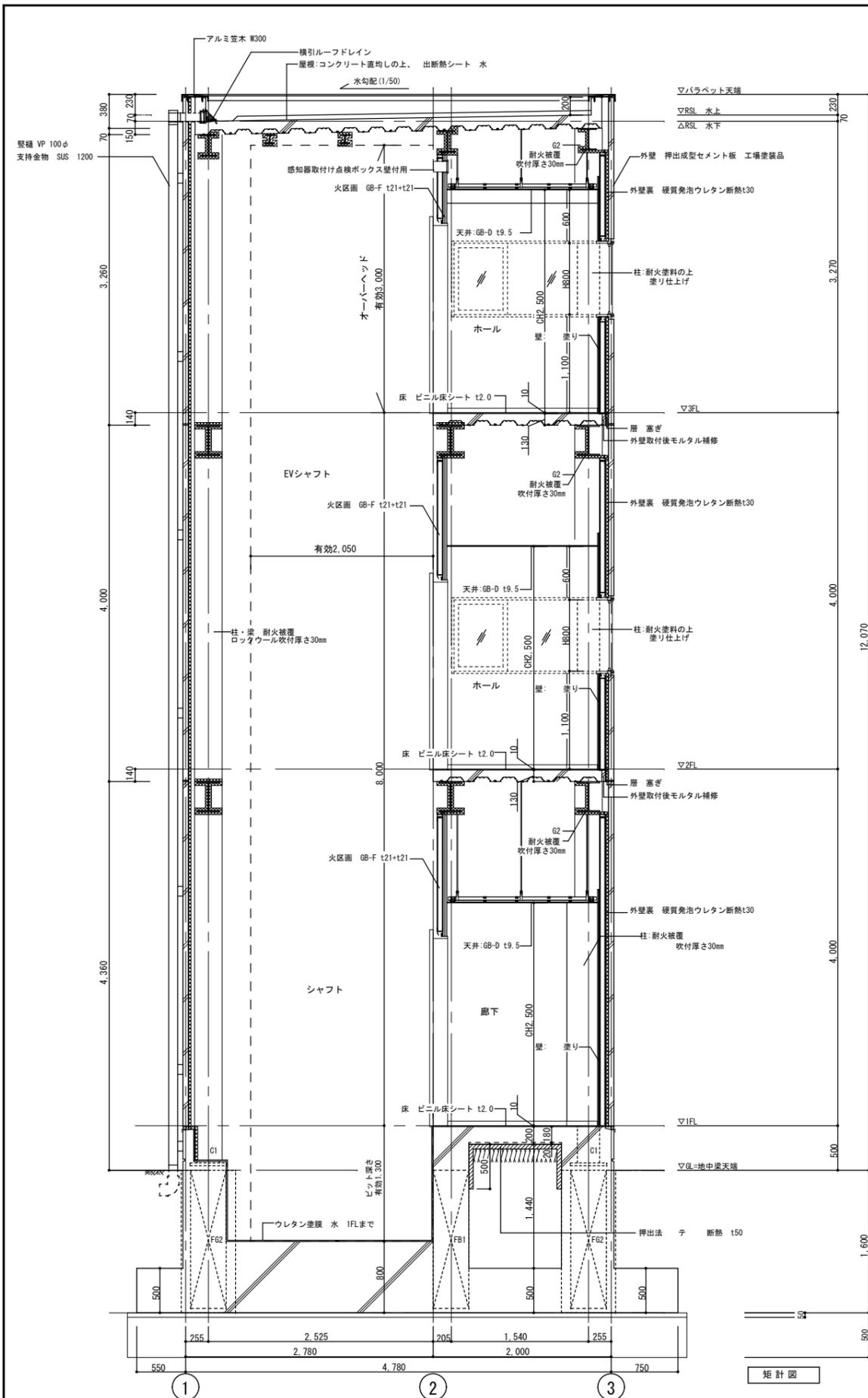
凡例

RSD	横引きルーフトレイン
RMLG	たて引き 後付用ルーフトレイン100φ
DP1	壁継 カラーVP100φ 高強度支持金物@1,200

凡例

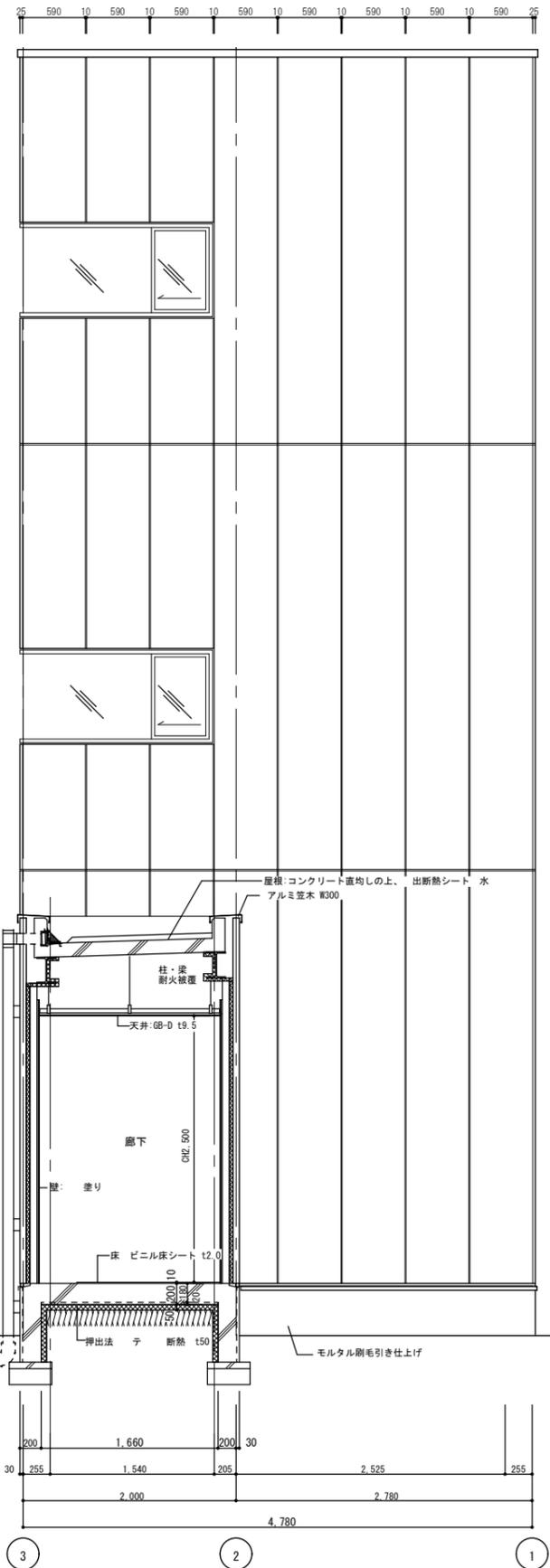
(Hatched pattern)	床新設範囲
(Hatched pattern)	※天井伏図では天井新設範囲
(Hatched pattern)	壁下地共新設範囲
(Hatched pattern)	壁仕上げ材のみ新設範囲
(Hatched pattern)	建具新設範囲
(Triangle)	コーナーガード
W-1	LGS+GB-R t12.5+t9.5
W-2	LGS+GB-F t21+ t21
W-3	GB-R t12.5 塗装

特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 (登録番号 200319 号) 構造設計一級建築士 (登録番号 2423 号) 酒井 勲	雙星設計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174376号)	工事名称 (プロジェクトNo. 160613) 公立小松大学 栗津キャンパス 校舎整備工事 (2期) (建築)	図面名称 EV棟 EVホール (改修図) (1)
	確認者	設備設計一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462 号)			

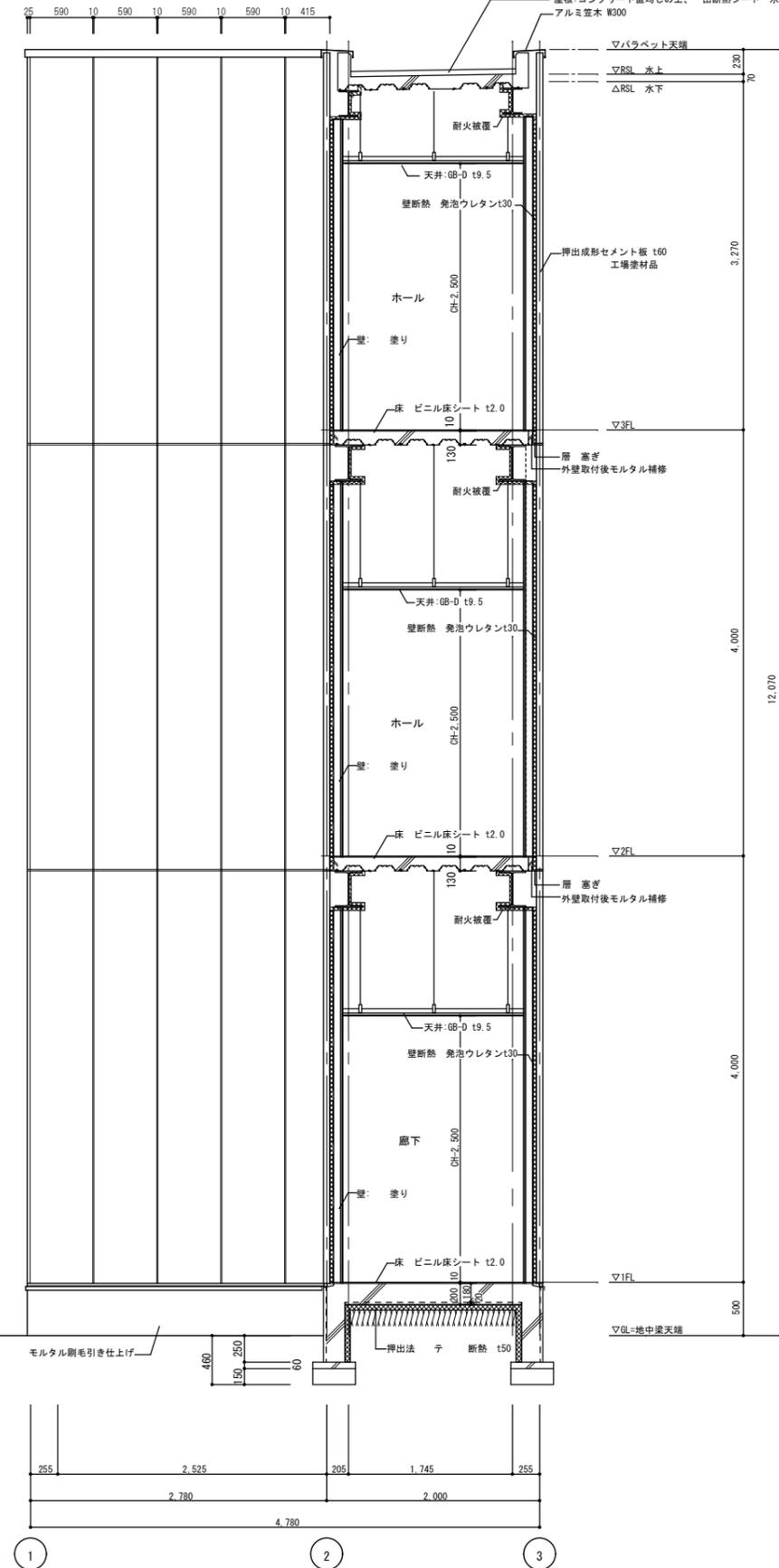


特記事	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士	雙星設計 一級建築士 中村 武嗣 登 番号174376号 代表 設計監理部 検証者 主担当 作成	工事名称 プロジェクト 160613	図名称
	確認者	一級建築士 登 番号 208319 号 構造設計一級建築士 登 番号 2423 号 酒井 勲		公立小松大学 栗津キャンパス 校舎整備工事 期 (建築)	棟 名 ホール 改修図
	設備設計一級建築士	塚原 直 登 番号 2462 号	縮尺	A1 1/30 A3 1/60	図 番号 A-53
	年月日	2018. 03 .			

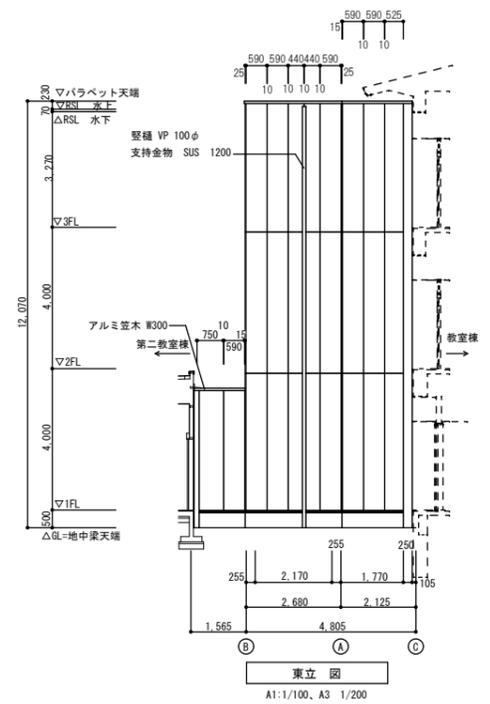
改修仕上表	渡り廊下	現状	棟	増築	既設	新設
外部						
屋根		コンクリート直均しの上、出断熱シート	水			●
笠木		アルミ製				●
外壁		押出成形セメント板 t60、工場撥水材塗装品				●
内壁		コンクリート打放し補修の上、モルタル刷毛引き				●
窓種		VP100φ				●
窓種		支持金物 SUS 1200				●
備考						



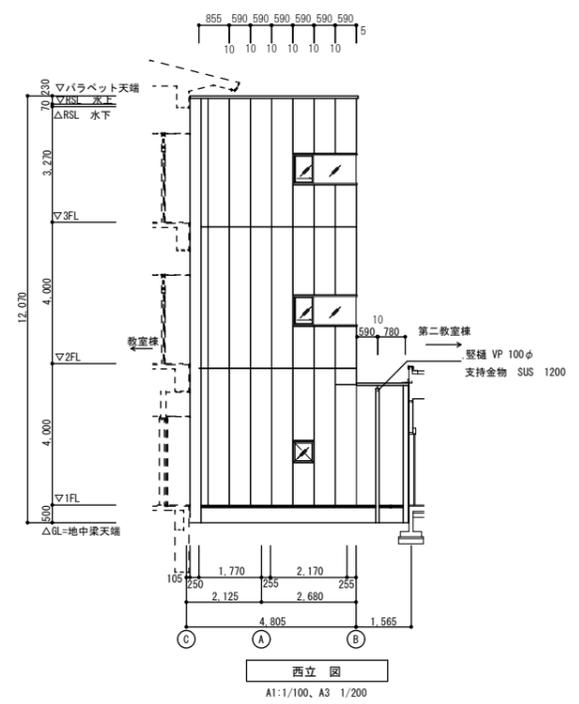
矩計図 兼南立 図
A1:1/30, A3:1/60



矩計図 兼東立 図
A1:1/30, A3:1/60

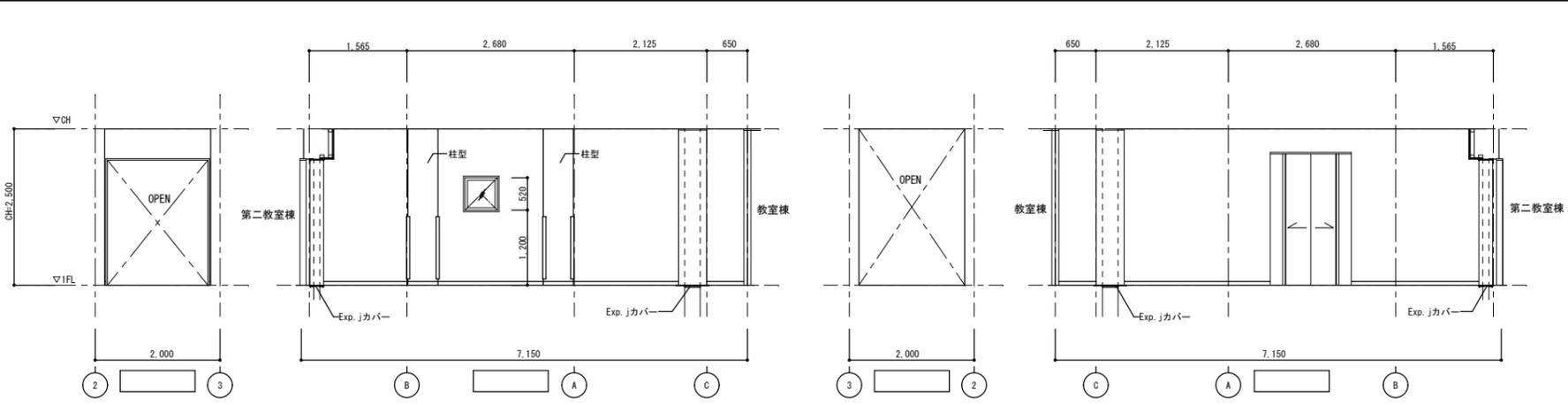


東立 図
A1:1/100, A3:1/200

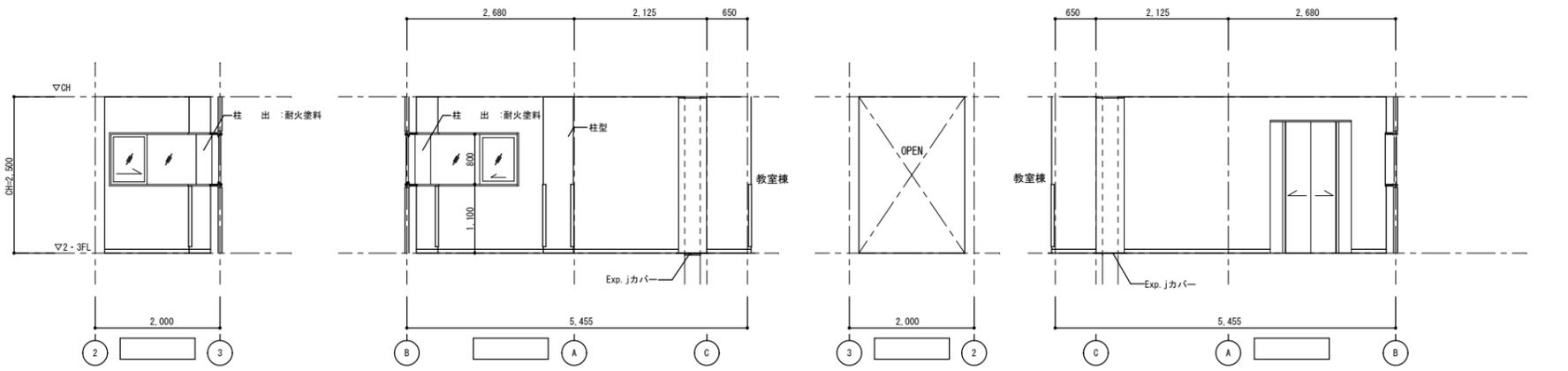


西立 図
A1:1/100, A3:1/200

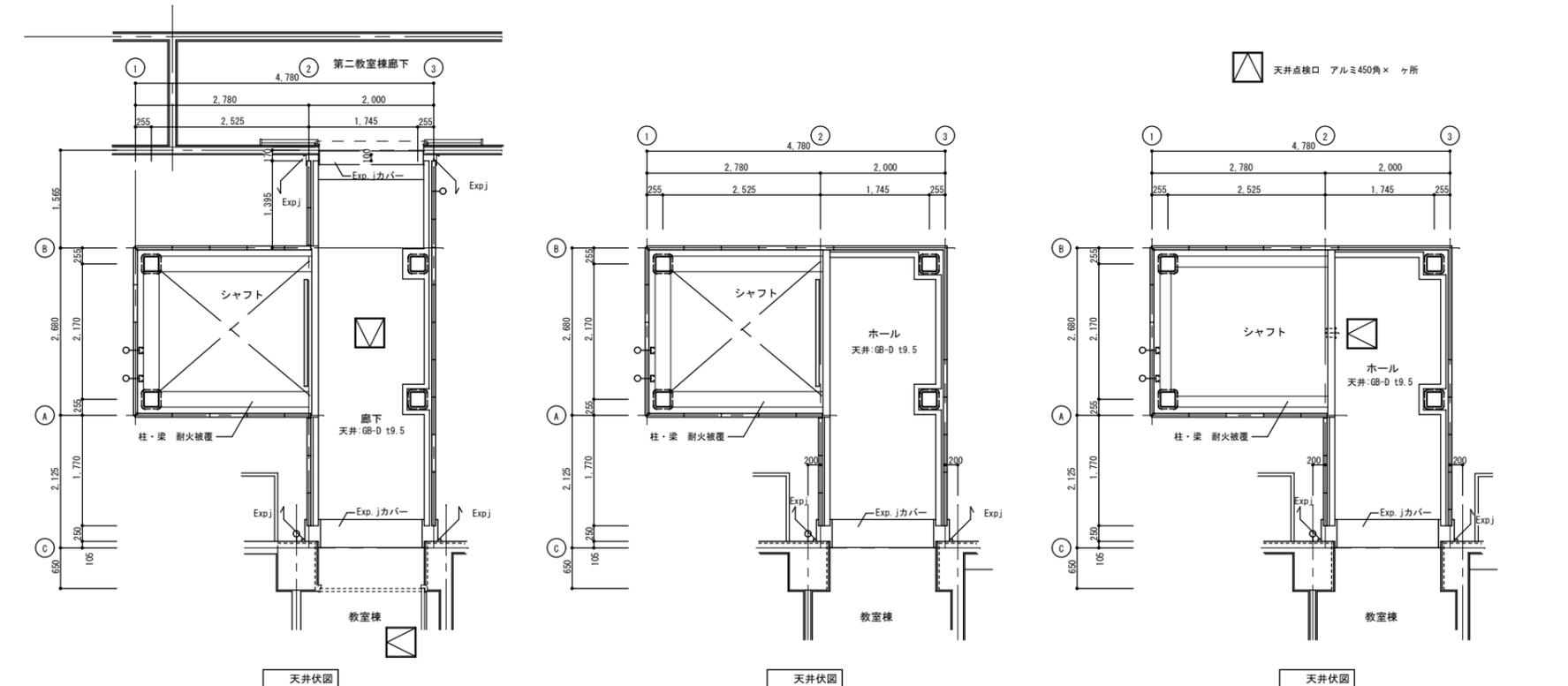
特記事	確認日		一級建築士・構造設計一級建築士		雙星設計 一級建築士 中村 武嗣 登 番号174376号	工事名称	プロジェクト 160613	図名称	ホール 改修図
	確認者		一級建築士 登 番号 208319 号 構造設計一級建築士 登 番号 2423 号 酒井 勲			代表 設計室長 検証者 主担当 作成	公立小松大学 栗津キャンパス 校舎整備工事 期 (建築)	年月日	2018. 03 .
縮尺		A1 1/30, 50 A3 1/60, 100							



展図 1:50



展図 1:50



天井伏図

天井伏図

天井伏図

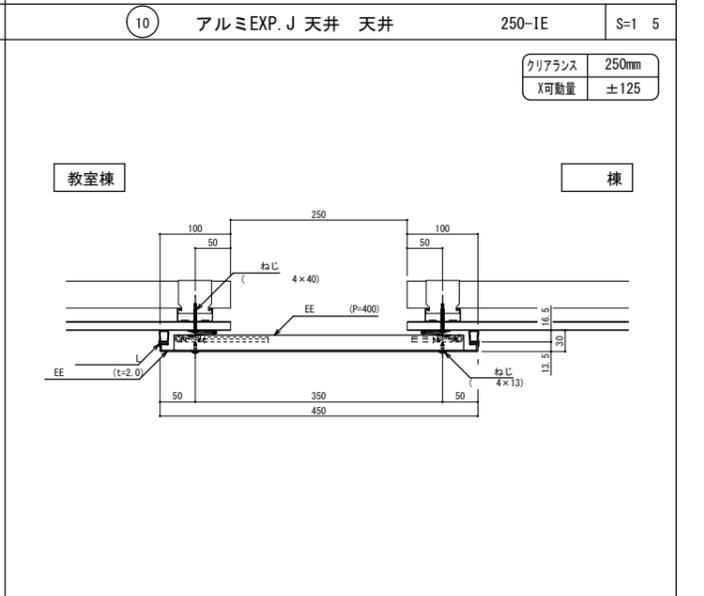
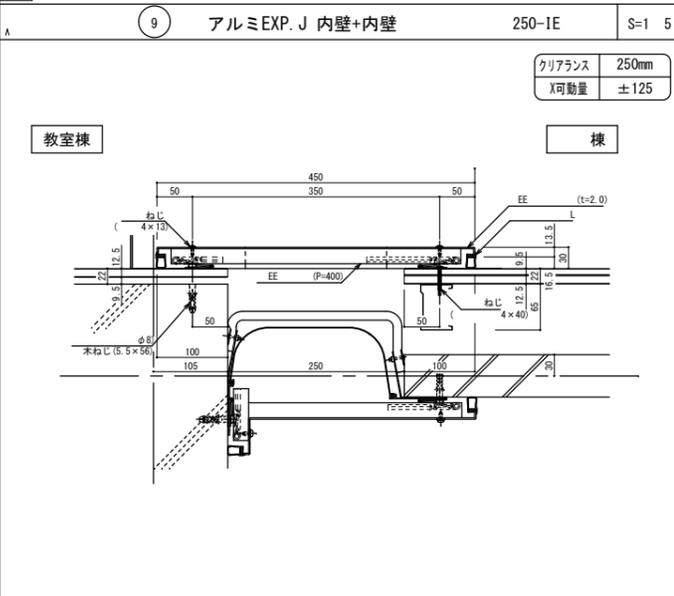
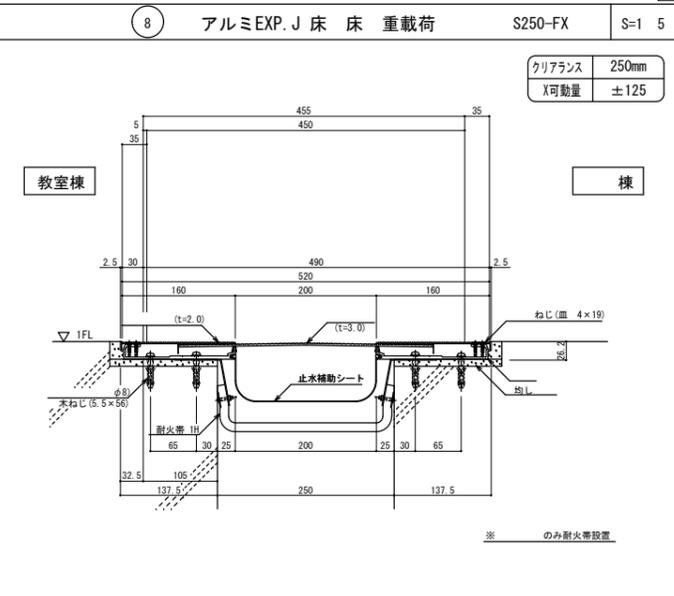
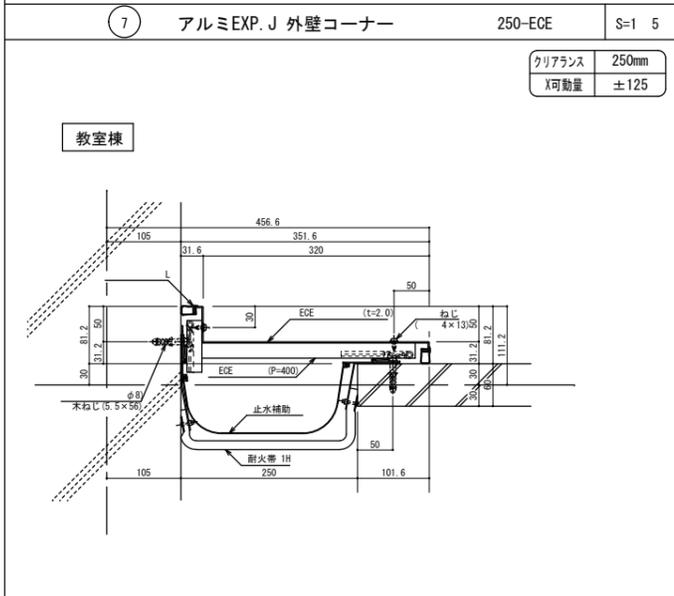
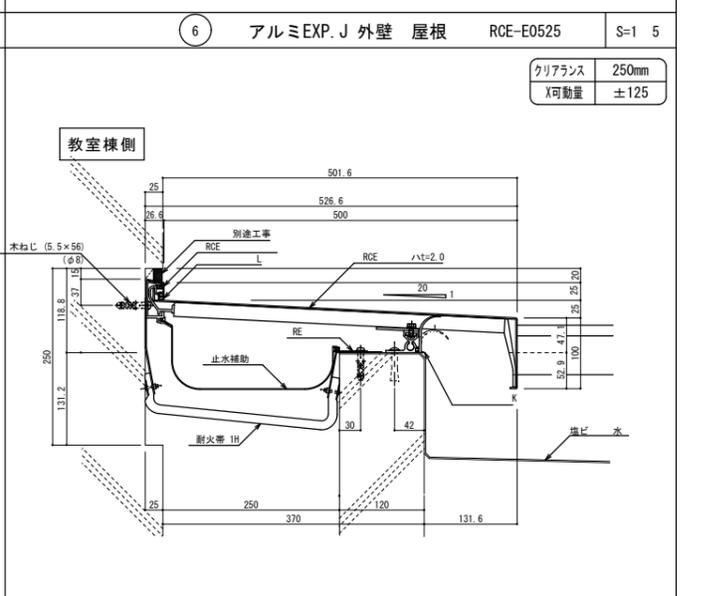
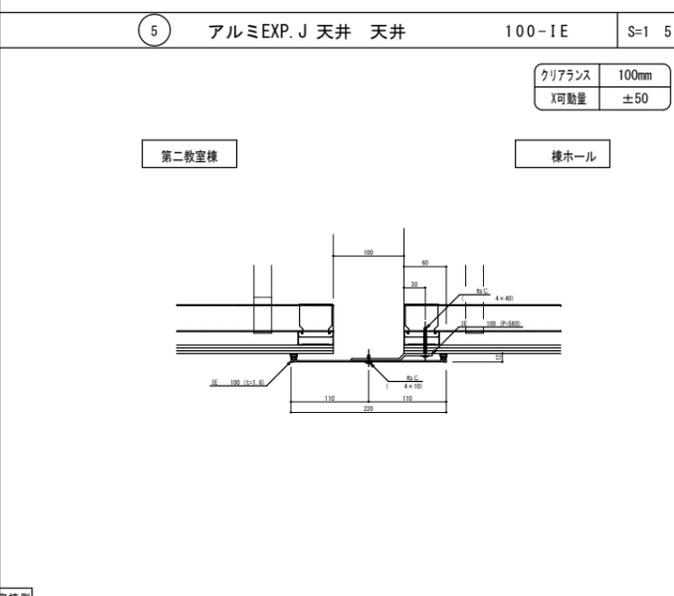
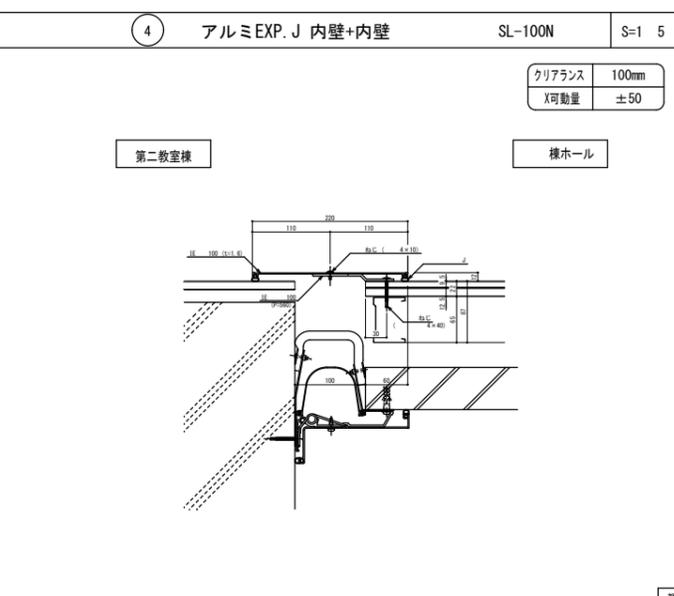
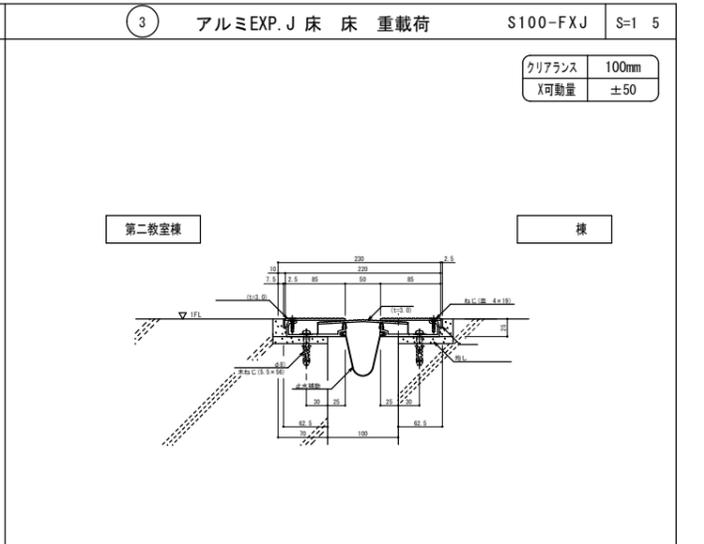
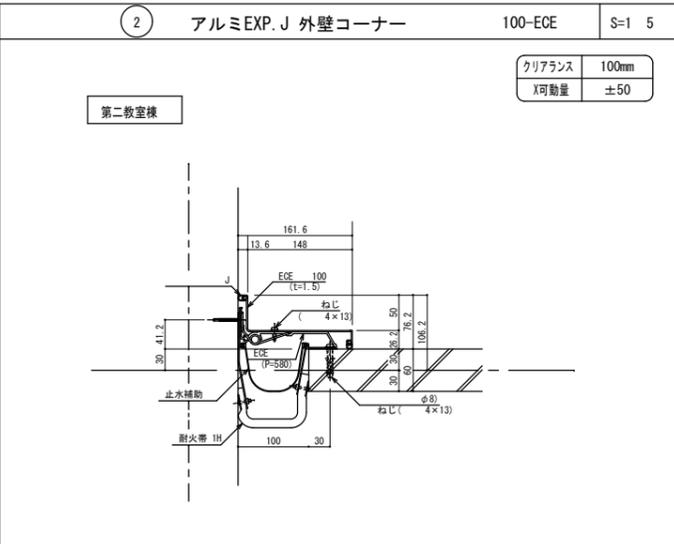
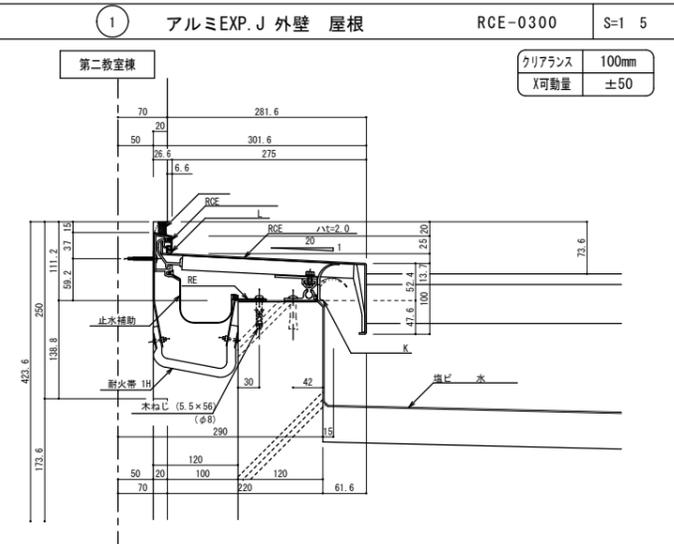
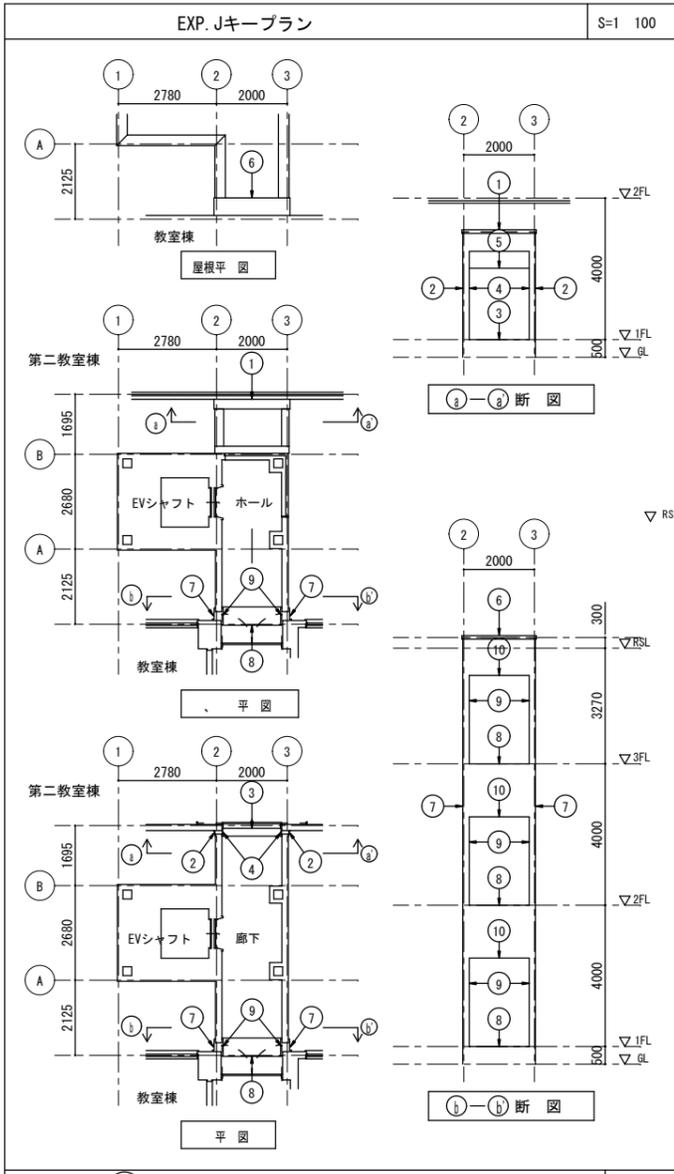
改修仕上表	渡り廊下	現状	棟	増築	既設	新設
内部						
床		下地:モルタル金ゴテ押え				●
		仕上:ビニル床シート t2.0				●
巾木		ビニル巾木 H60				●
壁		下地: LGS下地 +GB-R12.5+t9.5 準不燃				●
		仕上: ビニルクロス 不燃				●
天井		下地: LGS下地				●
		仕上: GB-Dt9.5 準不燃				●
備考						

建具表 1:50

記号・数量	縦すべり窓		片引き窓 FIX窓	
材料	アルミ		アルミ	
特見込 建具見込	230	70	200	70
仕上	二次 解着色		二次 解着色	
ガラス	F-6		F-6	
金物	LH、AM、付属金物一式		LH、AM、付属金物一式	
備考				
記号・数量	片き戸		両き戸	
材料	スチールt1.6		スチールt1.6	
特見込 建具見込	120	50	100	40
仕上	枠 SOP 扉 メラミン樹脂焼付塗装(指定色)		枠 SOP 扉 メラミン樹脂焼付塗装(指定色)	
ガラス	CH、T、付属金物一式		CH、T、位調整器、付属金物一式	
金物	特定 火設備 常、遮煙、煙感知器連動		特定 火設備 常、遮煙、煙感知器連動	
備考	潜り戸			

※記号の凡例及び仕様は「共通凡例・仕様」による

特記事	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 登録番号 208319 号 構造設計一級建築士 登録番号 2423 号 酒井 勲	雙星設計 一級建築士 中村 武嗣 登録番号 174376 号	工事名称	プロジェクト 160613	図名称	棟 ホール 改修図
	確認者	設備設計一級建築士 塚原 直 登録番号 2462 号		代表 設計室長 検証者 主担当 作成	施工小松大学 栗津キャンパス 校舎整備工事 期 (建築)	年月日 2018. 03 .	図 番号 A-55



特記事	確認日	一般建築士 構造設計一級建築士 一級建築士 番号 30019号 構造設計一級建築士 番号 2421号 酒井 勲	雙 星 設 計 一級建築士 中村 武嗣 番号174376号	工事名称	プロジェクト 160613	図 名称	EV棟 EXP. J詳細図
	確認者	設計設計一級建築士 塚原 亙 番号 2462号		代表	設計管理 検査 主担当 作成	期 (建築)	図 番号
				縮尺	年月日	図 番号	
					2018. 03 .		

エレベーター仕様		
号機名		
型式	機械室レス	
用途	乗用車用	
定格積載質量 定員	人乗	
定格速度		
運転方式	乗合全自動方式 乗り捨て方式	
制御方式	インバータ制御方式 マイコン制御、愛情アナウンス付	
停止	箇所	
かご寸法	口 奥行 天井 さ	
出入口寸法	幅 さ	
戸型式	枚戸中央 き	
動機		
動力用源	φ z	
照明用源	φ z	
連絡装置	同時通話式インターホン	
設置場所		
リモートメンテナンス用インターフェース リモートメンテナンスを提供するためには、別途保守契約を していただく必要があります		
管制運転	地」 有り 波および 波感知 リスタート機能付	
	火災 有り 火報と連動した接点による自動式	
	停 有り	
	自家発 無し	
標準装備	マルチビームドアセンサー付	
	乗場利用者検知機能付	
乗場仕様	三方枠	大枠 ステンレスヘアライン仕上
	乗場戸	ステンレスヘアライン仕上
	幕板	無し
	敷居	硬質アルミ
	ホールランタン	無し
	インジケータ	縦型デジタル表示 カバー 樹脂成型品
	ホールボタン	抗菌凸文字ボタン φ 認証 インジケータに組込
	天井	メーカー標準タイプ 天井照明色 白色光
	前側板	ステンレスヘアライン仕上
	側板	化粧板
かご仕様	戸	化粧板
	出入口上部	ステンレスヘアライン仕上
	床	樹脂タイル
	幅木	化粧板
	敷居	硬質アルミ
	操作盤	抗菌凸文字ボタン φ 認証 カバー ステンレスヘアライン仕上
	インジケータ	カラー液晶表示 背景色 白 前側板に組込
	車いす用操作盤	抗菌凸文字ボタン φ 認証 カバー 樹脂成型品
		ガラス製
	ハンドレール	ステンレスパイプ ステンレスヘアライン仕上

エレベーター仕様	
監視盤	無し
耐」クラス	
建築基準法適用年度	年改正
遮煙性能付乗場戸	大臣認定品 火災、停付 全
車いす仕様付	
視覚	がい者仕様付 全ての操作盤と乗場ボタンに点字 板付
声案内装置付	
キックプレート付	ステンレスヘアライン仕上
レールサイズアップ	
常放送用スピーカー付	かご天井上
煙感知器点検用ドアスイッチ付	
フェッシャープレート付	
公共建築工事標準仕様書	
戸 走行保護装置	

気設備		
号機名		
動力用源	φ z線サイズ× 回路 台	
	線サイズ	
	最大引込距離	
	容量	台
	トランス容量	台
照明用源	φ z φ × 回路 台	
	φ × 回路 台	
アース線	種 台	
インターホン用配管配線		
リモートメンテナンス用配管配線	配管サイズφ	
ビット点検用コンセント	以上 × 個 台	
火災報知信号無 圧 接点支給及び配管配線	印加 圧 接点容量 台	
常放送用スピーカー用配管配線	台	
注意事	上記の配管配線はエレベーター制御盤から各設備ならびに機器の設置場所まで引込み 上記の配管配線はエレベーターの着工前までに本設配線で引込み	

労基法適用 本設用 有 設置届・設置報告 ・ 無

換気設備	
号機名	
機器からの発熱量	台
所要換気量	・ 台
注意事	①昇 路の最 室温を °C以下に保つ換気設備を対角位置に 箇所設置 ②昇 路内に日射 西日等 が 入る場合は日射量の熱量を考慮した 換気設備を設置してください。

耐」クラス

ガイドレール	かご側	ウェート側
部分荷重〔 〕		

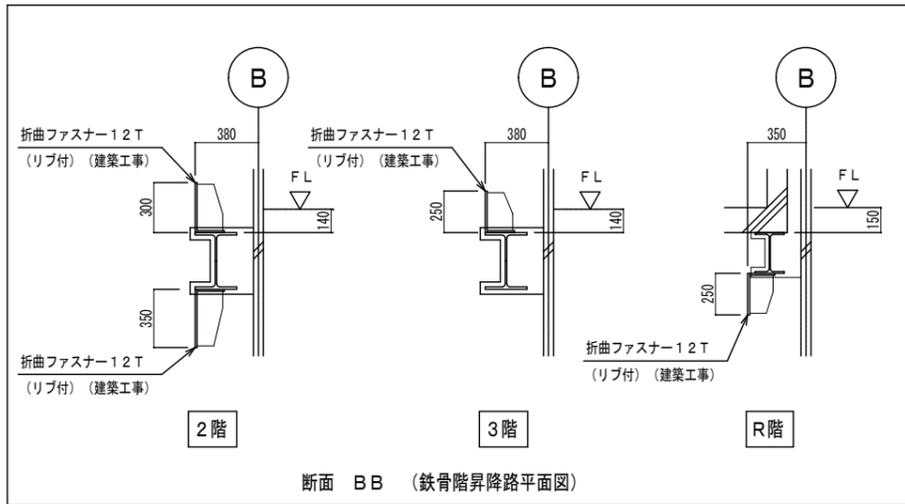
注 上記荷重により柱及びはりのたわみは
以下になるよう部材を設計のこと

地」時建物に掛る荷重

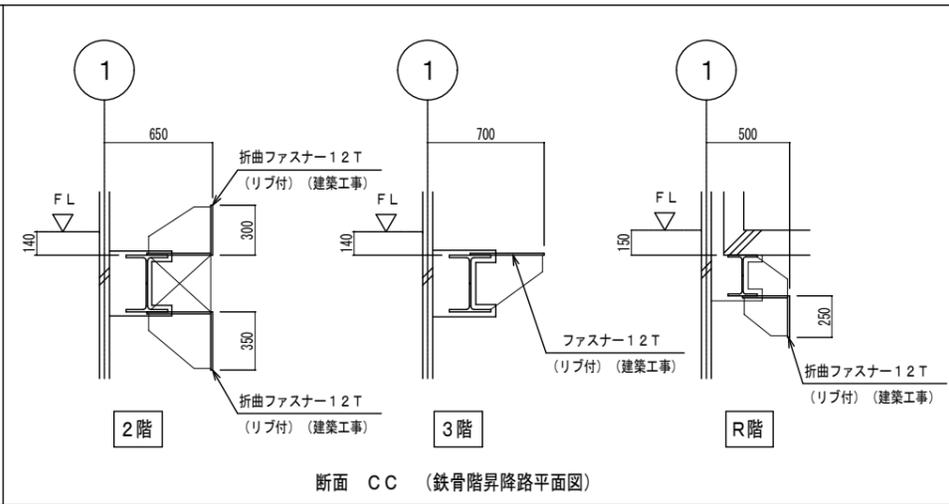
工事区分表					
号機名	目	工事名	建築	気 空衛	
昇 路		昇 路の築造と誤差修正工事 躯体誤差が を超えないこと 壁または囲いは なきものとする 昇 路の壁又は囲い及び出入口の戸は、任意の の に これと直角な方向の の力が昇 路外から作用した場合 において を超える変形や塑性変形が発生しないこと コンクリート厚さは 以上とする コンクリート基準圧縮強度 以上とする	○		
		昇 路内 構造 の構造耐火処理工事および補修工事	○		
		各 出入口床の敷居取り付け用かき込みまたは敷居受け持ち出し工事	○		
		各 出入口まわり壁の穴あけ工事 出入口、押しボタン、かご位置表示灯、ホールモニターなど	○		
		エレベーター据付後の出入口壁および床その他建築仕上げ及び補修工事	○		
		三方枠、インジケータなどと壁 の 火区画処理	○		
		三方枠、インジケータなどと壁 のすきま塞ぎ工事 ふさぎ板またはラス材		○	
		ビット内 水上げ工事 ビット仕上げ の水平度は 以下	○		
		オーバヘッド・ビット寸法が図 と異なる場合はつり・理め戻し工事	○		
		ビット点検用タラップまたは梯子の設置工事		○	
		ビット点検用コンセント設置工事 ケ 台	○		
		インターホンならびにその他の機器 放送 一般・ 常 ・自家発用源 識別接点・火災時管制用接点・ 犯カメラ等 用配管、配線工事 配線サイズ、本数は 気設備欄による	○		
		昇 路内の受 制御盤への動力 源、照明用 源およびアース線 の引き込みならびにつなぎ込み工事 配線サイズ、本数は 気設備欄による	○		
		昇 路 部の煙感知器の設置工事 昇 路外側から保守点検可能な構造 点検扉は、厚さ 以上の 板製	○		
		昇 路 部の煙感知器点検口 運動停止スイッチ取付		○	
		リモートメンテナンス用として 話中継盤から昇 路までの配管 最小直径 、配線工事 配線サイズ、本数は 気設備欄による	○		
		昇 路出入口側内壁 敷居下および出入口上部 とかご前壁が 以上 れる場合のフェッシャープレート取付用下地設置工事	○		
		昇 路出入口側内壁 敷居下および出入口上部 とかご前壁が 以上 れる場合のフェッシャープレート設置工事		○	
	そ の 他		昇 路内配管工事に伴う区画貫通部の耐火処理工事	○	
			昇 路 部に吊りビ ム設置工事	○	
		レール・三方枠・敷居・ホールボタン・インジケータなどの 固定用 材設置工事および誤差是正工事	○		
		昇 路内温度が °C超過の場合のガラリ設置工事	○		
		昇 路内温度が °C超過の場合の換気扇設置工事	○		
		昇 路内温度が °C未満又は °C超過の場合の空調設備設置工事		○	
		エレベーター部品搬入経路の確保 必要に応じてコンクリートの穴あけおよび埋め戻し工事	○		
		エレベーター重量部品搬入の の仮設揚重機の貸与	○		
		エレベーター据付工事員現場詰所および材料置場の確保	○		
		エレベーター据付工費用 力の供給 動力用および照明用 源	○	○	
	エレベーター運転調整用 力の供給 動力用および照明用 源ともに本設 源配管経路で引き込み	○	○		
	医療機器、放送用機器、コンピューター機器などの 源と エレベーター動力用 源およびアース線の系統分 工事		○		
	昇 路と居室が 接する場合は居室側 および 振工事	○			
	昇 路内建築工事仮設床 水平 生 用の金網、 デッキプレートなどの撤去工事	○			
	エレベーター着工前の各 出入口 口部の塞ぎ材支給および施工	○			
	昇 路内仮設足場の設置および解体工事	○			
	エレベーター承認図と躯体が異なる場合の手直し	○			
	昇 路壁継目の補修、セパボルトの撤去	○			

【注意事】
エレベーター設備計画にあたっては、以下の事 にご注意 います。
昇 路内にエレベーターに 係のない用途の配管・ダクトなどが 出ないようにしてください。
昇 路内温度は最低 °C、最 °C以内とし、湿度は月平均 °C、日平均 °Cを超えないようにしてください。
昇 路は有毒ガスや、はなはだしい塵埃などが入らないようにしてください。
昇 路内壁や 部材に使用する塗料、接着剤、モルタルなどはホルムアルデヒドの発散が少ない材料を使用してください。
源 圧の変動は 以内、 圧不平衡率 以内に保つよう 源を設置 います。

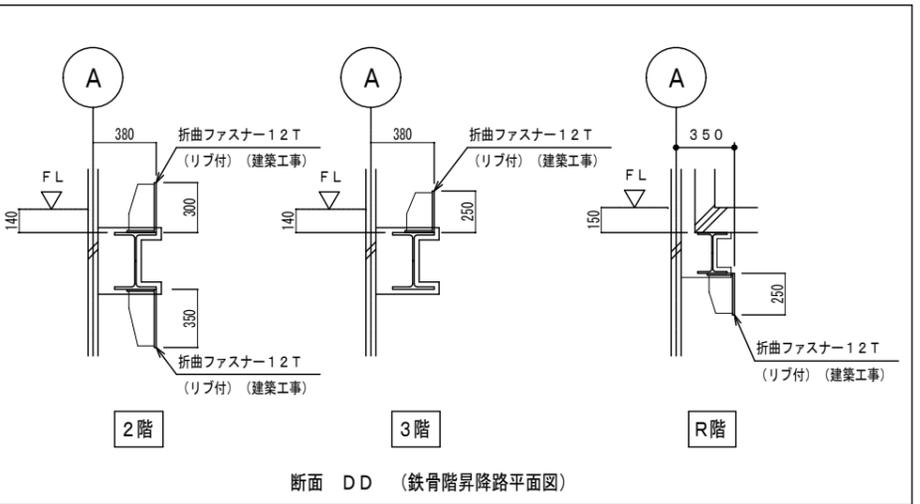
特記事	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 登 番号 2019 号 構造設計一級建築士 登 番号 2021 号 酒井 勲	雙星設計 一級建築士 中村 武嗣 登 番号174276号 代表 設計監理部 検証者 主担当 作成	工事名称 プロジェクト 16063 公立小松大学 栗津キャンパス 校舎整備工事(建築)	図 名称 棟 エレベーター詳細図 1
	確認者	設備設計一級建築士 塚原 亘 登 番号 2021 号		縮尺 年月日 2018 . 03 .	図 番号



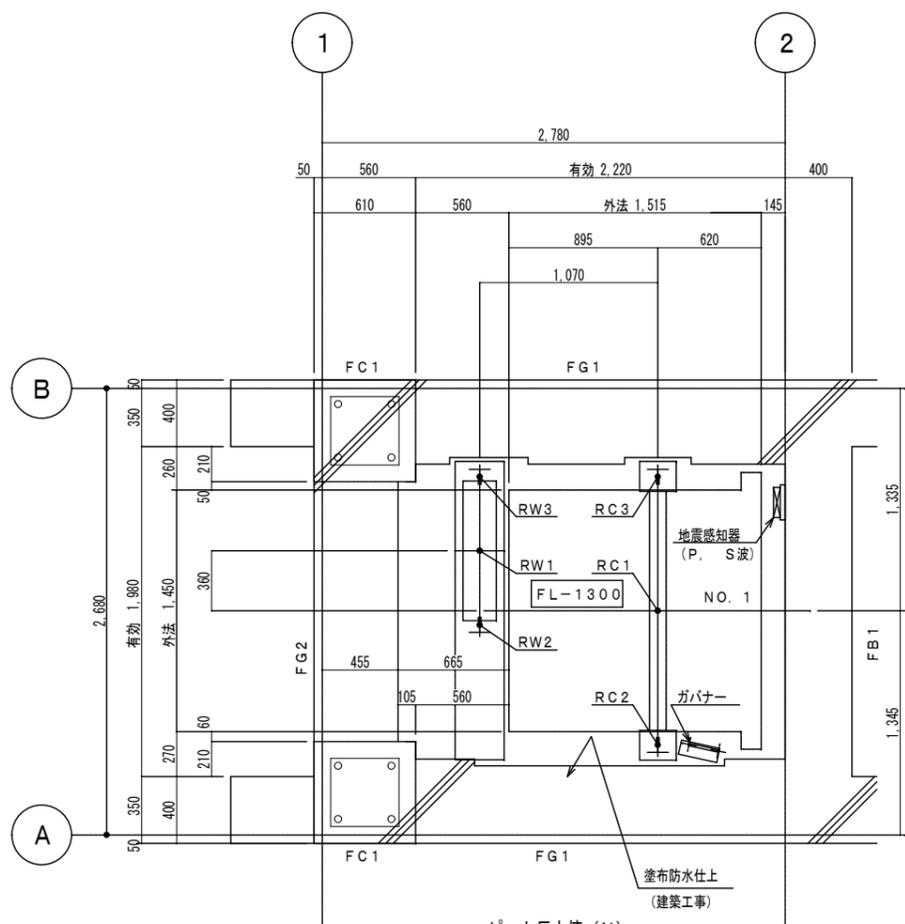
断面 BB (鉄骨階昇降路平面図)



断面 CC (鉄骨階昇降路平面図)



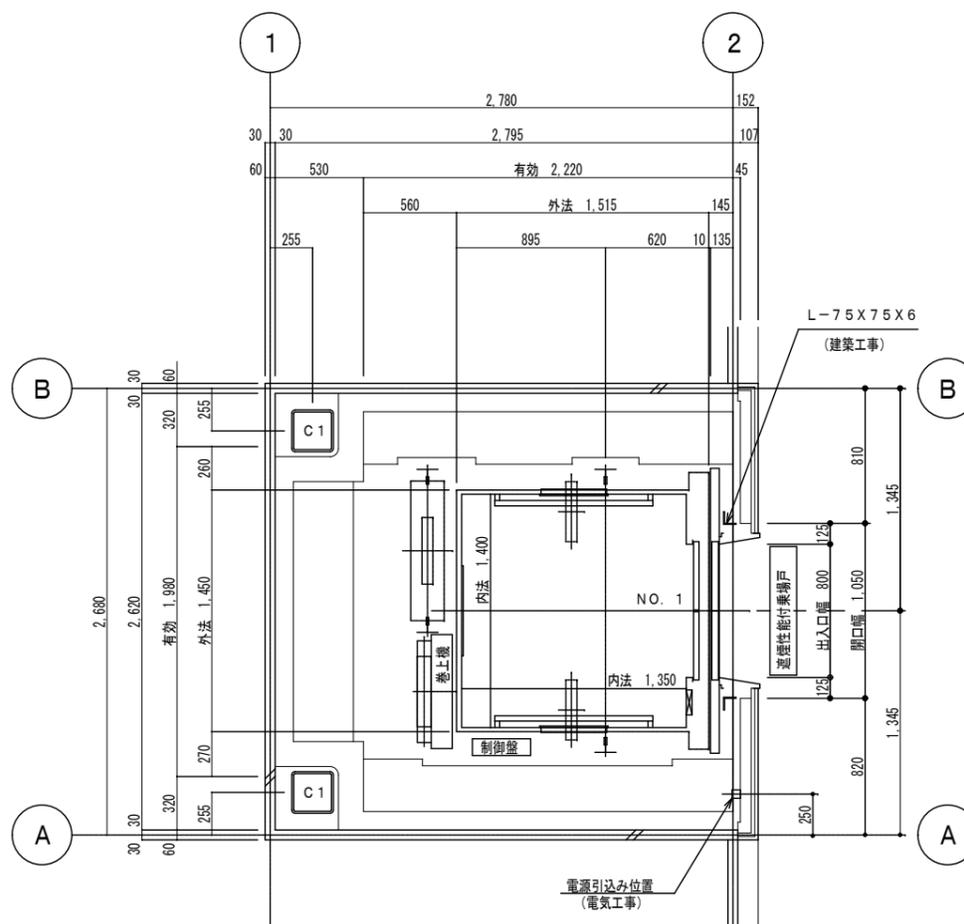
断面 DD (鉄骨階昇降路平面図)



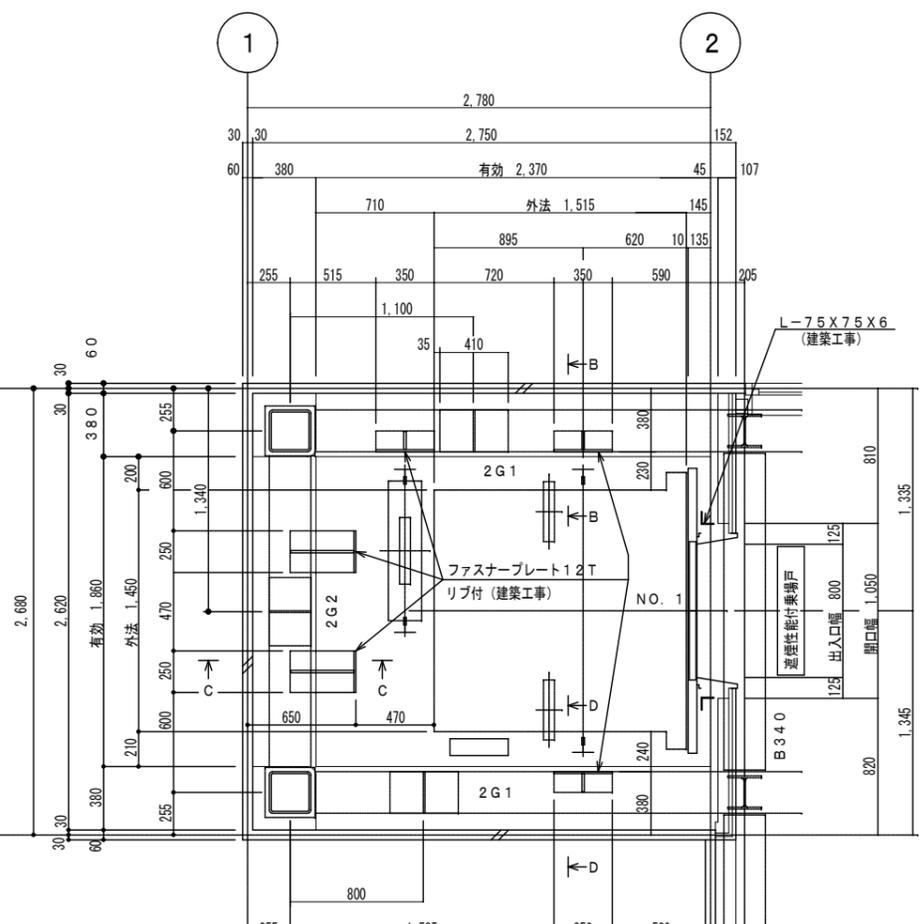
ピット反力値 (N)

号機名	短期荷重			長期荷重		
	RC1	RW1	RC2	RC3	RW2	RW3
NO. 1	82500	65500	22000	22000	42500	15500

ピット平面図 (1:30)

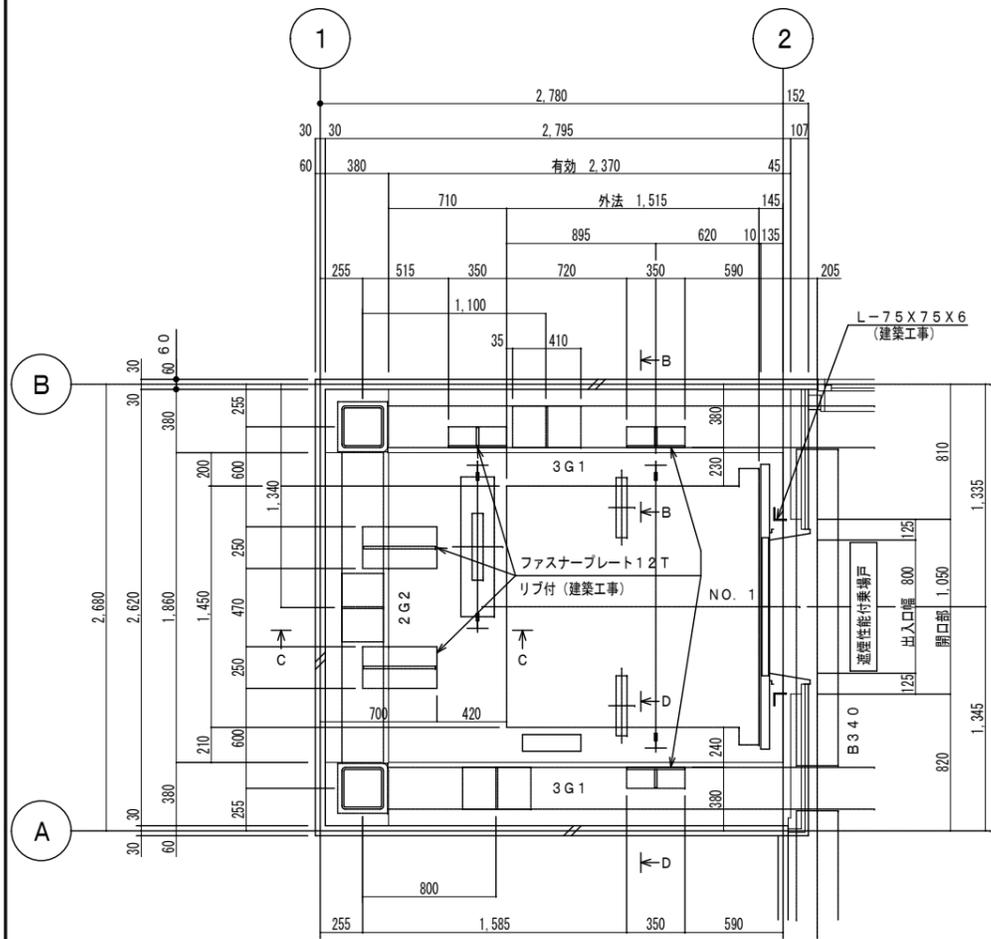


1 階
昇降路平面図 (1:30)

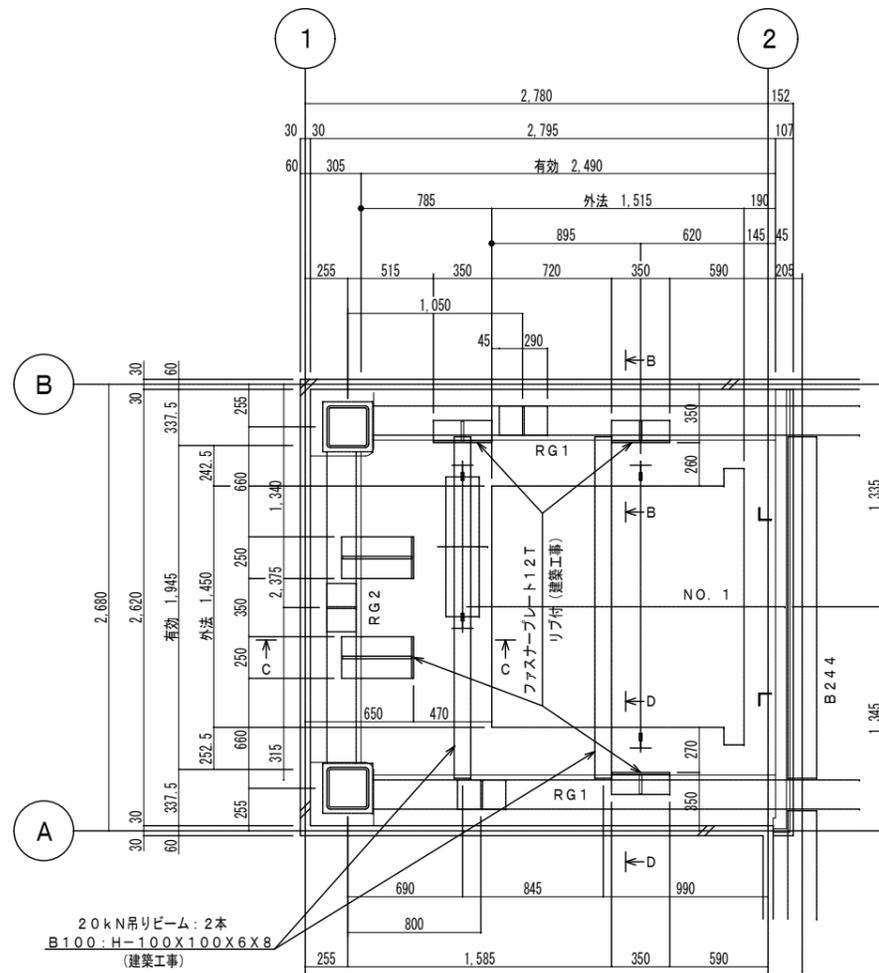


2 階
昇降路平面図 (1:30)

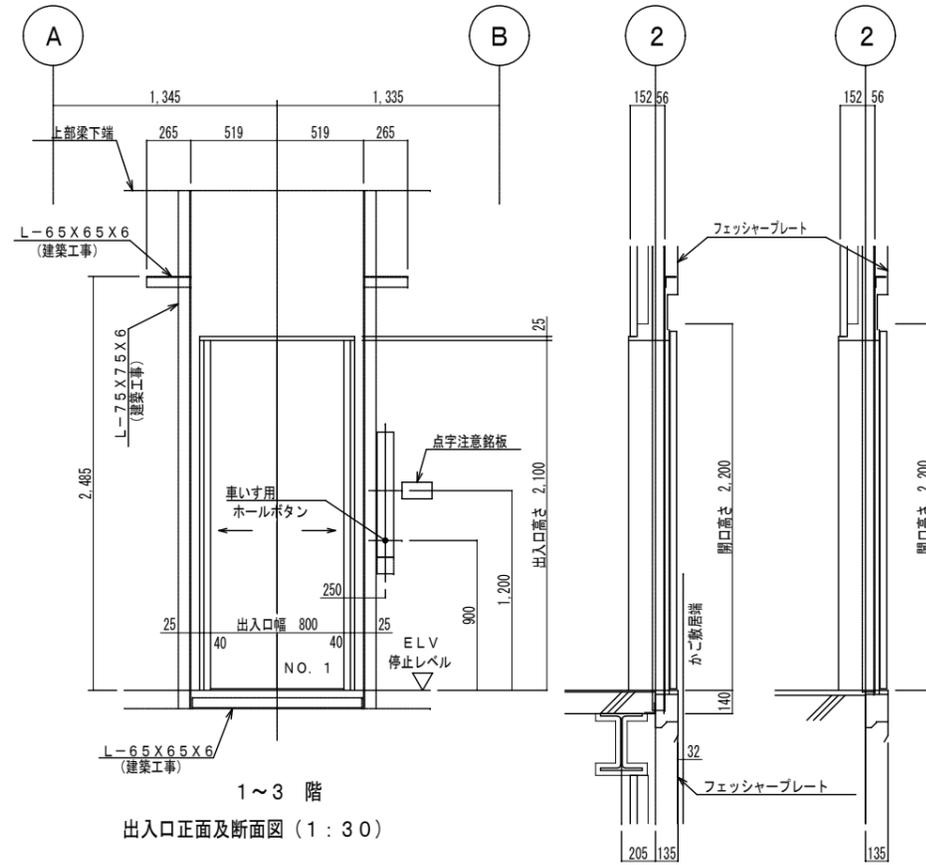
特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号 20319号) 構造設計一級建築士 (登録番号 303号) 酒井 勲	雙星設計			工事名称 (プロジェクトNo. 10603)	図面名称
	確認者	設備設計一級建築士 塚原 亘 (登録番号 242号)	代表	設計監理部長	検証者	主担当	作成
						縮尺	年月日
						2018.03.	図面番号
							A-58



3階
昇降路平面図 (1:30)



R階
昇降路平面図 (1:30)

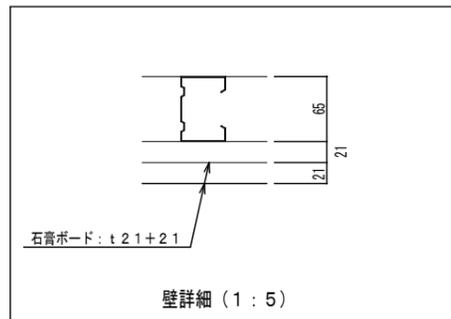


2, 3階

1階

鉄骨リスト

C1	3階	□-250X250X9
	1, 2階	□-250X250X12
G1・G2	R階	H-244X175X7X11
	2, 3階	H-340X250X9X14
B340		H-340X250X9X14
B244		H-244X175X7X11
B100	吊りビーム	H-100X100X6X8



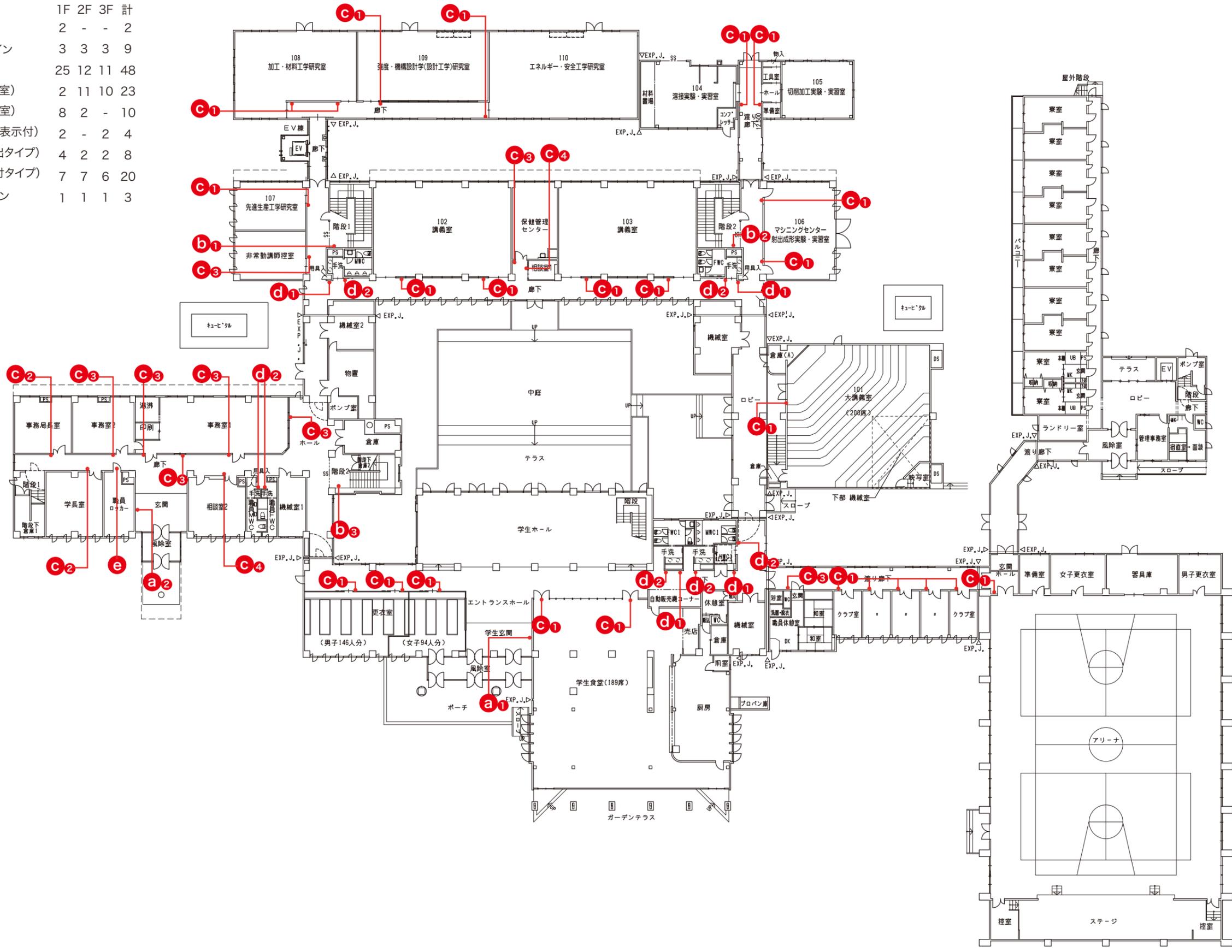
壁詳細 (1:5)

特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号 20019号) 構造設計一級建築士 (登録番号 261号) 酒井 勲	雙 双 星 設 計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174376号) 代表 設計室部長 検証者 主担当 作成	工事名称 (プロジェクトNo. 10013) 公立小松大学粟津キャンパス校舎整備工事(2期) (建築)	図面名称 EV機 エレベーター詳細図 (3)
	確認者	設備設計一級建築士 塚原 亘 (登録番号 262号)			



特記事項	確認日		雙星設計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174376号) 一級建築士 梶原 豆 (登録番号2482号)				工事名称 (プロジェクトNo. 160618) 公立小松大学栗津キャンパス校舎整備工事(2期)(建築)		図面名称 外部サイン配置図
	確認者		代表	設計監理部長	確認者	主任	作成	縮尺	年月日
	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号20011号) 構造設計一級建築士 (登録番号2423号) 梶原 勲						A1: 1/500 A3: 1/1,000	2018.03	A-61

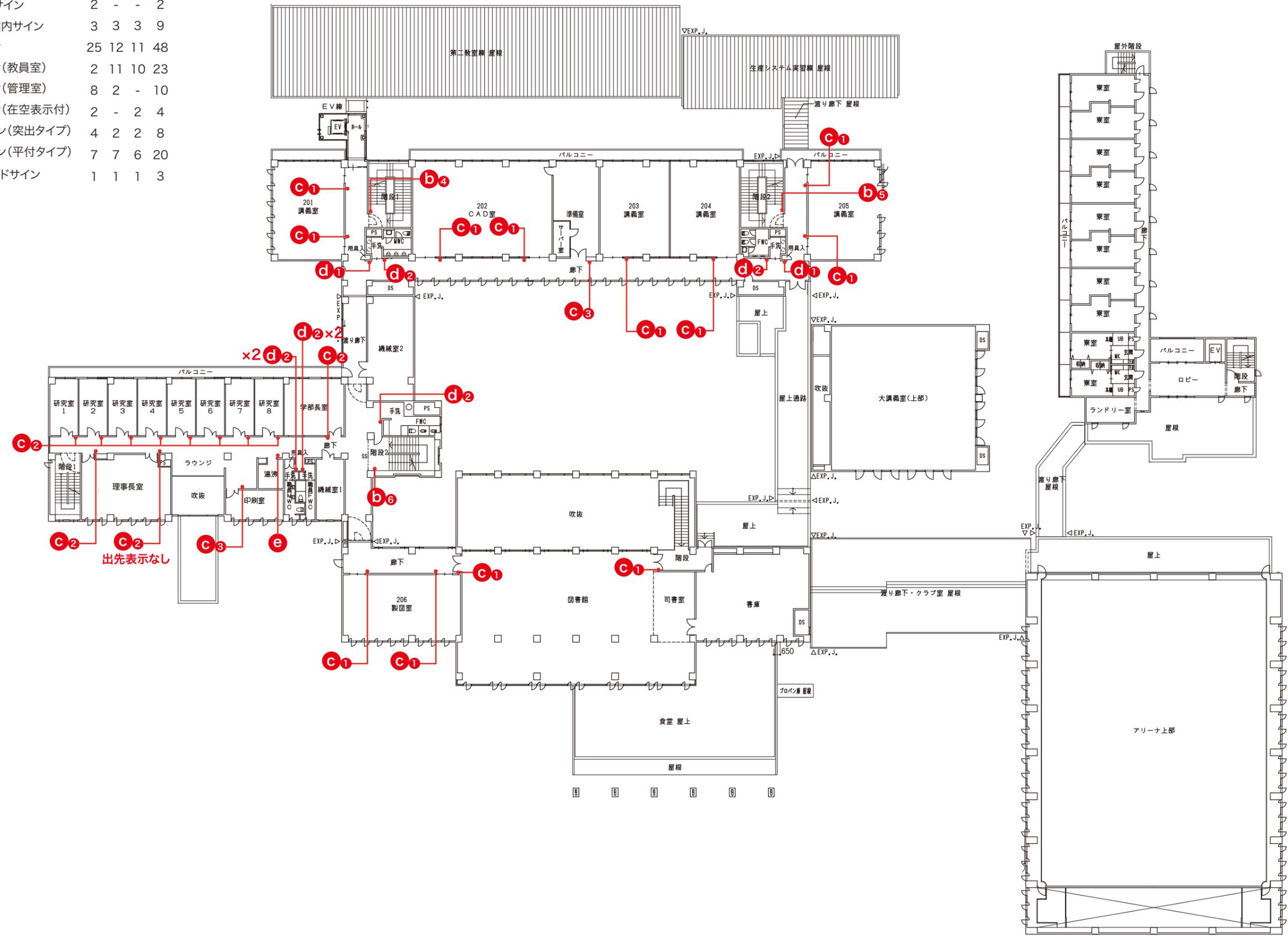
	1F	2F	3F	計
a	総合案内サイン	2	-	2
b	各フロア案内サイン	3	3	9
C1	平付サイン	25	12	48
C2	平付サイン(教員室)	2	11	23
C3	平付サイン(管理室)	8	2	10
C4	平付サイン(在空中表示付)	2	-	4
d1	ピクトサイン(突出タイプ)	4	2	8
d2	ピクトサイン(平付タイプ)	7	7	20
e	バックヤードサイン	1	1	3



改修後

特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号20819号) 構造設計一級建築士 (登録番号2423号) 酒井 勲	雙星設計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号114376号) 代表 設計監理部長 藤原 圭 主任 佐藤 浩一 作成	工事名称 (プロジェクトNo)	160613	図面名称	1階サイン配置図
	確認者	設備設計一級建築士 設備設計一級建築士 塚原 豆 (登録番号2482号)		代表 設計監理部長 藤原 圭 主任 佐藤 浩一 作成 縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400 年月日 2018.03	図面番号	A-62	

	1F	2F	3F	計
a	総合案内サイン	2	-	2
b	各フロア案内サイン	3	3	9
C1	平付サイン	25	12	48
C2	平付サイン(教員室)	2	11	23
C3	平付サイン(管理室)	8	2	10
C4	平付サイン(在空中表示付)	2	-	4
d1	ピクトサイン(突出タイプ)	4	2	8
d2	ピクトサイン(平付タイプ)	7	7	20
e	バックヤードサイン	1	1	3

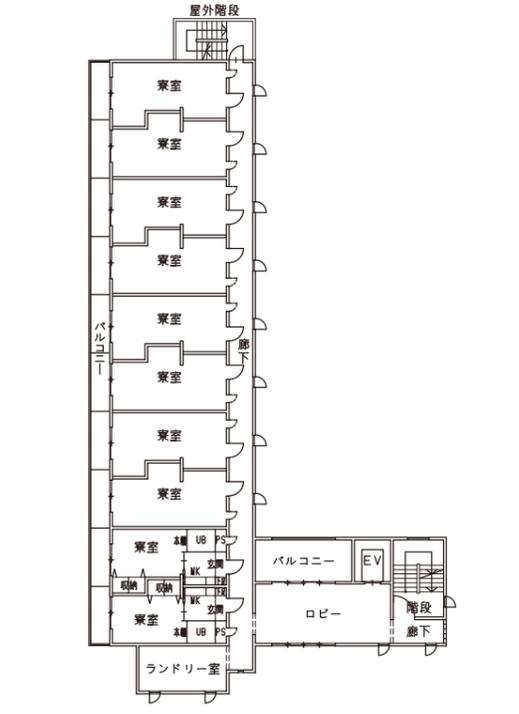
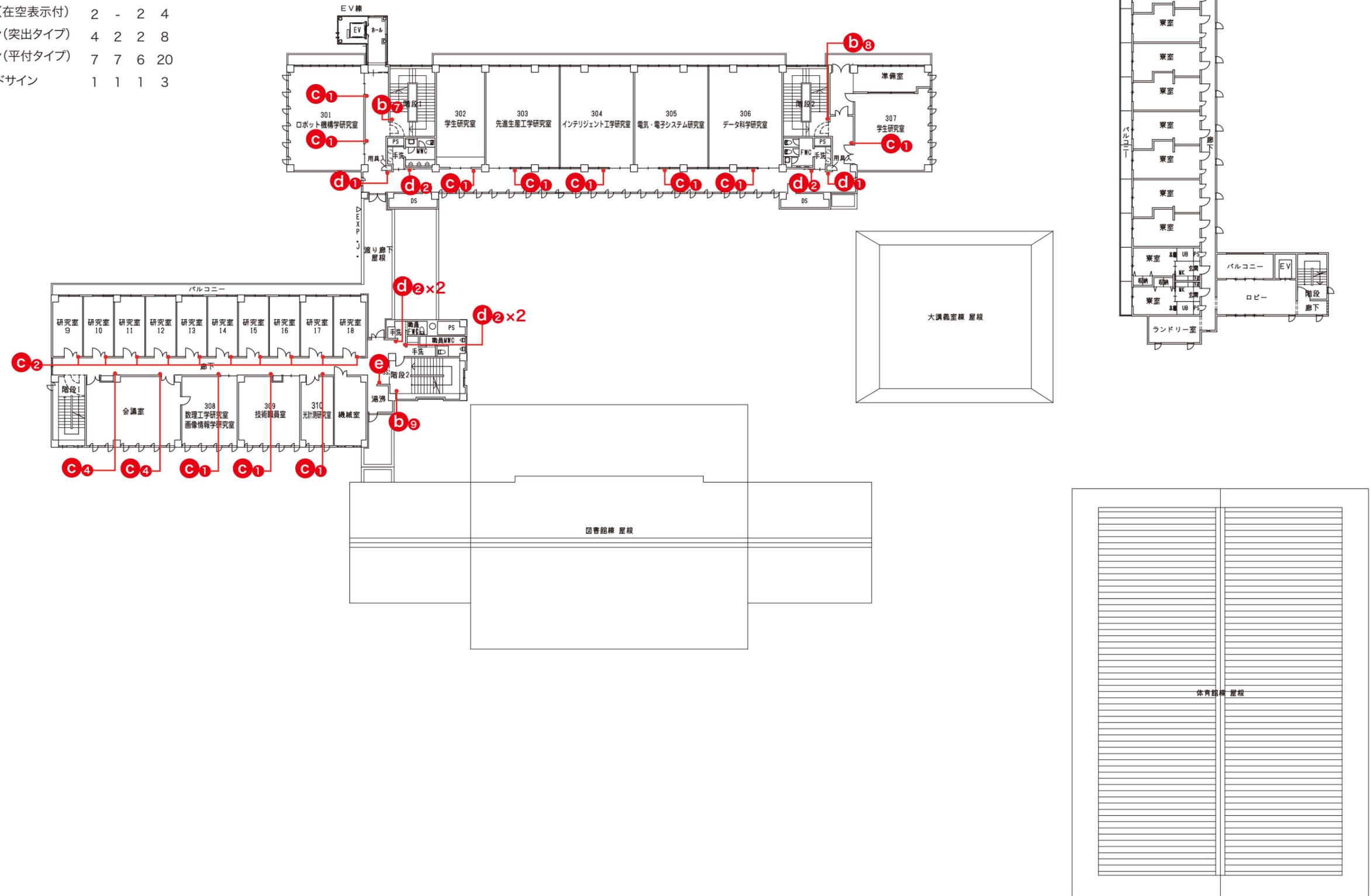


改修後

特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号200119号) 構造設計一級建築士 (登録番号2423号) 酒井 勲	雙 双 星 設 計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174376号) 代表 設計監理部長 孫証者 主担当 作成	工事名称 (プロジェクトNo. 160619)	図面名称
	確認者	改修設計一級建築士 塚原 豆 (登録番号2462号)		公立小松大学薬津キャンパス校舎整備工事(2期)(建築) 2階サイン配置図 年月日 2018.03 縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400	図面番号
					A-63

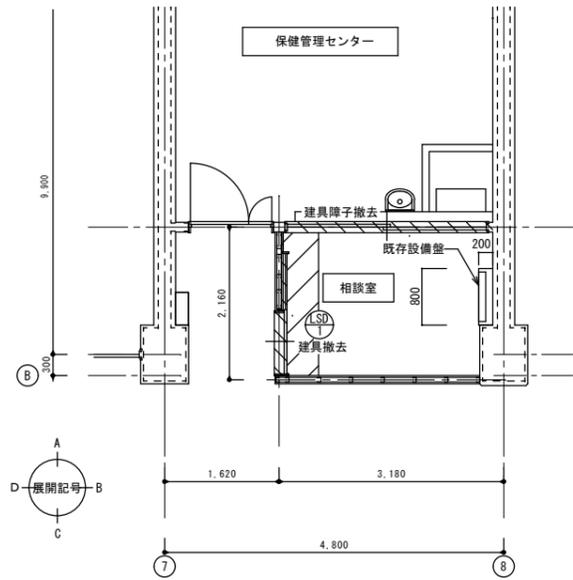


	1F	2F	3F	計	
a	総合案内サイン	2	-	-	2
b	各フロア案内サイン	3	3	3	9
C1	平付サイン	25	12	11	48
C2	平付サイン(教員室)	2	11	10	23
C3	平付サイン(管理室)	8	2	-	10
C4	平付サイン(在空表示付)	2	-	2	4
d1	ピクトサイン(突出タイプ)	4	2	2	8
d2	ピクトサイン(平付タイプ)	7	7	6	20
e	バックヤードサイン	1	1	1	3

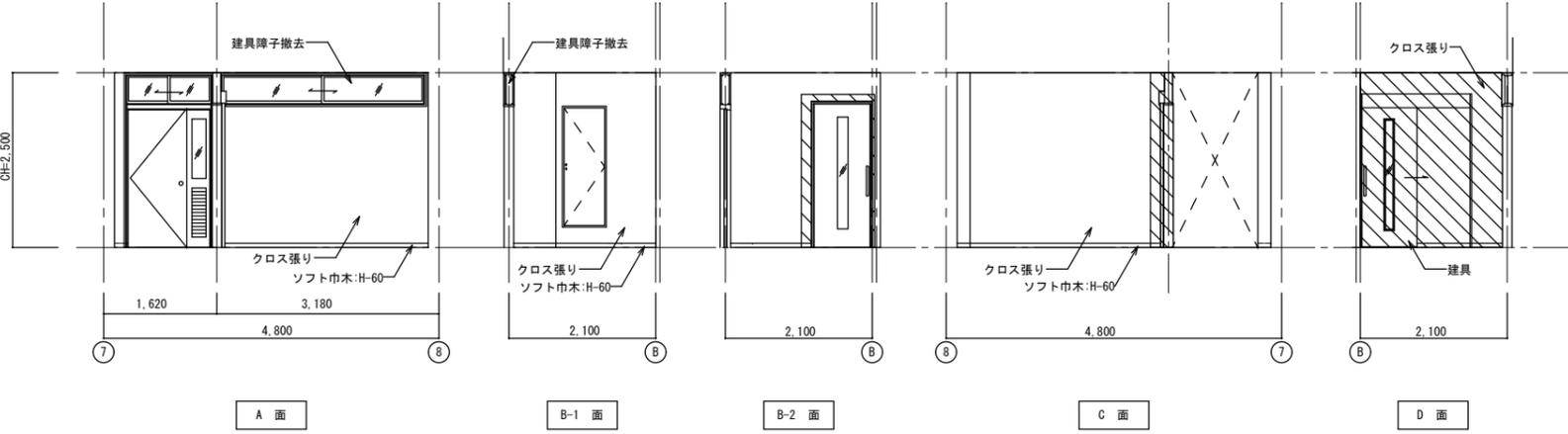
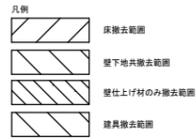


改修後

特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号20819号) 構造設計一級建築士 (登録番号2423号) 酒井 勲	雙 双 星 設 計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174376号) 代表 設計監理部長 孫証者 主担当 作成	工事名称 (プロジェクトNo. 160613)	図面名称
	確認者	設備設計一級建築士 設備設計一級建築士 塚原 豆 (登録番号2462号)		公立小松大学栗津キャンパス校舎整備工事(2期)(建築) 3階サイン配置図 図面番号 A-64	年月日 2018.03



平面詳細図 1:50

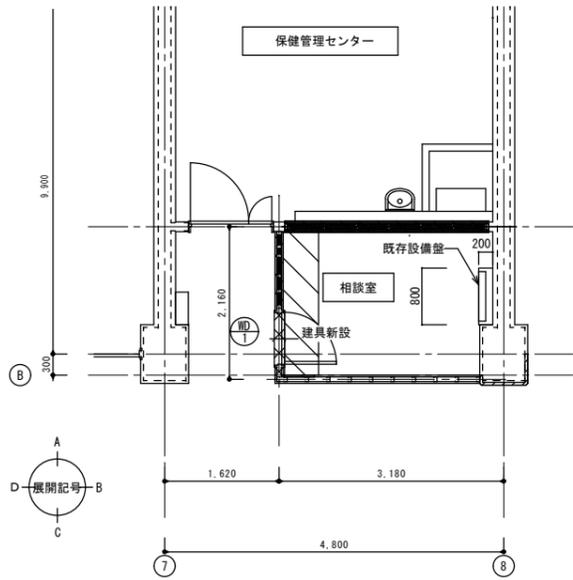


改修仕上表	相談室 (改修)	存在	撤去
床	下地:モルタル金ゴテ押え 仕上:タイルカーペット t6.0	○	●
巾木	ビニル巾木 H=60	○	●
壁	下地:LS6, GB-F t12.5+12.5 (相談室側のみ) 仕上:布クロス	○	●
廻縁	仕上:塩ビ製	○	○
天井	下地:LGS 仕上:GB-R t9.5+DR t9.0	○	○
備考			

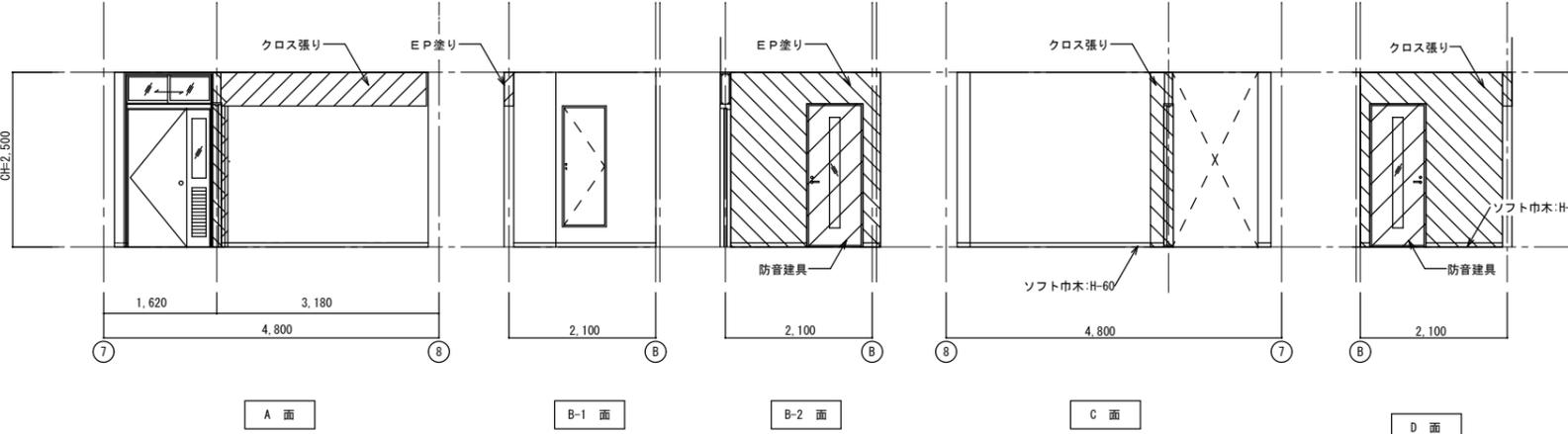
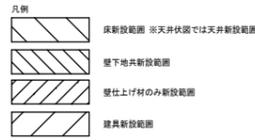
記号・数量	(LSD) 1	片引き戸	1
姿図			
材料	スチールt1.6 枠:スチールt1.6		
枠見込	建具見込	204	40
仕上	枠、扉:メラミン樹脂焼付塗装(指定色)		
ガラス	F 4mm		
金物	BH、S、SK、付属金物一式		
備考			

※記号の凡例及び仕様は「共通凡例・仕様」による

撤去図



平面詳細図 1:50



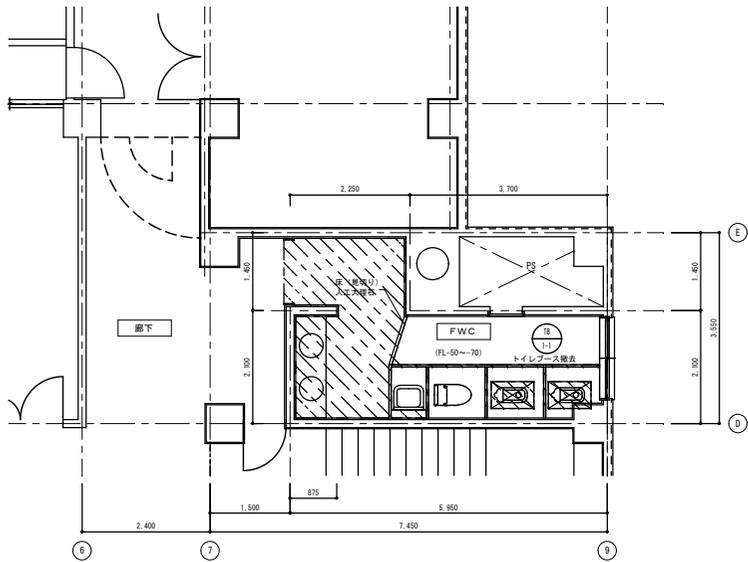
改修仕上表	相談室 (改修)	既設	新設
床	下地:モルタル金ゴテ押え 仕上:タイルカーペット t6.0	○	○
巾木	ビニル巾木 H=60	○	○
壁	保健管理センター側高さ:窓枠内下地新設、防音材充填 下地:GB-F t12.5+12.5 (相談室側) 下地:GB-F t12.5+合板5.5 (保健管理センター側) 仕上:布クロス (相談室) 仕上:EP塗り (保健管理センター側)	○	●
廻縁	仕上:塩ビ製	○	○
天井	下地:LGS 仕上:GB-R t9.5+DR t9.0	○	○
備考			

記号・数量	(WD) 1	防音片引き扉	1
姿図			
材料	木製防音ドア		
枠見込	建具見込	135	52
仕上	枠、扉:化粧シート張り		
ガラス	透明ガラス 6mm+フォオルム張り		
金物	レバーハンドル、付属金物一式 窓付・戸当たり付・下枠フラット		
備考	遮音性能:T-4 防音ドア(ヤマハ)同等品		

※記号の凡例及び仕様は「共通凡例・仕様」による

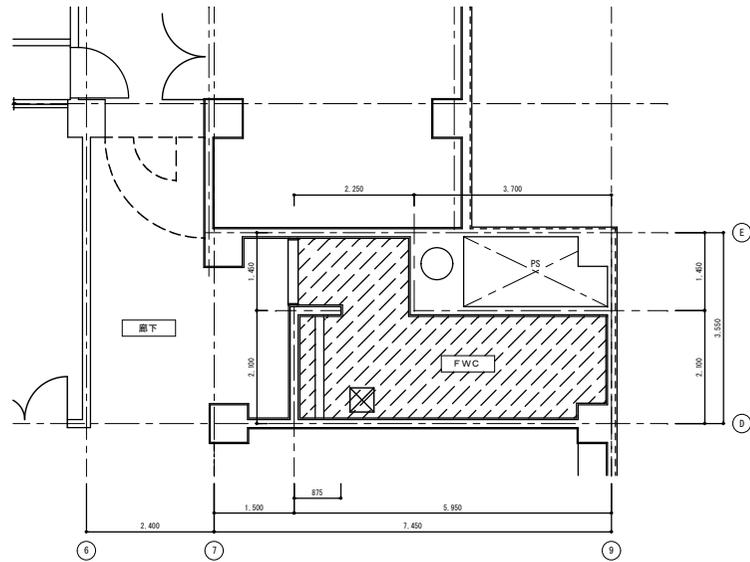
改修図

特記事項	確認日	2018.03.03	難双星設計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174276号) 一級建築士 酒井 勲 (登録番号2422号)	工事名称	7090クドN. 160613	図面名称	教室棟 1階 相談室 改修図
	確認者	酒井 勲		代表	中村 武嗣	年月日	2018.03
	設計	酒井 勲	設計監理部長	中村 武嗣	年月日	2018.03	
	設備設計	坂原 夏	設計	坂原 夏	年月日	2018.03	



平面図詳細図 1:50

撤去図



天井伏図 1:50

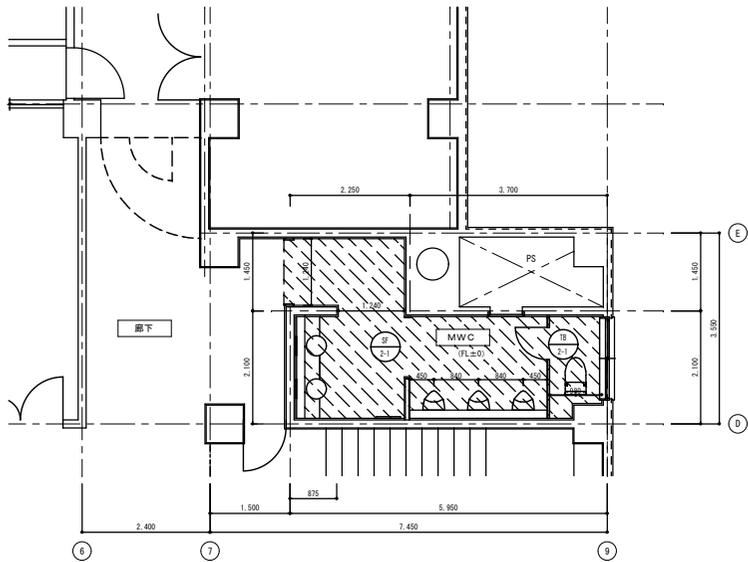
撤去図

既存仕上表	FWC → MWC	仕様	撤去
床	下地: E-2防水下地/手洗いW920205モルタル垂コ字		○
	仕上 (使用箇所): 50角黒磨材 (F44級)		○
	仕上 (手洗い箇所): 塩ビシート2.5		●
巾木	壁仕上/手洗いW920205ソフト巾木H60		●
	下地: 25×11		○
	仕上 (使用箇所): P-510杉建付厚		○
壁	仕上 (使用箇所): 100角黒磨材H60		●
	仕上 (手洗い箇所): P-510杉材垂付厚		○
	階梯	塩ビ	●
天井	下地: LG5		●
	仕上: 塩ビ9.5		●
備考	洗面カウンター		●

- 床撤去範囲 ※天井伏図では天井撤去範囲
- 壁下地共撤去範囲
- 壁仕上材のみ撤去範囲
- 建具撤去範囲
- 和式便所除去の上、スラブ剥離

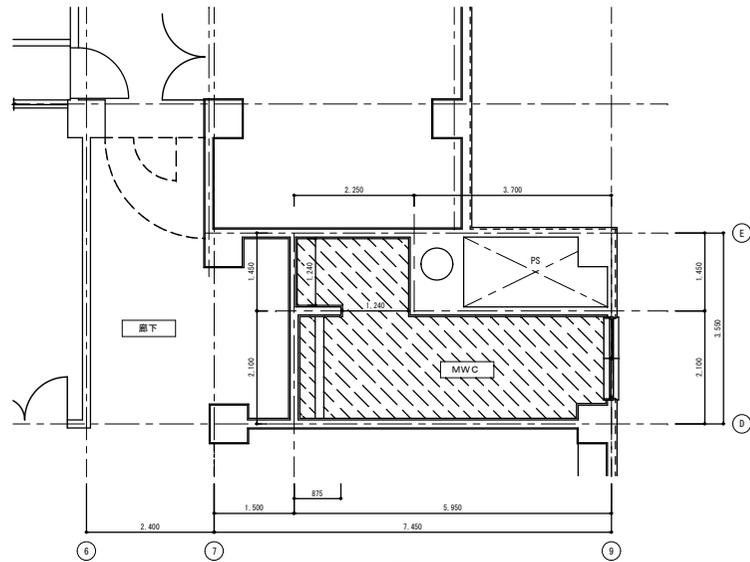
撤去天井点検口: 400角

撤去図



平面図詳細図 1:50

改修図



天井伏図 1:50

改修図

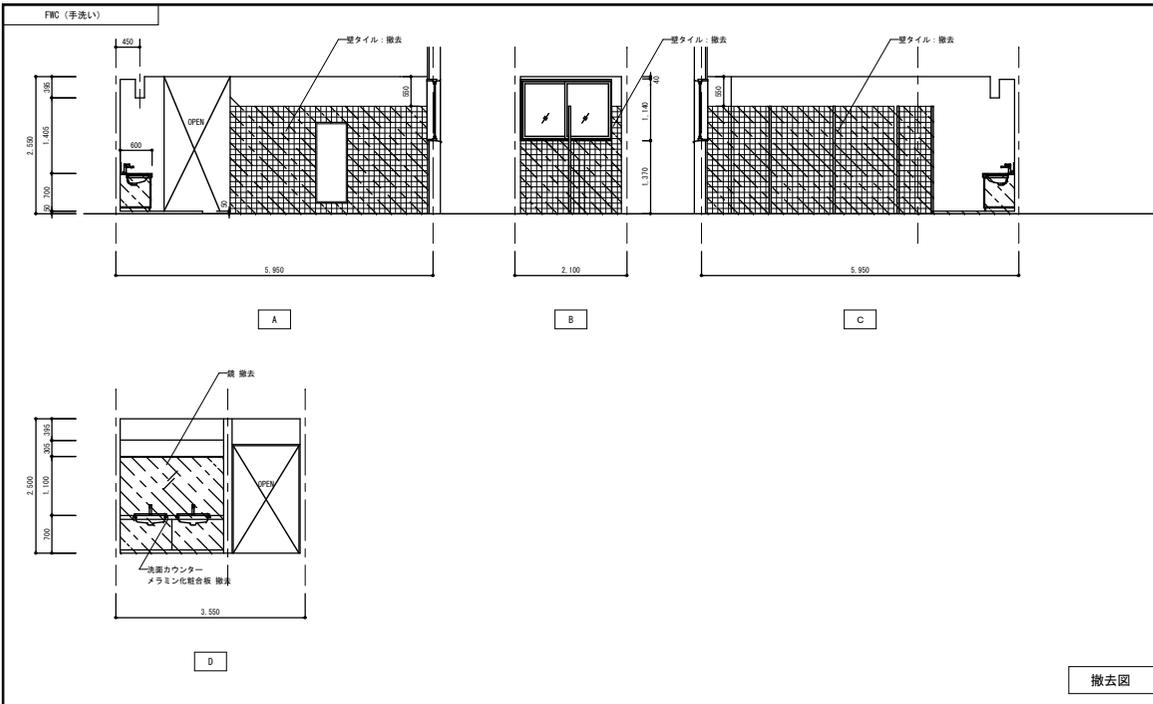
改修仕上表	FWC → MWC	仕様	新設
床	下地: 撥水モルタル層移 + 40程度		●
	仕上: ビニル床シート (ノンワックスタイプ) t2.0		●
床	下地: モルタル垂コ字		○
	仕上: ビニル床シート (ノンワックスタイプ) t2.0		●
巾木	ビニル巾木H60		●
	下地: 撥水モルタル層移 t5		●
壁	仕上: 化粧ケイカル板 t6		●
	仕上 (手洗い箇所): EP-6壁紙		●
階梯	塩ビ		●
	下地: LG5 + 塩ビ9.5		●
天井	仕上: ビニルタピス (不燃、A1程度)		●
	ライニング天板: 化粧ケイカル板 t6.0		●
備考	255×110-T510 110×110-T510 110×110-T510-110		●
	全床磨: 設備工事		●

- 床撤去範囲 ※天井伏図では天井撤去範囲
- 壁下地共撤去範囲
- 壁仕上材のみ撤去範囲
- 建具撤去範囲

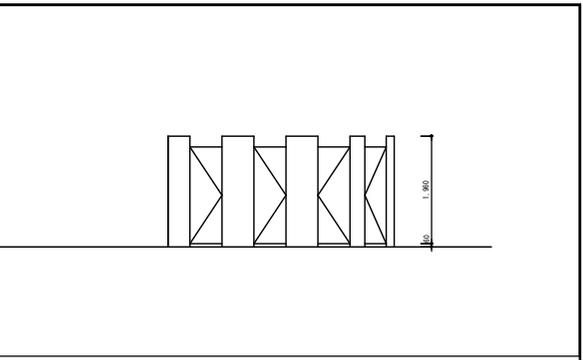
撤去天井点検口: 400角

改修図

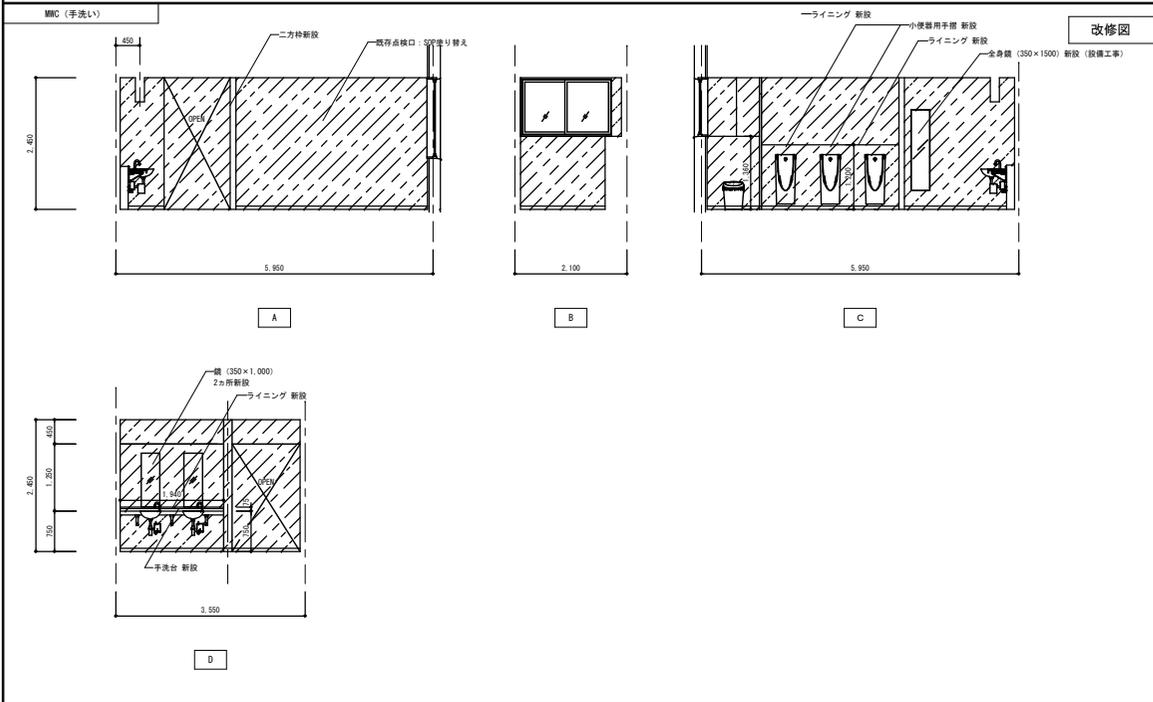
特記事項	<p>建設者: 設備設計一級建築士</p> <p>一般設計士 (登録番号: 2017年)</p> <p>建築設計一級建築士 (登録番号: 2402号)</p> <p>設計士 齋井 勲</p>				<p>難双星設計</p> <p>代表 齋井 勲 (登録番号: 174279号)</p> <p>主任 齋井 勲 (登録番号: 2402号)</p>	<p>工事名称 (752274号) 160613</p> <p>公立小松大学 薬学キャンパス 検査管理工事 (2期) (調査)</p>	<p>図面名称</p> <p>管理・研究棟 2階便所</p> <p>撤去・改修図 (1)</p>
	<p>建設者: 設備設計一級建築士</p> <p>設備設計一級建築士 (登録番号: 2402号)</p> <p>建築 眞 (登録番号: 2402号)</p>						
	<p>代表 齋井 勲 (登録番号: 174279号)</p> <p>主任 齋井 勲 (登録番号: 2402号)</p> <p>作成</p>						
	<p>縮尺</p> <p>A1: 1/50</p> <p>A2: 1/100</p> <p>年月日</p> <p>2019. 10.</p> <p>図面番号</p> <p>追加-1</p>						



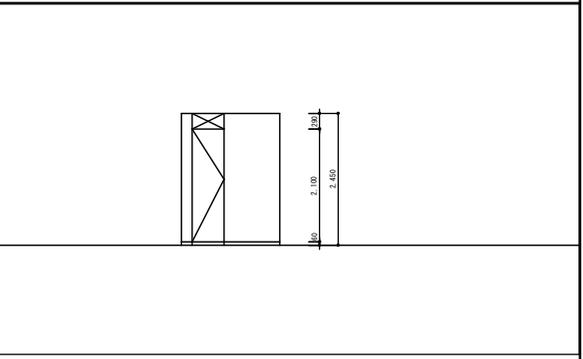
記号・数量	1B 1-1	トイレブース	1
断面			
材料	テラゾーブロック		
種別	種別見込	40	
仕上	-		
ガス	-		
金物	付属金物一式		
主要使用箇所	管理・研究棟 FWC		
備考			



撤去図



記号・数量	1B 2-1	トイレブース	1
断面			
材料	木目調オレフィンシート貼り (芯材ベニヤコア若しくは木)		
種別	種別見込	40	
仕上	エッジ:化粧シート、市来:SSS		
ガス	-		
金物	グレビティヒンジ (中心吊型)、非常開錠付表示錠、戸当り帽子掛		
主要使用箇所	管理・研究棟 MWC		
備考			



改修図

特記事項			

記号・数量	1B 2-1	二方弁	1
断面			
材料	SUS-HL		
種別	種別見込	110	
仕上	-		
ガス	-		
金物	付属金物		
主要使用箇所			
備考			



設計日	一般建築士・構造設計一般建築士 一般建築士 (登録番号 20379) 構造設計一般建築士 (登録番号 24278) 荒井 勲	難 双 星 設 計 一般建築士 中村 武嗣 (登録番号 142796)	工事名称 (プロジェクトNo) 160513 公立小松大学 薬学キャンパス 検査整備工事 (2期) (計画)	図面名称 管理・研究棟 2階便所 撤去・改修図 (2)
設計者	設計監理一般建築士 設計監理 田中 隆 (登録番号 24024)	代表 設計監理 代表 田中 隆 (登録番号 24024)	年月日 2019. 10.	図面番号 追加-2

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 [1]

1. 共通事項

A. 適用範囲

- この標準図は、各種構造（RC造、SRC造、S造）の鉄筋コンクリート造部分に適用する。
- 設計図書、特記仕様書に記載してある事項以外は、この標準図による。この標準図に、記載されていない事項は、「建築工事標準仕様書」（以下、標仕）による。
- 使用する鉄筋、及び溶接金網は、特記による。この標準図は、表 1. 1 に示す鉄筋および溶接金網に適用する。これ以外は特記による。

表 1. 1

規格番号	規格名称	種類の記号
JIS G3112	鉄筋コンクリート用棒鋼	SR235, SR295 SD295A, SD295B SD345, SD390
JIS G3117	鉄筋コンクリート用再生棒鋼	SDR295, SDR345
JIS G3551	溶接金網	

B. 凡例

- d・・・鉄筋の直径（異形鉄筋では呼び名に用いた数値、丸鋼では径）
- h・・・部材の内法高さ
- l・・・部材の内法寸法
- r・・・半径
- @・・・間隔
- ℄・・・中心線

C. 鉄筋の表示

- 鉄筋の表示記号は、表 1. 2 による。

表 1. 2

表示記号	●	×	∅	●	○	◎	⊗	◎	
鉄筋径	異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
	丸鋼	9φ	13φ	16φ	19φ	22φ	25φ	29φ	32φ

- 上記の表示記号を使用しない場合は特記による。
- 上記の表示記号は、この配筋標準図には適用しない。

2. 鉄筋の加工・組立て

A. 加工・組立て

- 鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工する。
- 有害な曲がり、ひび割れ、ささくれ等の損傷のある鉄筋は、使用しない。
- 鉄筋の切断は、シャークッターや電動カッター、または鉄筋冷間直角切断機等によって行う。ただし、圧接端面となる場合は、ガス切断を行ってはならない。
- 鉄筋には、点付け溶接、アークストライクを行わない。
- 鉄筋の溶接は、アーク溶接とする。溶接技能者は、工事に相応した技量を有する者とする。
- 鉄筋の組立は、鉄筋の交差部および継手部の要所を径 0.8mm 以上の鉄線で結束し、適切な位置にスペーサー、うま、吊り金物等を使用して行う。
なお、スペーサーは、転倒及び作業荷重等に耐えられるものとし、スラブのスペーサーは、原則として鋼製とする。また、コンクリート打放しの仕上げとなる箇所には、防錆処理を行ったスペーサーを使用する。
- 前に打設したコンクリートから出ている鉄筋の位置を修正する場合は、鉄筋の付け根で急に曲げないで、できるだけ長い距離で修正する。
- 設備配管、スイッチ等の設置により、設計図書に定める配筋が困難な場合は、設計者及び監督職員と協議する。

B. 末端部のフック

- 次の場合、鉄筋の末端部にはフックを付ける。
 - 丸鋼
 - 異形鉄筋
 - 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合（図 2. 1 の ● 印で示す鉄筋）。
 - 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両側にある場合（図 2. 1 の ● 印で示す鉄筋）。ただし、基礎梁を除く。
 - 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）。
 - 杭基礎のベース筋。
 - 帯筋、あばら筋及び幅止め筋。

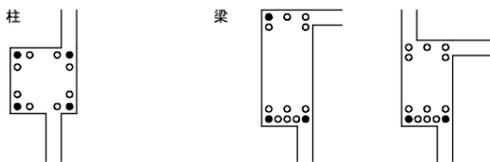


図 2. 1

C. 折曲げ

- 鉄筋の折曲げは、表 2. 1 及び表 2. 2 による。

表 2. 1 鉄筋の折曲げ（末端部）

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径 (D)			使用箇所
		SD295A, SD295B, SD345			
		D16 以下	D19 ~D38	D10 ~D38	
180°		3d 以上	4d 以上	5d 以上	柱、梁の主筋 杭基礎のベース筋 D16 以上の鉄筋
135°		3d 以上	4d 以上	5d 以上	あばら筋、帯筋、 スパイラル筋 D13 以下の鉄筋
90°		3d 以上	4d 以上	5d 以上	T形及びL形の 梁のあばら筋
135° 及び 90°		3d 以上	4d 以上	5d 以上	幅止め筋

表 2. 2 鉄筋の折曲げ（中間部）

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径 (D)			使用箇所
		SD295A, SD295B, SD345, SD390			
		D16 以下	D19 ~D25	D29 ~D38	
90°		3d 以上	4d 以上	—	あばら筋、帯筋、 スパイラル筋
90° 以下		4d 以上 (5d 以上)	6D 以上	8D 以上	その他の鉄筋

(注) () 内は SD390 の場合を示す。

3. 鉄筋の継手・定着

A. 鉄筋の継手及び定着長さ

- 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手又は特殊な鉄筋継手（建築基準法施行令第 73 条 5 項の規定に適合するもの。）とし、適用は特記による。特記がなければ、鉄筋の種類に応じた継手工法は、表 3. 1 による。

表 3. 1 鉄筋の種類に応じた継手工法

種類の記号	適用径の範囲	
	重ね継手	ガス圧接継手
SD295A	D16 以下	—
SD295B SD345 SD390	原則として、D16 以下とする。ただし、基礎、耐圧版、土圧を受ける壁等の大断面部材の場合は、D25 以下とする。また、場所打ちコンクリート杭の場合は、D32 以下とする。	D19 以上

- 重ね継手および定着の長さは、特記がなければ表 3. 2 による。

表 3. 2 鉄筋の重ね継手及び定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	フックなし				フックあり			
		L1		L2		L3		L2h	
		小梁	スラブ	小梁	スラブ	小梁	スラブ	小梁	スラブ
SD295A SD295B	18	45d	40d	20d	10d かつ 150mm 以上	35d (40d)	30d (40d)	10d	—
	21	40d	35d (40d)			30d (40d)	25d (40d)		
SD345	24, 27, 30, 33, 36	35d (40d)	30d (40d)	20d	10d かつ 150mm 以上	35d (40d)	30d (40d)	10d	—
	21	45d	40d			30d (40d)	25d (40d)		
SD390	24, 27, 30, 33, 36	45d	40d	20d	10d かつ 150mm 以上	35d (40d)	30d (40d)	10d	—
	21	50d	40d			30d (40d)	25d (40d)		

- (注)
- () は、柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さを示す。ただし、軽量コンクリートを除く。
 - L1, L1h: 3. 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
 - L2, L2h: 割裂破壊のおそれのない箇所への定着長さ。
 - L3: 小梁及びスラブの下端筋の定着長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
 - L3h: 小梁下端筋のフックあり定着長さ。
 - フックあり定着の場合は、図 3. 1 に示すようにフック部分 L' を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
 - 軽量コンクリートの場合は、表の () 内の値に 10d、その他の値に 5d を加えたものとする。

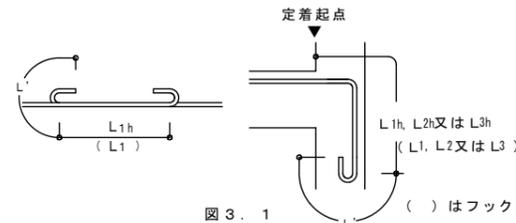


図 3. 1

- 定着方法は、標仕 5.3.4 (d) (3) による。

B. 隣合う継手の位置

- 隣合う継手の位置は、表 3. 3 による、ただし、スラブ及び壁の場合で D16 以下は除く。なお、先組み工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一箇所には、特記による。

表 3. 3 隣合う継手の位置（壁・床版を除く）

フックの有無	隣合う継手の位置
フックのある場合	
フックのない場合	
圧接継手及び機械式継手	

C. 溶接金網の継手及び定着

- 溶接金網の継手及び定着は、図 3. 2 による。

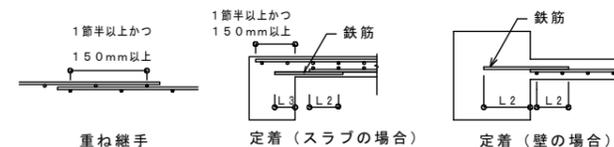


図 3. 2

4. 鉄筋のかぶり厚さ及びあき

A. 鉄筋のかぶり厚さ

- 設計かぶり厚さは、特記による。特記が無ければ、表 4. 1 による。但し柱及び梁の主筋に D29 以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の 1.5 倍以上として最小かぶり厚さを定める。

表 4. 1 鉄筋のかぶり厚さ（単位：mm）

土に接しない部分	構造部分の種類	設計かぶり厚さ	
		厚さ	最少かぶり厚さ
土に接する部分	スラブ、耐力壁以外の壁	仕上げあり	30
		仕上げなし	40
	柱、梁、耐力壁	屋内	40
		屋外	40
	擁壁、耐圧スラブ		50
	柱、梁、スラブ、壁		* 50
基礎、擁壁、耐圧スラブ		* 70	
煙突等の高熱を受ける部分		70	

- (注)
- 設計かぶり厚さ：鉄筋加工に用いる標準かぶり厚さ
最小かぶり厚さ：鉄筋組立後のかぶり厚さ
 - *印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、特記による。
 - 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、仕上げ塗装、吹付け又は塗装等の鉄筋の耐久性上有効でない仕上げのものを除く。
 - スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含めない。
 - 杭基礎ベース筋のかぶり厚さは、杭先端からとする。
 - 貫通孔部、及びひびわれ誘発目地部の目地底に接する鉄筋について最小かぶり厚さを確保する。
 - 塩害を受ける恐れのある部分等、耐久性上不利な箇所のかぶり厚さは、特記による厚さを表 4. 1 の数値に加える。

19	制定	工事名	番号
1999. 7. 1	改訂	図面名	縮尺
2008. 4. 1	改訂	鉄筋コンクリート構造配筋標準図 [1]	
2011. 4. 1	改訂	設計	小松市都市創造部建築住宅課 石川県小松市小馬出町 9 1 番地

特記事項	確認日	確認者	代表	作成	縮尺	年月日	図面番号
		一級建築士 構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号 20031 号) 構造設計一級建築士 (登録番号 2423 号) 酒井 勲	一級建築士 中村 武嗣 (登録番号 174376 号)	一級建築士 中村 武嗣 (登録番号 174376 号)	A1: - A3: -	2018. 03	S-01

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 [2]

4. 鉄筋のかぶり厚さ及びあき (続き)

B. 鉄筋の相互のあき

- 鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のもの以上とする。ただし、特殊な鉄筋継手の場合のあきは、特記による。
 - 粗骨材の最大寸法の1.25倍
 - 25mm
 - 隣合う鉄筋の平均径 (呼名に用いた数値 d) の1.5倍

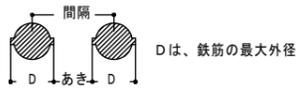


図4.1

- 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは1.による。

C. 鉄筋の保護

- 鉄筋の組立後、スラブ、梁等には、歩み板を置き渡し、直接鉄筋の上を歩かないようにする。
- コンクリート打込みによる鉄筋の乱れは、なるべく少なくする。特にかぶり厚さ、位置及び間隔の保持に努める。

5. 基礎・基礎梁

A. 基礎

1. 基礎の配筋要領

(1) 直接独立基礎

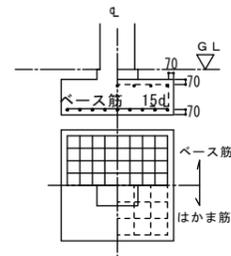


図5.1

(2) 杭独立基礎

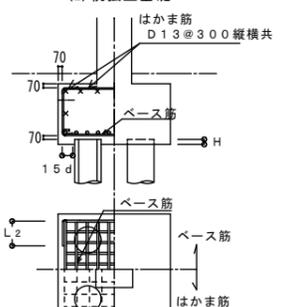


図5.2

(3) 直接連続基礎 (はかま筋無し)

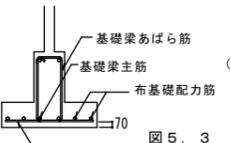
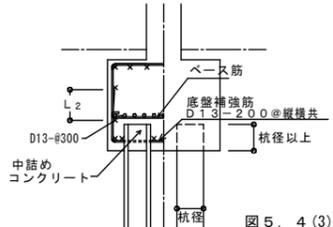
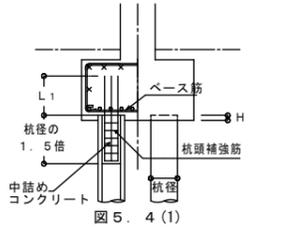


図5.3

- (注) 1. ベース筋の径・本数は図示による。原則ベース筋は継手を設けず通し筋とする。
2. はかま筋及び布基礎配筋筋の径・本数は図示による。図示が無ければD13-@300とする。
3. 杭頭のフーチング内への埋込み深さHは図示による。図示が無ければH=100mmとする。

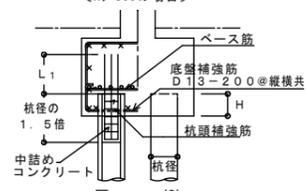
2. 杭頭の補強要領

杭頭補強の要領は図示による。PHC杭で図示が無い場合は図5.4による。
[H ≤ 300mmの場合] [H ≥ 杭径かつ杭頭をカットしない場合]



- 杭頭補強筋及び補強帯筋は図示による。図示が無ければ下記による。
- 杭径 350φ以下 ... 6-D13
 - " 400φ ... 8-D13
 - " 450φ ... 10-D13
 - " 500φ ... 8-D16
 - " 600φ ... 10-D16
 - 帯筋 D10-100@
- ※杭頭補強筋は、フックをつけない。

[H > 300mmの場合]



(注) 1. 中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用

C. 基礎接合部の補強

- 基礎接合部の補強は、特記による。特記が無ければ図5.5による。

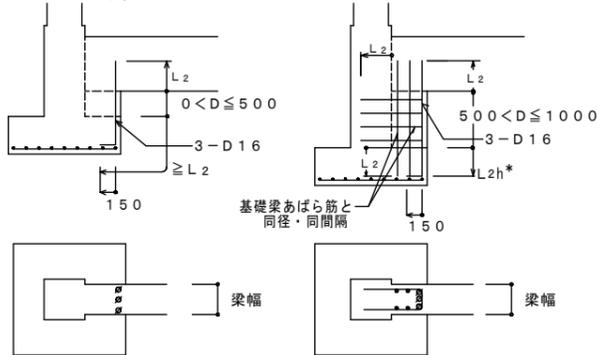


図5.5

* L2hを確保できない場合は、標仕5.3.4(d)(3)によることができる。

D. 基礎梁筋の継手及びび定着

1. 一般事項

- 梁筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図5.6による。

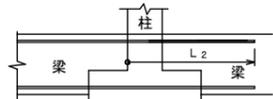


図5.6

- 梁筋を柱内に定着する場合は、標仕5.3.4(d)(3)による。
- 継手は原則として、コンクリートに常時圧縮応力が生じている部分、または応力の小さい部分に設ける。
- 継手は1か所に集中することなく、相互にずらして設けることを原則とする。

2. 基礎梁に構造スラブがつかない独立基礎の場合

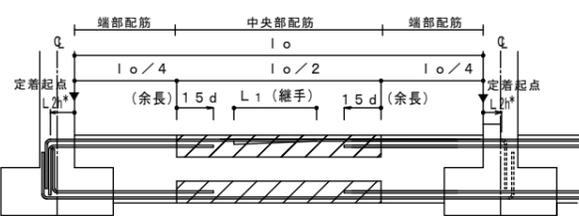


図5.7

3. 基礎梁に構造スラブがつく独立基礎の場合

※耐圧スラブが付く場合は、図5.8に準ずる。

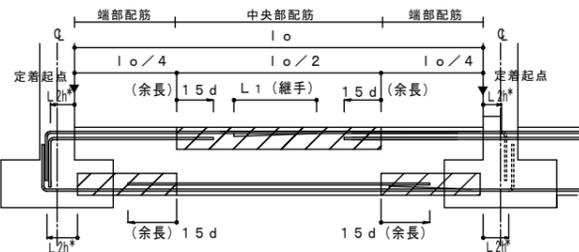


図5.8

4. 連続基礎及びべた基礎の場合

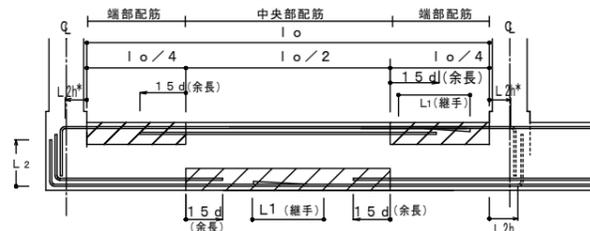


図5.9

* L2hを確保できない場合は、標仕5.3.4(d)(3)によることができる。

- (注) ・図示のない事項は、9.「大梁」による。
・印は、継手位置を示す。
・破線は、柱内定着の場合を示す。
・ハッチ部分は、望ましい継手位置を示す。

E. 基礎梁のあばら等

1. 基礎梁のあばら筋

- 基礎梁のあばら筋の径及び間隔は、特記による。
- 基礎梁のあばら筋組立の形及びフックの位置は、10.「あばら筋等」による。ただし、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.10によることができる。

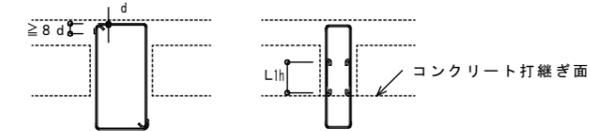


図5.10

- 腹筋及び幅止め筋は、10.「あばら筋等」による。ただし、梁せいが1.5m以上の場合は、特記による。
- あばら筋の割付は、10.「あばら筋等」による。

F. 基礎梁の補強

- 打増し補強は、11.「梁の打増し補強」による。
- 土間スラブ等の打増し補強は、13.「スラブ」(3)スラブ等の補強による。

6. 柱

A. 柱の主筋

1. 柱主筋の継手及びび定着は、次による。

- 継手及び圧接中心位置は、梁上端から500mm以上、1500mm以下、かつ、3/4h_o (h_oは柱の内法高さ) 以下とする。
- 重ね継手長さはL₁とし、定着及び余長は図6.1による。ただし、柱頭定着長さL₂が確保できない場合は、特記による。

- 電気設備の埋め込みボックス等は、柱の断面欠損となり、強度、耐久性の低下につながるため、原則として、埋め込まないこととする。やむを得ず埋め込む場合には、柱の打増し、乾式工法 (軽鉄下地) 等を検討する。また、配管についても1つの柱に集中させないようにするとともに、材軸方向と直交方向に配管する場合には柱の貫通は行わないこととする。

- 柱主筋にX形配筋を用いる場合は、「X形配筋部材の設計と施工 (日本建築士事務所協会)」を参考にする。この場合、鉄筋の加工、組立は、特に精度よく行うこと。

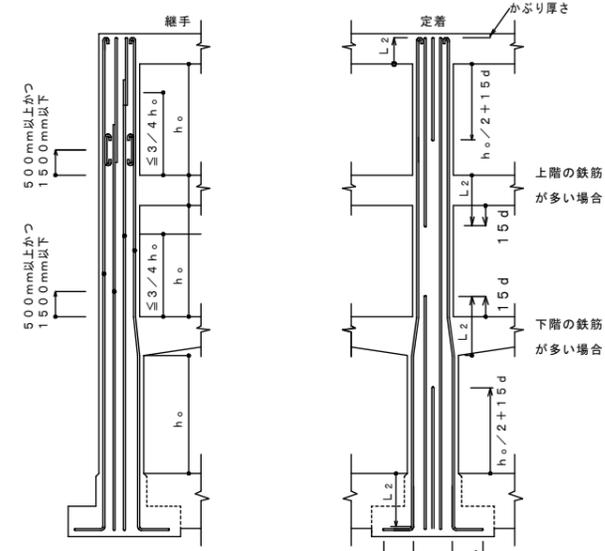


図6.1

- (注) ・2.「鉄筋の組立・加工」で定めた鉄筋には、フックをつける。
・隣合う継手の位置は、表3.3による。
・継手、定着は、すべての階に適用できる。

7. 帯筋

A. 帯筋

- 帯筋は、原則としてH形とする。ただし、構造上重要な柱、独立柱等で特記するものはスパイラル筋とする。やむを得ず上記以外の方法とする場合は、b、cによる。

(1) H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-1形とする。

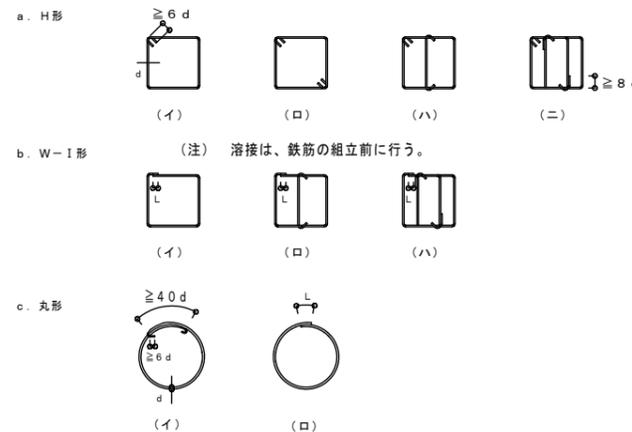


図7.2

- (2) 溶接する場合の長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。溶接は設備の整った工場で行うことを原則とする。やむを得ず現場で溶接しなければならない場合には、十分に溶接できる作業条件と有資格者によって行うこととする。

特記事項	確認日	確認者	代表	作成	縮尺	年月日	図面番号
					A1: - A3: -	2018.03.	S-02

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 [4]

10. あばら筋等 (続き)

2. 壁梁の場合は、図10.6による。

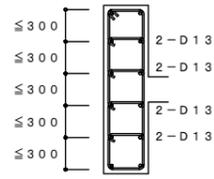
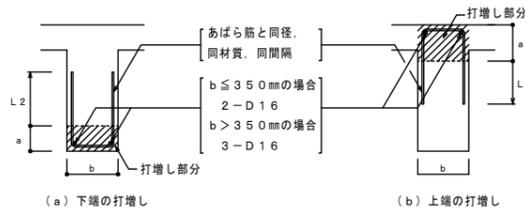


図10.6

11. 梁の打増し補強

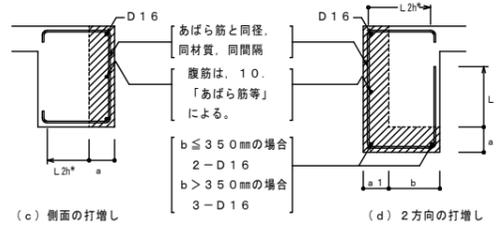
A. 梁の打増し補強

- 梁の打増しは図示による。図示が無い場合は図11.1による。
- 小梁、耐力壁及びスラブの鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。



(a) 下端の打増し

(b) 上端の打増し



(c) 側面の打増し

(d) 2方向の打増し

* L2hを確保できない場合は、標仕5.3.4(d)(3)によることができる。

70mm ≤ a ≤ 200mmの場合 (a < 70mmの場合は補強筋不要)

図11.1

12. 小梁、片持ち梁

A. 小梁

1. 小梁主筋の継手及び定着

(1) 連続小梁の場合

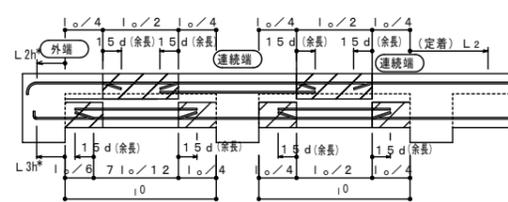
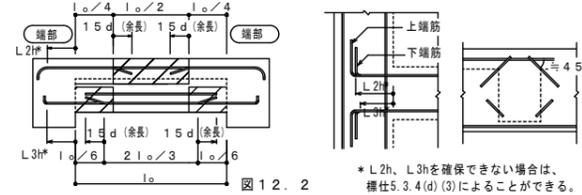


図12.1

(2) 単独小梁の場合



- (注) 1. 印は、余長位置を示す。
2. 図示のない事項は、5.「基礎・基礎梁」D「基礎梁の継手及び定着」及び9.「大梁」による。
3. ハッチ部分は望ましい継手位置を示す。

- あばら筋は、10.「あばら筋等」による。
- 打増し補強筋は、11.「梁の打増し補強」による。

B. 片持ち梁

1. 片持ち梁の配筋要領

(1) 先端に小梁のない場合

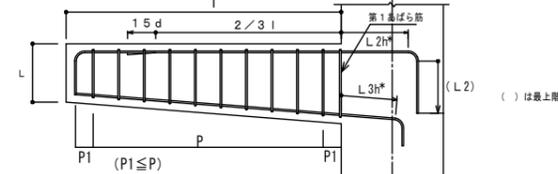
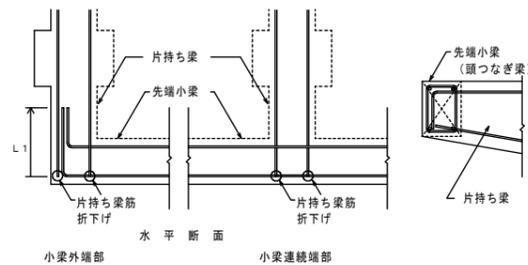


図12.3

- (注) ・ 図示のない事項は、9.「大梁」による。
・ 印は、余長を示す。
・ 先端の折曲げの長さLは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。
・ 梁筋を引き通さない場合は、取合部材に定着する。ただし、柱に取り付く場合は、全数引き通せる場合でも、上端筋は、2本以上を柱に定着する。

(2) 先端に小梁がある場合



- (注) ・ 図示のない場合は、(1)による。
・ 先端小梁終端部の主筋は、片持ち梁内に水平定着する。
・ 先端小梁の連続端は、片持ち梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

- あばら筋は、10.「あばら筋等」による。
- 打増し補強筋は、11.「梁の打増し補強」による。

13. スラブ

A. スラブ

1. スラブの厚さ及び配筋は、特記による。

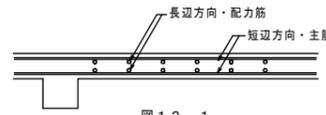


図13.1

- 配筋可能な限り継手は設けない加工とする。
- 配筋は、中央から割り付け、端部は定められた間隔の1/2以下とする。
- 鉄筋の重ね継手長さは、L1とする。
- 定着長さ及び受け筋は、図13.2による。ただし、引き通すことができない場合は、図13.3により梁内に定着する。
- スラブ筋の継手は、原則として梁内に設けないこと。

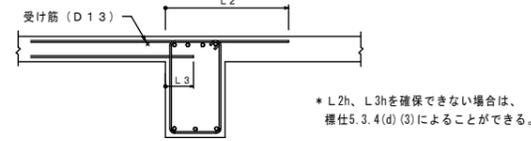
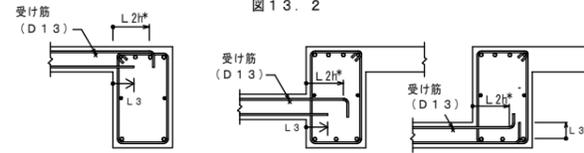
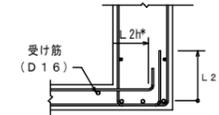


図13.2



一般スラブの場合

* L2hを確保できない場合は、標仕5.3.4(d)(3)によることができる。



耐圧スラブの場合

図13.3

7. スラブ筋の継手可能位置

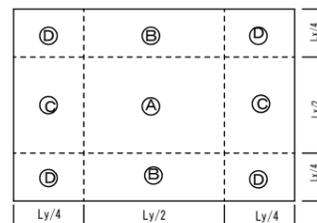


図13.4

B. 片持ちスラブ

1. 片持ちスラブの厚さ及び配筋は、特記による。

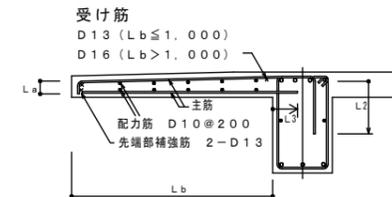


図13.5

- (注) ・ 先端の折れ曲げ長さLは、スラブ厚よりかぶり厚さを除いた長さとする。
・ スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

- 鉄筋の上下位置を保持するために一般のスラブよりパーサポートによる鉄筋の保持を堅固にする。
- 先端に壁が付く場合

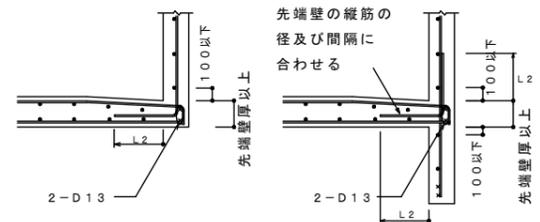
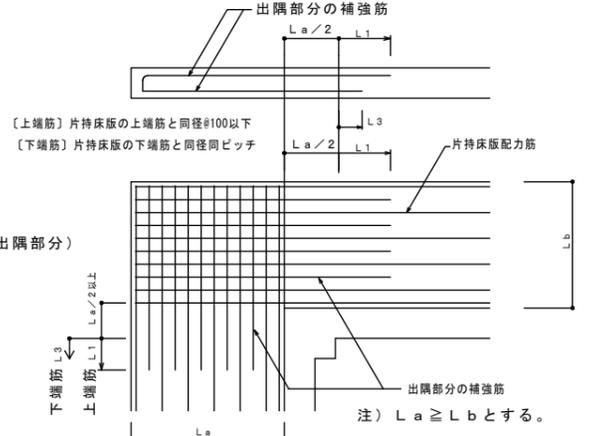


図13.6

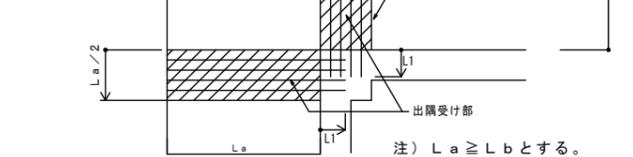
4. 出隅部

- 出隅部及び出隅受け部 (図13.7の斜線部) の補強は、特記による。配筋方法は、図13.7による。



(出隅部分)

(出隅受け部分)



【上端筋】片持床版の上端筋と同径1/2ピッチ
【下端筋】片持床版の下端筋と同径1/2ピッチ

図13.7

C. スラブ筋等の補強

1. スラブ開口部の補強は、特記による。

- スラブ開口部の最大径が700mm以下の場合、図13.8により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋を周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D10 (l = 2L) シングルを上下筋の内側に配筋する。

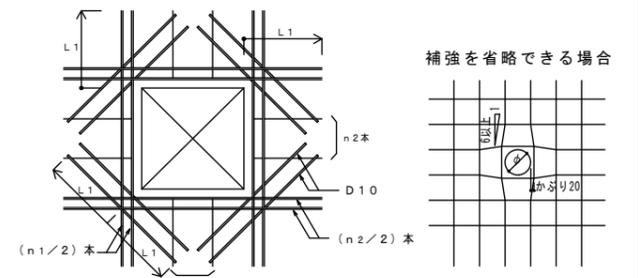


図13.8

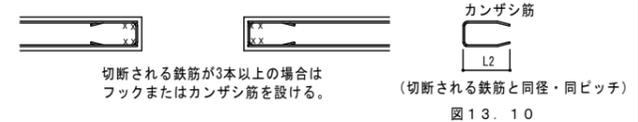


図13.9

1999.7.1	制定	工事名	番号
2008.4.1	改訂	図面名	縮尺
2011.4.1	改訂	設計	小松市都市創造部建築住宅課 石川県小松市小馬出町91番地

特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号20031号) 構造設計一級建築士 (登録番号2423号) 酒井 勲	製 雙 星 設 計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174376号)	工事名称 (プロジェクトNo. 160613) 公立小松大学 粟津キャンパス 校舎整備工事 (2期) (建築)	図面名称 E-V棟 鉄筋コンクリート 構造配筋標準図 (4)
	確認者	設備設計一級建築士 塚原 亘 (登録番号2462号)	代表 1 設計監理部長 検査者 主担当 作成	縮尺 A1: - A3: -	図面番号 S-04
				年月日 2018.03.	

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 [5]

13. スラブ (続き)

2. 屋根スラブリの補強

(1) 屋根スラブリの出隅及び入隅部分には、図13.11により、補強筋を上端筋の下側に配置する。

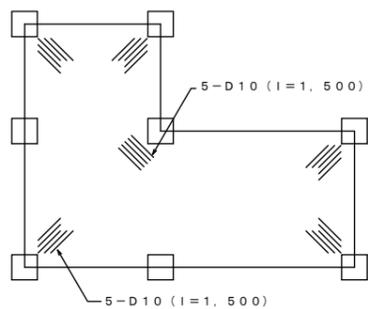


図13.11

3. 土間スラブリの打継ぎ補強

(1) 基礎梁とスラブリを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、特記による。特記がなければ、図13.12による。ただし、土間スラブリとは、土に接するスラブリをいう。

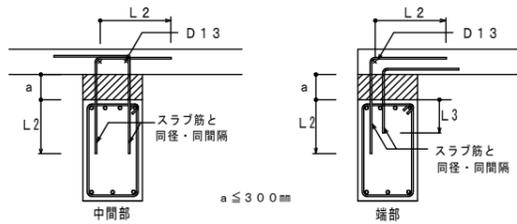


図13.12

4. 土間コンクリートの補強

(1) 土間コンクリートの補強筋は、特記による。なお、基礎梁との接合部は、図13.13による。

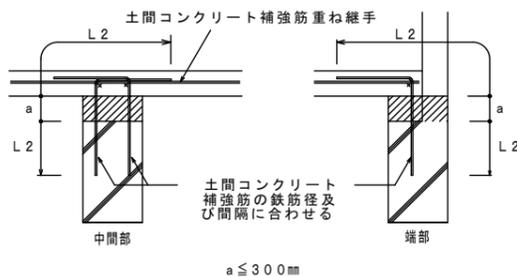


図13.13

5. 段差のあるスラブリの補強

(1) 段差のあるスラブリの補強は図示による。図示が無ければ図13.14による。

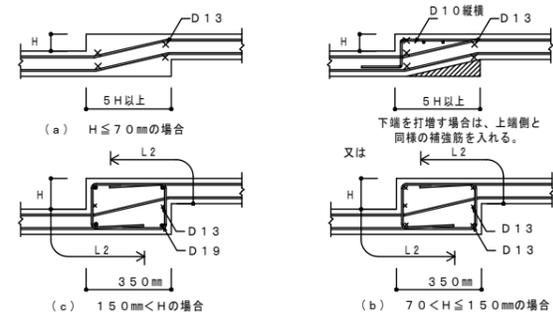


図13.14

14. 階段の配筋

A. 階段

1. 階段の配筋は、特記による。
2. 階段の配筋方法は、図14.1による。

〔二辺固定スラブ階段〕

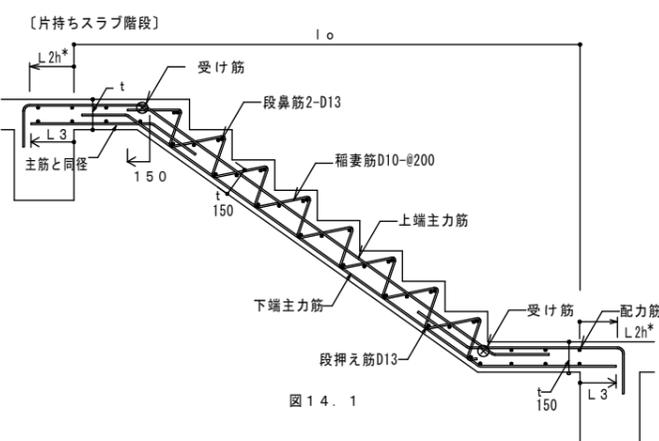
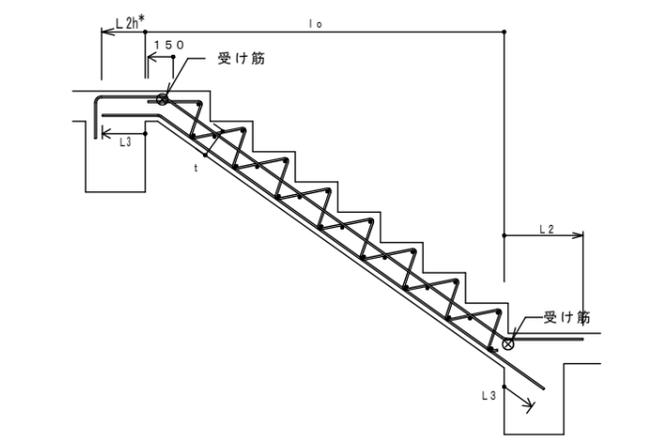
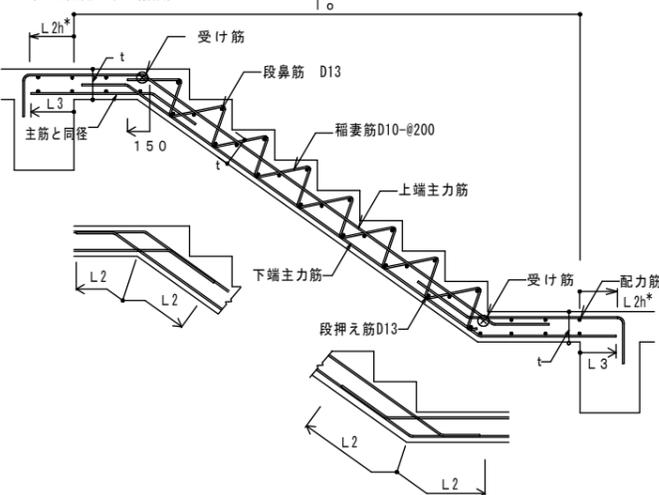


図14.1

表14.1 階段受壁の縦筋 (L: 片持階段の寸法)

壁厚	L ≤ 1200	1200 < L ≤ 1500	1500 < L ≤ 1800
180	D13-@200ダブル	D13-@150ダブル	D13-@125ダブル
200, 220	D13-@200ダブル	D13-@150ダブル	D13-@150ダブル
250	D13-@200ダブル	D13-@200ダブル	D13-@200ダブル

3. 片持ちスラブリ階段の配筋方法は、図14.2による。
4. 片持ちスラブリ階段のいなく筋は、D10@200とし、受け壁面より50mmのところから第1いなく筋を配筋する。

(注) ・ 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に降ろす。

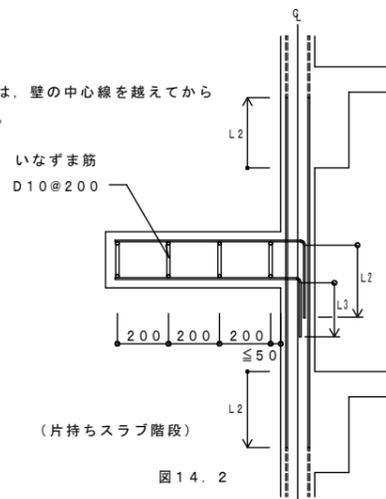


図14.2

15. 梁貫通

A. 梁貫通孔の補強

1. 梁貫通孔の補強は、特記による。特記がなければ、次による。

- (1) 梁貫通孔補強筋の名称は、図15.1による。
- (2) 孔の径は、梁せい \times 1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
- (3) 孔の上下方向の位置は、梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端より1/3Dの範囲には設けてはならない。
- (4) 孔は、柱面から、原則として、1.5D (Dは梁せい)以上離す。ただし、基礎梁、壁付帯梁は除く。
- (5) 孔が並列する場合は、その中心間隔は、孔の平均値の3倍以上とする。
- (6) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- (7) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図15.2による。
- (8) 孔の径が梁せい \times 1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにし、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- (9) 溶接金網の余長は1格子以下とし、突出しは10mm以上とする。
- (10) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取りつける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
- (11) 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

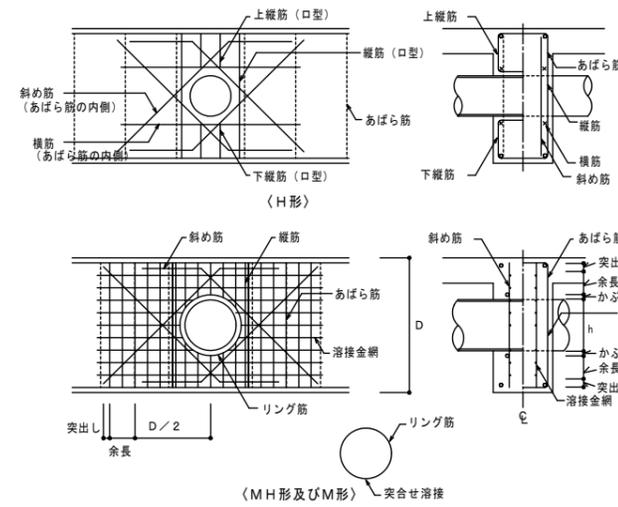


図15.1

補強筋の定着長さ

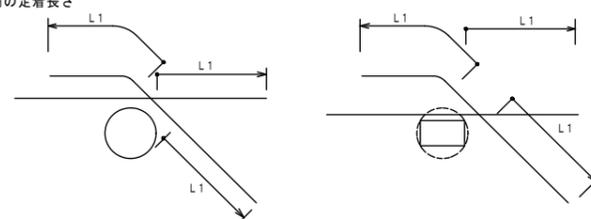


図15.2

(12) 補強形式は表15.1～表15.3により、配筋種別は特記による。選定方法は、建設大臣官房庁営繕部監修「建築構造設計規準及び同解説」による。

(a) H形配筋

表15.1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1		なし		なし	
H2	2-2-D13	2-2-D13	なし	なし	
H3	4-2-D13				
H4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H5	4-2-D16				
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22				

(注) は、一般部のあばら筋を示す。

(b) M形配筋

表15.2 M形配筋

配筋種別	縦筋	溶接金網	リング筋	配筋図
M1	2-2-D13			
M2	4-2-D13	なし	なし	
M3	4-2-D13			
M4	6-2-D13	2-6φ-100φ	13φ	

(注) は、一般部のあばら筋を示す。

特記事項

確認日	2018.03.01	確認者	酒井 勲	代表	中村 武嗣	工事名称 (プロジェクトNo)	160613	図面名称	E-V棟 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 [5]
確認者	酒井 勲 (登録番号 2423号)	代表	中村 武嗣 (登録番号 174376号)	設計	小松市都市創造部建築住宅課	図面番号	S-05		
設計	塚原 直 (登録番号 2462号)	作成	塚原 直	縮尺	A1: - A3: -	年月日	2018.03.		

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 [6]

15. 梁貫通 (続き)

(c) MH形配筋 表 15.3 MH形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	リング筋	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	なし	
MH2		2-2-D13			
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100@	13φ	
MH4	4-2-D13				
MH5	4-2-D16				
MH6	4-2-D16				
MH7	4-2-D19	4-2-D13	2-6φ-100@	13φ	

(注) は、一般部のあばら筋を示す。

配筋の表示

凡例	配筋
斜め筋 4-2-D22	4本のD22が2面入ることを示す
縦筋 4-2-D19	4本のD19があばら筋状に孔の両側に2本ずつ入ることを示す
上下縦筋 3-2-D13	孔の上下の部分にそれぞれD13のあばら筋が3本入ることを示す
溶接金網 2-6φ-100@	6φ-100@の溶接金網が2面入ることを示す。

- 建設技術評価規定第9条1項の規定に基づき建設大臣が評価している製品を使用する場合、または、建設省の技術評価が行われた後、開発され又は改良され、(財)日本建築センターにより評価された製品を使用する場合は、製品の形式による適用範囲のほか、施工上の留意事項も確認すること。
- 梁貫通孔は、原則として、せん断力の大きいところは避けて設け、必要に応じて適切な補強を行う。また、梁には、原則として、配管等の埋設を行わない。

16. 壁, その他

A. 壁

1. 一般事項

- 配筋可能な限り継手は設けない加工とする。
- 壁筋の重ね継手長さはL1とし、定着長さはL2とする。
- 一般部壁筋の配筋は、図16.1による。

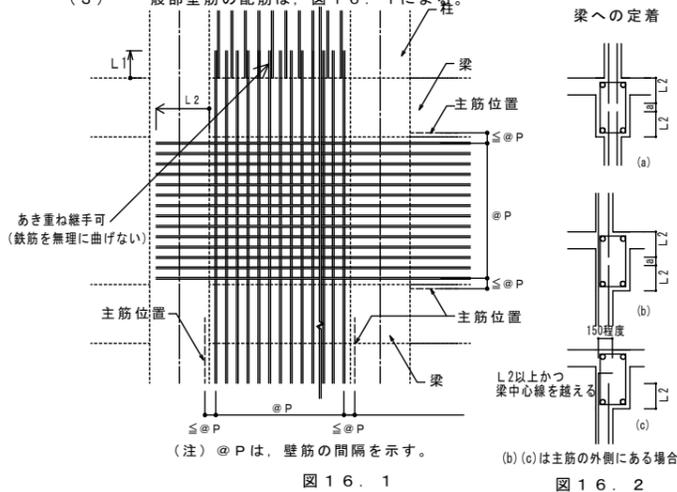


図 16.1

(注) @Pは、壁筋の間隔を示す。

- 原則として、継手は柱・梁の中には設けないこと。
- 横筋の場合は、1スパンごとに柱に定着することは差し支えない。
- 土圧等の面外力を受ける壁の場合は、圧縮側の位置に継手を設ける。
- 重ね継手及び定着の長さがとれない場合は、監督職員の承諾を受けて、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とすることができる。
- 幅止め筋は、縦、横ともD10@1,000程度とする。

- 壁の配筋は特記により、その定着は図16.3による。
- 壁の交差部の補強筋及び端部の補強筋は、特記がなければD13とする。

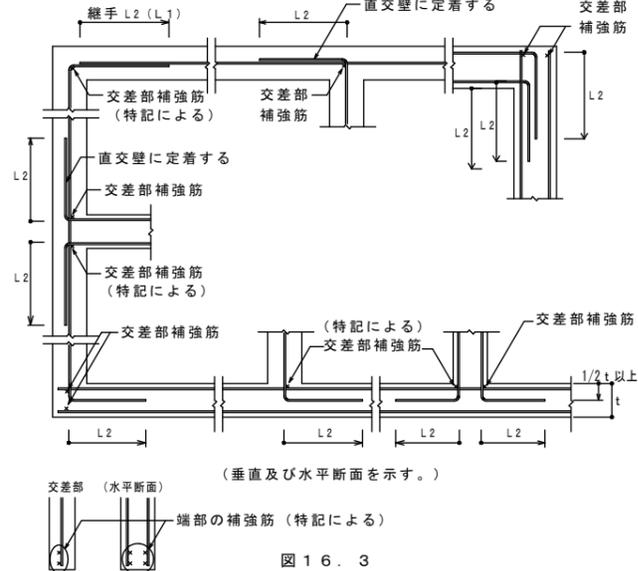


図 16.3

- 壁の開口補強筋は特記による。定着長さは、図16.4による。

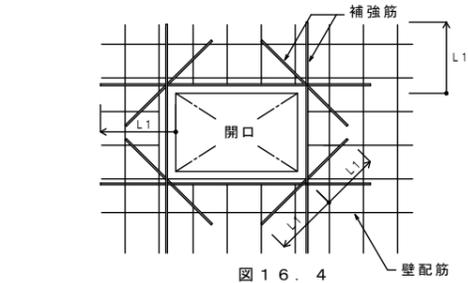


図 16.4

- 片持ちスラブ階段を受ける壁の縦筋は、横筋の外側に配筋する。
- コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記による。
- 壁の打増し補強筋は特記による。特記が無く、打増厚さが50mm以上、200mm以下の場合には図16.5による。

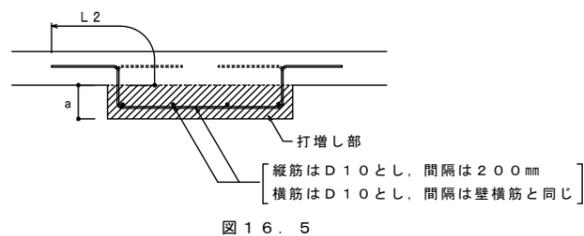


図 16.5

B. パラベット

- パラベットの配筋は、特記による。特記が無く、高さhが800mm以下の場合には図16.6による。
- パラベットの配筋は、原則として複配筋とし、端部には補強筋を配筋すること。

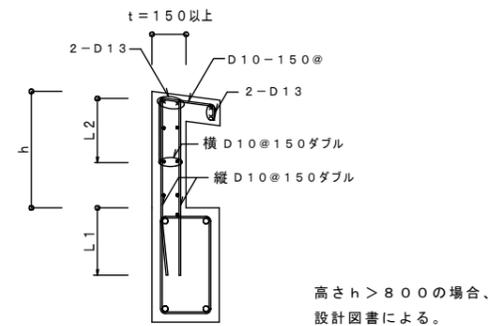


図 16.6

高さh>800の場合、設計図書による。

C. コンクリートブロック帳壁

1. 控壁

- 壁の配置及び配筋は、特記による。
- 特記が無い場合、配筋は図16.7による。

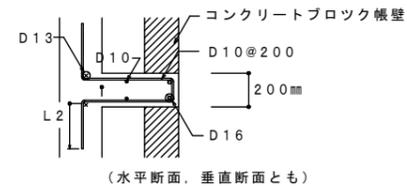


図 16.7

- 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図16.8による。

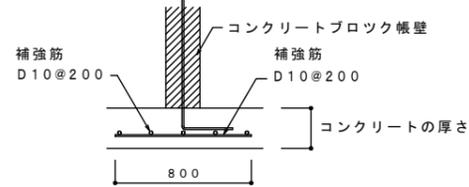


図 16.8

D. 機械吊上げ用フック

- 梁に設ける機械吊上げ用フックは表16.1、図16.9により、種別は特記による。

表 16.1 機械吊上げ用フック

種別	A種	B種	C種
フック筋	φ25又はD25	φ22又はD22	φ19又はD19
曲げ内径の直径 (mm)	100		
補強かんざし筋	2-D16		
補強腹筋 (mm)	D16, l=900	D16, l=750	D16, l=600
吊上げ荷重 (KN)	50≧W>30	30≧W>10	10≧W

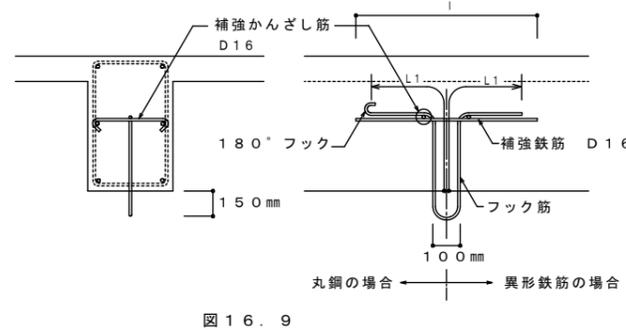


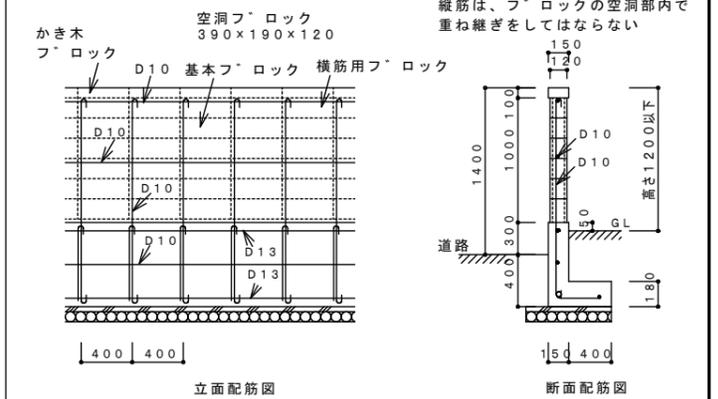
図 16.9

E. コンクリートブロック塀

- ブロック塀の配筋は、特記による。
- 塀の高さ(地盤面に高低差のある場合は低い方による)は2.2m以下とする。
- 塀の厚さは、塀の高さ2m以下は12cm以上、2mを超える場合は15cm以上とする。

- 地盤が液状化の恐れのある砂質土および軟弱土の場合は、別途検討する。
- 鉄筋挿入部はモルタルを充てんする。

○控壁のない塀 (例) 高さ1.2m以下



○控壁のある塀 (例) 高さ2.2m以下

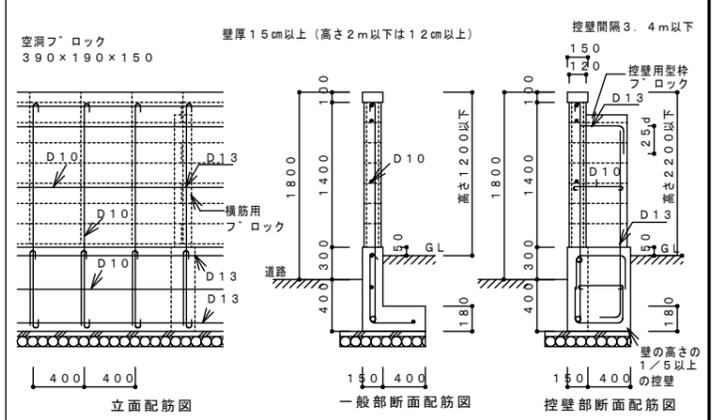


図 16.10

17. 増築用の配筋

A. 増築用の配筋

- 将来増築予定の打増部分の配筋は、特記による。

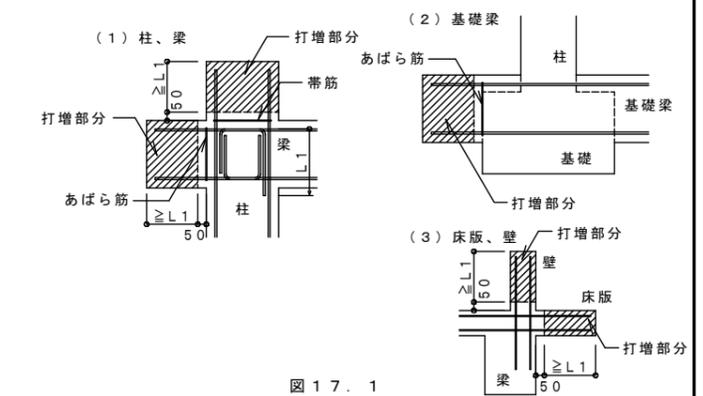


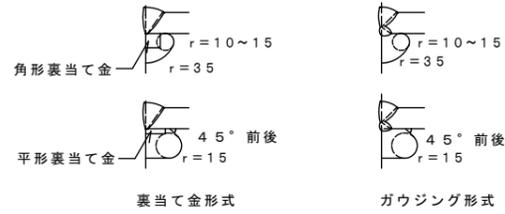
図 17.1

特記事項		確認日	2018.03.01	確認者	酒井 勲	代表	中村 武嗣	設計	小松市都市創造部建築住宅課	縮尺	A1:- A3:-	年月日	2018.03.	図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (6)	図面番号	S-06
		確認者	酒井 勲	代表	中村 武嗣	設計	小松市都市創造部建築住宅課	縮尺	A1:- A3:-	年月日	2018.03.	図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (6)	図面番号	S-06		

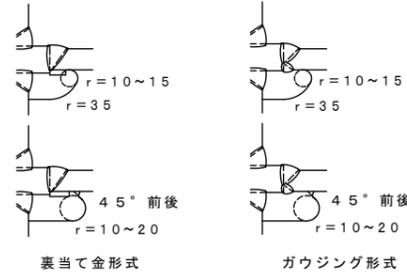
鉄骨構造標準図 [2]

2. 溶接 (続き)

a. 改良型スカラップ



(柱通し形式のスカラップ形状)



(梁通し形式のスカラップ形状)

図 2. 4

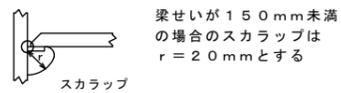
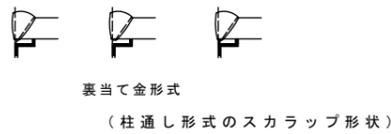
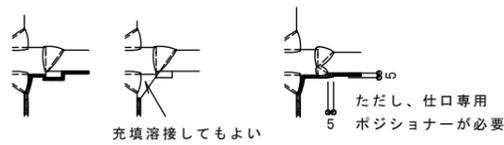


図 2. 5

b. ノンスカラップ



(柱通し形式のスカラップ形状)



(梁通し形式のスカラップ形状)

図 2. 6

(4) 溶接継手の両面から溶接する場合は、表面より溶接を行った後、健全な溶着部分が見れるまで裏はつりを行い、裏はつり後裏溶接を行う。ただし、サブマージーク溶接で、溶接施工試験等により十分な溶け込みが得られると判断確認できる場合は、監督職員の承諾を受けて、裏はつりを省略することができる。

D. 溶接部の試験

1. 溶接部の試験は、特記によるが、現場溶接部分は原則として全箇所について超音波探傷試験を行う。

3. ボルト接合

A. 高力ボルト

1. 摩擦面は、すべり係数値が0.45以上確保できるよう、ミルスケールを平グラインダー掛け等により座金外径の2倍以上の幅を除去した後、一様に錆を発生させたものとする。ただし、ショットブラスト又はグリットブラストにより摩擦面の表面粗度を $50\mu\text{mRy}$ 以上確保でき、監督職員の承諾を受けた場合には錆の発生を要しない。
2. 摩擦面は、摩擦力を低減させるものが発生又は付着しないように保護する。浮き錆、油、塗料、塵あいが発生又は付着した場合は、組立てに先立ち取り除く。

B. 普通ボルト

1. ボルトの接合は、ゆるみ及びずれの無いように締め付ける。
2. ボルトには、有効な戻り止めを行う。
3. せん断ボルトは、座金を用いて、ねじがグリップに掛からないようにし、かつ、ナットの外に3山以上出るようにする。

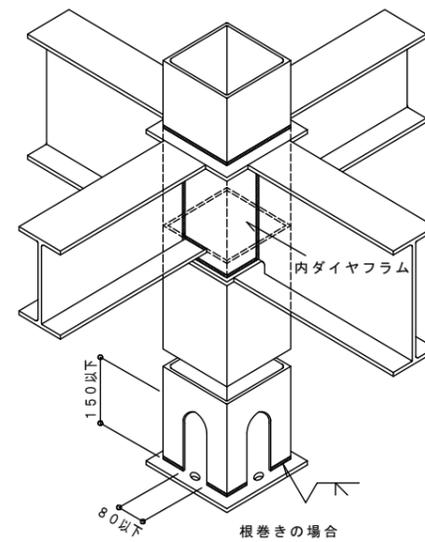
4. 錆止め塗装

A. 錆止め塗装

1. 錆止めの塗料の種類は特記による。
2. 次の部分には、塗装しない。
 - (1) コンクリートに接触する部分及び埋め込まれる部分
 - (2) 高力ボルト摩擦接合部の摩擦面
 - (3) 密閉される閉鎖形断面の内面
 - (4) 耐火被覆材の接着する面
 - (5) 工事現場溶接を行う部分の両側それぞれ200mmの範囲及び超音波探傷試験に支障を及ぼす範囲
 ただし、工事現場溶接を行う部分でも、著しい錆を発生するおそれがある場合は、溶接に無害な適切な防錆処理を行うこと。

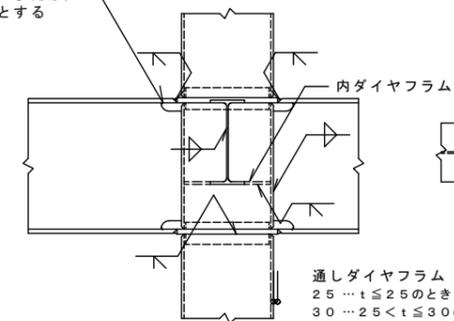
5. 接合部標準図

●BOX型 (通しダイヤフラムの場合)



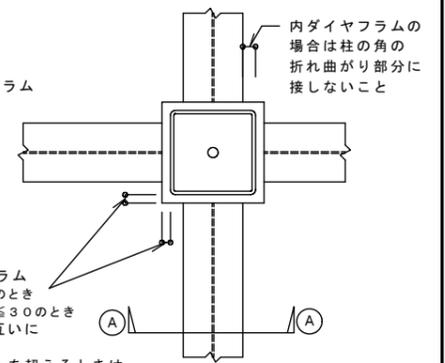
改良型スカラップまたは、ノンスカラップとする

(A) - (A) 断面図

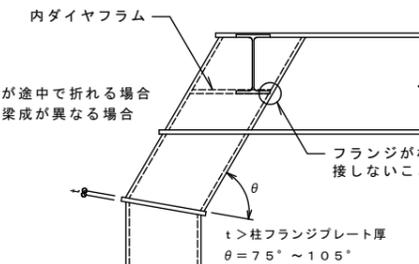
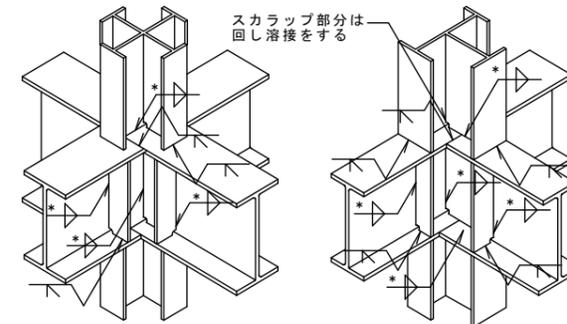


通しダイヤフラム
25...t ≤ 25のとき
30...25 < t ≤ 30のとき
エンドタブが互いに
あたためること
板厚が30mmを超えるときは
特記による

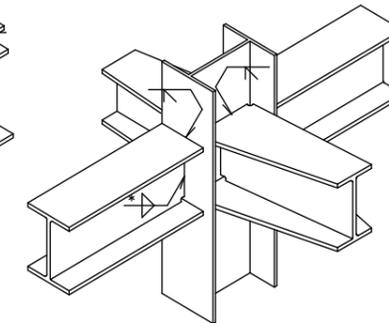
平面詳細



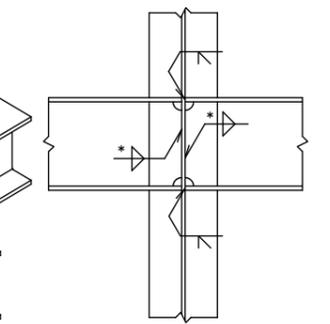
●H型



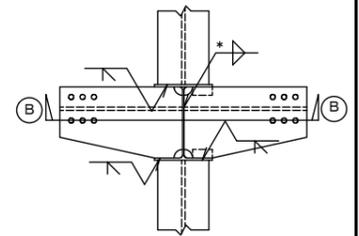
●B. H方式



(B) - (B) 断面図



平面詳細



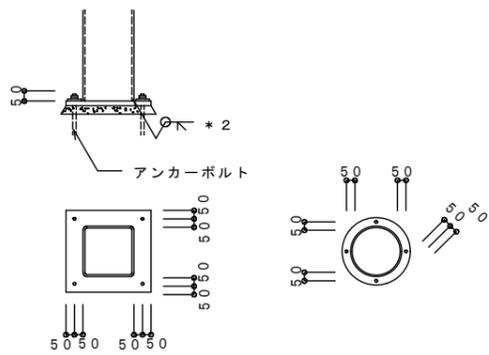
* : ウエブ厚が16mm以上のものについては完全溶け込み溶接とする。

特記事項

確認日	1級建築士・構造設計1級建築士 1級建築士 (登録番号20931号) 構造設計1級建築士 (登録番号2423号) 酒井 勲	雙 星 設 計 1級建築士 中村 武嗣 (登録番号174376号) 代表 1級建築士 中村 武嗣 (登録番号174376号)	工事名称 (プロジェクトNo. 160613)	図面名称 EV棟
確認者	設備設計1級建築士 塚原 直 (登録番号2462号)		小松市都市創造部建築住宅課 石川県小松市小馬出町91番地	図面番号 S-08
縮尺	A1 : - A3 : -	縮尺	2018. 03 .	縮尺

鉄骨構造標準図 [4]

8. 柱脚 (続き)



露出柱脚の場合

* 2 : 柱板厚が 6 mm 以下の場合、すみ肉溶接とすることができる。

図 8. 3

B. アンカーボルト

1. アンカーボルト取付け要領は、特記による。特記が無い場合は、図 8. 5 の種別 B 種とする。

(1) アンカーボルトの保持及び埋め込み工法

a. A 種 : 鋼製フレームを用いてアンカーボルトを保持する方法

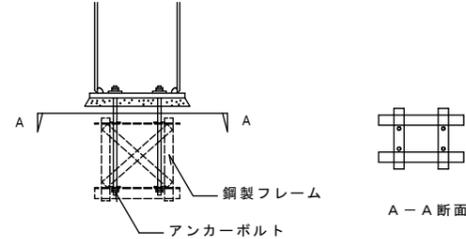


図 8. 4

b. B 種 : 補強材等を用いて周囲の鉄筋にアンカーボルトを保持する方法

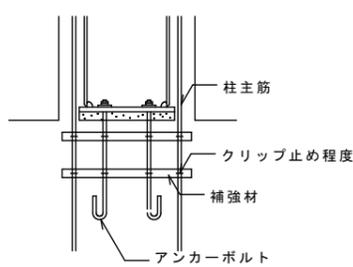


図 8. 5

b. C 種 : 頭部を漏斗状にあげた可動埋め込み式の方法

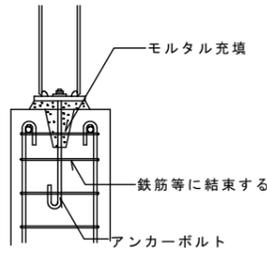


図 8. 6

C. 柱底ならしモルタルの工法

1. 均しモルタルの工法は、特記による。特記が無い場合は、図 8. 7 の B 種とする。

(1) A 種 : 柱の建込みに先立ち、その支持に必要な固練りのモルタル等をベースプレートの中央下部に所定の高さに塗り付け、柱の建て込み後、ベースプレート回りに型枠を設けて、無収縮モルタルをベースプレートの周囲からあふれ出るまで圧入する。

(2) B 種 : 柱の建込みに先立ち、その支持に必要な堅練りのモルタル等をベースプレートの中央下部に所定の高さに塗り付け、柱の建て込み後、ベースプレート下全面に十分行きわたるように、適切な方法でモルタルを詰め込む。ただし、ベースプレートの大きさが 300 mm 角程度以下の場合、モルタルを所定の高さに平滑に仕上げておき、柱を建込むことができる。

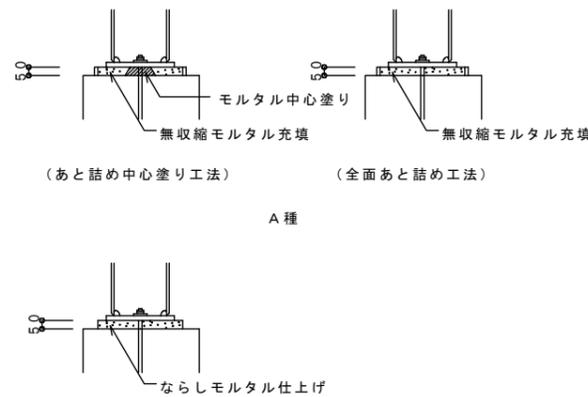


図 8. 7

D. 座金の溶接

1. アンカーボルトはコンクリートに埋め込まれる場合を除きダブルナット締めとする。また、アンカーボルトにせん断力を負担させる場合は、座金厚を検討した上で座金はベースプレートに全周溶接する。

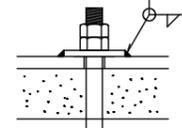


図 8. 8

9. その他

A. デッキプレート

(床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照)

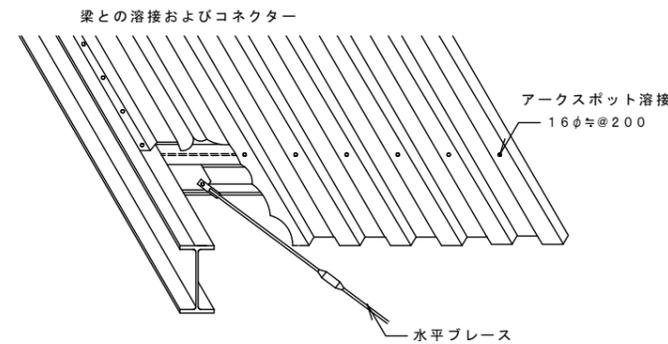
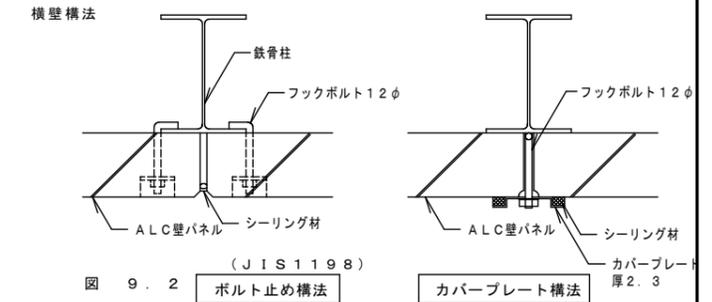
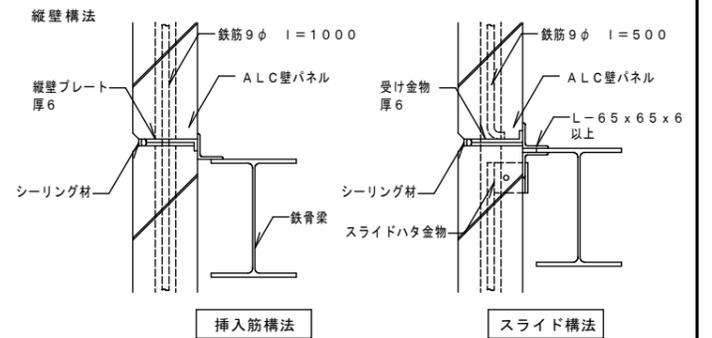


図 9. 1

B. ALC 板取付要領



C. 頭付きスタッド

表 9. 1 スタッド材の標準形状・寸法

呼び名	スタッド材			
	軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm	溶接後の長さ L mm
φ 13 mm	13. 0	22. 0	10. 0	50, 80, 100, 130
	12. 7	25. 4	7. 9	
φ 16 mm	16. 0	29. 0	10. 0	80, 100, 130
	15. 8	31. 7	7. 9	
φ 19 mm	19. 0	32. 0	10. 0	80, 100, 130, 150
	19. 0	31. 7	9. 5	
φ 22 mm	22. 0	35. 0	10. 0	100, 130, 150
	22. 2	34. 9	9. 5	

D. 梁貫通補強

- 計算で確認された場合は下記の位置、寸法によらずに良い。
- 梁端部 (スパンの 1 / 10 以内かつ 2 D 以内) は避ける
- φ ≤ 0. 4 D

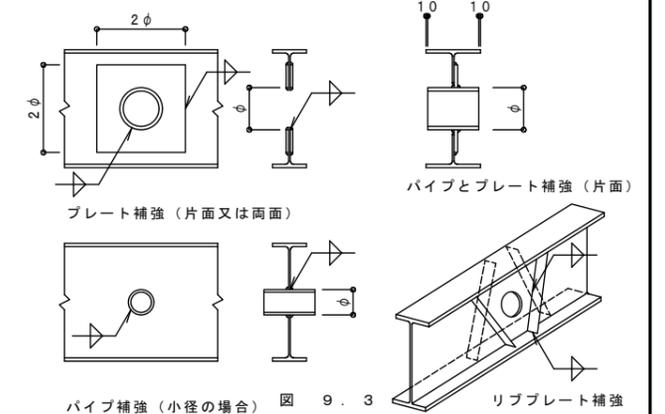


図 9. 3

特記事項

確認日	1級建築士・構造設計1級建築士 1級建築士 (登録番号 20931号) 構造設計1級建築士 (登録番号 2423号) 酒井 勲	確認者	設備設計1級建築士 塚原 亘 (登録番号 2462号)	代表	1級建築士 中村 武嗣 (登録番号 174376号)	設計	小松市都市創造部建築住宅課 石川県小松市小馬出町91番地	図面名称	EV棟 鉄骨構造標準図 (4)
1999. 7. 1 制定	2006. 4. 改定	工事名	図面名	番号	縮尺	設計	年月日	図面番号	
<p style="text-align: center;">雙 双 星 設 計</p> <p style="text-align: center;">160613</p> <p style="text-align: center;">2018. 03 .</p>							A1 : - A3 : -	S-10	

ハイベースNEO工法設計施工標準 (ハイベースNEO工法 Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 2016/4

大臣認定 MSTL-0404.0180 (Gタイプ用ベースプレート)
 MBLT-0042-0046 (アンカー用ボルトセット)
 BCJ認定 BCJ認定-ST0058 (Gタイプ)
 BCJ認定-ST0059 (Eタイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・関係図 JASS 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

設計

1. 材質
 (1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板
 Eタイプ (EB型式、EM型式、EH型式)

	ベースプレート	アンカーボルト	Eコナット	ナット	座金	定着板
規格	JIS G3136	TMCP鋼	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
ねじの種類	-	-	メートル並目	メートル並目	-	-
備考	SN490B SN490相当 板厚40mm以下 板厚40mm相当	板厚比 70%以下	-	強度区分5	SM490A	SS400

Eタイプのベースプレート上ナットはEコナットを使用する。
 Gタイプ (GB型式、GM型式、GH型式)

	ベースプレート	アンカーボルト	ナット	座金	定着板
規格	HCW490b HCW490st (大臣認定取得材)	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
ねじの種類	-	メートル並目	メートル並目	-	-
備考	SN490B同等	板厚比 70%以下	強度区分5 (引抜き)	SM490A	SS400

*1 国土交通大臣認定 (MSTL-0404.0180) *2 国土交通大臣認定 (MBLT-0042-0046)
 *3 M72は軸目ねじ *4 建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用

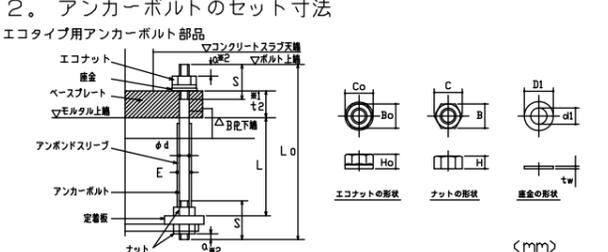
(2) ベースプレート下面のモルタル

後詰めモルタル ハイベース工法無収縮モルタルNX2000、又はクイック3
 中心塗部分モルタル O無収縮性モルタルパッド用 (固練り) 又は普通モルタル (NX2000及びクイック3は使用不可。専用のモルタルを使用のこと。)
 O強度はこれに接するコンクリートの強度以上

(3) 基礎・基礎ばり

コンクリート 日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート
 O設計基準強度は、 $F_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$
 鉄筋 JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼

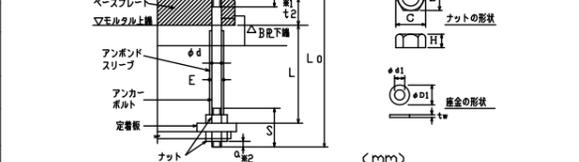
2. アンカーボルトのセット寸法



ねじの呼び	アンカーボルト		Eコナット		ナット		座金	
	軸径	長さ	軸径	長さ	軸径	長さ	軸径	長さ
M24	24	35	24	35	24	35	24	35
M30	30	45	30	45	30	45	30	45
M36	36	55	36	55	36	55	36	55
M42	42	65	42	65	42	65	42	65

*1 t_2 はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって変わります。
 *2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
 施工時は、ねじ山の最低3山ナットの外に出るように余長を確保してください。
 *3 上段はEB型式及びEM型式のアンカーボルト4本タイプ、下段はそれ以外のEタイプの寸法です。
注意
 ・Eタイプのアンカーボルトはシングルナットとしておりますので、ゆるみ止め処置としてコンクリートスラブで被覆してください。
 ・コンクリートによる被覆を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め処置が必要です。
 ・その場合、せん断耐力が変化する可能性がありますのでセンクシアにご相談ください。
 ・アンカーボルト上部には必ずEコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。

Gタイプ用アンカーボルト部品



ねじの呼び	アンカーボルト		Eコナット		ナット		座金	
	軸径	長さ	軸径	長さ	軸径	長さ	軸径	長さ
M24	24	35	24	35	24	35	24	35
M30	30	45	30	45	30	45	30	45
M36	36	55	36	55	36	55	36	55
M42	42	65	42	65	42	65	42	65

*1 t_2 はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって変わります。
 *2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
 施工時は、ねじ山の最低3山ナットの外に出るように余長を確保してください。
 *3 上段はGB型式及びGM型式の場合、下段はGH型式の場合の寸法です。

注意
 ・Gタイプのアンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。
 ・一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処置が必要です。
 ・(一重ナットとする場合は、センクシアにご相談ください。)

ベースプレートのアンカーボルト孔径 (mm)

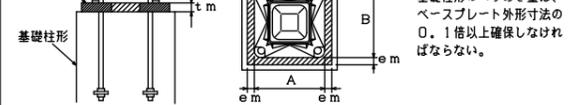
ねじの呼び	M24	M30	M36	M42	M48	M56	M64	M72
Eタイプ孔径	38	44	50	57	-	-	-	-
Gタイプ孔径	-	38	45	53	61	70	79	87

定着板 (Eタイプ、Gタイプ共通) (mm)

ねじの呼び	4本タイプ用		12本タイプ用	
	長さ	幅	長さ	幅
M24	16	70	27	-
M30	16	90	33	9
M36	19	100	39	9
M42	22	120	45	9
M48	25	140	52	9
M56	28	160	60	9
M64	32	180	68	12
M72	-	-	16	1380

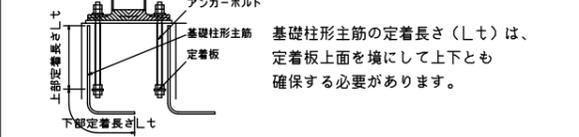
ベースプレートの形状・寸法は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックを参照ください。

3. ベースプレート下面モルタルの標準寸法



各部名称	寸法	備考
中心塗り部分モルタルの厚さ (t _m)	標準寸法 t _m =50mm	許容範囲 30 ≤ t _m ≤ 70mm
ベースプレート周辺のモルタル幅 (e _m)	e _m ≥ 30mm	許容範囲 e _m ≥ 25mm

4. 基礎柱形主筋の定着長さ (最小値)

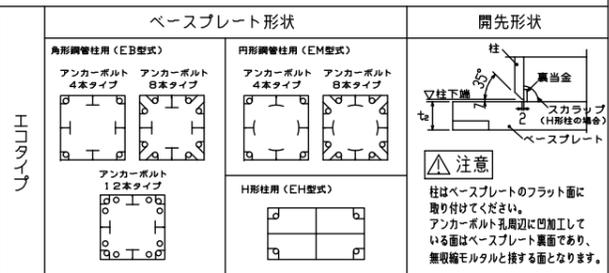


基礎柱形主筋の定着長さ (Lt) は、定着板上面を境にして上下とも確保する必要があります。

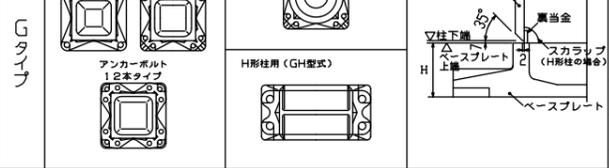
工場加工

1. 溶接材料
 被覆アーク溶接 低水素系490N/m²級高力鋼用 (JIS Z3212 D5016相当以上)
 ガスシールドアーク溶接 軟鋼及び490N/m²級高力鋼用 (JIS Z3312 YGW11相当)

2. ベースプレートの鉄骨柱への取付け (柱端部に開先を設ける)
 ※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接
 開先はMC-TL-B1、GC-TL-B1による ※開先形状は参考

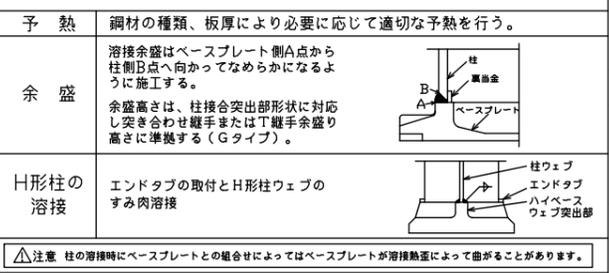


3. 組立溶接 4. 本溶接の手順
 角形鋼管 円形鋼管 H形 角形鋼管 円形鋼管 H形
 組立溶接 組立溶接 組立溶接
 対辺ごとに溶接を行う。
 (自動ロボット溶接の場合はこれによる)



5. 溶接施工一般

予熱 鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。
 余盛 溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。
 H形柱の溶接 エンドタブの取付とH形柱ウェブのすみ肉溶接



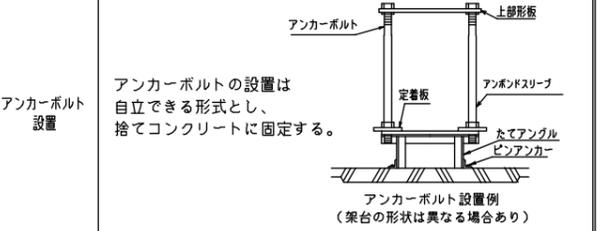
6. 検査

方法 溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。
 不良溶接部の補正 (1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。
 (2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

注意
 1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務付けられています。)
 2. アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
 3. 設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちすぎやコンクリートが付着しないようねじ部の保護養生をしてください。
 4. 建て入れ直しのワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
 5. 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

現場施工 (※): センクシアの担当範囲

1. 捨てコンクリート打設
 柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。
 2. 墨出し
 3. アンカーボルト搬入 (※)
 4. アンカーボルト据付 (※)

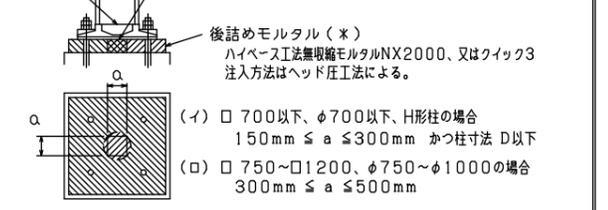


アンカーボルトの設置は自立できる形式とし、捨てコンクリートに固定する。
 アンカーボルト設置例 (架台の形状は異なる場合があります)
 平面 レベル
 アンカーボルト設置精度の目標値
 $e \leq 3 \text{ mm}$ (形板芯にて検査)
 基準高さよりの誤差 $eh - 3 \text{ mm} \leq eh \leq 10 \text{ mm}$

5. 鉄筋配筋・型枠の立込み

6. 基礎コンクリート打設

7. 中心塗り部分モルタル施工
 ベースプレート 中心塗り部分モルタル NX2000、クイック3は使用不可。専用のモルタルを使用のこと
 後詰めモルタル (※) ハイベース工法無収縮モルタルNX2000、又はクイック3
 注入方法はヘッド圧入法による。



中心塗り部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
 基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

EB,GB,EM,GM,EH型式 GH型式

8. 鉄骨建方

アンカーボルト締付
 アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。

9. モルタル注入枠設置 (※)

後詰めモルタル充填 (※)
 アンカーボルト締付確認 (※)
 ベースプレートと座金が密着していることを確認。

10. アンカーボルト締付 (※)

予備締め マーキング ナット回転による本締め (30°回転、許容差: ±10°)

11. モルタル注入枠取り外し

施工完了後、ハイベースNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。

センクシア株式会社
 本社 TEL 03-3615-5432 関東 TEL 027-322-9411
 札幌 TEL 011-708-1177 横浜 TEL 045-548-9881
 東北 TEL 022-213-5595 中部 TEL 052-582-3356

URL <https://www.senqcia.co.jp/>
 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341
 関西 TEL 06-6395-2133
 中四国 TEL 082-240-1630

特記事項	確認日	設計者	代表	年月日	図面番号
		設計者 設計主任一級建築士 酒井 勲	代表 設計主任部長 一級建築士 塚原 直 (登録番号 2462号)	2018.03.	S-11

特記事項	確認日	設計者	代表	年月日	図面番号
		一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号 20319号) 構造設計一級建築士 (登録番号 2423号) 酒井 勲	一級建築士 中村 武嗣 (登録番号 174376号)	2018.03.	S-11

QLデッキ合成スラブ設計・施工標準

JFE 建材 株式会社

QLデッキ合成スラブの設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・解説」「鉄骨工事技術指針」「建築工事標準仕様書・解説 JASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、(社)日本鉄鋼連盟「デッキプレート床構造設計・施工標準-2004」、合成スラブ工業会「合成スラブの設計・施工マニュアル」、QLデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

設計

材料/デッキプレート		[ISO 9001認証取得]	
デッキプレート種類	板厚(mm)	表面処理	
QLデッキ	■1.2	□裏面防錆処理(一次塗装)	□QLプライマー(P)
■QL99-50	■加工あり	■塗料の塗り	■Z12 □Z27
□QL99-75	□無し	□ZAM(高耐食溶融めっき鋼板)	□K27 □K35
材質	JIS G 3352に定めるSDP1T、SDP2、SDP2G		

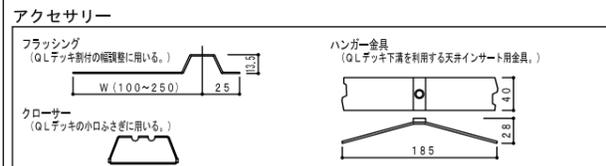
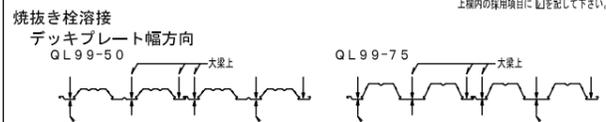
材料/コンクリート	
種別	■普通コンクリート □軽量コンクリート (□1種 □2種)
設計基準強度	□18 ■21 □□ N/mm ²
厚さ(QLデッキ山)	□60 □70 ■80 □90 □95 □100 □ mm

材料/溶接金網・異形鉄筋	
■溶接金網	JIS G 3551 □φ6-150×105 □φ6-100×100
□異形鉄筋	JIS G 3112、3117 ■D10-φ200 □

接合	
□溶接金網溶接	下配焼抜き溶接の項による
□打込み鉄	接合箇所は特記による
■頭付キスタッド	JIS B 1198 □φ13 □φ16 ■φ19 □φ22 各長さ・ピッチは特記による
□その他	

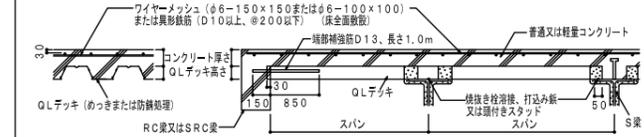
耐火	
連続支持	■FP060FL-9095 □FP120FL-9107
単純支持	■FP060FL-9101 □FP120FL-9113
その他	□() □() □() □()
□指定なし	□() □() □() □()

特記	
支保工の有無	■無 □有
その他:	



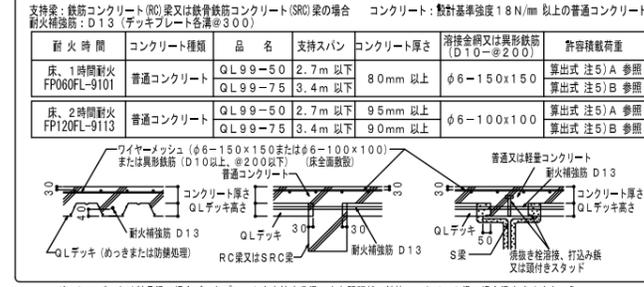
耐火仕様

【連続支持合成スラブ】						
耐火時間	コンクリート種類	品名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋 (D10-φ200)	許容積載荷重
床、1時間耐火	普通コンクリート	QL99-50	3.0m以下	80mm以上	φ6-150×150	算出式注5)A参照
	軽量コンクリート	QL99-75	3.4m以下	90mm以上	φ6-100×100	4.400N/m ² 以下注6)
	普通コンクリート	QL99-50	3.0m以下	80mm以上	φ6-150×150	算出式注5)A参照
	軽量コンクリート	QL99-75	3.4m以下	90mm以上	φ6-100×100	算出式注5)B参照
床、2時間耐火	普通コンクリート	QL99-50	2.7m以下	95mm以上	φ6-100×100	算出式注5)A参照
	軽量コンクリート	QL99-75	3.4m以下	95mm以上	D10-φ200	5.400N/m ² 以下注6)
	普通コンクリート	QL99-50	2.7m以下	95mm以上	φ6-100×100	算出式注5)A参照
	軽量コンクリート	QL99-75	3.4m以下	85mm以上	φ6-100×100	算出式注5)B参照
	普通コンクリート	QL99-50	2.7m以下	90mm以上	φ6-100×100	算出式注5)A参照
	軽量コンクリート	QL99-75	3.4m以下	90mm以上	D10-φ200	5.400N/m ² 以下注6)



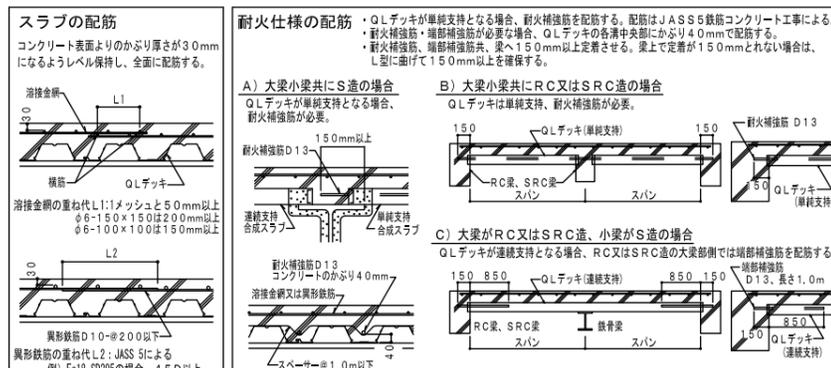
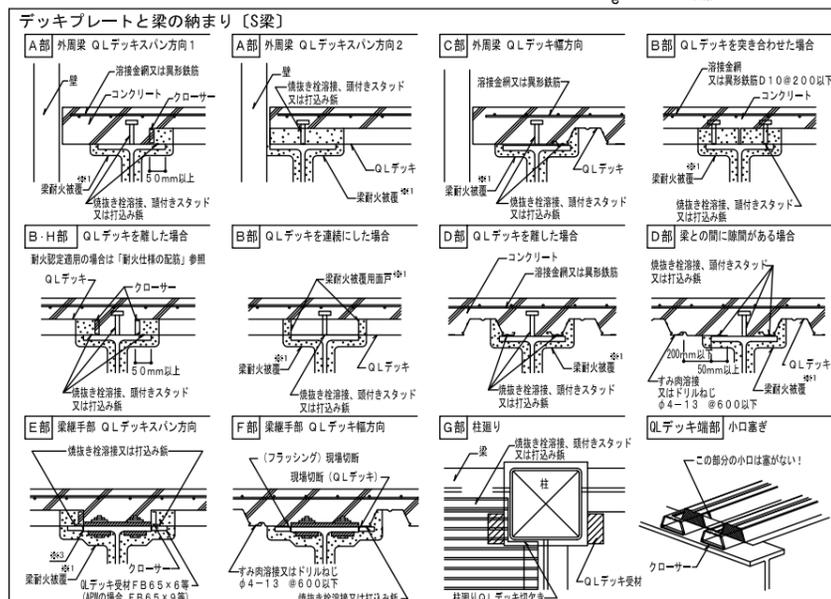
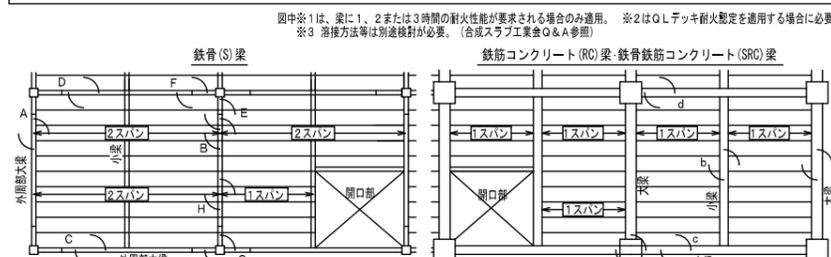
【単純支持合成スラブ】

【単純支持合成スラブ】						
耐火時間	コンクリート種類	品名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋 (D10-φ200)	許容積載荷重
床、1時間耐火	普通コンクリート	QL99-50	2.7m以下	80mm以上	φ6-150×150	算出式注5)A参照
	軽量コンクリート	QL99-75	2.7m以下	80mm以上	φ6-150×150	算出式注5)B参照
	普通コンクリート	QL99-50	2.7m以下	95mm以上	φ6-100×100	算出式注5)A参照
	軽量コンクリート	QL99-75	3.4m以下	95mm以上	φ6-100×100	算出式注5)B参照
床、2時間耐火	普通コンクリート	QL99-50	2.7m以下	95mm以上	φ6-100×100	算出式注5)A参照
	軽量コンクリート	QL99-75	2.7m以下	95mm以上	φ6-100×100	算出式注5)B参照
	普通コンクリート	QL99-50	2.7m以下	85mm以上	φ6-100×100	算出式注5)A参照
	軽量コンクリート	QL99-75	3.4m以下	85mm以上	φ6-100×100	算出式注5)B参照

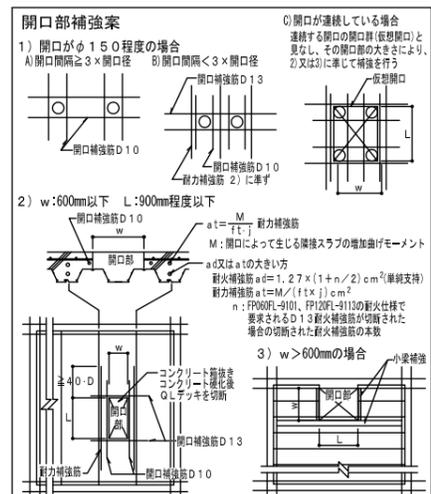
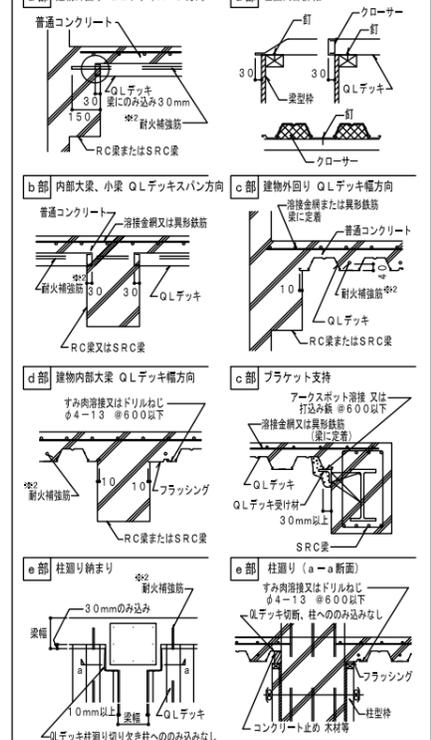


付帯条件	
連続支持合成スラブの場合、デッキプレートは2スパン以上にわたって連続的に小ばりによって、ほぼ等間隔に支持されるものとする。	

標準納まり



デッキプレートと梁の納まり



施工順序	
敷込み	鉄骨梁の場合 1) 敷出し後に合わせて1枚目のデッキプレートは仮止め溶接した後、順次連続敷込み(5~10枚)ごとに仮止め溶接する。 2) 各大梁上にデッキプレートの隅部が乗るように敷込む。 RC梁またはSRC梁の場合 1) デッキプレートは梁型枠に打ち止める。 2) デッキプレートの梁型枠へののみ込み代が幅方向10mm以上、長手方向が30mmであることを確認する。
溶接	1) 頭付キスタッド 2) 打込み鉄 3) 溶接金網溶接
溶接金網敷込み	デッキプレート幅方向のかり代は、50mm以上あることを確認する。 (頭付キスタッドの場合は30mm以上)
検査	1) 溶接機 2) 溶接機 3) 標準溶接条件 4) 溶接機 5) 手帳・要領
コンクリート打設	

デッキプレートと梁との接合	
1) 頭付キスタッド 2) 打込み鉄 3) 溶接金網溶接	1) 溶接機 2) 溶接機 3) 標準溶接条件 4) 溶接機 5) 手帳・要領
溶接金網溶接 [SPW] — アーク手溶接 —	自動溶接機溶接 [A.P.W] — CO2アークスポット溶接 —
工程	手順・要領
1 アーク発生	QLデッキを梁にのせ、溶接機をQLデッキに垂直に当ててアークを発生させる。
2 QLデッキ溶接	溶接棒を若干引き上げてアークを飛ばし、溶接機を溶接棒の先端に移動させ、溶接棒を動かしながら溶接する。
3 押し込み・溶着	溶接棒を溶接棒の先端に押し込み、溶接棒の先端を溶接棒の先端に押し込み、溶接棒を動かしながら溶接する。
4 整形	溶接棒を溶接棒の先端に押し込み、溶接棒の先端を溶接棒の先端に押し込み、溶接棒を動かしながら溶接する。

検査	
溶接金網溶接 (SPW) 及び自動溶接機溶接 (A.P.W.)	溶接機溶接条件: 下表
溶接機溶接条件: 下表	溶接機溶接条件: 下表
溶接機溶接条件: 下表	溶接機溶接条件: 下表

ひび割れ拡大防止のための補強	
【1】設計上の留意点	【2】施工上の留意点
1) 小梁の剛性を大きくする。 2) ひび割れ拡大防止のため補強筋を敷ける。(右図参照)	1) 水セメント比を小さくする。 2) 溶接機溶接位置より30mmを確保する。(補強筋は溶接機より下に配筋する)
3) スパンとスパン厚さの比を小さくし、配筋量を大きくする。 (コンクリート厚さをQLデッキ山から80~90mmと厚くする。)	3) コンクリート打込み後1週間は取付作業を行わない。歩行は可。 4) 打込み後初期には散水や養生シート等で湿度を維持する。 5) 直射日光が当たる屋上は、散水養生は必須。

特記事項		確認日		設計者		監理者		作成		年月日		図面番号	
				設計者		監理者		作成		年月日		図面番号	

特記事項		確認日		設計者		監理者		作成		年月日		図面番号	
				設計者		監理者		作成		年月日		図面番号	

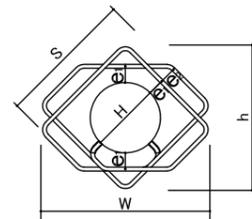
特記事項		確認日		設計者		監理者		作成		年月日		図面番号	
				設計者		監理者		作成		年月日		図面番号	

梁貫通孔補強筋 スーパーハリーZ Mタイプ標準図

一般財団法人日本建築センターによる一般認定
「BCJ認定-RC0224-05」(平成25年4月17日付)

株式会社 栗本鐵工所
建材事業部 生産管理部
スーパーハリーZ計算センター
TEL:0280(97)1305

1. スーパーハリーZ Mタイプ形状寸法及び重量



タイプ別e寸法一覧

TYPE	e ₁	e ₂
MA	43	43
MB	44	45
MC	46	48
MD	47	51
ME	49	55

使用材料
KSS785-K
(認定番号 MSRB-0004)

タイプ別キャップ色一覧

TYPE	キャップ色
MA	白色
MB	黄色
MC	青色
MD	緑色
ME	赤色

呼径	スリーブ径 (対応外径)	MA(S6)				MB(S8)				MC(S10)				MD(S13)				ME(S16)			
		h	W	S	重量	h	W	S	重量	h	W	S	重量	h	W	S	重量	h	W	S	重量
100	~114	273	334	286	1.0	272	336	292	1.6	274	342	302	2.3	272	344	310	4.1	272	350	322	6.5
125	~140	310	370	312	1.1	309	373	318	1.7	311	379	328	2.5	309	381	336	4.5	309	387	348	7.2
150	~165	345	406	337	1.2	345	408	343	1.9	346	414	353	2.8	344	416	361	4.9	345	422	373	7.9
175	~200	395	455	372	1.4	394	458	378	2.1	396	464	388	3.1	394	466	396	5.5	394	472	408	8.8
200	~225	430	491	397	1.5	429	493	403	2.3	431	499	413	3.3	429	501	421	6.0	429	507	433	9.4
225	~250	465	526	422	1.6	465	528	428	2.5	467	535	438	3.6	465	537	446	6.4	465	543	458	10.1
250	~275	501	561	447	1.7	500	564	453	2.6	502	570	463	3.8	500	572	471	6.8	500	578	483	10.8
275	~287	518	578	459	1.7	517	581	465	2.7	519	587	475	3.9	517	589	483	7.0	517	595	495	11.1
300	~325	571	632	497	1.9	571	634	503	2.9	573	641	513	4.3	571	643	521	7.6	571	649	533	12.1
325	~337	588	649	509	1.9	588	651	515	3.0	590	658	525	4.4	588	660	533	7.8	588	666	545	12.4
350	~375	-	-	-	-	642	705	553	3.3	643	711	563	4.8	641	713	571	8.5	642	719	583	13.4
400	~414	-	-	-	-	697	760	592	3.5	699	766	602	5.1	696	769	610	9.1	697	775	622	14.5
450	~465	-	-	-	-	769	832	643	3.9	771	839	653	5.6	769	841	661	10.0	769	847	673	15.8
500	~516	-	-	-	-	-	-	-	-	843	911	704	6.1	841	913	712	10.9	841	919	724	17.2
550	~550	-	-	-	-	-	-	-	-	891	959	738	6.4	889	961	746	11.4	889	967	758	18.1
600	~600	-	-	-	-	-	-	-	-	962	1030	788	6.9	960	1032	796	12.3	960	1038	808	19.4
650	~650	-	-	-	-	-	-	-	-	1032	1100	838	7.4	1030	1102	846	13.1	1030	1108	858	20.7
700	~700	-	-	-	-	-	-	-	-	1103	1171	888	7.8	1101	1173	896	14.0	1101	1179	908	22.0
750	~750	-	-	-	-	-	-	-	-	1174	1242	938	8.3	1172	1244	946	14.8	1172	1250	958	23.3

※外径H、h、W、S、eの単位はmm 重量の単位はkg/組

2. 一般事項および適用範囲

■一般事項

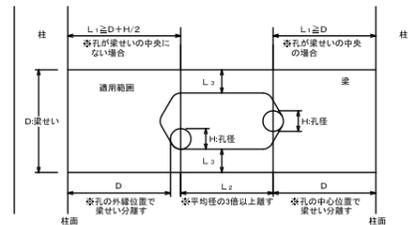
- 施工に先立ち、補強計算書にもとづきスーパーハリーZ Mタイプの種類、枚数の確認を行い、あばら筋、結束線の用意をする。
- 製品には鉄筋径別に色分けされたアンカーキャップや製品種類を記載したラベルが取り付けられているので間違いが無い必ず確認する。
- 製品は錆の発生、コンクリートとの付着性能を損なう物質(油、泥等)の付着を避け保管する。

■使用材料の適用範囲

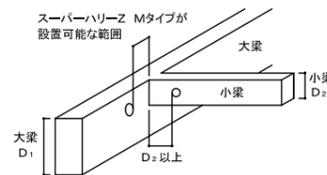
コンクリート: Fc21~67
鉄筋: 主筋 SD295A, SD295B, SD345, SD390, SD490 (JIS G 3112)
あばら筋 SD295A, SD295B, SD345, SD390, SD490 (JIS G 3112)
590N/mm²級鋼, 685N/mm²級鋼, 785N/mm²級鋼, 1275N/mm²級鋼 (建築基準法第37条第二号適合品)
スーパーハリーZ Mタイプ KSS785-K (認定番号MSRB-0004)

■貫通孔適用範囲

- (1) 孔径(H)
孔径は100~750mmとし、梁せい(D)の1/3以下とする。
- (2) 孔位置
a) 柱際から水平方向の孔中心位置(L1)
柱際から水平方向の孔中心位置L1は、孔が梁せいの中央にある場合L1≧Dとする。それ以外はL1≧D+H/2とする。
b) 孔間中心距離(L2)
孔が複数あるときの孔の中心水平間隔L2は、孔平均径の3倍以上とする。
c) へりあき最小寸法
へりあき最小寸法L3は表の値とする。
大梁と小梁が直交する箇所での孔位置は右図による。



D: 梁せい H: 孔径(スリーブ外径)
L1: 柱際から孔の中心までの距離
L2: 孔と孔の中心水平距離
L3: 梁の上下面から孔面までの距離



梁の全せい	へりあき寸法
500mm ≦ D < 700mm	L ₃ ≧ 175mm
700mm ≦ D < 900mm	L ₃ ≧ 200mm
900mm ≦ D < 1250mm	L ₃ ≧ 250mm
1250mm ≦ D	L ₃ ≧ 0.2Dmm

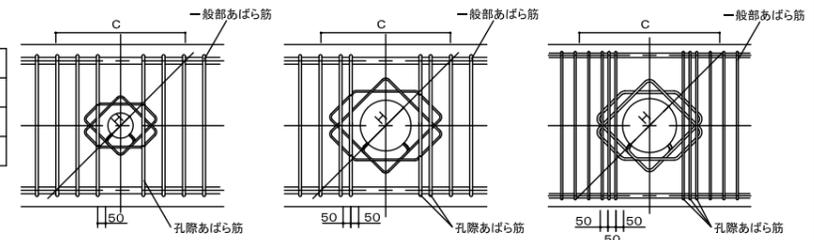
※スーパーハリーZ Mタイプ標準図の評定内容など、製品の性能に関わる内容の編集はご遠慮下さい。編集された内容については弊社では責任を負いかねます。

3. スーパーハリーZ Mタイプ標準配筋図

■孔際あばら筋

通常配筋されるあばら筋を孔の両側に寄せて使用する。孔の両側には、必ず孔際あばら筋を1組以上配筋する。標準配筋は下図の通りとする。施工の際には、必ず補強計算書を確認し、孔際あばら筋の配筋に注意する。

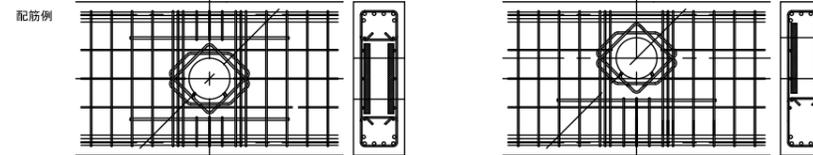
スリーブ外径H	孔際あばら筋
100mm ≦ H ≦ 225mm	片側1組
225mm ≦ H ≦ 375mm	片側2組
375mm < H ≦ 750mm	片側3組



スーパーハリーZ Mタイプ 呼径 → 呼径 100~200φ
スリーブ外径 → 100mm ≦ H ≦ 225mm
呼径 225~350φ
225mm < H ≦ 375mm
呼径 400~750φ
375mm < H ≦ 750mm

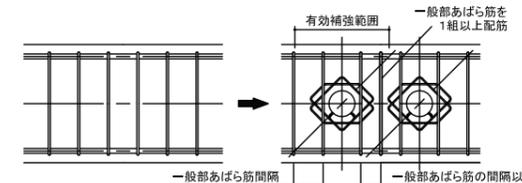
■孔上下の補強方法

孔径が400mm以上となるときは、補強計算より求められた補強筋の他、孔上下位置に配筋を行う。



■孔が近接して複数ある場合

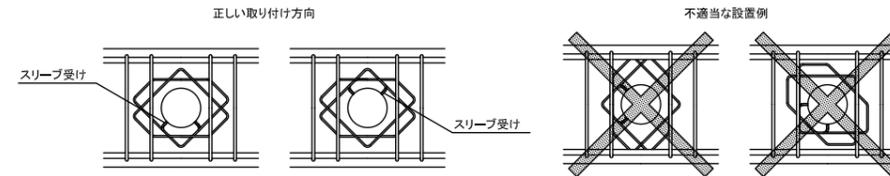
孔が近接して複数ある場合、各々の孔際には、孔際あばら筋を1組以上配筋する。また、孔-孔間のあばら筋は一般部あばら筋の間隔以下になるようにし、一般部あばら筋を1組以上配筋する。ただし、鉄筋のあきが確保できない場合はこの限りではない。



4. スーパーハリーZ Mタイプ施工要領

■施工上の留意点

- (1) 製品の方向
スリーブ受けが孔の上または下になるように取り付ける。裏表の区別はない。



- (2) かぶり厚さの確認
スーパーハリーZ Mタイプのかぶり厚さを確保する。
- (3) 製品の取り付け位置の保持方法
スーパーハリーZ Mタイプは図に示すようにあばら筋の内側に取り付け、結束線で孔際あばら筋に4~6ヶ所程度結束する。梁断面から見たスーパーハリーZ Mタイプどうしの間隔は、鉄筋のあきを確保する。
- (4) 製品の取り付け検査
製品の取り付け検査は、設計マニュアルのチェックシートを参考に実施する。

■標準的な施工順序

- (1) 孔際あばら筋本数及びスーパーハリーZ Mタイプのタイプを確認する。
- (2) 孔際あばら筋、一般部あばら筋を配筋する。
- (3) あばら筋内側にスーパーハリーZ Mタイプを設置し、結束線で4~6ヶ所程度結束する。
- (4) 有効補強範囲内の鉄筋間隔が適当であるか確認する。

Ver1.0

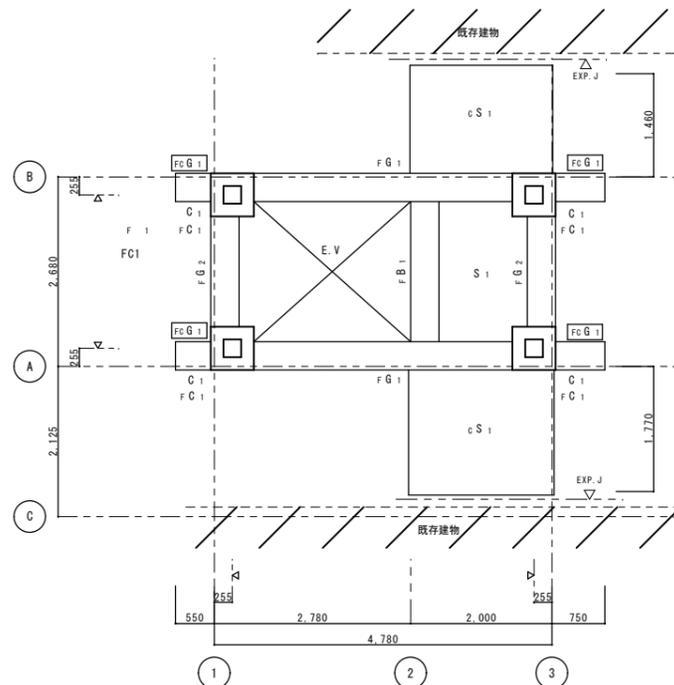
特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号 200319号) 構造設計一級建築士 (登録番号 2423号) 酒井 勲	製 雙 星 設 計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号 174376号)	工事名称 (702) 160613 公立小松大学 東津キャンパス 校舎整備工事(2期)(建築)	図面名称 EV/橋 梁貫通孔補強筋 スーパーハリーZ Mタイプ標準図
	確認者	設備設計一級建築士 塚原 亘 (登録番号 2462号)		代表 設計実務部長 検証者 主担当 作成	縮尺 年月日 A1:1/- A3:1/- 2018.03.

(仮称) 公立小松大学校舎整備実施設計業務
現場名 (建築) [EV棟]

呼径	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350
梁符号\計算径	114	140	165	200	225	250	275	287	325	337	375
FG1	MA	MB									
*FG2	MC	MD	MD	MD	MD	MD	ME	ME	ME	ME	ME
*FCG1	MC	MC	MD	MD	ME	MD					
*FB1	MA	MB									

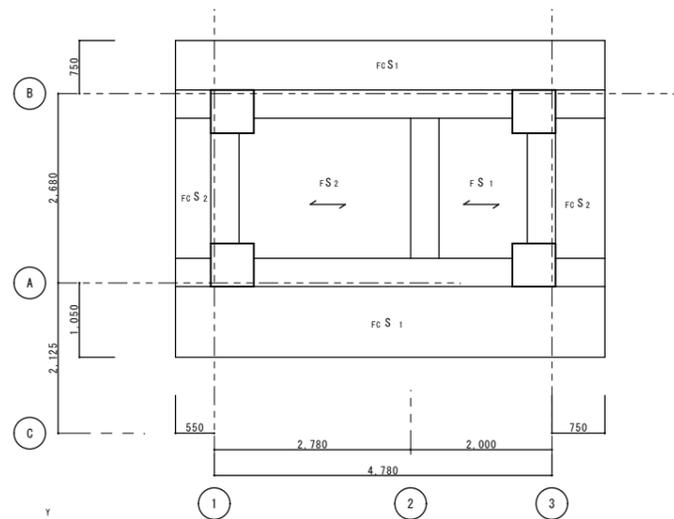
※()が付く場合：鉄筋比または孔径が評定外の為、弊社の補強鉄筋量を保証するものではありません。
 ※[]が付く場合：鉄筋のあきが不足する恐れがございます。[-]は枚数過剰により補強不可となります。
 ※梁符号に * が付く場合：内法スパンが短い個所では前提条件1の (3) に記載のL1が確保できない場合があります。
 L1が確保できない場合は評定外となりますのでご確認ください。
 ※呼径により品番が変わりますので、ご注意ください。
 <タイプ別使用鉄筋>
 MA:S6(KSS785) MB:S8(KSS785) MC:S10(KSS785)
 MD:S13(KSS785) ME:S16(KSS785) ME_n:S16 n枚使用(KSS785)

特記事項	確認日	一級建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号200319号) 構造設計一級建築士(登録番号2423号) 酒井 勲	雙 双 星 設 計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174376号)				工事名称 (プロジェクトNo. 160613) 公立小松大学 東津キャンパス 校舎整備工事(2期)(建築)	図面名称 EV棟 梁貫通孔補強用 スーパーハリーZ 補強リスト
	確認者	設備設計一級建築士 塚原 亘 (登録番号2462号)	代表	設計室長	検証者	主担当	作成	縮尺 年月日 A1:1/- A3:1/- 2018.03.



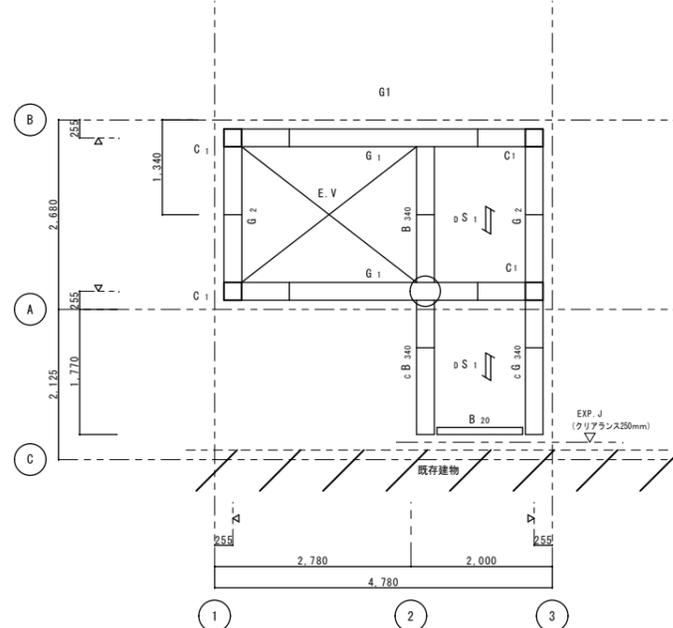
1階柱 1階床梁伏図 (見下げ図) 1/50

- 特記なき限り下記による
- 1FL=GL+500
 - 一般地中梁天端、基礎柱天端：GL+500
 - 一般床版天端：1FL-10
 - △：柱芯を示す
 - 地中梁は外周基礎柱面を合わせとする。
 - 柱芯=基礎柱芯とする。



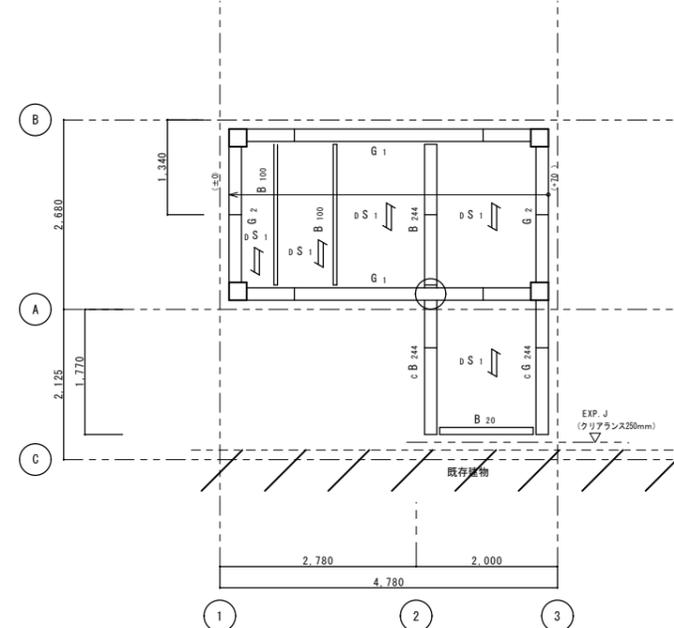
基礎及びピット伏図 1/50

- 特記なき限り下記による
- 一般地盤下層：GL -1600
 - スラブ短辺方向を示す。
 - ラップコンクリート下層はGL-2.1mとする。
 - 部材寸法は各リストによる。(各図面共通)
 - 使用材料区分については、仕様書及び各リストによる。(各図面共通)



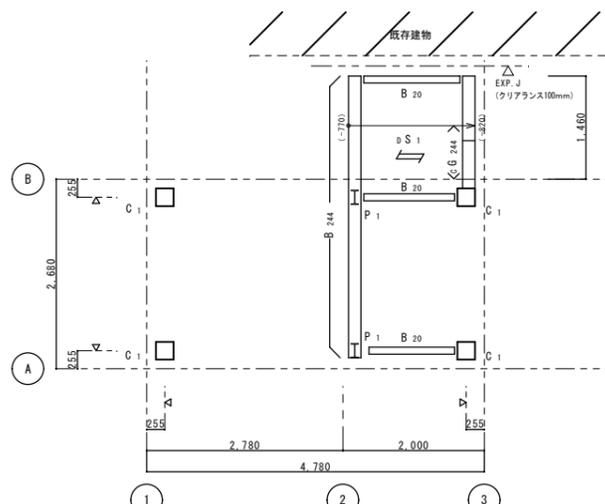
2,3階柱 2,3階床梁伏図 (見下げ図) 1/50

- 特記なき限り下記による
- 鉄骨梁天端：nFL-140
 - 一般床版天端：nFL-10
 - デッキプレート (DL99-50-12同等品) の敷方向を示す。
 - 鉄骨の現場継手位置は柱芯・梁芯より800とする。
 - 鉄骨の現場継手位置
 - 鉄骨梁の剛接合部
 - 柱芯を示す。
 - 大梁は外周柱面を合わせとする。



R階床梁伏図 (見下げ図) 1/50

- 特記なき限り下記による
- 鉄骨梁天端：床版天端-130
 - 一般床版天端：屋根勾配による。
 - 屋根勾配を示し、() 内数値はRSL (水下) からの床版天端を示す。
 - デッキプレート (DL99-50-12同等品) の敷方向を示す。
 - 鉄骨の現場継手位置は柱芯・梁芯より800とする。
 - 鉄骨梁の剛接合部
 - 大梁は外周柱面を合わせとする。

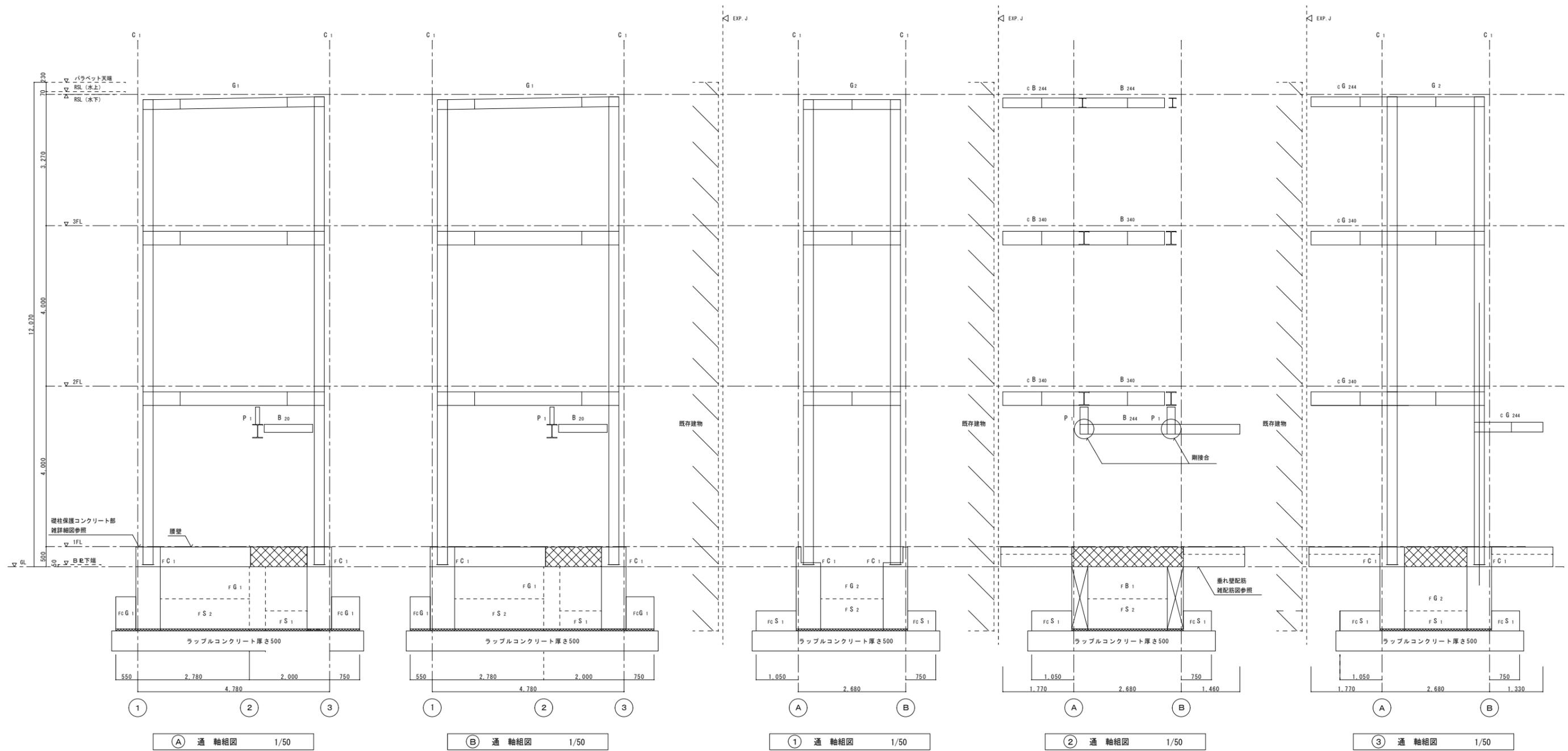


2FL-820伏図 (見下げ図) 1/50

- 鉄骨梁天端：2FL-950
- 特記なき限り下記による
- 鉄骨梁天端：2FL-950
 - 一般床版天端：屋根勾配による。
 - 屋根勾配を示し、() 内数値は2FLからの床版天端を示す。
 - デッキプレート (DL99-50-12同等品) の敷方向を示す。
 - 柱芯を示す。

- 共通事項
- 設計用地耐力 $f_c=120kN/m^2$ (長期・ラップコンクリート天端)
 - 支持層：砂層
 - 現地にて、平盤載荷試験を行い、ラップコンクリート下層で、地耐力 $f_c=130kN/m^2$ (長期) が得られることを確認すること。
 - 支持層は、現地の地盤状況により監理者と協議し、決定すること。

特記事項	確認日	一般建築士・構造設計一級建築士 酒井 勲 (登録番号 2442 号)	雙星設計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号 174376号)				工事名称	70号分館 160613) 公立小松大学 薬津キャンパス 校舎整備工事(2期)(建築)	図面名称	EV接 伏図		
	確認者	設計設計一級建築士 塚原 亘 (登録番号 2442 号)	代表	設計監理部長	検証者	主担者	作成	縮尺	A1: 1/50 A3: 1/100	年月日	2018. 03 .	図面番号



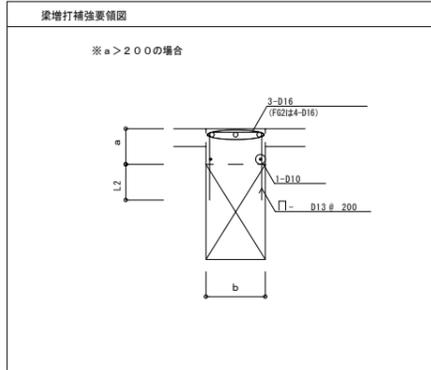
- 特記なき限り下記による
1. 梁符号は上階に依う。
 2. ▶ : 鉄骨の現場継手位置
 3. [ハッチング] : 増打コンクリート

特記事項	確認日	一般建築士・構造設計一級建築士 一級建築士 (登録番号 20111号) 構造設計一級建築士 (登録番号 2427号) 酒井 勲	雙 星 設 計 一級建築士 中村 武嗣 (登録番号174276号)	工事名称	プロジェクトNo. 160613) 公立小松大学 栗津キャンパス 校舎整備工事(2期) (建築)	図面名称	EV棟 軸組図
	確認者	設備設計一級建築士 塚原 夏 (登録番号 2462号)		代表	設計監理部長 検証者 主担当 作成	縮尺	年月日
					A1: 1/50 A3: 1/100	2018. 03 .	S-18

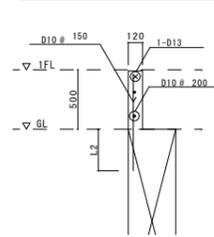
地中梁 リスト 1/40

注) 特記なき限り、
 1. スターラップは □-D13@200とする。
 2. 腹筋は6-D13とし、腹筋用巾止筋はD10@1000以内とする。

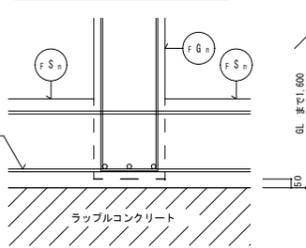
符号	FG 1	FG 2	FC G 1	FB 1
位置	全断面	全断面	全断面	全断面
断面				
B x D	400 x 1,550	400 x 1,550	400 x 800	400 x 1,550
上端筋	3 - D22	3 - D22	3 - D22	3 - D22
下端筋	3 - D22	3 - D22	3 - D22	3 - D22
スターラップ				
腹筋			2 - D13	



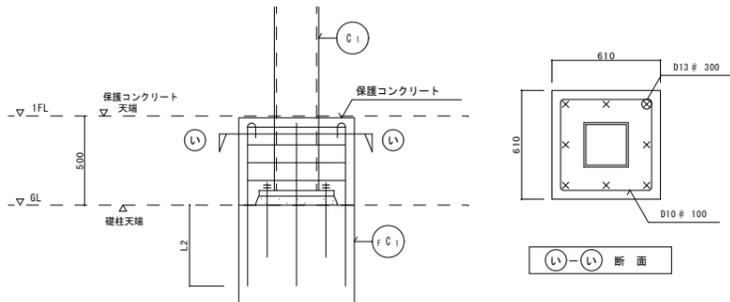
腰壁配筋要領図 1/30



底盤・地中梁主筋関係図



礎柱保護コンクリート部納まり要領図



礎柱 リスト 1/40

符号	FC 1
位置	全断面
断面	
B x D	610 x 610
主筋	16-D19
フープ	□-D13 # 150
TOPフープ	□-D13

床版 リスト

符号	厚サ	位置	短辺方向		長辺方向	
			端部	中央	端部	中央
S 1	180	上端筋	D10D13 #200	→	D10 #200	→
		下端筋	D10 #200	→	D10 #200	→
C S 1	180	上端筋	D13 #100	→	D10 #200	→
		下端筋	D10 #100	→	D10 #200	→
F S 1	500	上端筋	D16 #200	→	D16 #150	→
		下端筋	D16 #200	→	D16 #150	→
F S 2	800	上端筋	D16 #200	→	D16 #150	→
		下端筋	D16 #200	→	D16 #150	→
FC S 1	500	上端筋	D16 #150	→	D13 #200	→
		下端筋	D16 #150	→	D13 #200	→
FC S 2	500	上端筋	D16 #200	→	D16 #150	→
		下端筋	D16 #200	→	D16 #150	→

鉄骨 リスト

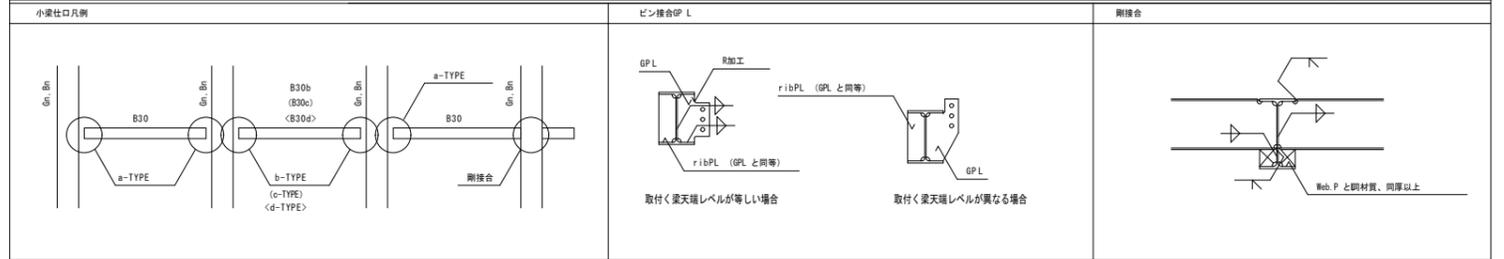
注) 特記なき限り、
 1. 鉄骨材質は SN400Bとする。

符号	部材	備考
3 C 1	□-250x250x 9 (BGR295)	
2 C 1	□-250x250x12 (BGR295)	
1 C 1	□-250x250x12 (BGR295)	柱脚: ハイパスNEO EB250-4-30 (同等品)
8 G 1	H-244x175x 7x11	
3 G 1	H-340x250x 9x14	
2 G 1	H-340x250x 9x14	
8 G 2	H-244x175x 7x11	
3 G 2	H-340x250x 9x14	
2 G 2	H-340x250x 9x14	
c G 244	H-244x175x 7x11	
c G 340	H-340x250x 9x14	
c B 244	H-244x175x 7x11	
c B 340	H-340x250x 9x14	
P 1	H-200x100x 5.5x 8 (SS400)	RL-9 HTB 2-M20

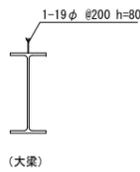
小梁 リスト

注) 特記なき限り、
 1. 部材とribPL, GPLの材質は同じとする。
 2. ribPLは, GPLと同厚以上とする。
 3. 鉄骨材質はSS400, SN400Aとし、○付はSM490A, SM490Bを示す。
 4. 使用ボルト: S10T, F10T
 5. HBは、横使いを示す。

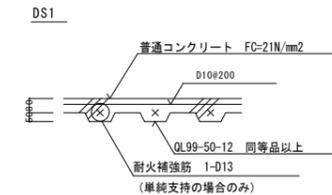
凡例	a-TYPE		b-TYPE		c-TYPE		d-TYPE		e-TYPE			
	部材	継手タイプ	部材	継手タイプ	部材	継手タイプ	部材	継手タイプ	部材	継手タイプ		
鉄骨小梁符号	<p>部材符号 B ○ ○ 継手タイプ</p> <p>未記入: a-TYPE (方づえ位置に●印)</p> <p>b: b-TYPE</p> <p>c: c-TYPE</p> <p>d: d-TYPE</p>											
例	<p>B 30 b</p> <p>鉄骨: H-300x150x6.5x9</p> <p>継手タイプ: b-TYPE</p>											
符号	部材	HTB	ピッチ	HTB	ピッチ	HTB	ピッチ	HTB	ピッチ	HTB	ピッチ	
B 20	H-200x100x5.5x 8	RL-6	2-M16	60	RL-6	2-M16	60	2-M16	60	RL-6	2-M16	60
B 100	H-100x100x 6x 8	RL-6	2-M16	60	RL-6	2-M16	60	2-M16	60	RL-6	2-M16	60
B 244	H-244x175x 7x11	RL-9	2-M20	70	RL-9	2-M20	70	2-M20	70	RL-9	2-M20	70
B 340	H-340x250x 9x14	RL-12	3-M22	80	RL-12	3-M22	80	3-M22	80	RL-12	3-M22	80



スタッドジベル要領図

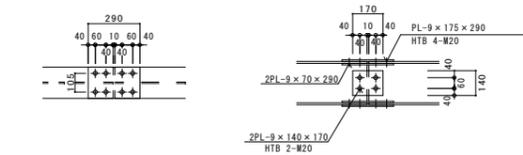


合成床版詳細図 (QLデッキ (同等品))

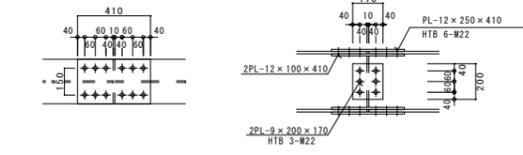


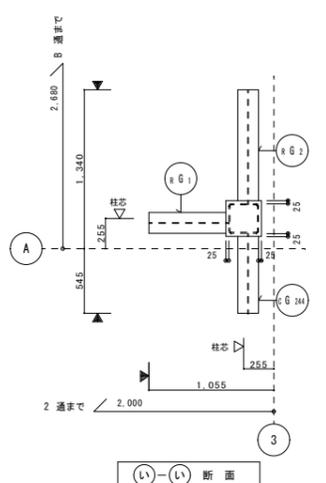
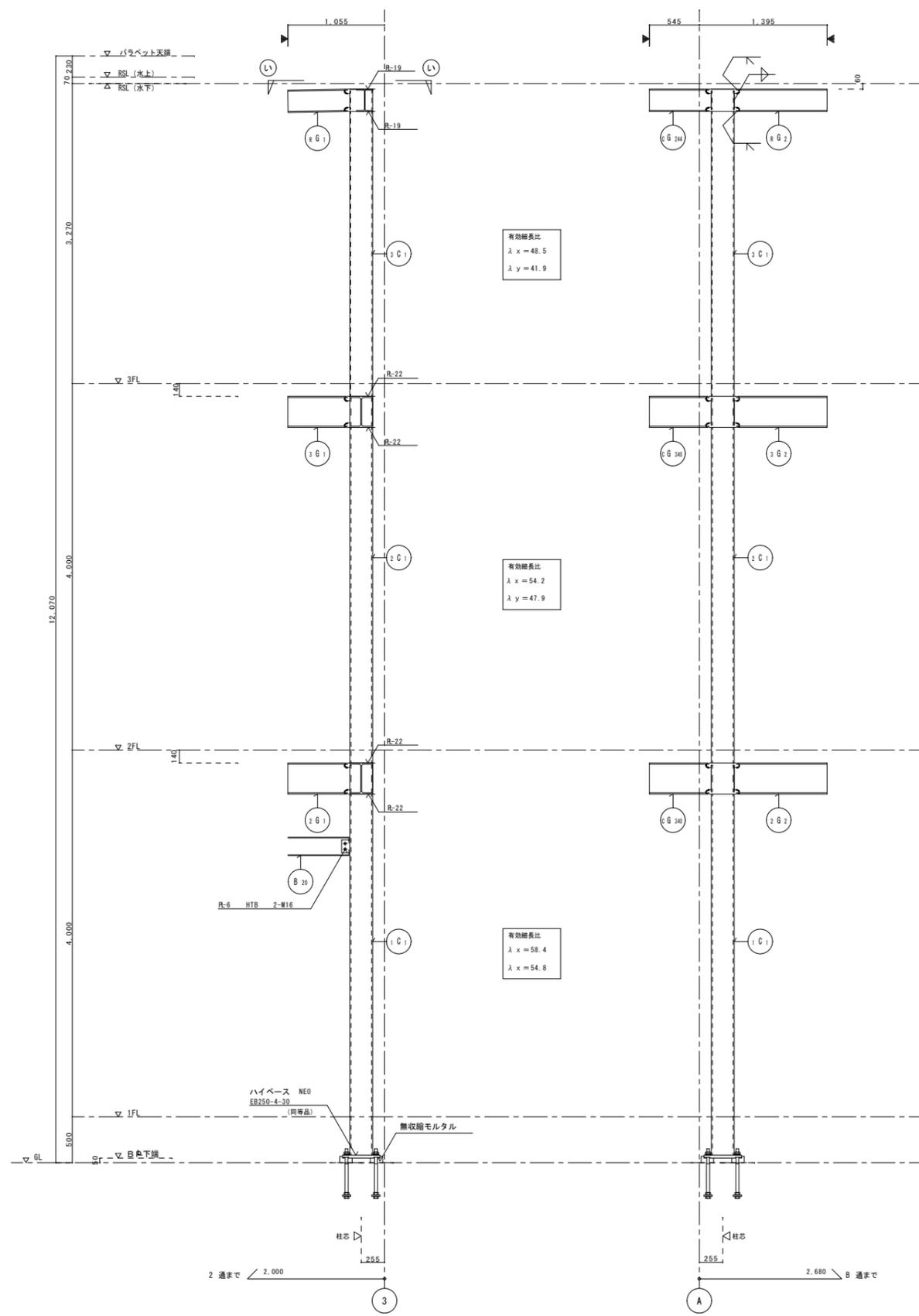
梁継手 リスト 1/20

H-244x175x 7x11



H-340x250x 9x14





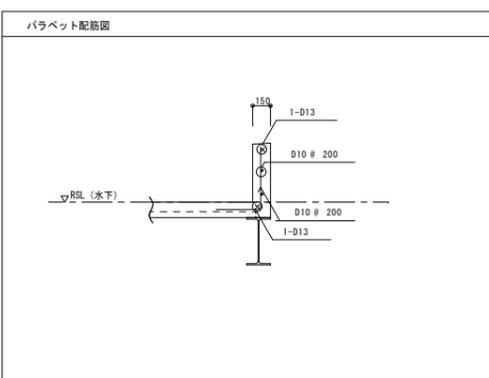
鉄骨リスト (特記なき限り、鉄骨材質はSM400B)

符号	部材
3 C 1	□-250x250x 9 (BCR295)
1,2 C 1	□-250x250x12 (BCR295)
R G 1	H-244x175x 7x11
3 G 1	H-340x250x 9x14
2 G 1	H-340x250x 9x14
R G 2	H-244x175x 7x11
3 G 2	H-340x250x 9x14
2 G 2	H-340x250x 9x14
B 20	H-200x100x5.5x 8 (SS400)
c G 244	H-244x175x 7x11
c G 340	H-340x250x 9x14

鉄骨詳細図 1/30

特記なき限り下記による
 1. ダイアフラムは取付く部材の2サイズアップかつ6mm以上とし、
 材質は通しダイアフラムSM490Cとする

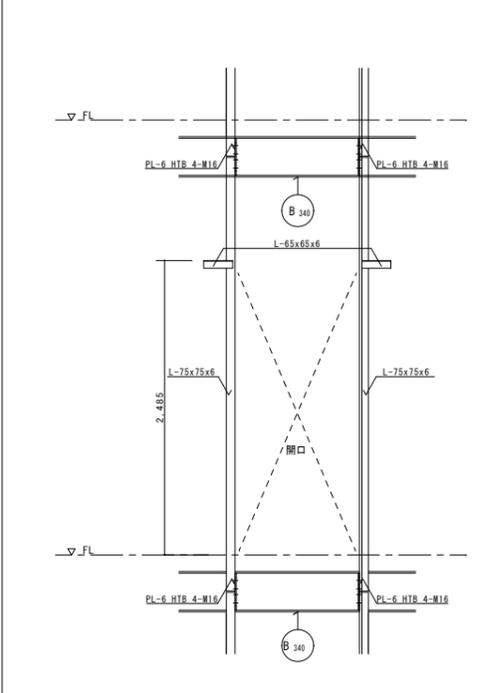
雑詳細図 1/30



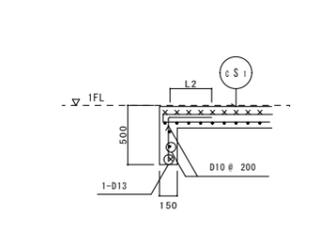
鉄骨リスト (特記なき限り、鉄骨材質はSS400)

符号	部材
B 244	H-244x175x 7x11
B 340	H-340x250x 9x14
c B 340	H-340x250x 9x14 (SM400B)
P 1	H-200x100x5.5x 8

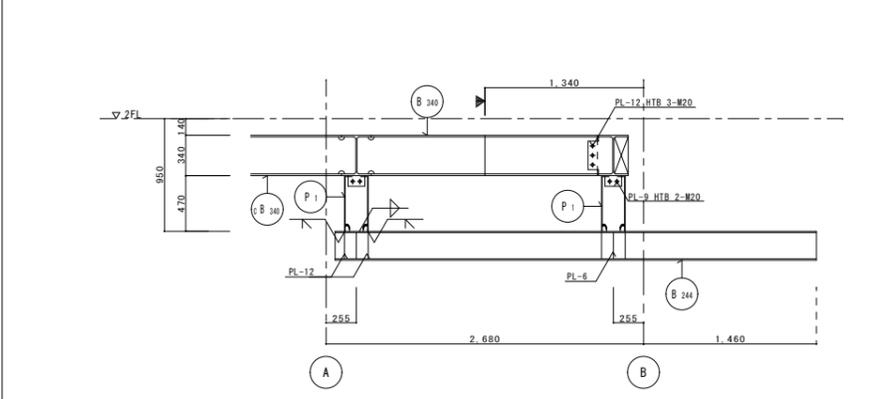
ELV三方枠詳細図



垂れ壁配筋要領図



2通り2階応納まり詳細図



特記なき限り下記による
 1. : 鉄骨の現場継手位置

特記事項

確認日	確認者	設計者	校核者	主務者	作成

雑双星設計

代表	設計監理部長	校核者	主務者	作成

工事名称

プロジェクトNo	160613
工事名称	公立小松大学 薬津キャンパス 校舎整備工事(2期)(建築)
年月日	2018. 03 .

図面番号

図面名称	EV棟 鉄骨詳細図・雑詳細図
図面番号	S- 20